MobileSheets

The Sheet Music Reader

ユーザーガイド

Version 1.1.7 for Android

MobileSheets Version 3.6.2

©2015-2022 Zubersoft

目次

はじめに.....1

Getting Started.....1

従来の mobilesheets からのアップグレード.....1

ライブラリー画面 1

ファイルのインポート.....4

ソングのロード(呼び出し).....4

ライブラリー管理 7

フィルターリング.....9

アルファベットリスト.....10

アクションバー.....11

共通のアクション(アイテムを未選択のとき).....12

グループでのアクション (アイテムを未選択のとき).....13

特定のタブに固有なアクション (アイテムを未選択のとき).....13

ソングを選択しているときのアクション 14

グループ選択時のアクション.....15

フローティングツールバー 17

タブの構成 18

複数のライブラリーを設定 19

ソングタイトルの書式設定 20

ソングタイトルの高度な書式指定 21
ソングリストの書式を構成する 23
ライブラリーの表示設定 23
一括(バッチ)編集 25
印刷 25
ファイル管理 28
ファイルストレージ 28
ファイルのインポート 31
ファイルの入れ替え 47
ソングのシェアとエクスポート 49
ソングの削除 51
バックアップとリストア(復旧) 52
ライブラリーのバックアップ 52
ライブラリーのリストア 53
ソングエディター 54
フィールドタブ 55
ファイルタブ 56
オーディオタブ 64
MIDI タブ 65
グループ管理 73
グループエディター 73

ソングディスプレイ画面 78
ソングオーバーレイ 80
セットリスト画面 88
ブックマーク画面 89
リンクポイント 91
スマートボタン 95
オーディオプレイヤー 97
メトロノーム画面 103
スニペットツール 109
クイックアクションボックス 109
自動スクロール 112
ページスライダー 114
移調 116
テキストファイル設定 116
Chord Pro ファイル 119
テキストファイルエディター 122
ネクストソング・バー 124
セットリストやソングのメモ(ノート)を表示 127
パフォーマンスモード 128
アノテーション 129
ツールバー 131

ペン 133
強調度(ハイライター) 134
テキスト 134
スタンプ 136
スタンプの並び替え 137
ユーザー・スタンプ 137
フローティング・スタンプ・ウィンドウ 140
スタンプのプレビュー 142
消しゴム 144
形状 145
選択 146
アノテーションの編集 146
アノテーションのコピー、カット、ペースト 147
ナッジツール 148
クレッシェンド／デクレッシェンド 148
ピアノ譜 149
スニップツール 150
グリッド 151
オーディオプレイヤー 151
メトロノーム 152

埋め込みアノテーション.....152
すべてクリア.....152
お気に入り.....152
コマンドバー.....154
パン.....154
レイヤー.....154
設定.....157
タッチとペダル操作.....160
MIDI 接続の設定.....169
MIDI アクション.....171
デバイスの接続.....172
WiFi を使ったデバイスの接続.....173
Bluetooth を使ったデバイスの接続.....175
フォロワーの接続設定.....177
二台のタブレットを一人で使うように同期(ブックモード).....177
デバイスのライブラリーを同期.....180
デバイスへ同期.....180
クラウドフォルダーへ同期.....183
バックアップファイルへ同期.....184
設定とオプション.....185

アプリについて 186
ストレージ 186
ライブラリー 187
表示.....190
インポート 193
タッチとペダル 194
テキストファイル 195
MIDI.....198
バックアップとリストア 198
その他 199
MobileSheets コンパニオン 202
タブレットの接続 202
メインウィンドウ.....205
ソングの作成と編集.....205
オーディオトラックの選択と移動 207
MIDI コマンド.....209
コンパニオンアプリでのバッチ(一括)インポート.....210
セットリストの作成と編集 210
コレクションの作成と編集.....211
ライブラリーのバックアップ 211
ライブラリーのリストア 212

バックアップの検証もしくは中身の確認 213

FAQ 214

Troubleshooting 215

アイコン一覧 218

ライブラリー画面 218

ソングオーバーレイ 221

メトロノーム 223

オーディオプレイヤー 224

アノテーションエディター 226

はじめに

Android プラットフォーム用のプレミアな楽譜リーダー、MobileSheets へようこそ。このユーザーガイドでは MobileSheets を最大限に活用できるよう各画面や機能の詳細に説明します。このドキュメントを読み通すことをすべてのユーザーに推奨しますが、MobileSheets を使い始めるのに必要なもっとも基本的な機能は次のセクションでカバーされています。すぐに気づくと思いますが、MobileSheets には膨大な機能とオプションがあり、しばらくアプリを使った後でこのドキュメントをあらためて参照することになるでしょう。目的にあわせて各セクションへは最初にある目次から飛べます。

GETTING STARTED

このセクションでは、ライブラリー中のソングを表示させるのに必要な機能をおおむねカバーします。以降のセクションで、アプリのさまざまな面を詳細に紹介します。

従来の MOBILESHEETS からのアップグレード

緑のアイコンで表示されるオリジナルの古い MobileSheets からアップグレードして、青いアイコンの新しい MobileSheets へライブラリーを移行する手順は、とてもシンプルです。まず、オリジナルの MobileSheets でライブラリーのバックアップを作成します。ライブラリー画面の一番下にあるオプションボタンをタップして設定画面を呼び出します。ユーティリティ(Utility)セクションにある「ライブラリーのバックアップ(Backup Library)」をタップします。MobileSheets でのライブラリーのバックアップは、MobileSheets での手順とほぼ一緒です。.msb ファイルを作成したら、新しい MobileSheets を起動して、設定 > バックアップとリストア > バックアップからライブラリーをリストア にあるライブラリーのリストア機能でこのバックアップファイルからライブラリーをリストアします。リストアが完了すると、ソングのライブラリーに含まれる、アノテーションやブックマーク、リンクポイントやファイルなどが完全に操作可能になります。タブレットのストレージ容量が少なくてバックアップファイルを作成するにはライブラリーが大きすぎる場合は、オリジナルの MobileSheets のコンパニオンアプリでライブラリーをバックアップして、新しい MobileSheets のコンパニオンアプリでライブラリーをリストアします。

ライブラリー画面

初回の MobileSheets 起動時には、ライブラリーは空っぽで、このマニュアルへのリンクが書かれたヘルプウィンドウが表示されます。このウィンドウを閉じると、今後インポートするファイルを MobileSheets に扱わせるか確認するプロンプトが表示されます。これは重要な設定項目で、インポートされるファイルを MobileSheets が管理するストレージへコピーするのか、ユーザーが指定した場所にあるファイルを使うのかを決定します。通常は「はい(Yes)」を選択して MobileSheets にファイルを管理させることを推奨しますが、すでに全ファイルを整理済みのディレクトリーがあるのであれば「いいえ(No)」を選択してください。この設定は、設定 > ストレージで後からいつでも変更できます。この機能の詳細については、ストレージのセクションで説明します。

プロンプトを閉じると、メインであるライブラリー画面が表示されます。下の画面イメージでは、ソングを作成したりロードしたりする際に使用するスクリーン上のエリアを四角で囲んだ番号で示しています。

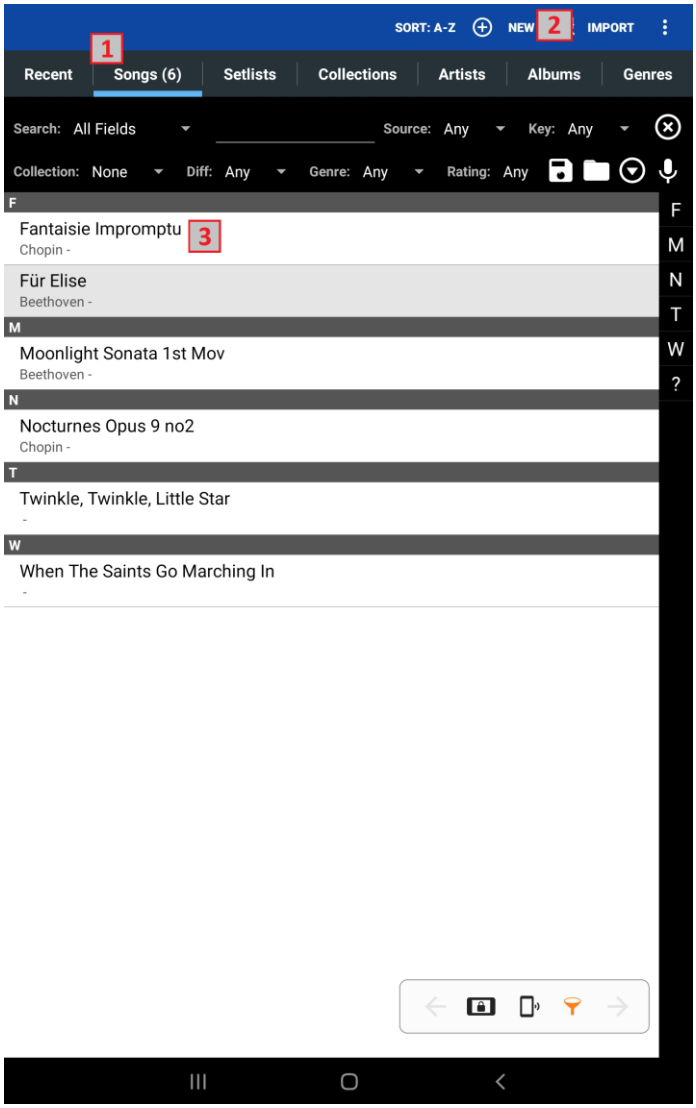


Figure 1 - ライブラリー画面

1. **ライブラリーのタブ** – これらのタブで、ライブラリー中にあるデータの表示方法をさまざまなリストに切り替えます。ここの説明では、ソング(Songs)タブしか使いません。その他のタブの意味や並べ替え方については、ライブラリー管理セクションかタブの設定を参照してください。
2. **インポート** – ファイルをインポートするためのいくつかのオプションが提供されます。今回は、「ローカルファイル (Local File)」オプションを扱います。ここに表示されるオプションを使ったファイルのインポートはソングを作成する最も手早い方法ですが、オーディオや MIDI の詳細情報を入力したり設定したりはできません。詳細はインポートやバッチ(一括)インポートを参照してください。

3. **アクティブリスト**- 選択されているタブに対応し、フィルター条件に合致する全アイテムが表示されます。リスト上にソングが表示されていれば、タップすることでソングが呼び出されます。

これでライブラリー画面の基本的なレイアウトが理解できましたので、次はファイルをインポートしてソングを作成してみましょう。

ファイルのインポート

ここでの説明では、Windows10 を搭載した PC を Android タブレットと一緒に使います。タブレットを USB ケーブルで PC と接続すると、Windows 画面上にデバイス上のファイルへアクセスするオプションが表示されます。「内部ストレージ」のエクスプローラー画面が表示されます。ダブルクリックするとフォルダーの一覧が表示されます。「mobilesheets」という新しいフォルダーを作成してください。PC にある PDF ファイルを、このフォルダーへドラッグ＆ドロップします。

続いてタブレット上での操作です。右上にある「インポート」ボタンをタップして、「ローカルファイル」をタップします。タブレットのすべてのフォルダーとファイルを表示する MobileSheets のファイルブラウザーが表示されます。先ほど作成した「mobilesheets」フォルダーをタップします。PDF ファイルがこのフォルダーの中に見えるはずです。タップしてファイルを選択し、画面下にある「OK」ボタンをタップします。「インポート設定」の画面が表示されます。ドキュメントをトリミングしたくない時(いつでもトリミング範囲は後から変更でき、オリジナルファイルは保たれます)は「自動でページを切り出し」のチェックをはずしておき、「OK」ボタンで完了です。新しいソングがソングリストへ表示されます。

ソングのロード(呼び出し)

リスト上の新しいソングをタップしてロードします。ライブラリー画面は上にスライドし、PDF が表示されます。ページをめくるには、画面の左右をタップします。オーバーレイメニューを表示するには、画面の中央をタップします。以下に、主要な機能を簡単に説明します。

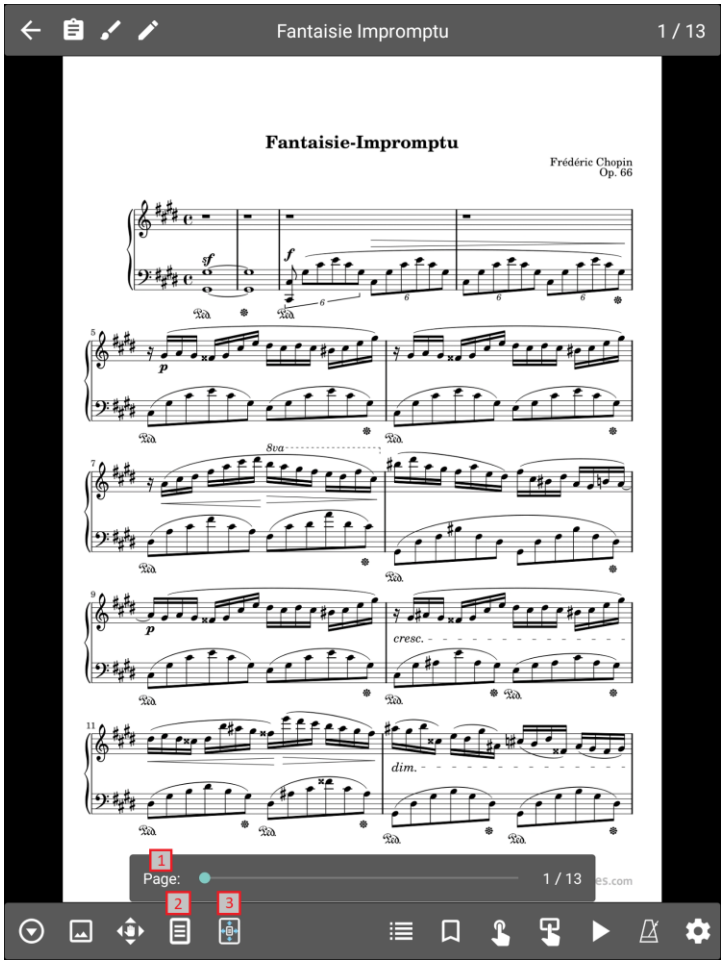


Figure 2 - ソングオーバーレイ

1. **ページスライダー–** このスライダーで、ソング中のページをプレビューしジャンプします。スライダーの右側にある数字をタップして、ページ番号を直接入力することもできます。
2. **表示モードボタン–** このボタンをタップすると、表示モードや関連する表示設定を変更するオプションが表示されます。現在のタブレットの向きに応じて全ソングへ適用されるデフォルトの表示モードが一番上に表示されます。タブレットの向きに応じた表示モードをドロップダウンリストから選択できます。以下の表示モードがあります。
    a. **単一ページ –** 一度に一ページ表示し、縦方向にスクロールします。
    b. **二ページ–** 二ページを横並びで表示します。これを選択すると、オーバーレイの左下に「1」というアイコンが表示されます。一度に何ページずつ進むかを示しています。このモードは、タブレットの向きが横置きでしか使えません。

c. **半ページ –** 一度にページ半分ずつ進みます。このモードで、現在ページの下半分を演奏しているときに次のページの最初をプレビューすることができます。

d. **垂直スクロール –** ページは上下にスクロールして、左右をタップすると前後のセクションへ移動します。

3. **ページのスケーリングボタン –** ページをどのように画面に合わせて表示するか決定するオプションが表示されます。縦横比を変えずに(画像をゆがめずに)できるだけ画面いっぱいになるよう表示する「スクリーンにあわせる」オプションがデフォルトです。他のオプションを選択すると、指定した条件で画面にフィットするようページが引き延ばされます。

これでソングの作成と表示の基礎を学びました。MobileSheets のもつ機能をさらっとなでただけですので、続きを読んで、その他の強力な機能を理解し学んでください。

ライブラリー管理

ライブラリーをフル活用するには、ソングとはなんであり、どのように整理しグループ分けし、必要なソングを見つけ出す近道を理解することが重要です。このセクションではライブラリー画面に注目し、ライブラリーを整理するのに役立つさまざまなタブを紹介します。

まず、ソングとは、1 つ以上のファイル(画像、PDF、テキスト、chord pro ファイル)と、メタデータ(タイトル、アーティスト名、アルバム名など)と、オーディオトラックと、MIDI コマンドから構成されるものです。タイトルとファイル 1 つが必須で、その他はなくてもかまいません。ソングはアーティスト、作曲者、アルバム、ジャンルなどの属性でグループ分けでき、セットリスト(演奏順リスト)やコレクション(フィルター目的で利用します)の属性も持てます。同じソングを複数のグループへ所属させることができ、グループ数に制限はありません。ソングへ追加情報を付与するほど、ソングをフィルターし見つけ出す手段が増えていきます。デフォルトでは、ライブラリー画面には以下の順でタブが並んでいます。

[最近] [ソング] [セットリスト] [コレクション] [アーティスト] [アルバム] [ジャンル]

これらは一般的によく使われるタブですが、他にも作曲者・キー・ブックマークなどのタブがサポートされます。どのタブをどの順序で表示するかについては、タブの構成を参照してください。各タブの説明と、どのようなデータが保持されているかを以下説明します。

- **最近** – 最近作成したりロードしたすべてのソングとセットリストの一覧です。最近アクセスしたソングやセットリストへ簡単にアクセスし、それらを再び演奏する際にすばやくロードできるメカニズムです。このリスト上のエントリーをタップするとソングやセットリストを即座にロードします。
- **ソング** – ライブラリー中の全ソングを表示します。デフォルトではソングはアルファベット順に並べられ、最初の一文字ごとに分類されます(ソートとフィルターについては後で詳しく説明します)。フィルター機能でソングを見つけたり、頭文字のリストからも見つけられます。
- **セットリスト** – ライブラリー中の全セットリストを表示します。セットリストとはソングを順番に並べたものです。セットリストをロードすると全ソングがまとめてロードされ、中断されることなく

次のソングへページをめくれます。演奏順が決まっていて、それらへ一度にアクセスしたいステージ演奏に完璧な手法です。

- **コレクション** – ライブラリー中の全コレクションを表示します。コレクションとはフィルターでの利用を目的としてまとめられたソングのリストのことですが、そのほかのグループ属性と同様に単にソングを分類する目的でも使えます。コレクションは、場面に応じたソングの表示要請にもとづいてライブラリーを分割する目的にも使えます。たとえば、複数のバンドを掛け持ちする際に、所属する各バンドごとのソングだけを含んだマルチライブラリーをコレクションで作成できます。何度かのタップで表示されるソングを切り替えられます。コレクションによるフィルター操作については、フィルタリングのセクションで説明します。
- **アーティスト/アルバム/ジャンル/作曲者/ソースの種類/キー/シグネチャー/年** – これらのタブはすべてソングをそれぞれの属性でグループ分けします。ソングへはそれぞれに 1 つまたは複数の属性を関連付けられます。例えば、必要ならソングへ複数のアーティスト属性を設定でき、アーティスト属性に設定がなければアーティスト無しになります。リスト上のエントリーをタップすると、そのエントリーに属するソングのリストが表示されます。「すべてロード」をタップするとリスト中の全ソングを一度にロードし、各エントリーをタップするとそのソングだけがロードされます。
- **カスタムグループ** – この独自のタブには自由に名前が付けられます。例えば、ソングを楽器別で分けたいときは、設定でカスタムグループ名を変更して「楽器」とすれば、タブは「楽器」と表示されます。カスタム名が使用できることを除けば、このタブは上で説明した他のタブと全く同じ動作をします。
- **ブックマーク** – これまでに作成した全ブックマークをライブラリー画面上に表示します。ブックマークをタップすると、そのブックマークを作成したソングがロードされ、ブックマークしたページへジャンプします。ブックマークの詳細はブックマークセクションを参照してください。

MobileSheets では、各ソングに好きなだけ、あるいは最小限の情報を設定できます。この柔軟性によりライブラリーの整理にはどの情報を重視するのかユーザー次第で決められます。重要なポイントは必要なソングをすばやく見つけ出せることです。次のセクションでは、ソングをフィルターして見つけ出す様々な手法について説明します。

フィルターリング

ライブラリー画面の上のほうに、下の図のようなコントロールが表示されています。

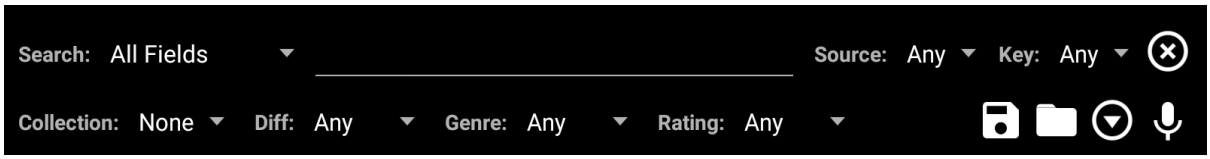


Figure 3 – さまざまなフィルター設定

これらのコントロールはライブラリー画面上のリストに表示されるエントリーをフィルター(制限)するさまざまな手法です。それぞれのフィルター項目について説明します。

- **検索:** 表示されている検索語に一致するエントリーだけをリストへ表示します。デフォルトの検索タイプは「すべてのフィールド」で、全ソングの全フィールド属性が検索対象になります。つまり、「abc」で検索すると、タイトルに「abc」が含まれる全ソングに加えて、アーティストが「abc」である他のソングも表示されます。「アルバム」のようにフィールドを指定すると、そのフィールドだけが検索対象となります。グループの属性を指定すると、グループとそのすべてのソングを対象に検索語が比較され、タイトルが一致するか、一致するソングを少なくとも一つは含むグループが選別されます。
- **ソース:** ソースの種類(複数指定可)でフィルターされます。
- **キー:** キーの一致でフィルターします。
- **コレクション:** コレクションをもとにフィルターを適用します。
- **難度:** 難易度でフィルターします。難易度が一致するソングだけが表示されます。
- **ジャンル:** ジャンル(複数指定可)でフィルターします。
- **評価:** 評価でフィルターします。評価が一致するソングだけが表示されます。
- : 現在適用しているフィルター設定を保存したり管理するメニューが表示されます。「保存」を選択してフィルターがそれまで保存されたりロードされていなければ新規フィルター名の入力が促されます。そうでなければ、以前に保存したりロードしたフィルター設定が上書きされます。「名前をつけて保存」を選択すると、名前の入力が求められます。既存のフィルターに同じ名前のものがあれば上書きされ、そうでなければ新規に作成されます。「フィルター

の管理」をタップすると、保存されているフィルターの一覧が表示され、名前の横の「X」をタップして削除できます。

- : 保存されているフィルターを表示します。エントリーをタップするとそのフィルターがロードされます。
- : キーワード、カスタム、カスタム 2、メトロノーム、オーディオなどの追加フィルターを表示します。最初の 3 つはテキストが対象で、以前説明した検索語のように働き、ソング中の値が一致するものが表示されます。そのほかのフィールドは作曲者のようなグループ種別で、同様に働きます。メトロノームは、ソングへメトロノーム設定がされているかどうか確認できます。オーディオはソングにオーディオファイルが関連付けられているか確認できます。「追加のフィルターをクリア」ボタンで、このダイアログで設定したフィルター条件をすべて消去できます。追加フィルターが設定されていると、このアイコンの円は緑色になります。
- : 音声検索を開始します。発声したワードに一致する全エントリーがポップアップウィンドウに表示されます。エントリーをタップすると選択されます(リスト上でそのエントリーをタップした時と同様に)。ウィンドウの外をタップすると音声検索を終了します。
- : すべてのフィルターをクリアします。

すべてのグループフィルターで、四つのモードがサポートされます。含める、除く、未アサイン、アサイン済、です。以下に説明します。

- **含める** - 選択したグループのいずれかに含まれるすべてのソングが表示されます。
- **除く –** 選択したグループのいずれにも属さない(が他のグループに属する)ソングが表示されます。
- **未アサイン –** このタイプのどのグループへも所属しないソングだけが表示されます。
- **アサイン済 –** このタイプのいずれかのグループへ所属するソングだけが表示されます。

アルファベットリスト

これまで説明したフィルターに加えて、もうひとつ重要な機能がアルファベットリストです。ライブラリー画面のリストの右側には常に頭文字のリストが表示されます。このリストは「アルファベットリスト」と

呼ばれ、リスト上の各エントリーから最初の一文字を抜き出したものです。これらの文字をタップすると、その文字で始まるエントリーまで表示がスクロールします。「?」をタップするとランダムにリストからアイテムが選ばれます。リストにフィルターが適用されていれば、表示されるアイテム数は減り、フィルター後のリスト内容を反映したアルファベットリストに更新されます。

アルファベットリストの有用な機能は、ソングタイトルの複数の文字への対応です。アルファベットリスト上の一文字を長押しすると、二文字目のリストが表示されます。このリストは、最初の文字から始まる全ソングタイトルの二文字目で構成されています。この文字をタップして最初と二文字目が一致するエントリーへジャンプすることも、長押しして三文字目のリストを表示させることもできます。この長押しにより、特定のグループのキーワードへドリルダウンできます。例えばソングのタイトルが「Lucky」で始まる場合、まず「L」を長押しして「U」を長押しし、「C」をタップすればまっすぐそこへ進みます。多くの場合、必要なソングを見つけるには二文字目までで十分でしょう。

エントリーをフィルターするためのツールが得られましたので、表示されたエントリーに対して行うアクションについて続いて説明します。

アクションバー

ライブラリー画面の一番上には、アイコンの列と青い背景のテキストがあります。この場所をアクションバーと呼びます。表示しているタブについて可能な操作と、アイテムを選択した後はそのアイテムに対して行えるアクションを反映してアクションバーは変化します。ライブラリー画面のリスト上でアイテムを長押しすると、アイテムの選択状態を示すチェックボックスが各アイテムの横に表示されます。このとき、アクションバーには選択中の各アイテムに対して可能な操作が反映されます。ソングタブなら「ソングのコピー」や「ソングの編集」といったアクションです。アクションを実行せずに複数選択モードをやめたい時は、タブレットの戻るボタンを押すか、アクションバー左側にあるチェックマークをタップします。画面上に表示しきれないアクションや、あまり使わないものは画面右上にある ⋮ アイコンをタップすると現れるオーバーフローメニューに押しやられます。このアイコンをタップすると各コマンドがドロップダウンメニューとして表示されます。

各タブごとに多くのアクションがありますが、同じタイプ(例: アーティストやアルバムといったグループ)のタブではほぼ同じようなアクションが利用できます。ソング、グループ、セットリストに共通する主要なアクションを以下に説明しますが、特定のタブでのみ有効なアクションもいくつかあります。

共通のアクション(アイテムを未選択のとき)

- **新規** – 選択中のタブに応じた新規インスタンスを作成します。「ソング」や「最近」タブでこれをタップすると、ソングエディター画面が表示され新規ソングを作成できます。セットリストやアーティスト、アルバムといった他のタブでここをタップすると、そのタブに対応した新規グループが作成され、グループエディターの画面にうつります。
- **インポート** – ファイルからソングを作成するアクションです。ソングを作成するもっとも手早い方法であり、ほとんどの場合、メタデータやオーディオ・MIDI 情報を持たないソングが作成されます。これらの情報は後からソングエディターで追加します。インポートでは、タブレットの SD カード、Dropbox、Google Drive、OneDrive、外部アプリからのインポートをサポートします。選択したディレクトリーやサブディレクトリーにある全ファイルを一度に読み込んだり、オーディオファイルからブランク(中身がからっぽ)のソングを作成することもできます。また、CSV と PDF を組み合わせて、複数ページからなる PDF をいくつかのソングへ切り分けることができます。これらのオプションについては、インポートの項目で詳細に説明します。セットリストやコレクションのようにグループ関連のタブを表示している(つまりグループに属するソングの一覧を表示している)ときにインポート操作を行うと、インポートしたソングはアクティブなグループに追加されます。新しいソングを既存のグループへ直接ほうりこみたいときに便利です。
- **プレースホルダーの追加** – ブランクのページからなる新規ソングを作成します。あとで実際のファイルを関連付けられるよう準備しておくものです。
- **タブレットの接続** – WiFi や Bluetooth を使ってデバイスを接続します。リーダーのデバイスの指示で、フォロワーデバイスでソングやセットリストをロードしたりページをめくることができます。詳しくはデバイスの接続で説明します。
- **コンパニオンアプリに接続** – MobileSheets コンパニオンアプリへ接続します。コンパニオンアプリを使って、タブレットのライブラリーを Windows PC 上で管理できます。

- **ライブラリーの同期** – このデバイスを、他のデバイスやクラウド上のフォルダー、バックアップファイルと同期します。詳しくはデバイスのライブラリーを同期で説明します。
- **マニュアル** – 最新のマニュアルをダウンロードし(まだ未入手の場合)、MobileSheets 上に表示します。
- **設定** – MobileSheets の設定画面を開きます。アプリの挙動を変更することで、MobileSheets を最大限活用できるようになります。

グループでのアクション (アイテムを未選択のとき)

- **編集** – まだグループをタップしていない(グループの一覧が表示されている)時にこのアクションを実行すると、表示されているタブを編集するグループエディターが開きます。グループをタップした後(グループに属するソングの一覧が表示されている)時に実行すると、選択中のグループの編集操作となります。
- **ソート** – 表示されているグループのリストを、「アルファベット」「作成日」「更新日」に応じて並べ替えます。グループに含まれるソング一覧を表示するためにグループをタップした状態でソートすると、そのグループ内でソートされます。グループ内のソングのソートでは、他にも「マニュアルで指定」「アルファベット」「シャッフル」「作成日」順が選べます。「マニュアル」はユーザーが指定した順序で、「アルファベット」はアルファベット順に、「シャッフル」ではランダムな順序で、それぞれ並びます。ソート設定は各グループごとに保持されます。「シャッフル」指定で MobileSheets を終了すると、アプリの次回起動時にあらためてシャッフルされます。
    a. 再シャッフル – 「シャッフル」時に利用でき、リストをあらためてシャッフルします。

特定のタブに固有なアクション (アイテムを未選択のとき)

- **「最近」タブ**
    a. リストのクリア – リストに表示される「最近」のエントリーをクリアします。
- **「ソング」タブ**
    a. ソート – このタブでのソングの並び順を変更します。「アルファベット」「作成日」「更新日」順のほかに、「カスタム」などソング属性を基準にソートすることができます。ソート順を降順にするか昇順にするか(A から Z か、Z から A か)も選べます。

ソングを選択しているときのアクション

共通 (ソングを一つ選択しているとき):

- **ソングの編集** – ソングエディターが表示され、選択中のソングを編集します。
- **ソングのコピー** – 選択したソングのコピーを作成し、ライブラリーへ追加する前に編集できるようソングエディターが表示されます。コピーするソングがテキストファイルや Chord Pro ファイルを含む場合は、同じファイルを共有するか、ファイルも新しくコピーするか、確認する画面が表示されます。
- **ファイルを入れ替え** – ソングに含まれるファイルのうち一つを別のファイルと入れ替えます。実際の操作方法はファイルの入れ替えで説明します。
- **ノートを表示・編集** – そのソングに設定されているノートを編集する画面が表示されます。ノートは、ソング表示画面上でボタンを押しても表示されます。
- **ソングを読み込んで頭から開始** – そのソングをロードし、最初のページの頭を表示します。これはソングをタップした時のデフォルトの動作と一緒ですが、「常に最後に表示したページをロード」設定が有効な場合に最初のページから開きたい時はこのメニューを利用します。
- **最後に表示したページを読み込み** – そのソングをロードし、前回最後に見ていたページを表示します。

共通 (複数のソングを選択しているとき):

- **編集** - 一括編集画面を表示して、選択中の各ソングのメタデータをまとめて変更します。
- **ソングの削除** – ライブラリーから選択中のソングを削除し、必要なら関連するファイルも削除します。ソングを参照している各グループからも削除されます。詳細についてはソングの削除で説明します。
- **シェア** – このアクションをタップすると、選択中のソングをシェアしたりエクスポートする方法が一覧表示されます。Bluetooth や「クリップボードへコピー」のような外部アプリも含まれます。詳細についてはソングのシェア、.msf ファイル、ソングとセットリストのエクスポートで説明します。

- **セットリストへ追加** – セットリストの一覧が表示され、指定したセットリストへ選択中の全ソングが追加されます。
- **セットリストから除外**– セットリストの一覧が表示され、指定したセットリストから選択中の全ソングが除外されます。
- **コレクションへ追加** – コレクションの一覧が表示され、指定したコレクションへ選択中の全ソングが追加されます。
- **コレクションから除外** – コレクションの一覧が表示され、指定したコレクションから選択中の全ソングが除外されます。
- **ソングからセットリストを作成** – 新しくセットリストを作成し、選択中の全ソングをそこに含めます。新しいセットリストに名前をつけなければなりません。
- **ソングからコレクションを作成**– 新しくコレクションを作成し、選択中の全ソングをそこに含めます。新しいコレクションに名前をつけなければなりません。
- **印刷** – デバイスにインストールされている印刷機能を利用して選択したソングを印刷します。詳細は印刷の項目で説明します。

グループに含まれるソングのリストを表示して 1 つ以上のソングを選択している際は、メニューの上部に表示されるアクションが「ソングの削除」ではなく「除外」となる点に注意してください。このアクションは選択したソングを表示中のリストから除去します。そうではなくソングそのものを削除したい時は「ライブラリーからソングを削除」アクションを実行します。また、上記の「セットリストへ追加」以降の各オプションは、グループに含まれるソングのリストを表示していて何もソングを選択していない時にも利用できます。この場合は、グループに含まれる全ソングがアクションの対象となります。

グループ選択時のアクション

共通 (グループを一つだけ選択しているとき):

- **編集** – 選択中のグループを対象にしたグループエディターが表示されます。
- **コピー** – コピー先の名前が求められ、選択中のグループに含まれる全ソングが指定した名前の新しいグループへコピーされます。

- **名前を変更** – 選択中のグループの名前を変更します。

共通 (グループを一つ以上選択しているとき):

- **削除** – 選択中の全グループを削除します。含まれるソングそのものは削除せず、ソングのグループへの関連付け情報だけが削除されます。
- **シェア (セットリストの時のみ)** – 選択しているセットリストを、.mss ファイルか.msf ファイルを通じてシェアするかエクスポートします。シェアを選択した場合は、作成されたファイルが指定したアプリへ送られます。詳細はソングとセットリストのシェアを参照してください。エクスポートを選択した場合は、選択したセットリストを.mss ファイルか.msf ファイルへ書き出し、タブレットの SD カードへ保存されます。詳細はソングとセットリストのエクスポートを参照してください。
- **ソングをセットリストへ追加** – 選択したグループ中の全ソングを、指定したセットリストへ追加します。
- **ソングをコレクションへ追加** – 選択したグループ中の全ソングを、指定したコレクションへ追加します。
- **セットリストからソングを除外** – 選択したグループ中の全ソングを、指定したセットリストから除去します。
- **コレクションからソングを除外**– 選択したグループ中の全ソングを、指定したコレクションから除去します。
- **ソングからセットリストを作成**– 選択したグループ中のソングから、新しいセットリストを作成します。
- **ソングからコレクションを作成**– 選択したグループ中のソングから、新しいコレクションを作成します。
- **印刷** – デバイスにインストールされている印刷機能を利用して選択したソングを印刷します。詳細は印刷の項目で説明します。

セットリストタブ:

- **ソングリストを作成** – セットリストのソングリストを(テキストで)、指定したプログラムへ送り出します。シェアアクションではシェア用にファイルを作成するのに対して、このアクションではメー

ルやドキュメントなどへコピーできるタイトルリストだけを生成します。各ソングのタイトルとしてどのような書式で各属性を含めるか、ソングリスト生成フォーマットの項目で説明します。

- **セットリストを読み込んで頭から開始** – 選択したセットリストをロードし、最初のソングの最初のページを表示します。
- **最後に表示したページを読み込み** – 選択したセットリストをロードし、以前そのセットリストを最後に表示した時のページを表示します。

フローティングツールバー

ライブラリー画面の右下に、アイコンが並んだフローティングツールバーが表示されます。ツールバーは Figure 4 のように表示されます。

Figure 4 – フローティングツールバー

これらのアイコンを、左から右へ順番に説明します。

- **戻って表示ボタン** – リスト上でグループを選択しソングが表示されているときに、このボタンをタップするとグループのリストへ戻ります。
- **パフォーマンスモード** – タップするとパフォーマンスモードが有効になり、アイコンはオレンジ色に変わります。パフォーマンスモードでは、ページめくりとクイックアクション以外のほとんどの操作が無効になります。詳細はソングの表示とパフォーマンスモードを参照してください。
- **タブレットの接続** – 複数のタブレット同士を接続する画面が表示され、リーダーがフォロワーをコントロールできるようになります。詳細はデバイスの接続を参照してください。
- **フィルターの有効・無効** – ライブラリー画面の一番上に表示されるフィルターを、表示したり隠したりします。
- **最後のソングを表示** – ソングがロードされた状態でこのボタンをタップすると、ライブラリー画面からソング画面へ戻って、ソングのそれまで表示していた箇所で再開します。

ツールボタンを表示したくない場合は、設定 > ライブラリー > フローティングツールバーを表示、のチェックをはずします。

タブの構成

MobileSheets で表示するタブの数と並び順はいずれも設定変更が可能です。「表示するタブと順序」の設定画面に行くには、アクションバーのオーバーフローメニューの「設定」から「ライブラリー」の中にある「表示するタブと順序」へ進みます。以下の画面が表示されます。

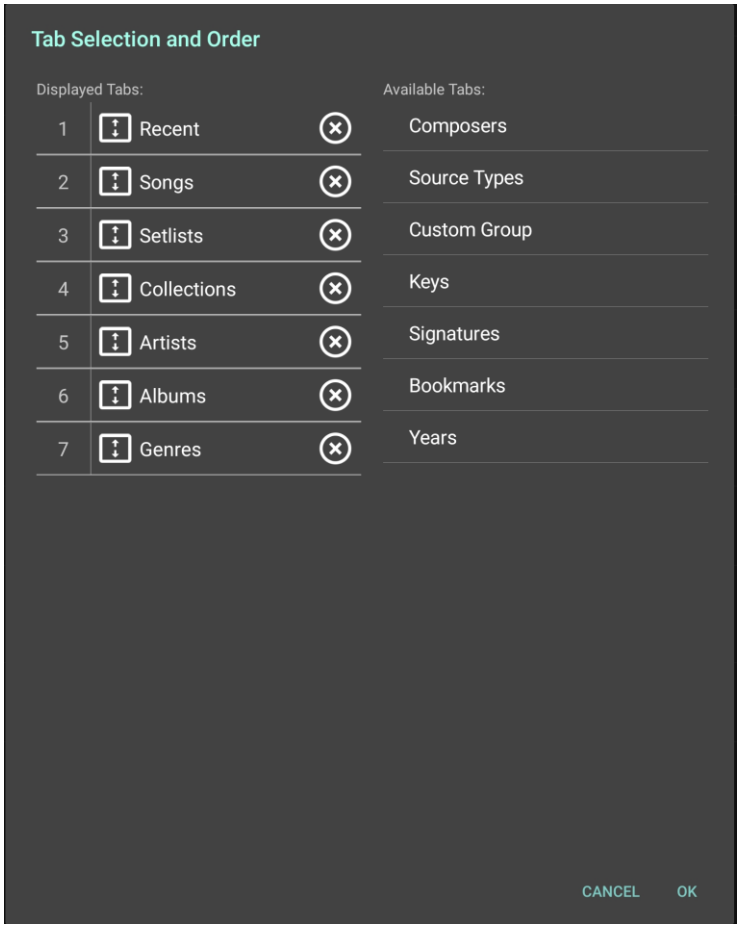


Figure 5 - 「表示するタブと順序」設定画面

左側のリストが現状のライブラリー画面表示内容です。右側は表示していないすべてのタブです。右側のリスト上で項目をタップするか、右側から左側へタブをドラッグします。左側のリスト中の各項目の左側にある矢印の書かれた箱を上下にドラッグして順序を変更できます。表示からはずしたい

タブは、タブ名の先にある「X」をタップします。タブの編集が終わったら、画面下にある「OK」をタップします。

複数のライブラリーを設定

場合によっては、単一のライブラリーでフィルターを駆使するよりも独立した複数のライブラリーを使用したほうが便利なときがあります。新規のライブラリー作成は、設定 > ライブラリー > ライブラリーの切り替え、で行います。下記のような画面が表示されます。

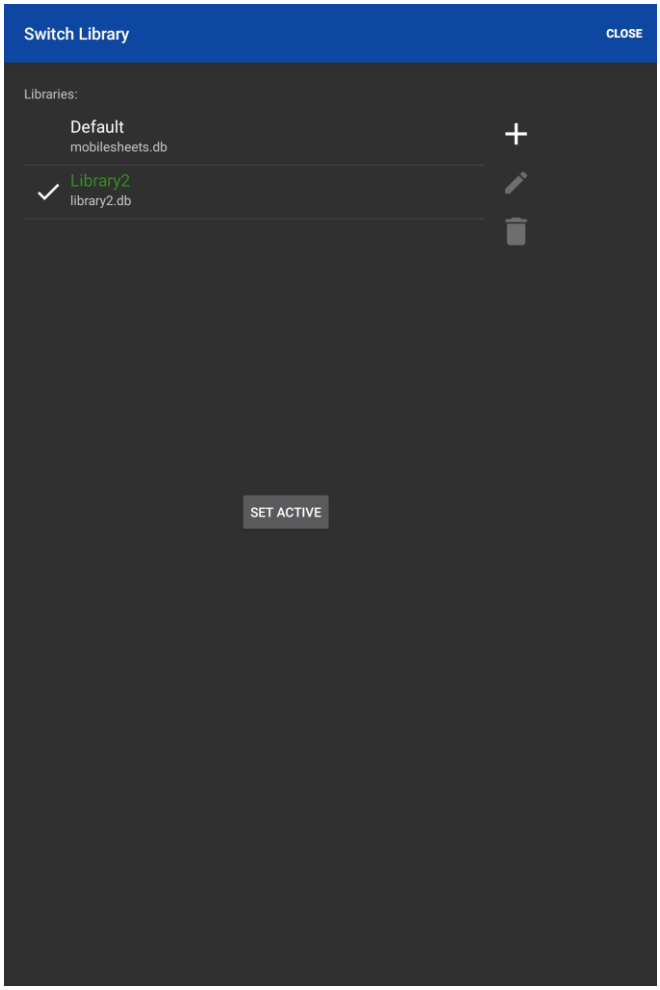


Figure 6 – ライブラリーのアクティブ状態を切り替える

新規にライブラリーを作成するには、＋アイコンをタップし、ライブラリーの名前を入力します。ライブラリーと同じ名前のデータベースファイルが作成されます。アクティブなライブラリーにチェックマークが

表示されます。ライブラリーを切り替えるには、リスト上の項目をタップして「アクティブにする」ボタンをタップします。ライブラリーの名前を変更するには、✎アイコンをタップし、ライブラリーを削除するには🗑アイコンをタップします。

現時点では、全ライブラリーの全ファイルはストレージ上の同じ場所に位置します。つまり複数のライブラリーが同じファイルを使うと、ファイルの競合が発生します。これは余分なスペースを取る冗長なファイルを排除したいユーザーには望ましいかもしれません。他の人はファイルを独立させておきたいでしょう。将来のバージョンで、各ライブラリーごとにストレージ上の場所を独立して設定できるようになる見込みです。

ソングタイトルの書式設定

ライブラリー画面上では、ソングは通常は複数のフィールド内容が表示され、タイトル名が上の行に、下の行に(キャプションとして)「アーティスト名 - アルバム」が表示されます。この書式では、任意のフィールドを好きな形式で表示できます。各ソングを一行だけで表示したい場合はキャプションを消すこともできます。ソングタイトルの書式を変更するには、設定 > ライブラリー > ソングタイトルの書式、をタップします。以下のような画面が表示されます。

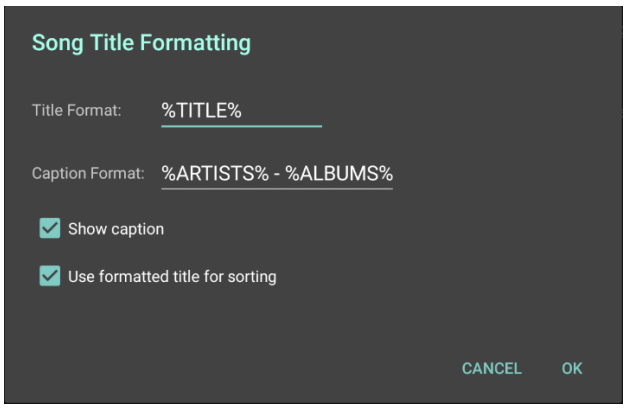


Figure 7 - ソングタイトルの書式

タイトルの書式が設定されているので、タイトルとして表示したいフィールド名を“%”文字ではさんで指定します。それ以外の箇所の文字はそのまま表示されます。例えば、%TITLE% - [%KEYS%] のように書式を指定すれば、“New Song [Gb]”のように表示されます。タイトルの下にキャプションを表示したくない場合は「キャプションの表示」チェックをはずします。「ソート時に書式適用後のタイトル

を使用」で、ライブラリー上でのソート基準に、ソングのもともとのタイトルを使うかこの書式を適用したものを使うかを指定します。タイトル書式でタイトル以外のフィールドを最初に表示するよう指定した場合に重要なポイントです。「タイトル書式」や「キャプション書式」をタップすると、次のような入力画面が表示されます。

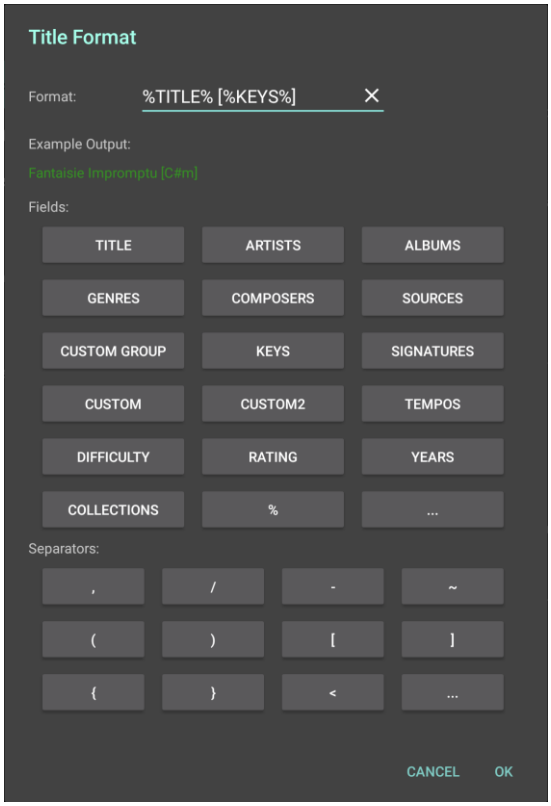


Figure 8 - タイトル形式

このダイアログで、書式文字列を簡単に構成できます。表示したいフィールドをタップして、その間を区切る適切な文字のボタンをタップします。“...”ボタンをタップすると、追加の項目が表示されます。「表示例」へ書式指定にしたがったサンプルが表示されます。「OK」をタップして書式変更を完了すれば、先ほどのソングタイトル書式画面の書式欄へ反映されます。

ソングタイトルの高度な書式指定

属性が設定されていないフィールドを考慮したり、条件次第で表示をダイナミックに変化させたい場合は、より高度な書式指定を使うことができます。書式の基本的なパターンはこんな感じです。

%FIELD: 属性が存在する場合のテキスト| 属性が設定されていない場合のテキスト%

FIELD には、Figure 8 で示した ARTISTS、ALBUMS、GENRES、COMPOSERS、KEYS などのフィールドを指定します。「属性が存在する場合のテキスト」には任意の文字列と、そのフィールドの実際の値を示す ${VALUE} というキーワードが指定できます。例えば、ここが「_${VALUE}_」と指定されており、実際の値が「Bach」だとすると、この書式では「_Bach_」と表示されます。フィールドへは複数の値を設定できますから、デフォルトではそれらはカンマで区切られます。フィールドの値が「Bach」と「Chopin」なら、「_Bach, Chopin_」となります。複数の値の間の区切り文字列は、VALUE キーワードのカギカッコの中で、「VALUE」の後に書くことで指定できます。区切り文字にカンマではなくスラッシュを使いたい場合は、「${VALUE/}」のようにキーワードを記述します。「属性が存在する場合のテキスト」と「属性が設定されていない場合のテキスト」のいずれも、さらに他のフィールド(あるいはさらに複雑な条件指定)を記述することができます。VALUE を指定した時のように、${}でフィールド名を囲んでキーワードにできます。アーティストの情報があるソングにはキーを表示し、ない場合にはジャンルを表示したい場合は、こんな書式を指定できます。

%ARTISTS:${KEYS}|${GENRES}%

さらに、アーティスト情報がある場合はキーを表示し、もしキー情報がない場合はシグネチャーを表示するなら、こんな書式になります。

%ARTISTS:${KEYS:${VALUE}|${SIGNATURES}}|${GENRES}%

必要に応じて、複雑な式を入れこ(ネスト)にすることができます。「属性が設定されていない場合のテキスト」は必須ではない点に注意してください。情報があるときにそれを表示するだけの場合には、最初のセクションだけ、「$FIELD:属性が存在する場合のテキスト|」のように指定します。

高度な書式指定のありがちな活用法は、値がない場合には区切り文字を表示させない、という場合です。例えば、デフォルトの「%ARTISTS% - %ALBUMS%」という書式では、アーティスト情報がない場合アルバム名の前に「-」だけが表示され、さらにアルバム情報もない場合は「-」だけがぽつんと表示されます。こういった状況は次のような書式指定で回避することができます。

%ARTISTS:${VALUE} - %%ALBUMS%

この書式では、アルバム情報がないときにやはりアーティスト情報のあとに「-」が表示されてしまいます。こうすることで、各ソングでどのフィールドの情報が抜けているか簡単に見つけられます。両方のフィールドに情報があるときにだけ区切り文字を表示したい場合は、次のように書式を指定する必要があります。

%ARTISTS:${VALUE}${ALBUMS: - ${VALUE}}|${ALBUMS}%

ほとんどのユーザーには高度な書式設定は必要ありませんが、ライブラリー画面上に表示されるソング情報を完全にコントロールするパワフルな方法を与えてくれます。

ソングリストの書式を構成する

セットリスト情報からソング一覧(リスト)を作成する際に、リスト上へソングがどのように書き出されるかを指定することができます。ソングタイトルの書式指定と同様に、どのフィールドをどのような書式でソングリストへ含めるのかを指定するダイアログが存在します。このダイアログは設定 > ライブラリー > ソングリストの書式を構成、でアクセスできます。下記のような画面です。

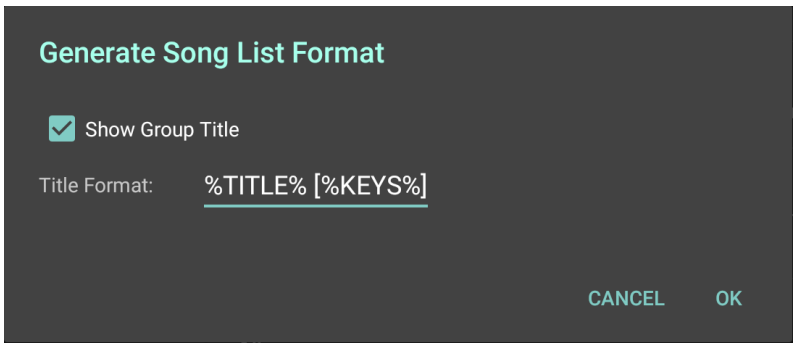


Figure 9 – ソングリストの書式を構成

リスト中にセットリストのタイトル名も含めたい場合に「セットリストのタイトルを表示」をチェックします。各ソングのタイトル書式を変更したい場合は、「タイトル書式」をタップします。タイトル書式のダイアログが表示されます(ソングタイトルの書式を指定するときと同じ画面です)。「OK」をタップして編集を終了し、ライブラリー画面へ戻ります。

ライブラリーの表示設定

ライブラリー画面の表示やふるまいを変更する設定がいくつかあります。

- 頭文字に大きい文字を使用
- ソングタイトルの書式
- カスタムカテゴリーの名前
- ダークテーマを使用
- 行ごとに反転
- ライブラリーのテキストサイズ
- 表示するタブと順序
- ソートで冠詞を無視(および「無視する語」)
- 最初のライブラリータブ
- テキストの揃え
- フローティングツールバーを表示
- 文字を正規化
- ソング数を表示
- セットリストの長さを表示
- ソングが 1 つだけのグループ表示をスキップ

全設定の一覧と説明はライブラリーの表示設定で紹介します。利用可能なさまざまな設定を理解しておくことをお勧めします。

一括(バッチ)編集

ライブラリー画面で複数のソングを選択した状態で「編集」をタップすると、以下のようなバッチ編集画面が表示されます。複数のソングのメタデータ情報を一度に変更することができます。選択した各ソング間で複数の異なる属性情報が設定されているフィールドは赤色で表示されます。

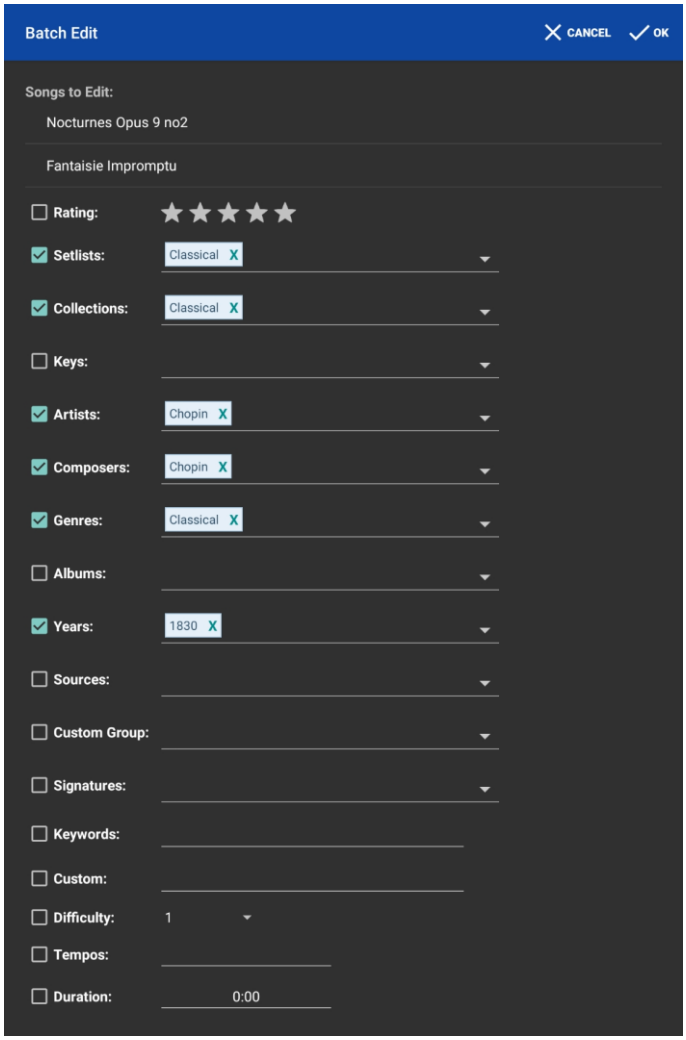


Figure 10 - 複数のソングをバッチ編集

印刷

ソングを 1 つ選択した状態でアクションバーのオーバーフローメニューから「印刷」を指定すると、印刷画面が表示されます。下の図のような画面です。印刷機能は Android OS のバージョン 5.0 で搭載されたので、バージョン 4.4(KitKat)のタブレットでは少し見ためが異なりますが、中身はおおむね同じです。画面左上にあるドロップダウンでプリントサービスの種類を選択します。プリントサービスは文書をどのようにプリンターへ送信するかを決定します。あるプリントサービスはイーサネット接続のプリンターをサポートし、クラウド経由のプリンターをサポートするものもあります。画面上の印刷設定を変更するたびに、変更を反映してプレビュー画面も更新されます。そのほかの設定は、画面上のセクション中央にある矢印をタップすると展開されます。設定が終わったら、画面右上にある印刷ボタンをタップして完了です。

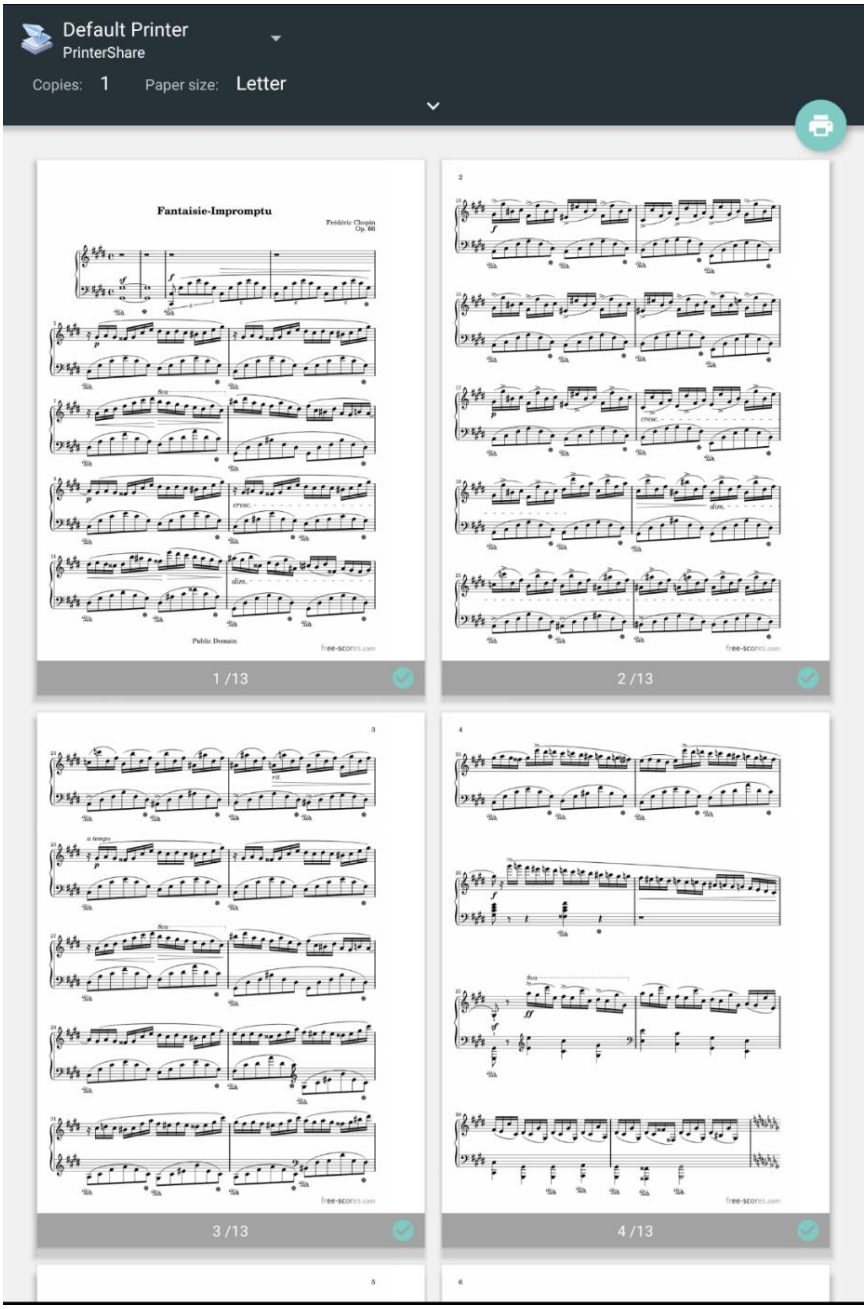


Figure 11 - 印刷画面(Android 5.0 以降)

ファイル管理

ファイルストレージとアクセス管理は MobileSheets のもっとも重要で、しかし複雑なトピックです。このセクションでは以下のような項目を詳細に解説します。

- ファイルストレージの設定と、ファイルインポートの影響
- サポートされるファイルの種類
- ファイルをインポートしソングを作成する、さまざまな手法
- ソングのシェア
- ソングと関連ファイルの削除
- ライブラリーのバックアップとリストア(復旧)

ファイルストレージ

ファイルストレージについて解説する際に最初に知っておくべき設定が「MobileSheets がファイルを管理」です。設定のストレージセクションにあります。この設定をオンにすると、MobileSheets はインポートしたファイルのコピーを作成して自身のストレージディレクトリへ置きます。ストレージディレクトリは「MobileSheets ストレージの場所」をタップして設定します。ストレージの場所を指定するダイアログはこんな感じです。

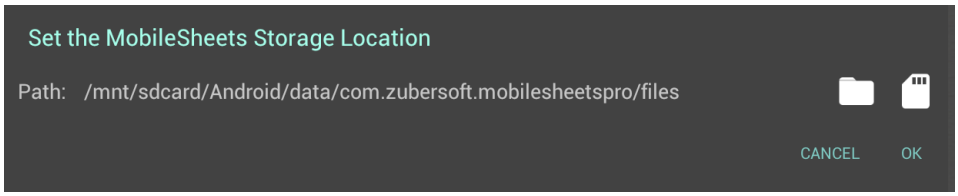


Figure 12 – ストレージの場所設定

フォルダーアイコンをタップするとファイルブラウザーが表示されますので、ライブラリーを保管するフォルダーを指定します。ファイルブラウザーの操作についてはファイルのインポートで詳しく説明します。SD カードのアイコンをタップすると、デバイスに接続されている取り外し可能な SD デバイスを順に表示します。リストされるパスは特別なアプリケーション用ディレクトリーで、追加アクションなしに MobileSheets が書き込み可能なところです。SD カードアイコンを何回かタップするたびに利用可

能な場所が切り替わりますが、最後に表示されるのはタブレットの内部 SD カード上にあるデフォルトのストレージの場所です。もし MobileSheets が外部 SD カードを正しく認識しなかったり、外部 SD カード上の任意のフォルダーを使用したい場合は、ファイルブラウザーを使って正しい場所を選択します。

ストレージの場所が新しく指定され、「MobileSheets がファイルを管理」がオンになっていると、以前のストレージの場所にあった全ファイルを新しい場所へ移動するかどうか確認を求められます。「ファイルを管理」のチェックをはずしてストレージの場所を変更することはできますが、通常は推奨されず、古いファイルを MobileSheets が正しく管理できなくなってしまうからです。

もし MobileSheets にファイルを管理させたくない場合は、ご自身でファイルとフォルダーを管理しなければなりません。この場合、MobileSheets はファイルをコピーしたり移動したりしません。それでも、以下の理由で MobileSheets のストレージの場所指定は重要なままです。

- 電子メールや Dropbox などのオンラインやクラウドからインポートしたファイルはストレージの場所へコピーされます。どんなソングもロード時にインターネット接続を必要とせず、したがって演奏時にインターネット接続が必要ないよう MobileSheets は設計されています。このため、タブレット自身に必ずオフラインファイルが存在する必要があります。
- MobileSheets はソングのメタデータ(アノテーションを含む)をデータベースファイルへ保持します。デフォルトではこのデータベースファイルはアプリのプライベートストレージに置かれますが、「データベースファイルを見せる」設定にチェックすると MobileSheets のストレージの場所へ置かれます。

ファイルストレージに関して最後にもうひとつ触れておくべき重要なポイントは、MobileSheets がファイルを管理する際にファイルのパスが競合する可能性がある点です。「ソングごとにサブディレクトリーを作成」設定を有効にしていれば、各ソングに別々の名前を持たせることでファイルの競合を避けることができます。そうでなければ、インポートしたファイルに同じ名前のファイルがあってはいけません。これはインポートしたファイルがすべて同じ場所にコピーされるためで、ファイルの名前が違っていなければお互いに上書きしあってしまいます。

取り外し可能な SD カード

MobileSheets を Android 4.3 以前のタブレットへインストールした時は、取り外し可能な SD カードの利用はタブレットの内部ストレージを利用する際と完全に同じです。取り外し可能な SD カード上にファイルやフォルダーをなんの制限もなく作成したり編集したりできます。タブレットが 4.4(KitKat)以降の場合は、取り外し可能な SD カードへのアプリからの書き込みに Google が制限をかけています。以下のようなディレクトリーに対してのみ書き込みが可能です。

<外部 SD カードのパス>/Android/data/com.zubersoft.mobilesheetspro/files

「MobileSheets ストレージの場所」設定で SD カードのアイコンをタップすると、もし取り外し可能な SD カードが見つかれば自動的にそのディレクトリーが選択されます。制限を受けるのは書き込みだけである点に注意してください。取り外し可能な SD カードからファイルを読みだすだけであれば、どのディレクトリーを使ってもなんら制限はありません。

Google はこの制限を Android ５.０以降で変更しました。取り外し可能な SD カードを選択しようとすると、ファイルブラウザーでは Google のファイル選択ウィンドウで SD カードを選択する(アクセスを許可するのに必要)よう求められます。以下のような手順になります。

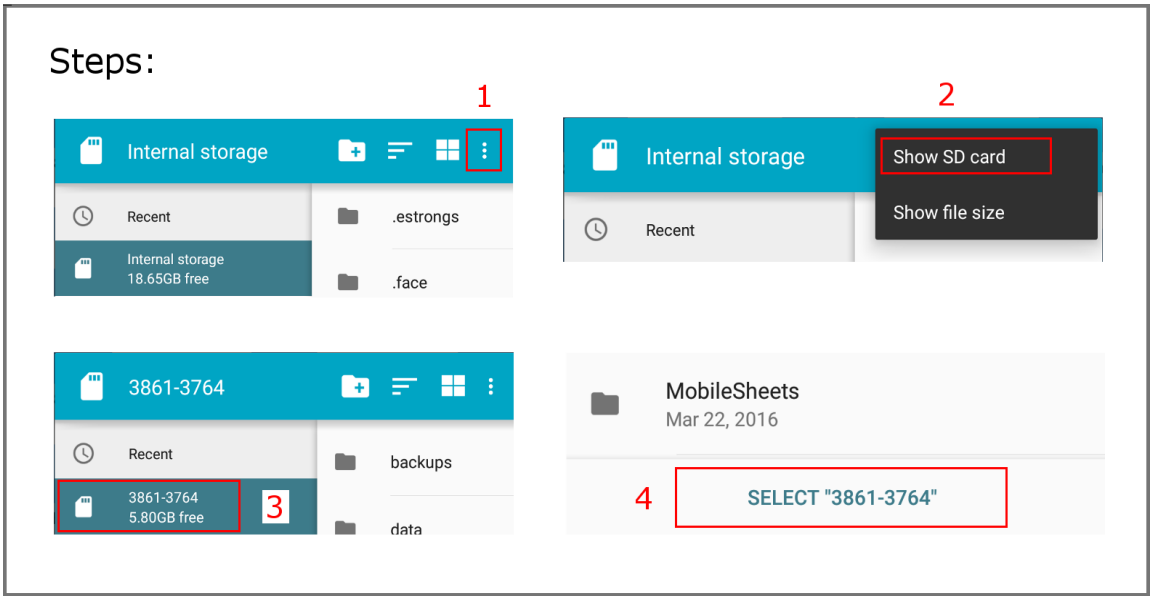


Figure 13 - 取り外し可能な SD カードを選択するための手順

手順自体はシンプルです。オーバーフローメニューをタップし、必要なら SD カードを表示し、タップして SD カードを選択し、選択(SELECT)ボタンをタップします。SD カードの名前はおそらく「3861-3764」

ではなく、さらに各デバイスごとに異なる点が重要です。場所を指定して SD カードへのアクセスを許可すると、SD カード上の好きな場所を選択できるようになります。ストレージの場所として、ファイルのエクスポート先として、またバックアップファイルの作成先として利用できます。<SD カードのパス>/Android/data/com.zubersoft.mobilesheetspro/files 以外の場所を指定した場合は書き込みが遅くなる点に注意してください。これは、MobileSheets がこの場所だけは何にも介在されることなく直接アクセスできるからです。これ以外の場所へは、非常に低速な Google のストレージアクセスフレームワークを介してしかアクセスできません。

MobileSheets が取り外し可能な SD カードを認識できず、またはファイルブラウザーが SD カード上のディレクトリーを読み取り専用と判断したら、SD カードへのアクセスをご自身で設定しなければなりません。ファイルブラウザーの右上にあるオーバーフローメニューをタップして、「SD カードをセット」を選択します。先ほど説明したのと同じ手順を実施します。Google のファイル選択で SD カードを選択したら、SD カード上のフォルダーを選択できるようになるはずです。

ファイルのインポート

MobileSheets ではファイルのインポートにいくつかの方法を用意しています。インポート時のさまざまなオプションを見ていく前に、どの種類のファイルがサポートされるかについて説明します。

サポートされるファイルの種類

４つの基本的な種類のファイルがサポートされます。

- **画像** – .jpg、.gif、.png、.bmp、.webp
- **PDF** - .pdf ファイル
- **テキスト** - .txt ファイル
- **Chord Pro** - .cho、.crd、.chordpro、.chopro、.pro

フリーハンドファイル(.fh)もサポートされますが、インポート中に.png ファイルへ変換されます。テキストと Chord Pro ファイルは、画像や PDF ファイルに比べて多くの大きく異なる点があります。

- MobileSheets でのテキストと Chord pro ファイルの表示は、テキスト表示設定で変更することができます。この設定はファイルが画面へどのように表示されるか大きく影響します。イメージや PDF ではこのような設定はできません。
- テキストや chord pro ファイルは、MobileSheets 上では決まったサイズやページ数を持ちません。フォントの大きさや他のプロパティーを変更すると、総ページ数は変化し、コンテンツの他の場所が表示されます。画像や PDF ではページ数が変化せず、フォントサイズといったプロパティーの変更はできません。
- テキストと Chord Pro ファイルは、ソングのキーを変更する移調やカポ指定をサポートします。画像や PDF ファイルでは移調やカポ指定ができません。
- テキストと Chord Pro ファイルは回転できず、ページ順序もありません(ページ数が変化するため)。これらの機能は画像と PDF の双方でサポートされます。

複数の画像ファイルをインポートする際は、クイックインポートでもバッチインポートのいずれでも、単一のソングへ画像がまとめられるか、別々のソングとして分けられるか、指定することが重要です。複数の画像ファイルが一つのソングへまとめられるためには、ファイル名は同じ名前で末尾に異なる数字がついていなければなりません(例えば、MySong1.png と MySong2.png など)。

Mobilesheets は.msf(MobileSheets Song File)と呼ぶ新しいファイル形式を導入しました。.msf ファイルはソングかセットリストのいずれかを含みます。各ソングは、情報をデータベースへ保管する際と同様に、使用する全ファイルが.msf へバンドル(包含)されます。基本的には、ライブラリーに保管されたソングの全設定を含んだコピーです。セットリストでは、そのセットリストが使用するソングをすべてそこにパッケージしたものです。これにより、ソングをエクスポートしたりバンドメンバーとシェアする際に.msf は非常に便利なファイル形式です。.msf ファイルはクイックインポートで簡単にインポートできることを思い出してください。MobileSheets の外の世界で、PDF やそのほかのバンドルされたファイルを.msf ファイルから取り出すことはできません。

MobileSheets は XML ベースで、テキストエディターで表示・編集可能な形式である.mss (MobileSheets Setlist Songs)と呼ぶファイル形式も導入しました。このフォーマットではセットリスト中のソングのリストと各ソングが使用するファイルについての情報だけが含まれています。このファイル

を他のデバイスでインポートすると、そのデバイスのライブラリー中で一致するソングをもとに同じセットリストを作成しようとします。一致するソングが見つからないと、スキップされセットリストへは追加されません。

ファイルブラウザー

MobileSheets のいろいろな機能で、デバイス上のファイルやフォルダーの選択をユーザーに求めることがあります。これを目的に、MobileSheets は独自のファイルブラウザーを持っています。次の図のように、ファイルブラウザーはいくつかのエリアから構成されています。

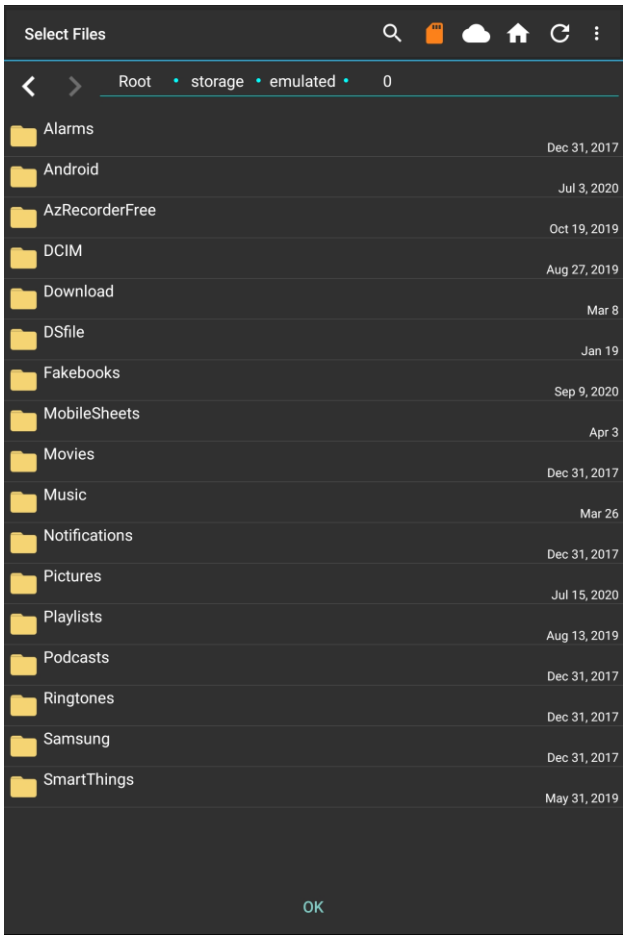


Figure 14 – ファイルブラウザー

ブラウザーの一番上の部分は、アイコンが並ぶアクションバーです。それぞれのアイコンは以下のとおりです。

	表示されているファイルやフォルダーを絞り込むためのテキスト入力が表示されます。文字を入力するたびに、検索フレーズに一致するファイルとフォルダーだけになっていきます。
	内部ストレージと、SD カードや USB ドライブなどの認識された全外部ストレージをリストします。リスト中の項目をタップするとそのフォルダーへ移動します。外部ストレージでフォルダーが見つからないと、内部ストレージへ切り替わります。
	クラウドをソースとして表示します。現在、Dropbox、Google Drive、OneDrive をサポートします。リスト上で選択すると、最初にそのソースへアクセスした際にログインアカウントが求められます。ここで入力した情報は安全に保管され、後日インポートする際にはログインは求められません。使用するアカウントを変更するには、ストレージ設定の画面から行います。
	ファイルブラウザーを開いたとき最初に表示されていたフォルダーへ戻ります。ファイルを選択すると、最後に表示していたフォルダーも記憶される点に注意してください。これは常に最初に表示されるフォルダーです。
	現在のフォルダー中にあるファイルのリストを再読み込みします。

オーバーフローメニューからは以下の追加アクションが行えます。

- ソート – どのプロパティ(名前、サイズ、日付)を基準にソートするか、リストが昇順なのか降順なのかを変更します。
- グリッド表示 – ファイルブラウザーをグリッド状の表示に切り替えます。リストは画面上で複数の列に分けられます。選択後は、このオプションは「リスト表示」に切り替わります。「リスト表示」を選択するとデフォルトの表示に戻ります。
- 新規フォルダー – 現在表示中のフォルダー内に新しくフォルダーを作成します。注意:すべての場所でフォルダーを作成できるわけではありません。Root などのフォルダーは読み取り専用です。フォルダーを作成するには、/storage/emulated/0 のように書き込み可能なフォルダーまで移動しなければなりません。
- 選択を解除 – リスト中で選択している全アイテムを解除します。
- すべてを選択 – リスト上の全アイテムを選択状態にします。

- SD カードをセット – MobileSheets へのアクセス許可のために、SD カードのルートディレクトリーを選択できるようにします。

１つ以上のファイルやフォルダーを選択するには、リスト上のそのアイテムをタップするだけです。そのアイテムの名前の横に、選択状態を示すチェックボックスが表示されます。選択が完了したら、画面の下にある OK ボタンをタップします。

インポートアクションのアイテム

インポートのドロップダウンメニューは、各ソングごとに詳細な情報を前もって入力せず、単一のディレクトリーからファイルをインポートする際にたいへん手早い方法です。ライブラリー画面にあるインポートメニューでは８つのアクションをサポートします。

- ローカルファイル
- Dropbox
- Google ドライブ
- OneDrive
- システムファイル・ブラウザー
- バッチインポート
- オーディオのバッチインポート
- CSV または PDF ブックマーク

各アクションについてそれぞれ説明します。

ローカルファイル

ローカルファイルを選択するとファイルブラウザーが起動し、１つ以上のファイルを選択できます。選択を完了すると、次のような画面が表示されます。

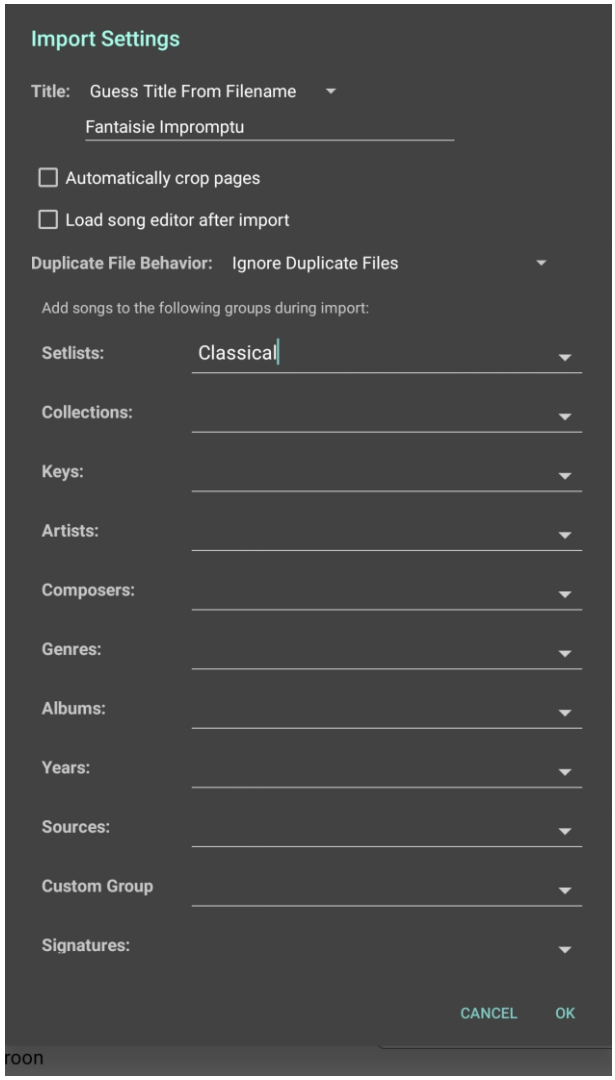


Figure 15 - インポート設定

最初のドロップダウンで、インポート中に作成されるソングへどのように名前を付けるか決定します。以下の２つから選択します。

- **ファイル名からタイトルを決定** – ファイル名から、より判りやすい名前を決定します。アンダーバーは空白に置き換えられ、「MyNewSong」のように結合した文字は「My New Song」のように分けられます。
- **ファイル名をタイトルにする** – 拡張子を除いたファイル名がソングのタイトルになります(例えば、「my_song.pdf」は「my_song」というタイトルのソングになります)。

単一のファイルをインポートする際は、ソングのタイトルになる文字列が表示されます。必要であればこのタイトルを編集することができます。Chord Pro ファイルをインポートする際に、Chord Pro ファイル内にタイトルが含まれており Chord pro のメタデータ情報からソング情報を取り出すよう MobileSheets が設定されていれば、このエリアは表示されません。

「自動でページを切り出し」チェックボックスは、インポートしたファイルから余白を切り取る(クロップ)かどうかを決定します。MobileSheets 上での切り取りはファイルを変更するわけではありません。単に画面上に余白なしで表示するだけです。切り取り機能としてはクロップの項目で説明します。ファイルをひとつだけインポートする(あるいは複数の画像をひとつのソングにまとめる)際には「インポート後にソングエディターを起動」オプションが表示されます。有効にすると、ソング作成後に MobileSheets はソングエディターを起動し、さらに情報やファイルを追加できます。

「重複するファイルの処理」はインポートしようとしたファイルと全く同じ名前のファイルがすでに存在する場合の処理を指定します。以下の 2 つから指定可能です。

- **既存のファイルから新しくソングを作成する** – インポートしたファイルから新しいソングが作成されますが、既存の重複するファイルを上書きするのではなく、再利用します。
- **重複するファイルを無視する** – 重複するファイルはインポート処理において無視されます。

設定画面の下の部分で、作成するソングをライブラリーの任意のグループへアサイン(関連付け)します。どのフィールドであっても、新しくグループを作りたい場合はそのカテゴリー上で新しいグループの名前をタイプ入力し、「了解」かエンターキーをタップするだけです。

「OK」をタップすると、インポートが開始され、完了まで進捗状況が表示されます。ファイルの競合が検出されると、競合の状況に応じて異なるダイアログが表示されます。ストレージの場所にすでに既存のソングに関連付けられた他のファイルがある場合は、下の図のような画面が表示されます。

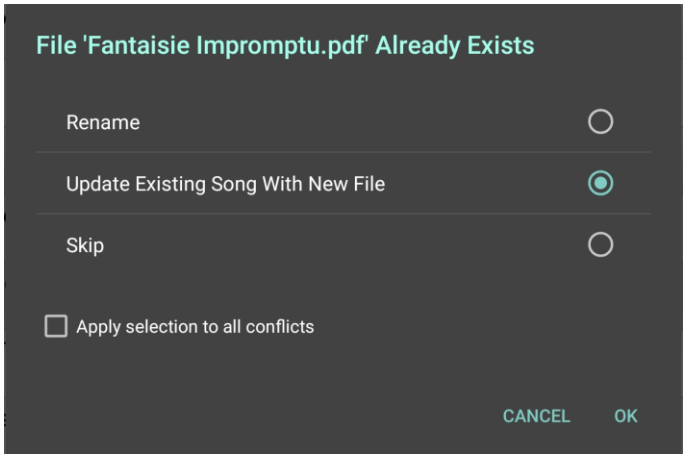


Figure 16 - 一致するソングが見つかったファイル競合

「名前を変更する」を選択すると、競合しないよう名前を変更できます。その他の競合では、ファイル名を変更するか、既存のファイルを上書きするか、インポートをキャンセルするか求められます。「既存のソングを新しいファイルで更新」を選択すると、既存のソングが参照していたファイルが置き換えられ、必要であれば関連するメタデータも更新されます。「スキップ」は次のファイルのインポートへ取りかかります。

インポートしようとしたファイルがストレージの場所にある既存のファイルと同一で、しかし関連するソングがない場合(ひとりぼっちファイル)は、選択可能なオプションとして「元のファイルを用いる」「名前を変更する」「上書きする」「スキップ」が表示されます。「元のファイルを用いる」では新しいファイルはインポートされず、作成されるソングは既存のファイルを使用します。「上書きする」では既存のファイルが新しいものに置き換えられます。他の 2 つのオプションは、前の段落で説明したとおりです。

DROPBOX/GOOGLE ドライブ/ONEDRIVE

Dropbox、Google ドライブ、OneDrive からのインポートは、おおむねローカルファイルからのものと一緒です。MobileSheets が初めて Dropbox、Google ドライブ、OneDrive へアクセスする際に、使用するアカウント情報を選択しなければなりません。インポートしたいファイルを選んだら、MobileSheets はそのファイルを一時領域にいったんダウンロードします。インポート設定ダイアログを閉じると、ファイルは通常どおり MobileSheets のストレージの場所へコピーされます。

システムファイル・ブラウザー

システムファイル・ブラウザーを選択すると、タブレットがファイル選択のための既定のアプリを起動します。Lollipop(Android 5.0)以降のタブレットは、Google が提供するファイル選択アプリが起動します。

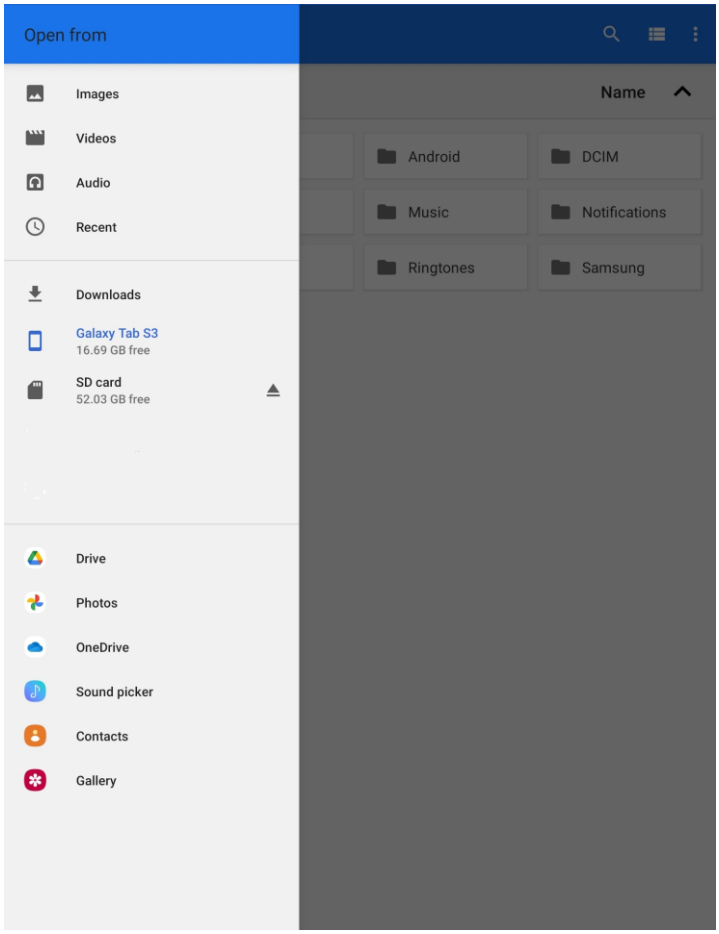


Figure 17 – Google のファイル選択アプリ

この画面では、さまざまな場所やアプリからファイルをインポートすることができます。以前のバージョンの Android OS では、アプリを一覧から選択する画面が表示されます。ファイルの選択を完了すると、MobileSheets へ処理が戻り、インポート設定ダイアログが表示されます。ここから先は、ローカルファイルをインポートするときの手順と一緒です。

バッチ(一括)インポート

バッチインポート時には、以下のような画面が表示されます。

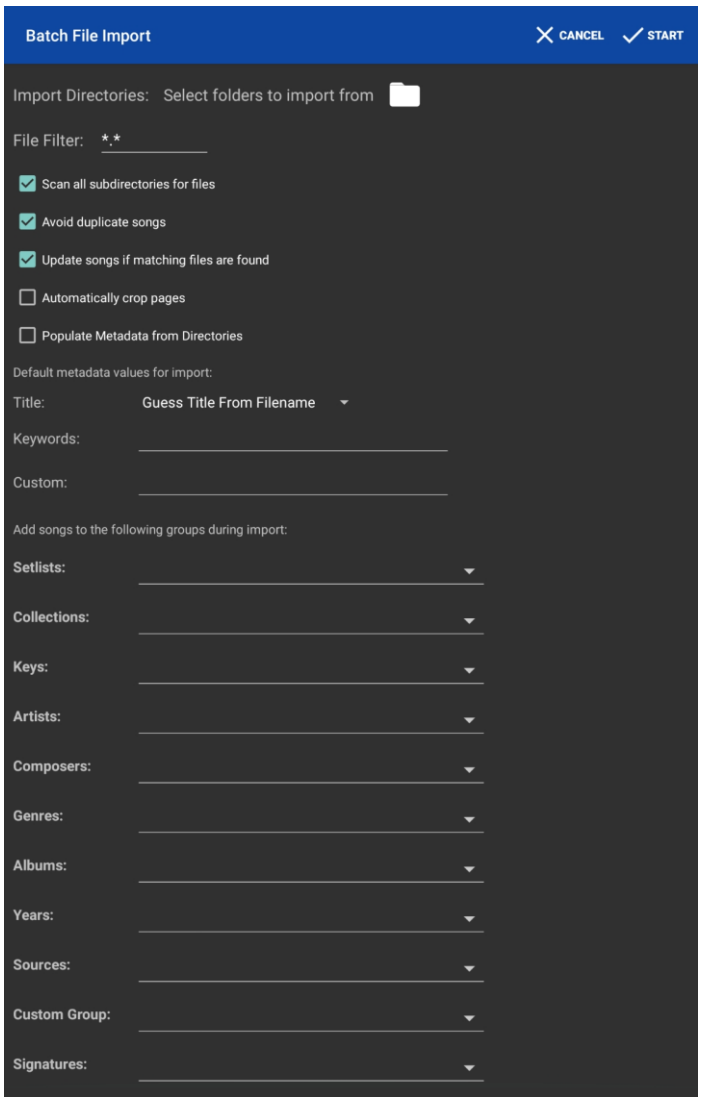


Figure 18 - バッチインポート画面

この画面上にはいくつかの設定があり、それぞれ説明します。

- **インポート元** – インポートしようとするファイルが置かれたディレクトリーです。フォルダーアイコンをタップして表示されるファイルブラウザーでフォルダーを選択します。
- **ファイルフィルター** – どのファイルをインポートするか、フィルター検索します。例えば、PDF ファイルだけをインポートしたい場合は「*.PDF」と入力します。
- **全サブディレクトリーをスキャン** – 有効にすると、インポートディレクトリー下にある全サブディレクトリー中のファイルもインポート対象となります。
- **ソングの重複を防止** – 有効にすると、ライブラリー中でファイルが重複するソングは作成されません。設定すれば新規ソングを別のディレクトリーで保管する「ソングごとにサブディレクトリーを作成」のような他のオプション指定で、MobileSheets はソングの重複を検出できます。
- **合致するファイルでソングを更新** – ファイルは重複していないけれども既存のファイルを上書きする可能性がある場合に、この設定で MobileSheets はファイルが置き変わった後でソング情報を更新すべきかどうか(ファイル間の違いを考慮して)決定します。ファイルが置き変わることをあらかじめ承知していれば、これを設定しておくことでインポート中のユーザー操作(ファイル競合の解消のための)を減らすことができます。
- **自動でページを切り出し** - インポートする全ファイルで余白を切り取るかどうか指定します。切り出し(クロップ)については、クロップで説明します。
- **ディレクトリー情報からメタデータを抽出** – ファイルが置かれているディレクトリーの名前をソングのメタデータ情報として利用するかどうか指定します。次のセクションで説明するメタデータ情報の書式にしたがってソング情報が抽出されます。
- **タイトル**: インポート設定の記述を参照してください。
- **キーワード**: 新しい全ソングのキーワード属性へ、ここで指定したキーワードを設定します。
- **カスタム**: ここで指定した情報が全ソングのカスタムフィールドへ設定されます。
- **インポートしたソングを以下のグループへ追加**: 新しい全ソングを、ドロップダウンで指定したグループへ追加します。新しくグループを作りたい場合は、カテゴリーのフィールドへタイプ入力してエンターキーを押します。

一番右上にあるスタート(チェック)をタップすると、インポートの進捗状況を表示するダイアログがあらわれます。インポートするファイルのサイズや数によっては時間がかかることもあります。「自動でページを切り出し」を有効にしていると、ファイルを開いた後で楽譜領域を識別する処理が入るため時間がかかります。インポートが完了すると、インポート結果のまとめダイアログが表示されます。

ディレクトリー情報からのメタデータの抽出

バッチインポートでは、ファイルが置かれているディレクトリーの名前を用いてメタデータを抽出することができます。メタデータ書式の各パートは、それぞれ対応する深さのサブディレクトリーに対応しています。例えば、書式が「%ARTIST%/%ALBUM%/%GENRE%」であれば、最初のサブディレクトリーの名前がそのサブディレクトリー中にある全ファイルのアーティスト名として使われます。このフォルダー中にある各フォルダーの名前はアルバム名として、さらにそのフォルダー内にある全フォルダーの名前がジャンル名として使われます。それより下のサブディレクトリーの情報はメタデータ情報としては扱われません。メタデータ書式で指定した階層と同じ深さのサブディレクトリーが必要なわけではない点に注意してください。例えば先ほどの例で、もしサブディレクトリーが一段階しかなければアーティスト名だけが抽出されます。

メタデータ書式の項目をタップすると、以下のような書式エディターが起動します。

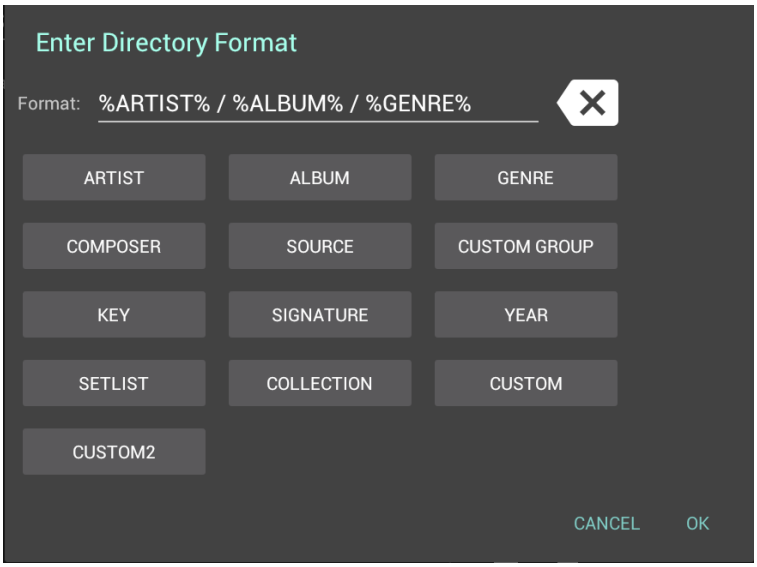


Figure 19 - メタデータ書式ダイアログ

現在指定されている書式は右上にある消去ボタンをタップすると消去できます。各フィールド名をタップして追加します。書式指定がすんだら、「OK」で完了です。

オーディオのバッチインポート

オーディオのバッチインポート画面は通常のバッチインポート画面とほぼ同じで、設定も同様に働きます。唯一の違いはバッチインポートでは.mp3 や.wav といったオーディオファイルしか対象にしない点です。見つかったオーディオファイルごとにページを持たないブランクのソングが作成され、そこへオーディオファイルが追加されます。つまり、ライブラリーの管理機能を活用して、単なるオーディオプレイヤーとして MobileSheets を使うこともできます。

CSV や PDF ブックマークのインポート

CSV と PDF ブックマークを参照する機能は、たくさんのソングを含む PDF ファイルを曲ごとに分割する強力なツールです。「CSV または PDF ブックマーク」をタップすると、.csv や.pdf ファイルを選択するためのファイルブラウザーが表示されます。.csv ファイルをインポートする場合は、MobileSheets が PDF ファイルを見つけられるよう、同じディレクトリー中に PDF がなければなりません。正しくファイル選択ができれば、次のようなダイアログ画面が表示されます。

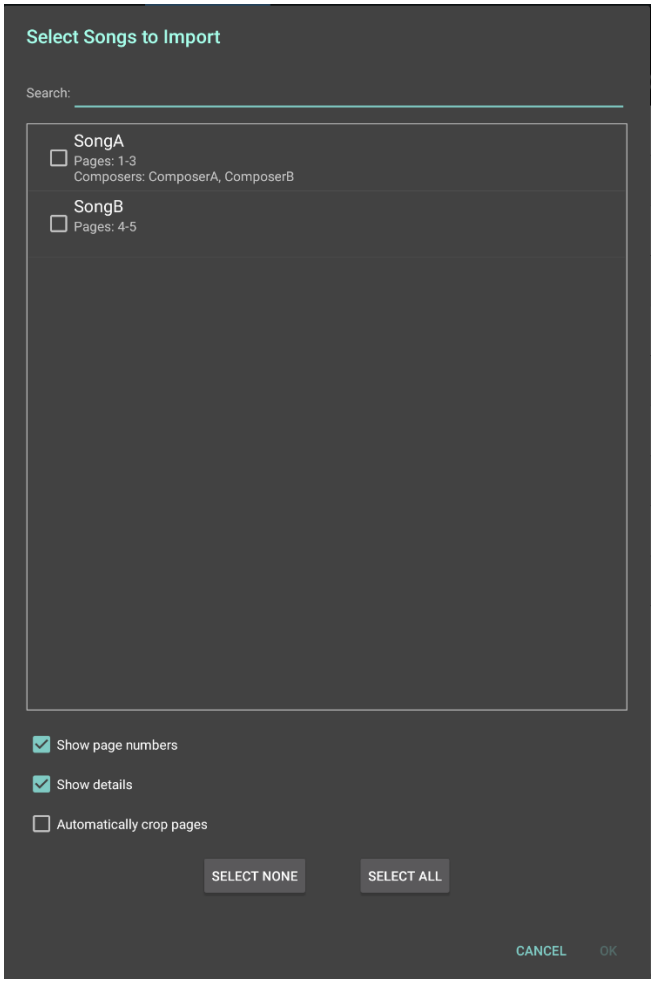


Figure 20 – CSV または PDF ブックマークのインポート

ここで、ファイルから得られた情報をもとに作成されるソングを選択することができます。左下にあるチェックボックスで表示する情報を選ぶことができ、インポート時にページを切り出すかどうかも指定できます。PDF ファイルを選択した場合には、ファイル中に含まれているブックマーク情報がセクション分けに使われ、各ブックマーク間のページが各セクションになります。PDF 中のソングごとにブックマークを作成しておけば、ファイルから必要なソングのページだけをすばやく簡単に選び出せます。さらにページを調整したい時は、後からソングエディターで対象ページを選びなおせます。

CSV ファイルでは PDF ファイルよりも多くのことができます。.csv ファイルとは、複数の値がカンマやセミコロンで区切られた、単なるテキストファイルでしかありません。ファイルの最初の行にはソングの属性フィールド名が順番に、二行目以降は各ソングごとの情報が含まれています。上の図の例は、以下のような CSV ファイルを読み込んだ際のものです。

```
title;pages;composers;difficulty
SongA;1-3;ComposerA|ComposerB;8
SongB;4-5;;
```

この例では、この先の各行ごとに、まずタイトルがきて、続いてソースとなる PDF 中でのページ範囲、作曲者名のリスト(複数項目の一覧)、最後に難易度がくることを、まず最初の行で宣言しています。複数の値を含むリストでは「|」の文字で各値を区切り、上の例では ComposerA と ComposerB とを区切っています。セミコロン以外に値が指定されていないフィールドはスキップされ、上の例ではソング B には作曲者も難易度も設定されません。最後に、少なくとも title(タイトル)と pages(ページ範囲)の二項目は必ず必要であることを知っておいてください。この 2 つのキーワードは必ず最初の行のどこかになければならず、また各ソングごとで値が必ず指定されていなければなりません。サポートされるフィールド名のキーワードは以下のとおりです。

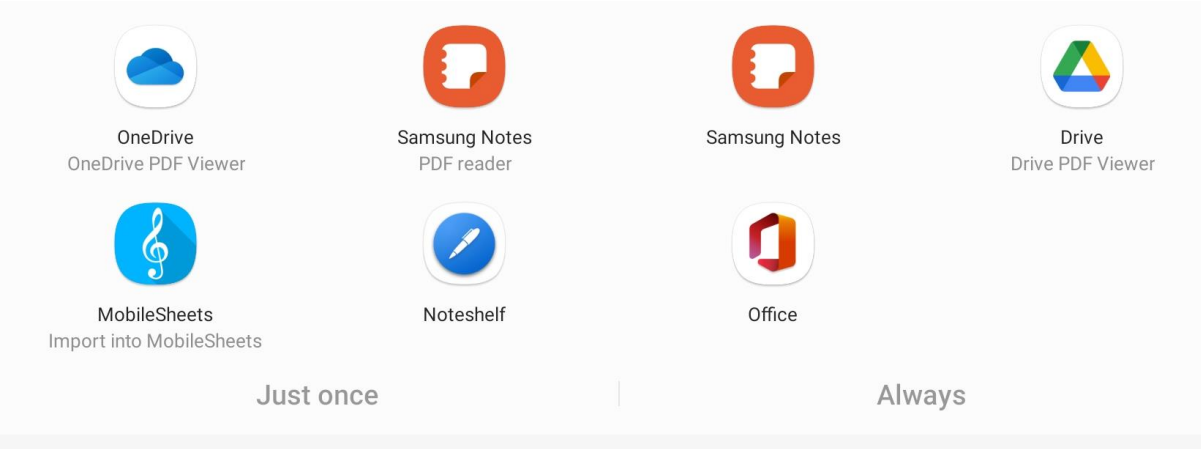
CSV フィールド名	**意味**
title	ソングのタイトル
artists	アーティストのリスト
albums	アルバムのリスト
genres	ジャンルのリスト
composers	作曲者のリスト
sourcetypes	ソース種別のリスト
customgroups	カスタムグループのリスト
keys	キーのリスト
signatures	シグネチャー情報のリスト
custom	カスタム属性の値
custom2	カスタム 2 属性の値
tempos	テンポのリスト(数値表記)
difficulty	難易度の値
duration	時:分:秒、または全秒数で示す演奏時間
rating	評価
years	年のリスト
sorttitle	ソート用のタイトル
audiofiles	オーディオファイルのリスト。各パスはタブレット上のオーディオファイルを正しく差していること

pages	ソース PDF 中でのページ範囲。複数の範囲からなる場合、「1-3,4-6」のようにカンマで区切る
keywords	キーワード属性の値
setlists	ソングを所属させるセットリストの一覧リスト
collections	ソングを所属させるコレクションのリスト

各フィールド指定のキーワードは、上の表に示した英語で書かなければなりません。

他のアプリからのファイルのインポート

電子メールクライアントやファイルエクスプローラー、イメージギャラリーなど、外部のアプリでファイルを参照した際に、ファイルをタップすることでそのファイルに対する操作を開始できます。MobileSheets へそのファイルをインポートする操作が、以下のようにオプションの一覧に表示されます。



「MobileSheets へインポート」をタップすると、ソングエディターが起動し、ファイルが追加されます。

ソングエディターを使ったファイルのインポート

ライブラリー画面上で ⊕ アイコンをタップすると、ファイルタブが選択された状態でソングエディターが起動します。このタブでは、ファイルやブランクページを追加したり、デバイスのカメラで画像を撮ったり、

新規の chodpro ファイルを作成できます。右上にある「OK」ボタンをタップするまではこれらのファイルはストレージの場所へはコピーされず、新規にソングも作成されません。この方法でソングを作成する詳しい手順はソングエディターの項目を参照してください。このやり方はもっとも手間がかかりますが、新しいソングへ多くのいろいろな設定をあらかじめすることができます。

プレースホルダーのソング

プレースホルダーソングとは、作成されたときのメタデータを持ってはいるものの、空白の 1 ページだけを楽譜として持つソングです。実際にはこのソングには何もファイルは関連付けられていません。プレースホルダーの用途は、ファイルの入手が後日になってしまうソングを作成できることで、ファイルが入手可能になった時点で空白のページと差し替えます。実際にファイルを入手する前に、ソングを作成してメタデータを設定しアノテーションしておくことができます。プレースホルダーソング作成はライブラリー画面のアクションバーにあります。ファイルの入れ替えは次のセクションで説明します。

ファイルの入れ替え

ソングに含まれているファイルを新しいものに更新したり、空白ページを実際のファイルと差し替えたいときに、ライブラリー画面の「ファイルの入れ替え」機能があります。ファイルを入れ替えるには、まず入れ替えたいファイルを含むソングを長押しして選択し、ライブラリー画面のアクションバーにあるオーバーフローメニューから「ファイルの入れ替え」を選びます。ソングに複数のファイルが含まれている場合、どのファイルを入れ替えるのか確認を求められます。ファイルブラウザーが表示されますので、入れたいファイルを指定します。ファイルを選択すると、以下のようなファイル入れ替えのオプション指定画面が表示されます。

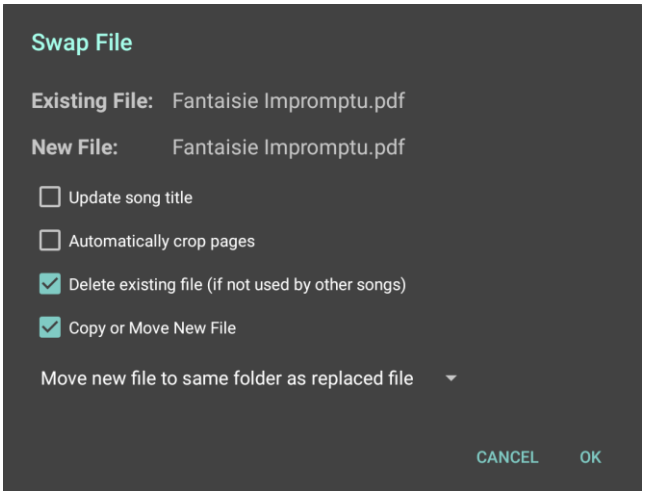


Figure 21 - ファイル入れ替えダイアログ

ダイアログの上のほうに、置き換えられるファイルの名前と、その場所へ新たに入れられるファイルの名前が表示されます。「ソングタイトルの更新」は、新しいファイルの名前に準じてソングのタイトルを変更するか指定します。「自動でページを切り出し」は新しいファイルの余白を切り取るかどうか指定します。新しいファイルへ入れ替えた後で古いファイルを削除するかどうか、「既存ファイルを削除」で指定します。ファイルが他のソングから参照されている間は実際には削除されない点に注意してください。「新規ファイルをコピーするか移動する」は、新しいファイルをストレージ上でどう扱うかを決定します。有効にすると、以下のドロップダウンメニューが有効になり、どうしたいかを選択できます。無効にすると、新しいファイルはその場所でそのまま使われ、つまり MobileSheets のストレージの場所へはコピーされず、フォルダーやファイルをご自身で管理する必要があり通常は推奨されません。ドロップダウンメニューでは以下の各項目から選ぶことができます。

- **新規ファイルを置き換えられるファイルと同じフォルダーへコピー** – 前のファイルがあった場所と同じフォルダーへ新しいファイルがコピーされます。新しいファイルは元々あった場所にも維持されます。前のファイルがストレージの場所に置かれていたなら、「新規ファイルを MobileSheets のストレージへコピー」と同じ動きになります。
- **新規ファイルを置き換えられるファイルと同じフォルダーへ移動** – 前のファイルがあった場所と同じフォルダーへ新しいファイルを移動します。前のファイルがストレージの場所に置かれていたなら、「新規ファイルを MobileSheets のストレージへ移動」と同じ動きになります。

- **新規ファイルを MobileSheets ストレージへコピー** – 新しいファイルは MobileSheets のストレージの場所へコピーされ、オリジナルは元々あった場所にも維持されます。
- **新規ファイルを MobileSheets ストレージへ移動** – 新しいファイルを MobileSheets のストレージの場所へ移動します。

「OK」をタップして指定を完了すると、入れ替えが行われ、しばらくしてライブラリー画面へ戻ります。

ソングのシェアとエクスポート

MobileSheets ではソングとセットリストのシェアやエクスポートにさまざまな方法を用意しています。シェアとエクスポートの違いは、シェアは別のアプリ(メールクライアントなど)を使ってファイルを送り出すのに対して、エクスポートはファイルをデバイスのストレージ上へ作成します。対象のソングとセットリストはそれぞれ個別に選択できます。同じソングがライブラリー中にある他のユーザーと、セットリストをシェアする最も手っ取り早い方法は、.mss ファイルを作成することです。手順は簡単です。

1. ライブラリー画面上でセットリストを長押しして、選択モードにします。
2. アクションバーの「シェア」をタップし、「ソングリストのシェア」でシェア方法(Bluetooth、メール、Google ドライブなど)を選びます。
3. MobileSheets はシェアするファイルに名前を付けるよう求めてきますので、名前を決めます。名前の最後に.mss をつけるかどうかは自由で、ついてなければ自動で付加されます。
4. MobileSheets は.mss ファイルを作成し、シェア方法で選んだアプリが起動します。ファイルを送るのにどうすればよいかは、それぞれのアプリの説明書に従ってください。

受取先のデバイスでこのファイルをインポートすると、新規にセットリストが作成されるか既存のものが更新され(同じ名前のセットリストが見つかった場合)、.mss ファイル中に含まれているソングの一覧でそのセットリストが構成されます。指定されたソングがライブラリー中に見つからないと、スキップされます。

MobileSheets の重要な機能の一つに、ソングやセットリストを.msf ファイルを用いてアーカイブすることもシェアすることもできる点です。手順は簡単です。

1. ソングのリストかセットリストのリスト(両方をまとめることはできません)をシェアするには、ライブラリー画面上でアイテムを長押しして選択モードにし、シェアしたい全アイテムを選択します。
2. アクションバーの「シェア」をタップし、「.msf 形式でシェア」(ソングをシェアする場合)か「ソングとファイルをシェア」(セットリストをシェアする場合)を選び、シェア方法(Bluetooth、メール、Google ドライブなど)を選びます。
3. MobileSheets はシェアするファイルに名前を付けるよう求めてきますので、名前を決めます。名前の最後に.msf をつけるかどうかは自由で、ついてなければ自動で付加されます。
4. MobileSheets は.msf ファイルを作成し、シェア方法で選んだアプリが起動します。ファイルを送るのにどうすればよいかは、それぞれのアプリの説明書に従ってください。

ソングやセットリストが参照するファイルだけをシェアしたい時は、上の手順でソングを選択した後で、「ファイルをシェア」を選びます。シェアに使うアプリを選択した後で、以下の選択肢からなるダイアログが表示されます。

- ソングのタイトルをファイル名に使用 – ソングを単一ファイルとしてエクスポートする際に、エクスポートされるファイルの名前をソングのタイトルと同じにすることができます。
- シェアするファイルにソングのページ順を使用 – 元のソングと同じページ順になるようファイルをシェアしたい時に選択します。大きな PDF ファイルの一部ページ範囲のみを参照するソングの場合、この欄にチェックしておかなければなりません。
- クロップしてシェア – ソングのクロップ(切り抜き)と一致するようクロップしたファイルにします。
- 回転してシェア - シェアするファイルにソングのページ回転を反映させます。
- アノテーションもシェア – ソングに設定されている全アノテーションをファイルへ含めます。
- iOS 対応のアノテーションをエクスポート – アノテーションのエクスポート時に、MobileSheets 以外の PDF アプリで編集可能な PDF アノテーションオブジェクトとして PDF へ追加します。しかし、このアノテーションは iOS の PDF リーダーではうまく働かないため、この設定を有効にすると PDF ページ中にアノテーションをイメージとして埋め込み、変更不能になります。
- ハイライトを背景側に描画 – PDF の規格上、コンテンツの背景に置くハイライトのアノテーションをサポートしていません。これを実現するために、MobileSheets でハイライトイメージを生成し、PDF 全体を再構成します。これにより非常に見やすいハイライトとすることができますが、ファイルサイズが極端に大きくなったり、ファイルの読み込みが遅くなるかもしれません。

- 単一の PDF ファイルへ統合 – 全ソングのファイルを、単一の PDF ファイルへまとめます。

単一のファイルでシェアもしくはエクスポートする際は、ファイル名がダイアログ画面上に表示されます。新しく作成されるファイルに違う名前を付けたければ、ここを変更することができます。アノテーションが含まれるテキストか chordpro ファイルを、「アノテーションもシェア」を有効にしてシェアすると、テキストや chordpro ファイルはその中にアノテーションを含めることができないため、シェアの処理中に新しく PDF ファイルが作成されます。ソングやセットリストをエクスポートする手順はほぼ一緒です。

1. 上の#1 で書かれている手順で、ソングかセットリストを選択します。
2. シェア > .msf 形式でシェア(ソングをシェアする場合)か、シェア > ソングとファイルをシェア(セットリストをシェアする場合)、またはシェア > ファイルをエクスポート、を順にタップします。
3. ファイルブラウザーが表示されますので、エクスポートするファイルが置かれるディレクトリーを選択します。.msf ファイルのエクスポート時にはテキスト入力フィールドが画面下に表示され、ファイル名を指定できます。ディレクトリーを選択したら OK をタップします。
4. エクスポート設定を行うダイアログが表示されます。オーディオファイルをエクスポートするためのオプションを除き、ファイルのシェア時と同じ設定です。

.msf や.mss ファイルをインポートするには、アクションバーの「インポート > ローカルファイル」を開き、ファイルブラウザー上でファイルを選択します。

ソングの削除

ライブラリーからソングを削除するには、ライブラリー画面上でソングを長押しして選択し、一番上のアクションバーから「ソングの削除」を選びます。次のような画面が表示されます。

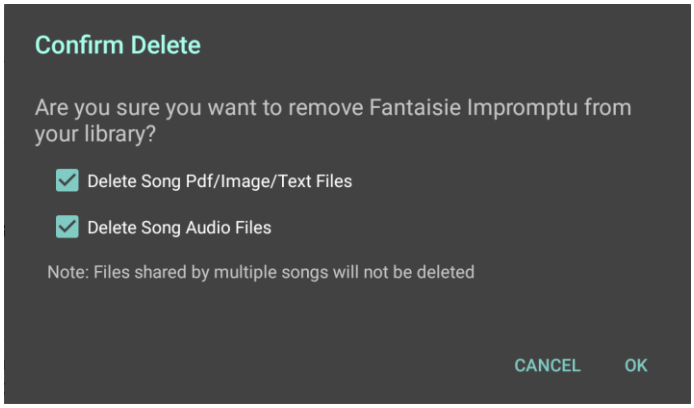


Figure 22 – 「本当に削除しますか？」画面

ファイルを削除するかどうか指定する２つのチェックボックスがあります。複数のソングが同じファイルを共有している場合、チェックボックスを選択状態にしていてもファイルは削除されない点に注意してください。このため、MobileSheets にファイル管理を任せているのであれば、この項目はチェックしたままにしておくのが賢明です。

バックアップとリストア(復旧)

MobileSheets の重要な機能の一つが、全ファイルとアノテーションを含むライブラリー全体をひとつのバックアップファイルへ安全にまとめるものです。このバックアップファイルは、いつでもシンプルな手順でリストアすることができます。新しいタブレットへ乗り換えたり、MobileSheets を無料版から有償版へ切り替える際に、ライブラリーを簡単に移行できます。詳細について、以下説明します。

ライブラリーのバックアップ

ライブラリーをバックアップするには、まず設定画面を開きます。ライブラリー画面上のアクションバーにあるオーバーフローメニューをタップし、ドロップダウンリスト上の「設定」をタップします。設定画面の左側にある「バックアップとリストア」をタップします。最後に、画面右側に表示される機能一覧から「ライブラリーのバックアップ」をタップします。次のようなダイアログ画面が表示されます。

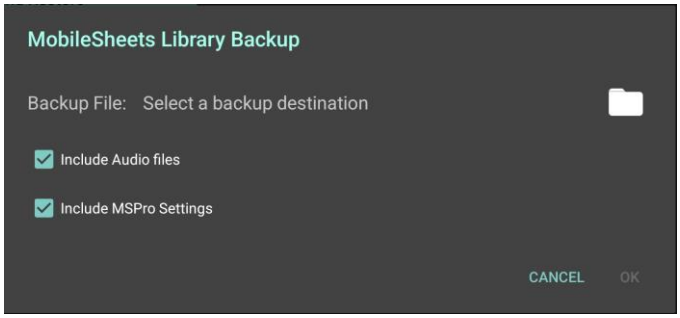


Figure 23 – ライブラリーのバックアップ設定

このダイアログには 3 つだけ設定があります。バックアップファイルを作成するディレクトリー、オーディオファイルもバックアップするかどうか、MobileSheets 設定をバックアップに含めるかどうか、です。フォルダーアイコンをタップするとファイルブラウザーが開き、ディレクトリーを選択できます。書き込み可能なディレクトリーを選ぶことが重要で、つまりディレクトリーがロックされていてはいけません。例えば、「/」だけで示されるルートディレクトリーは、読み込み専用のための選択することができません。どこへファイルを置くべきか迷ったら、ストレージのアイコンをタップして、一覧から「デバイス」を選ぶことです。こうすると内部ストレージのルートへ移動するので、画面右上にあるオーバーフローメニューから「新規フォルダー」をタップできます。バックアップを保持するディレクトリーの名前をつけて「OK」をタップし、作成したフォルダーをタップします。続いて画面下のフィールドでバックアップファイル名を設定し、チェックマークをタップすれば処理が実行されます。バックアップファイルには.msb という拡張子が付けられます。

バックアップファイル中へいくつのソングが書き出されたかを示す進捗画面が表示されます。戻るボタンを押せばバックアップ処理をキャンセルできます。バックアップが完了すると、処理が成功したことを示すダイアログ画面が表示されます。

ライブラリーのリストア

ライブラリーをリストアするには、上のセクションで説明したバックアップ手順で作成したバックアップファイルが無くてはいけません。まず上で説明したように設定から進みますが、「ライブラリーのバックアップ」ではなく「ライブラリーのリストア」を選びます。次のような画面が表示されます。

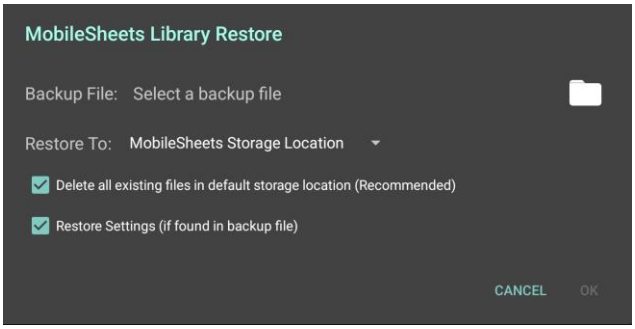


Figure 24 – ライブラリーのリストア

最初のセクションはリストアしたいバックアップファイルです。バックアップファイルを選ぶには、フォルダーのアイコンをタップます。.msb ファイルを選択るためのファイルブラウザーが開きます。ファイルをタップすると、ライブラリーのリストア画面に戻ります。指定したバックアップファイルの名前が「バックアップファイル：」の隣に表示されています。次に、バックアップファイルに含まれているファイルをどこへ展開するかを指定します。「リストア先」を以下から選ぶことができます。

- **元のファイルの場所** – 全ファイルが、元々あった場所へ展開されます。バックアップを作成した時と同じタブレット上でリストアするなら、このオプションが好ましいかもしれません。別のタブレットへリストアするならば、SD カードのフォルダー構造が異なることがあるため、この設定は推奨されません。
- **MobileSheets のストレージ** – すべてのファイルが、MobileSheets のストレージの場所へ展開されます。デフォルトであり、ほとんどの場合に推奨される選択肢です。

次のチェックボックスで、リストアする前にストレージの場所にある全ファイルをクリアするかどうか指定します。使われていないファイルがデバイス上に残らないよう、通常はこの設定を有効にすることが推奨されます。最後のチェックボックスは、MobileSheets の設定情報もリストアするかどうかの指定で、別の設定をしている可能性のある他のユーザーからもらったバックアップファイルでリストアする際には注意しなければなりません。

ソングエディター

ソングエディターとは、その名前のとおり、ソングのデータや設定を管理するための MobileSheets の画面です。ソングの作成・編集の中心となり、ソングに関連付けられるメタデータやファイル、オーデ

ィオや MIDI などを選択します。ソングエディターは、四つのセクションである、フィールド、ファイル、オーディオ、MIDI で構成されます。

フィールドタブ

フィールドタブはメインの画面であり、ソングのメタデータを管理します。ソングを長押しして選択し、アクションバーの「ソングの編集」をタップするとフィールドタブが表示されます。こんな画面です。

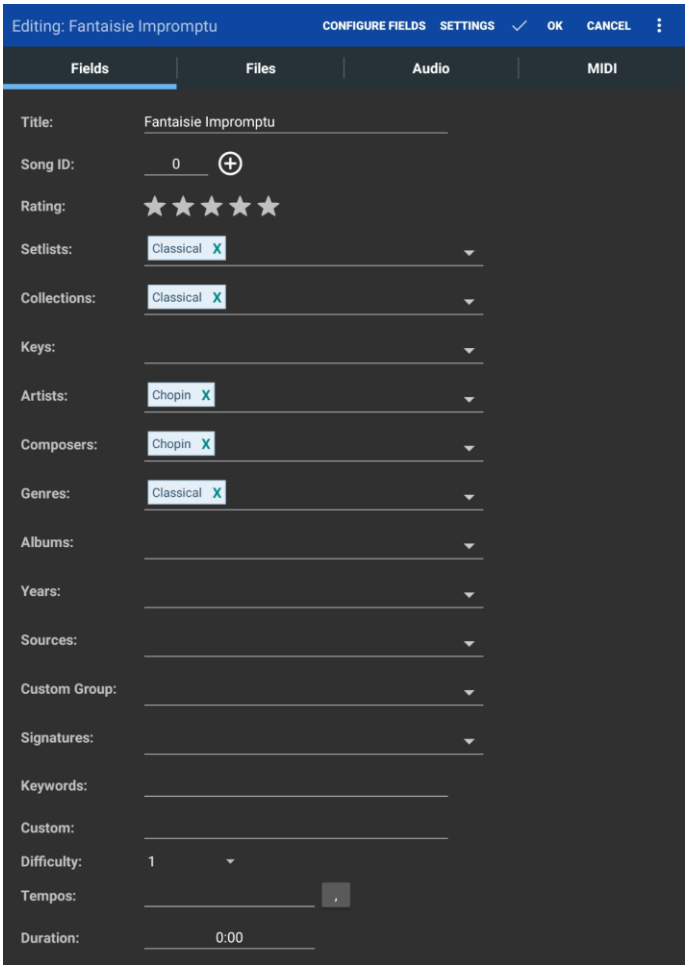


Figure 25 – ソングエディターのフィールドタブ

２０個ほどのフィールドがありますが、必須の項目はタイトルだけです。ほとんどのエントリーへのデータの入力はおおむね直感的です。ソング ID はタイプして入力することも、⊕アイコンをタップして次にユニーク(一意、他に使用されていない)なもっとも小さいソング ID を選ぶこともできます。評価を変更するには、設定したい評価の星をタップします。各グループのフィールドは、必要なだけいくつでも値をタイプ入力することができます。値をひとつ、仮想キーボードで入力してエンターキーを押します。各値は青い四角で囲んで置かれます。これを繰り返して、値を追加していきます。また、ドロップダウンをタップしてダイアログを表示させ、設定したい値を選択することもできます。この選択画面には、たくさんの値があって表示しきれない時のフィルター機能もあります。上にある欄へ検索語をタイプするか、右側にならぶ頭文字をタップできます。「X」をタップしてもそのグループが削除されるわけではなく、単にそのソングとの関連付けが解消されるだけである点に注意してください。

不要なフィールドがあり表示したくない場合は、画面右上の「フィールドの設定」を開きます。タイトル以外の各フィールドの一覧が表示されますので、表示したくないフィールドのチェックを外して「OK」をタップします。

ファイルタブ

ファイルタブには４つの主な役割があります。

1. ファイルを追加するさまざまな手法(タブレットのストレージ、Google のファイルピッカー、カメラ、Dropbox、OneDrive、空白のページ)
2. ページ順序の管理
3. ページの回転
4. クロップ(切り取り)

このタブは次のような画面で構成されています。

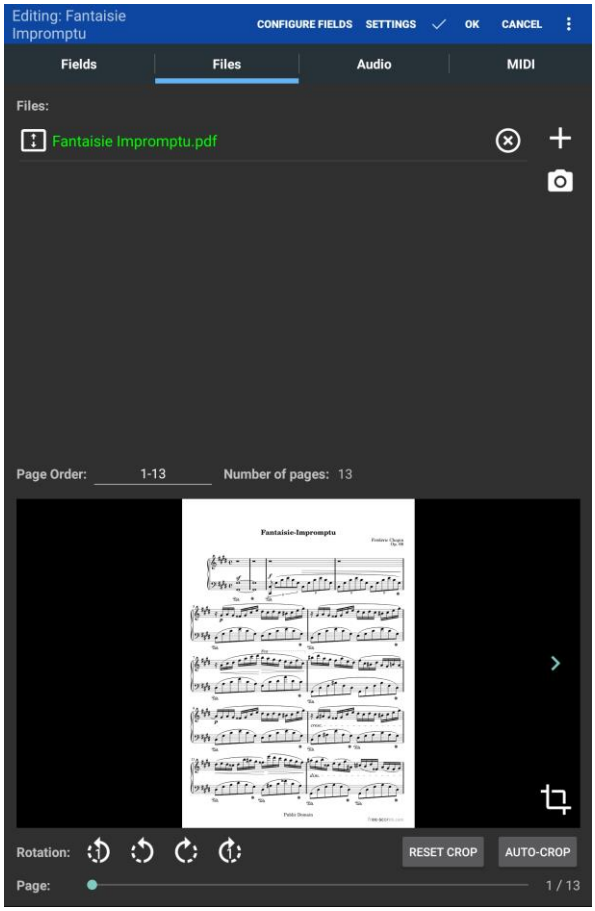


Figure 26 - ソングエディターのファイルタブ

既存のソングを編集している時は、そのソングのファイルが画面上に並びます。これらのファイルの並び順は、上下の矢印が書かれた四角を上下にドラッグすることで変更できます。各ファイルの完全なパスは、ファイル名を長押しすると表示されます。ファイルをリストから削除するには、ファイルの右横にある「x」をタップします(これを行ってもファイルそのものが削除されるわけではありません)。新規にソングを作成した直後は、このリストは空っぽで、ファイルを追加するよう求められます。ファイルを追加するには８つの方法があり、それぞれ以下に説明します。

<table>
<tr><td>+</td><td>ファイルを追加するための選択肢からなるドロップダウンが表示されます
<table>
<tr><td></td><td>ローカルのファイルブラウザーが表示され、ファイルを選択できます。複数の PDF や画像か、テキストファイルを 1 つだけ選択できますが、テキストや chord pro と PDF や画像を混在させることはできません。</td></tr>
<tr><td></td><td>ファイルブラウザーが開き、Dropbox 上にあるファイルを選択できます。</td></tr>
<tr><td></td><td>ファイルブラウザーが開き、Google ドライブ上のファイルを選択できます。</td></tr>
<tr><td></td><td>ファイルブラウザーが開き、OneDrive 上のファイルを選択できます。</td></tr>
<tr><td></td><td>システムに設定されたファイルブラウザーが開き、Google ファイルピッカーなどの外部アプリで 1 つ以上のファイルを選択できます。外部・クラウドからのインポートと同じです。</td></tr>
<tr><td></td><td>任意の数の空白ページをソングへ追加します。実際のファイルは追加されず、画面と同じサイズの白い紙が表示されます。これらのページ上へアノテーションを追記することができます。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td></td><td>写真を撮るためのカメラが起動し、そのファイルをソングエディターへインポートします。</td></tr>
<tr><td></td><td>ソングに何もファイルが含まれず、テキストや chord pro ファイルが作成できるときにこのアイコンが表示されます。ファイル名を指定するダイアログが表示され、続いてテキストエディターが表示されます。</td></tr>
</table>

少なくともファイルを一つソングへ追加すると、いろいろな機能が利用できるようになります。もっともわかりやすいのは、画面下に表示されるプレビューです。プレビュー領域の横にある白い矢印をタップするか、画面下に表示されるページスライダーを使ってプレビューされるページを変更できます。画面右下にあるページ番号をタップして直接指定することもできます。ファイルのプレビュー以外にも、ページの順序変更、回転やファイルのクロップ(切り出し)ができます。テキストか chord pro ファイルが追加されている際には働きません。これらの機能は、サポートされるファイルの種類で説明するように、テキストや chord pro ファイルではサポートされません。

編集中のソングにテキストや chord pro ファイルが含まれていると、プレビューエリアの右下へクロップアイコンの代わりに別のアイコンが表示されます。 A アイコンでテキスト表示設定を開くことができ、そのソングのファイルを表示する際の設定を変更できます。

既存のファイルと同じ名前のファイルが出力先パスに存在すると、以下のような競合ダイアログが表示されます。

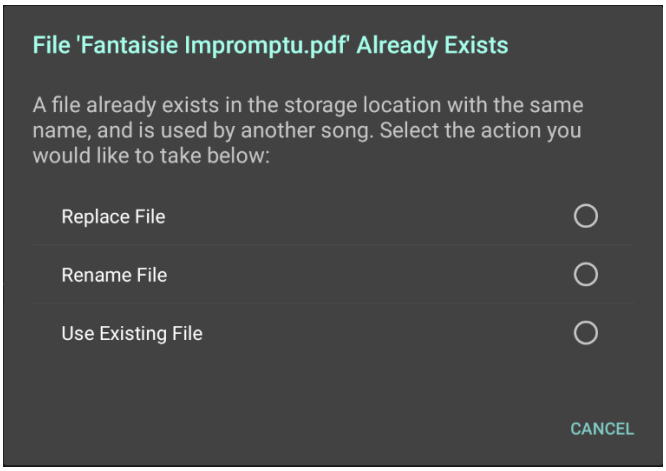


Figure 27 - 競合するファイル

既存のファイルを置き換えるか、コピー前に名前を変更するか、インポート中のファイルではなく既存のファイルを使用するか、選択できます。既存のソングに含まれるファイルを新しいファイルへ置き換えたい場合は、ファイルの入れ替え機能を使用してください。

ページ順序

複数ページからなる PDF では、ページの並び順を変更できます。あるページを何度も繰り返して表示するよう順番を指定して、各繰り返しごとに異なるクロップやアノテーションやリンクポイント等を設定できるため、実際のところ非常に強力な機能です。繰り返しのために前のページにジャンプする必要がなくなります。4 ページからなる楽譜があり、3 ページ目から最初のページへ戻りたいなら、ページ順序を「1-3, 1, 3, 4」のように指定します。ページ順序を変更するには、ページ順序のフィールドをタップして、表示されるダイアログ上で指定したいページ順序をタイプ入力します。

ページの回転

現在表示されているページだけを回転するには、画面左下に並んでいる、左に回転 か右へ回転 ボタンをタップします。ファイルに含まれる全ページを回転するなら、ファイル名の横にある回転ボタンをタップします。左回転ボタンは左へ９０度回転し、右回転ボタンは右へ９０度です。

ファイルのクロップ(切り出し)

ソングエディター上にはファイルをクロップするいくつかの方法があります。デフォルトでは、新規にインポートしたファイルは自動的にクロップされます。クロップのアルゴリズム(手法)と、どのページをクロップするか、追加で設定できます。クロップをやめたい場合は、右下の「クロップをリセット」でクロップ前のドキュメントに戻ります。自分で切り抜き範囲を指定したいときは、ページプレビュー領域の右側にある アイコンをタップします。次のセクションで説明する、クロップ画面が表示されます。

クロップ画面

クロップ画面は、現在表示中のページを中心に、切り抜き表示したい領域を示す８つの白い円が表示されます。こんな感じです。

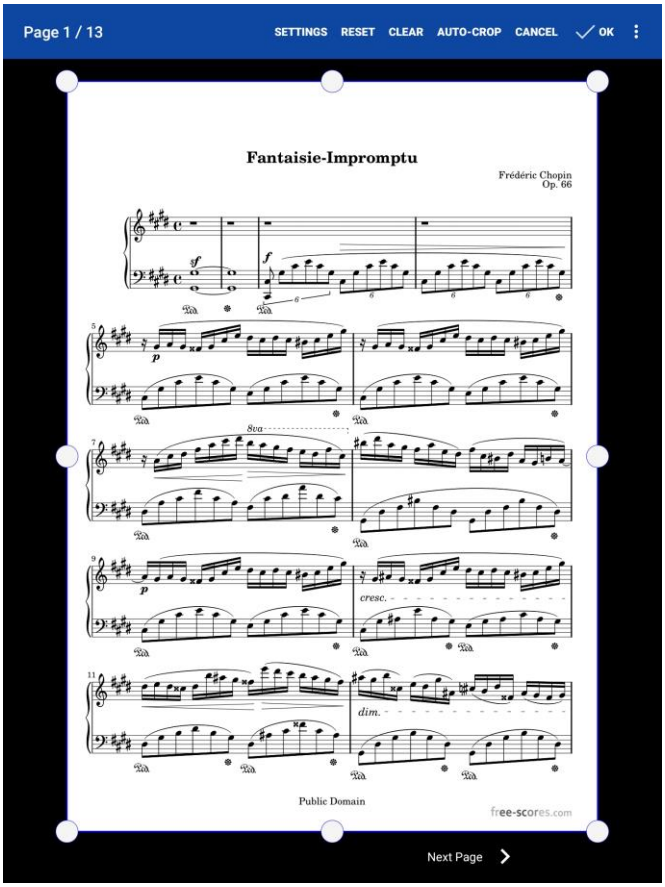


Figure 28 - クロップ画面

クロップ領域を変更するのはシンプルで、白い円をドラッグして所望の場所まで動かします。青い長方形の外側のエリアはクロップされ、メインのソング画面には表示されません。クロップをしても元々のファイルにはなんら変更が加わらない点に注意してください。単に MobileSheets に対してページのどの部分を見たいか指示するだけで、実際のファイルを意図せず誤って変更してしまわないか心配する必要はありません。表示するページを変更するには画面下の矢印をタップします。画面一番上のアクションバー上に、利用可能なアクションがいくつか表示されます。

- **設定:**
  - **クロップの適用** – 現状のクロップ領域が反映されるページ対象を変更します。デフォルトは現在のページへのみ適用します。現在表示しているファイルの各ページへ同じようにクロップを適用する「選択したファイルの全ページ」や、このソングの全ファイルの全ページへすべて同じクロップを適用する「全ファイルの全ページ」を選ぶこと

もできます。ソングが読み込み済みのセットリストの一部だった場合、セットリスト中の全ソングへ適用するオプションも追加されます。たくさんのソングに対して一度にクロップを設定する以外に、まとめてクロップを解除したいときにも使えます。

  - **アグレッシブなクロップ** – アグレッシブなクロップをするかどうか決定します。このアルゴリズムの詳細については追加設定のセクションで説明します。

- **リセット** – クロップ領域を、クロップ画面が最初に表示されたときへ戻します。
- **クリア** – クロップを完全に解除して、クロップ範囲をページ全体に一致させます。
- **自動クロップ** – 現在表示中のページを自動クロップし、「クロップの適用」設定に応じて他のページも自動クロップします。自動クロップ後は、クロップされた各ページ上で新しいクロップ領域を確認することができます。
- **全ページを自動クロップ** – このソング中に含まれる全ファイルの全ページへ自動クロップを行います。「クロップの適用」設定なしでも全ページをクロップできるショートカットです。
- **ページをジャンプ** – 表示したいページを選択するための機構です。矢印でページをめくるより遅いですが、ページ数が多いときに特定のページへアクセスするのに便利です。

指定されたクロップ領域のエリアに満足したら、OK をタップして適用します。なにも変更を加えずに戻りたい場合は、キャンセルをタップします。

追加の設定

ソングエディター画面の一番上にある「設定」アクションをタップすると、以下の画面が表示されます。

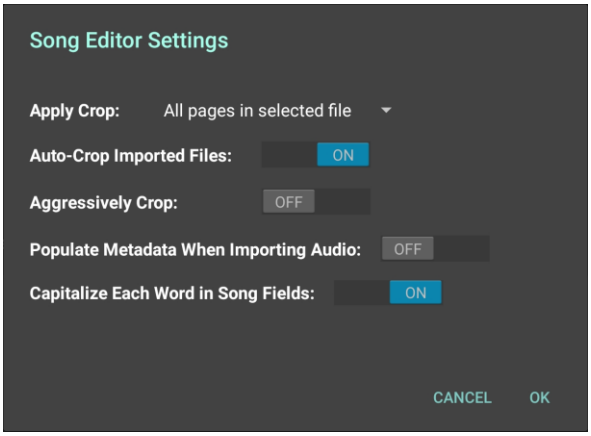


Figure 29 - ソングエディターの設定

「クロップの適用」には以下から選択できます。

- **現在のページのみ** – 現在表示中のページにのみクロップを行います。
- **選択したファイルの全ページ** – 現在表示しているファイル中の全ページへクロップを行います。
- **全ページの全ファイル** – A このソングが使用している全ファイルの全ページをクロップします。

「インポートしたファイルを自動でクロップ」を有効にすると、ソングへ追加されたファイルは即座にクロップされます。「アグレッシブなクロップ」では、自動クロップ時に「安全な」アルゴリズム(OFF)を使うか、「アグレッシブ」にするかを選びます。両者の違いは、「安全」な設定ではドキュメント上のどんなコンテンツも除外しないことを保証します。つまり、ドキュメントの外側から内側に向かって上下左右からクロップを進め、一つでも白くないピクセルが見つかったらすぐさまその方向の処理を停めます。アグレッシブでは、黒くなりがちなドキュメントのふち (スキャナーでの取り込みでよく見られるような)を取り除こうとします。楽譜の余白部分が白や白に近い色だけの場合は、「安全」アルゴリズムが適切です。

「オーディオのインポート時にメタデータを抽出」を有効にすると、新しくオーディオファイルを追加したときにソングのメタデータへ反映します。例えば、ソングのアーティスト、年、演奏時間が設定されていない状態でオーディオファイルをインポートすると、これらのフィールドへ自動的に反映されます。どんな場合でも、すでに設定されているフィールドは変更されない点に注意してください。対象のフィールドがブランク(空白)になっていないと、この設定は効果がありません。

「ソングフィールドで各単語の最初を大文字に」を有効にすると、フィールドタブ上でメタデータの値をタイプ入力する際に自動的に各単語の頭文字を大文字にします。

オーディオタブ

オーディオタブには、上半分にオーディオファイルの一覧リストがあり、下半分ではこれらのトラックを再生したりプロパティーを設定します。次のような画面になっています。

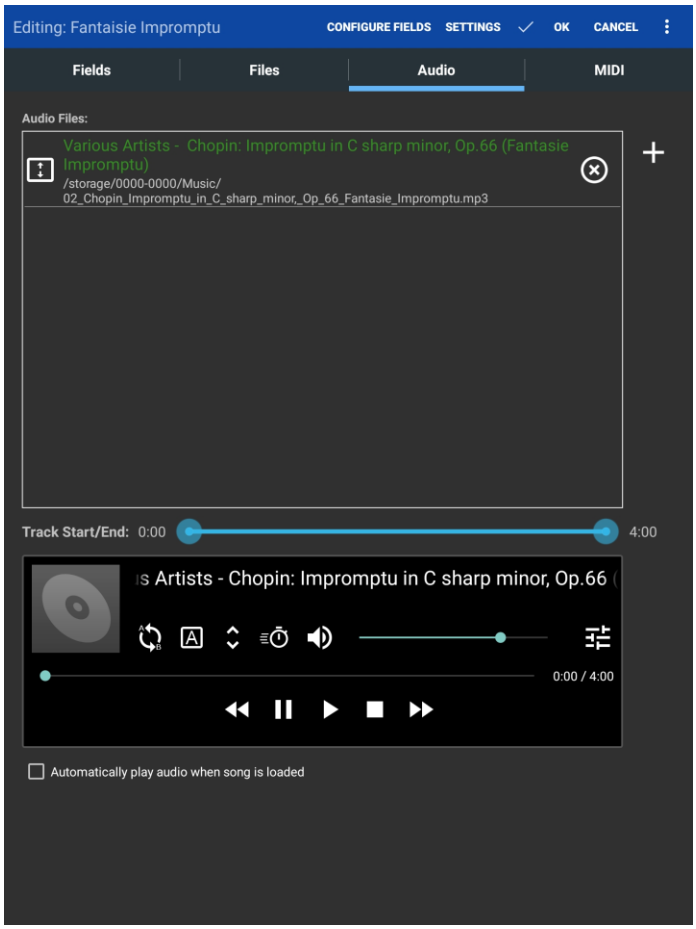


Figure 30 - The Song Editor Audio Tab

ファイルタブと同様、タブレット上の別アプリを使うか、タブレットのストレージ上にあるファイルをブラウザーで選択するか、２つのファイル追加方法があります。＋アイコンをタップしてタブレット上のオー

ディオファイルを選択し、ソングへ追加します。オーディオファイルがリストの一番上に追加され、オーディオプレイヤーにオーディオトラックのタイトルが表示されます。リスト上の矢印が書かれた四角いボックスを上下にドラッグしてオーディオトラックの順序を変更できます。リストの右側にある「X」をタップしてオーディオトラックを削除することもできます。

オーディオファイルがひとつでもあると、ダイアログの下半分にあるオーディオプレイヤーで再生することができます。プレイヤーには、前のトラック、一時停止、再生、停止、次のトラック、の 5 つのボタンがあります。便利な機能のひとつがソングの AB 間ループ再生です。まず、 アイコンをタップして AB 間ループを開始します。アイコンが、ループがアクティブなことを意味するオレンジ色になります。続いて、スライダーをドラッグしてトラック位置をループの開始箇所へ移動し、 A アイコンをタップしてループの開始位置として指定します。ループの開始位置を示すオレンジ色の縦棒が表示されます。ループの終了箇所へスライダーを動かし、 B アイコンをタップします。再生ボタンを押して、ループを確認できます。

現在表示中のトラックの再生区間を変更したい時は、「トラックの開始・終了」スライダーを再生の開始・終了位置へ動かします。オーディオトラックの特定区間のみ必要な時に便利です。

オーディオタブにあるオーディオプレイヤーは、ソングディスプレイのオーディオプレイヤーの一部機能しか包含していません。その他の機能については、ソングディスプレイのオーディオプレイヤーの解説を参照してください。

MIDI タブ

MobileSheets では、ソングがロード(読み込み)されたときに MIDI コマンドを送信したり、特定の MIDI コマンドを受信したときにソングをロードさせたりすることができます。MIDI タブでは MIDI コマンドの作成や編集ができます。以下のような画面です。

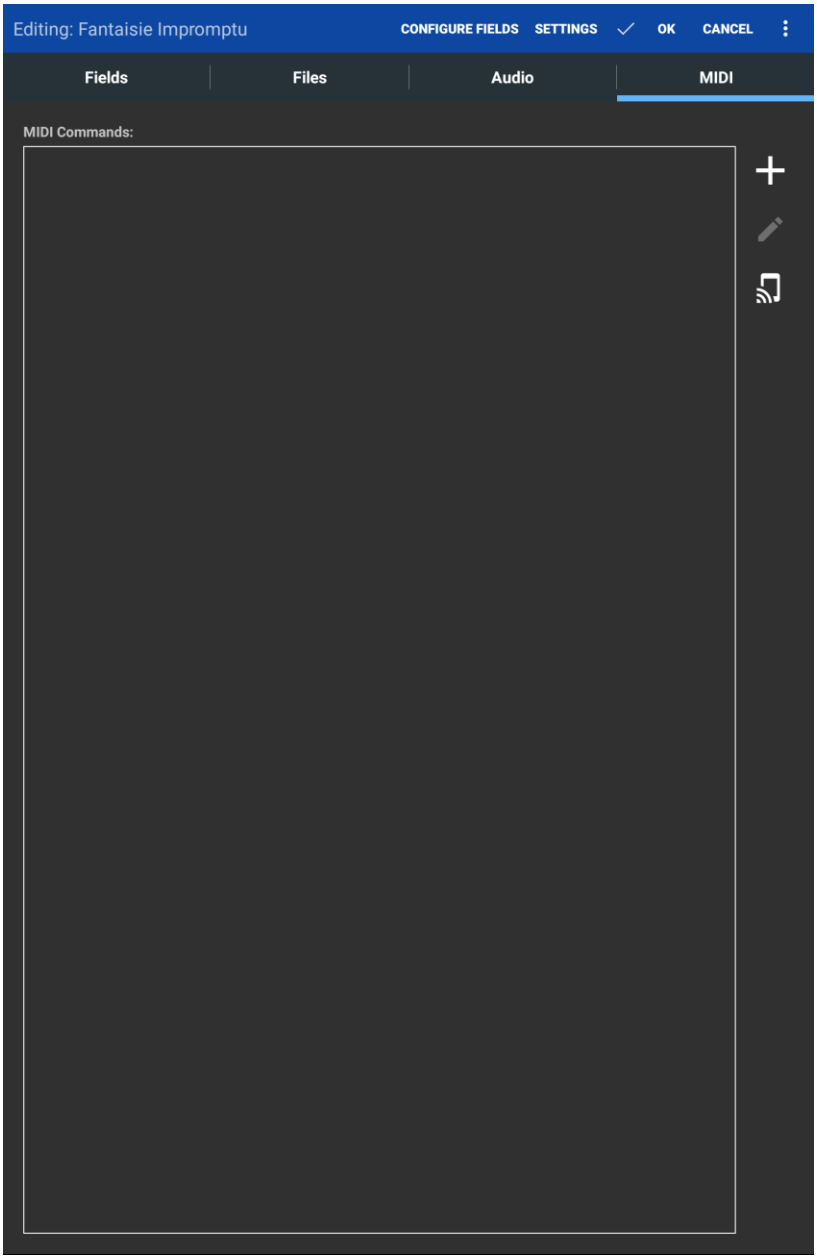


Figure 31 - ソングエディターの MIDI タブ

このマニュアルでは MIDI について全部解説はしませんが、サポートする MIDI コマンドを大まかに説明します。どんな MIDI コマンドが利用可能かは、お使いの MIDI デバイスのマニュアルを参照してください。MobileSheets は、以下の MIDI コマンドを認識します。

- パッチセレクト – 2 つのコントロールメッセージと 1 つのプログラムチェンジメッセージからなり、通常はキーボード上のインストゥルメントを変更するのに使われます。
- コントロールチェンジ – コントローラーの番号と値を含んでいます。

- プログラムチェンジ – 単一の値だけを持ちます。
- システム・エクスクルーシブ – 複数のバイト列データを持ちます。もっとも高度なコマンドで、普通は接続されたデバイスで複雑な設定をするときにのみ必要になります。
- ナンバー(KORG のみ) – 三桁もしくは四桁の数字を入力として要求します。４つのコントロールチェンジコマンドへ変換されます。
- ノートオフ – 鍵盤の、離された値を持ちます。
- ノートオン – 鍵盤の、押された値を持ちます。
- バッチコマンド – まとめてコマンドを送受信するのに使われます。主な用途は、ソングをロードさせたり、順番が一致するコマンドが送られてきたときに何かをするためのものです。
- ポーズ – 指定した時間だけメッセージの送信を一時停止します。
- ソング選択 – 選択すべきソングを指定する単一の値を持ちます。
- MIDI 開始 – 接続されたデバイス上で MIDI 再生を開始します。
- MIDI 再開 – 接続されたデバイス上の MIDI 再生を一時停止・再開します。
- MIDI 停止 – 接続されたデバイス上での MIDI 再生を停止します。
- タイミングクロックの送信を開始・停止 – 再生時のテンポを決定するタイミングクロックを、デバイスへ送信します。現在ロードされているソングのメトロノーム設定にしたがうテンポです。

MIDI コマンドを追加するには、画面右側の ＋ アイコンをタップします。コマンドを構成するための、以下のようなダイアログ画面が表示されます。

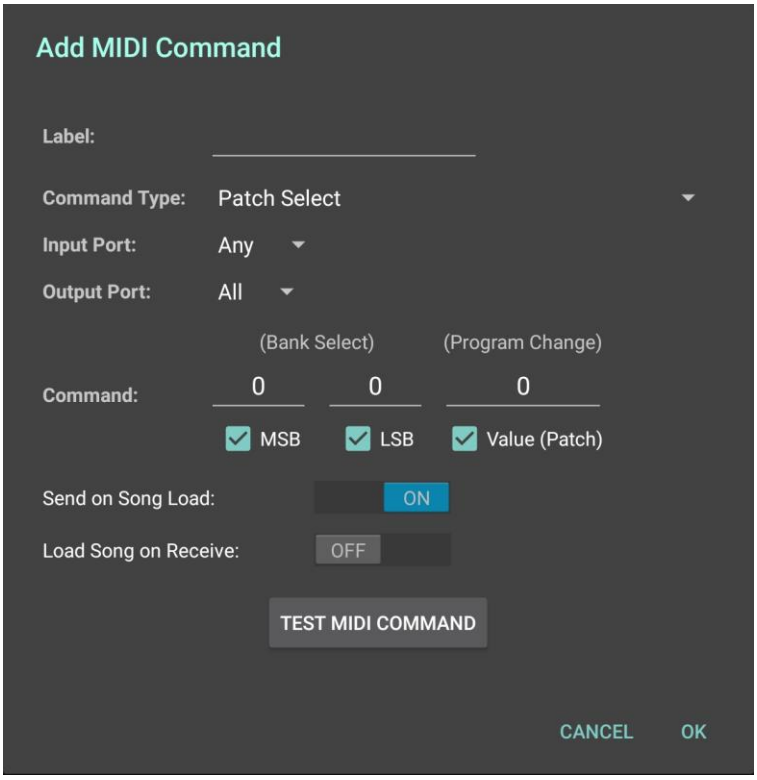


Figure 32 – MIDI コマンドの作成・編集用ダイアログ画面

「ラベル」へは MIDI タブのコマンド一覧に表示されるときのラベルを個別に指定することができます。このコマンドが何をするためのものかメモするのに便利です。「コマンドの種類」に「パッチセレクト」(MIDI デバイスとして KORG が選択されているときには「ナンバー」)が選択されています。ドロップダウンから選ぶコマンドの種類ごとに、設定が必要な項目は変化します。例えば、コントロールチェンジメッセージには値が 2 つ必要ですが、プログラムチェンジなら 1 つだけです。パッチコマンドだけ独特で、どの要素を送信するか(あるいは受信を必須とするか)オフにすることができます。

入力ポートおよび出力ポートの項目は、Google の MIDI ライブラリーを使用しているときにのみ表示されます。出力するメッセージを特定のポートへだけ送信したり、特定のポートからメッセージを受信したときにのみソングをロードすることができます。Google の MIDI ライブラリーへ切り替える手順は、MIDI 接続の設定を参照してください。

画面の一番下に、送信および受信に関する 2 つのトグルスイッチがあります。ソングがロードされたときに MobileSheets から MIDI デバイスへコマンドを送信したい時は、「ソングのロード時に送信」を ON にします。MIDI コマンドを受信したときに MobileSheets にソングをロードさせたい時は、「受信

時にソングをロード」を ON にします。両方とも ON にしておくと、コマンドを受信したときにソングがロードされ、同じコマンドがデバイスへ送り返されます。KORG のキーボードを使用しており、「ナンバー」MIDI コマンドについて知りたいなら、KORG のマニュアルはここにあります。KORG のナンバーコマンドを利用する時は、MIDI 設定の中で MIDI デバイスを「KORG」にしておかなければなりません。

デフォルトでは、MobileSheets は MIDI チャンネル 1 で MIDI コマンドを待ち受けます。受信用のチャンネルと別のチャンネルへコマンドを送信したい場合は MIDI 設定で変更できます。必要であれば、MobileSheets では複数のチャンネルへコマンドを送信することもできます。MIDI 設定で「複数の MIDI チャンネルを使用」を有効にすると、MIDI コマンドの追加画面上へチャンネル選択のドロップダウンがあらわれます。このドロップダウンで、コマンドの送信先チャンネルを管理します。

複数のソングでロード用コマンドとして同じ MIDI コマンドが設定されていると、そのコマンドを使用するよう最初に設定したソングがまずロードされます。再度 MIDI コマンドを受信すると、その MIDI コマンドを監視していた次のソングがロードされます。同じ MIDI コマンドが設定された全ソングを順番に処理することを意味します。同じコマンドを再度受信する前に別のコマンドを受信すると、最初のソングへリセットされる点に注意してください。

バッチ MIDI コマンド

時には、デバイスから複数のコマンドを受け取ってソングをロードするほうが便利なことがあります。MIDI タブへ複数のコマンドを並べるだけでは、そのうちどれかを受信するだけでソングがロードされてしまい実現できません。こんなときにバッチコマンドを使います。バッチコマンドにはいくつでも MIDI コマンドを含めることができ、ソングがロードされたときにデバイスへ送信したり、あるいは全コマンドが順番どおりに届いて初めてソングをロードしたい際に、主に使われます。

バッチコマンドを作成するには、MIDI コマンド作成ダイアログ画面で「コマンドの種類」ドロップダウンから「バッチコマンド」を選択し、表示される編集アイコンをタップします。次のような MIDI コマンド編集ダイアログが表示されます。

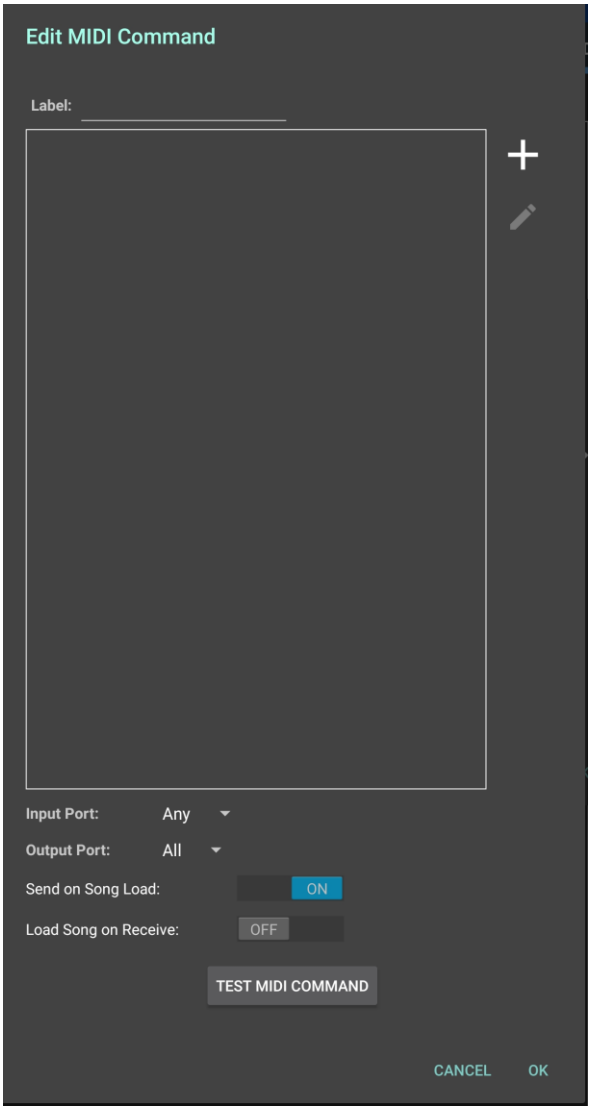


Figure 33 - バッチコマンドへコマンドを追加するためのダイアログ

この画面の操作もシンプルです。追加ボタンをタップすると見慣れた MIDI コマンド作成画面が表示され、編集ボタンをタップすれば選択中のコマンドを編集できます。他の MIDI コマンドと同様バッチコマンドでも、ラベル名や入出力ポート、ソングがロードされたときに送信するのか、受信したときにソングをロードするのか、を設定できます。

MIDI 確認ダイアログ

必要なバッチコマンドを簡単に構成するツールが、MIDI 確認ダイアログです。このダイアログを起動するには、MIDI タブで アイコンをタップします。こんな画面です。

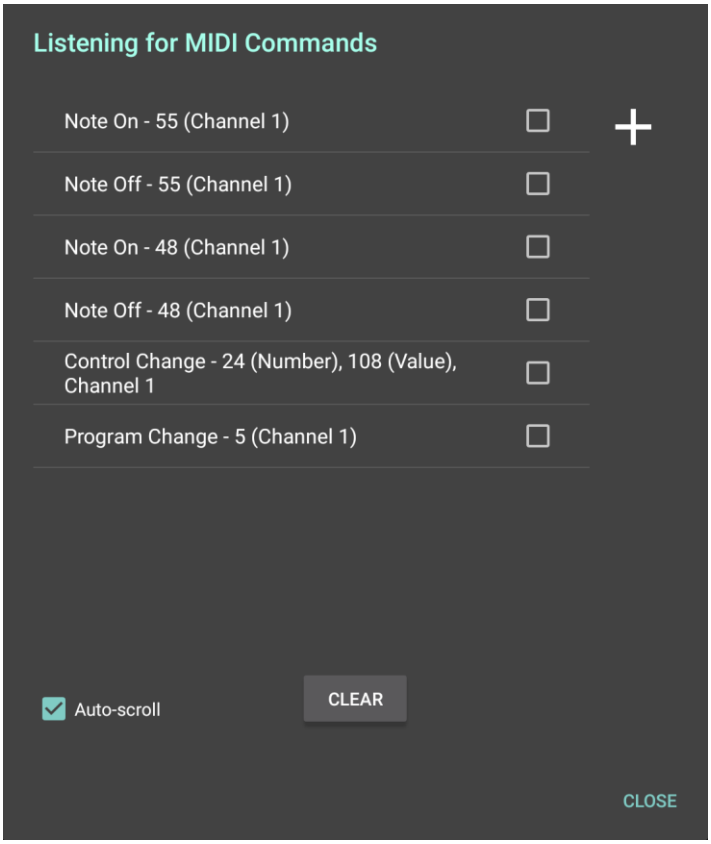


Figure 34 – MIDI コマンドを待つダイアログ

このダイアログに、MIDI デバイスから受信されたメッセージのうちバッチコマンドとして使えるものが表示されます。ソングをロードするきっかけとして使いたい各コマンドを選択し、右上にある追加ボタンをタップします。複数のコマンドを選択していれば MIDI タブ上へ「受信時にソングをロード」するバッチコマンドとして新規に登録され、ひとつならそのコマンド自身が MIDI タブへ追加されます。バッチコマンドの構成用に使うほかに、この MIDI 確認ダイアログはデバイスからの MIDI トラフィックを監視するためにも使えるので、MIDI 関連のトラブルを調査する際に役立ちます。

ソングを GENOS REGISTRATIONS へリンク

強力な機能のひとつで、MobileSheets 中のソングを Genos レジストレーションへリンクできます。これにより、ソングが MobileSheets へロードされると、Genos でもレジストレーションがロードされたり、あるいは逆もできます。セットアップするには、まず設定 > MIDI で、MIDI デバイスを「Genos」に設定します。MIDI デバイスを接続すると、リンクアイコン🔗が MIDI タブに表示されます。ここをタップ

すると、そのソングと現在 Genos にロードされているレジストレーションとがリンクされます。レジストレーションを変更したり、別のレジストレーションを使いたい場合は、リンクアイコンをもう一度タップしてソングのリンクを更新します。

グループ管理

MobileSheets では、ソングは３つの異なる種類のグループに置くことができます。

- セットリスト
- コレクション
- メタデータのグループ

セットリストは、ソングを順番に並べたリストで、連続したプレイリストを作ることができます。つまり全ソングにわたってページを順番に表示し、ライブ演奏に最適です。セットリスト中の順番を、手作業で、またはアルファベット順や、ソングの作成日・更新日順、シャッフルで並び替えることもできます。

コレクションは、他のメタデータグループと同様、主にフィルター(絞り込み)目的でつかわれるソングのリストで、セットリストと同様に並び替えが可能です。コレクションと他のメタデータグループとの大きな違いは、コレクションには追加フィルターがある点で、フィルターで詳しく説明します。

アーティスト、アルバム、ジャンル、作曲者などのメタデータグループは、フィルター用にソングをグループにまとめるものです。あるグループに属するソングを表示中に「すべてロード」をタップすることで、そのグループの全曲を一時的なセットリストとしてロードすることもできますが、主な目的はライブラリー画面上でのフィルターですので、ソングはいくつでも異なるグループへ置くことができます。

グループエディター

ソングエディターでも新規ソングや既存のソングをいろいろなグループへ置くことができますが、グループの管理はグループエディターで行うのが便利です。グループエディターは２つの経路で起動できます。ライブラリー画面でセットリストなどのタブが選択されているときにアクションバーの編集をタップすると、次のような画面が表示されます。

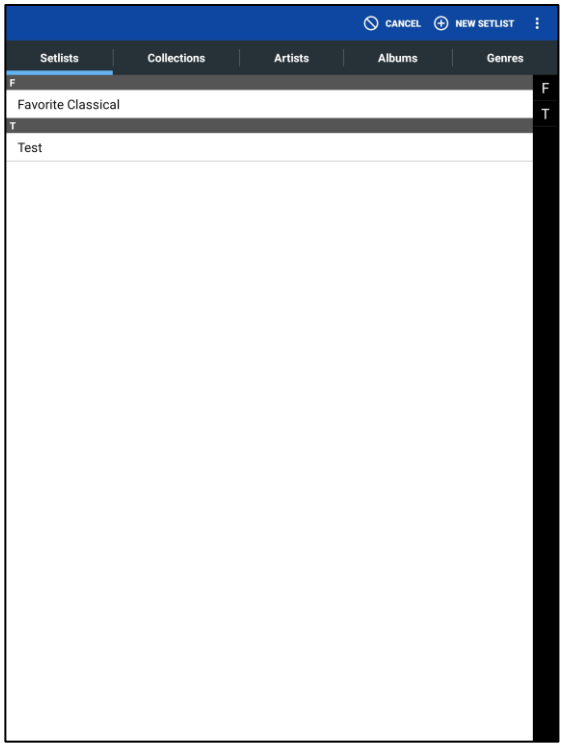


Figure 35 – グループエディターのトップレベル画面

この画面では以下の２つを行うことができます。

1. 右上にあるボタンを使って新しいグループを作成する。まず、新しくグループを作りたいタブをタップしてから、このボタンをタップします。
2. 既存のグループ内容を編集する。まず、編集したいグループを含むタブをタップし、編集したいグループのエントリーをタップします。

ライブラリー画面の他の時と同様、右側にある頭文字のリストをタップしてその文字で始まるエントリーへジャンプすることができます。グループを長押しすると、名前を変更、コピー、削除のアクションが表示されます。セットリストを長押しした時にはさらに、シェア、セットリストを読み込んで頭から開始、最後に表示したページを読み込み、印刷、も表示されます。これらのアクションについては、ライブラリー画面のグループごとのアクションで説明しています。

ライブラリー画面からグループエディターを起動するもうひとつの方法は、まずグループタブをタップし、グループをタップしてそのグループに含まれるソング一覧を表示した状態で、画面上に表示される

「編集」アクションをタップする方法です。指定したグループを編集する画面へ直接飛び、先ほど説明したトップレベル画面は経由しません。グループエディターで編集するようグループが選択されると、次のような画面が表示されます。

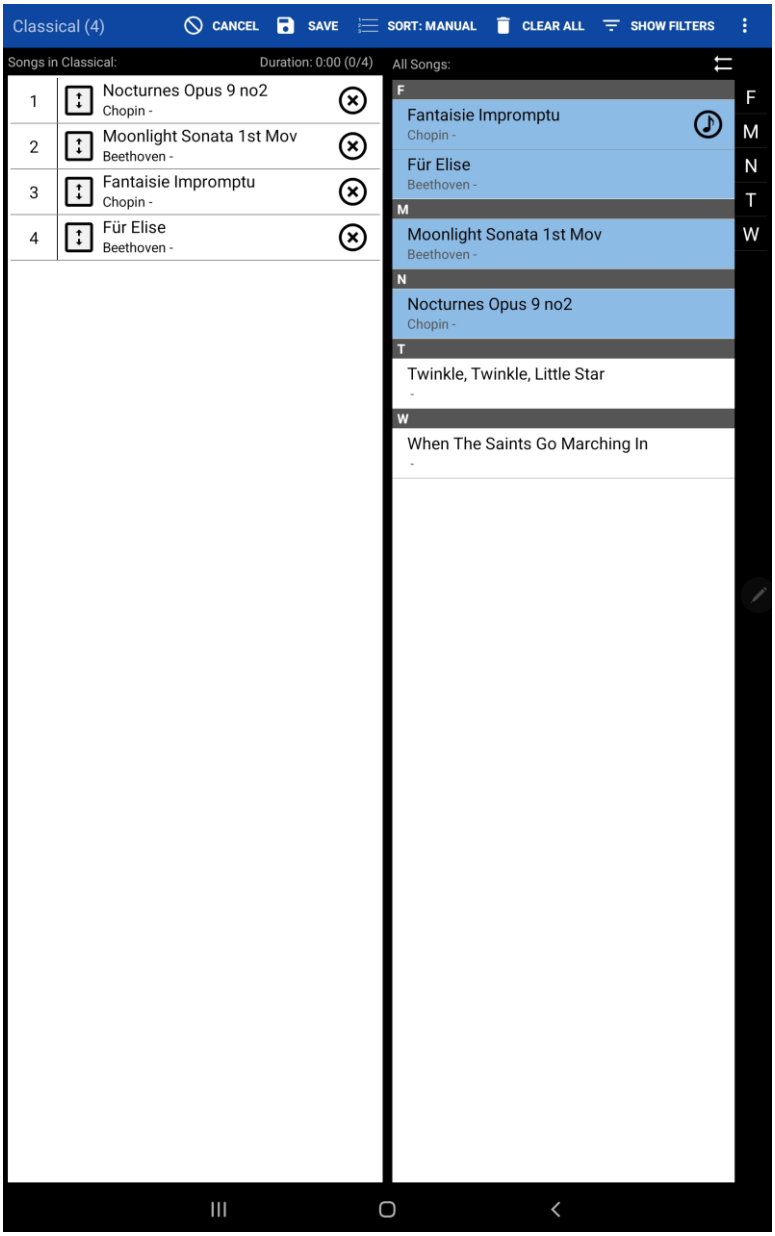


Figure 36 – グループエディター

この例では、画面左上に見えるように「Classical」というセットリストを編集しています。このセットリストに含まれるソングの数もタイトルに表示されます。右上には、以下のアクションが利用可能です。

- **キャンセル** – このグループに対する変更を何も適用せずに、エディターを終了します。

- **保存** – このグループへ行った変更をすべて適用して、エディターを終了します。
- **ソート** – このグループのソート設定を変更します(グループのソート方法についてはここ)を参照してください。
- **すべてクリア** – 現在表示中のグループからソングをクリアします。
- **フィルターを隠す・表示する** – リストの上へフィルター設定を表示したり隠したりします。詳しくはフィルターの項目を参照してください。アイコンが青色になることで、フィルターが隠れていても適用されていることを示します。
- **終了時に自動的に保存** – もし有効にしていると、戻るボタンを押すことで変更をすべて保存しエディターを終了します。そうでなければ、セットリストへの変更を保存するかどうか確認するプロンプト画面が表示されます。
- **名前を変更** – 編集中のグループの名前を変更します。
- **プレースホルダーの追加** – グループへ、空っぽのプレースホルダーを持つソングを追加します。プレースホルダーとは、１ページの空白だけを持つソングで、後から編集できます。

セットリスト以外のグループ種別を表示している際は、「セットリストを作成」アクションも追加されます。このアクションは、新しく作成するセットリストへ現在表示中のグループに含まれる全ソングを配置し、名前をつけるよう求められます。

グループエディターは、主に中央部分の２つのリストで構成されます。左側のリストは編集中のグループに所属するソングで、右側のリストはライブラリー中にある全ソングです。ソングをグループへ追加すると、右側のリスト中で青色にハイライトされ、追加されたことを示します。画面上にあるフィルターを使って右側のリストを絞り込むことができ、追加したいソングをすばやく見つけられます。グループからソングをはずしたい時は、左側のリストでソングの右隣にある「X」をタップします。

マニュアル順でソートされるグループでは、各ソングの隣にある矢印の書かれた四角を上下にドラッグすることでソングの順番を変更できます。また、ドラッグ＆ドロップも可能で、右側のリストにあるソングを左側のリストの好きな順序の位置へドラッグできます。グループが A-Z(アルファベット順)ソートされていれば、右側のリストでソングをタップするだけでグループへ追加できます。セットリストでは、ひとつのセットリストへ同じソングをいくつでも繰り返し追加できますが、その他のグループ種別ではソン

グはあるグループへ所属するかしないかだけですので、リスト中にすでにあるソングをタップすればリストから削除され、リストにないソングをタップすればリストへ追加される点に注意してください。

全ソングを追加したい時は、右側のリストの上にある⇇アイコンをタップします。本当に全部追加してよいか確認のプロンプト画面が表示されます。右側のリストをフィルターで絞り込んでいた場合は、フィルターされたソングだけが追加されますので、フィルター条件に合致するソングをまとめて追加するのに便利な方法です。

ソングディスプレイ画面

ライブラリー画面上でソングやソングリストをロードすると、ライブラリー画面は横へ流れてソングディスプレイ画面と呼ぶ画面に切り替わります。ソングディスプレイにはソングの楽譜と、さまざまなウィンドウや、メトロノームやオーディオプレイヤーといった演奏中に利用できる便利なコントロールが存在します。ソングディスプレイは、さまざまなフォーマットのファイルからコンテンツをロードし、それらのページをスクリーンへ表示し、ファイルの上へアノテーションを表示する、パワフルな表示エンジンで実現されています。このエンジンがソングのページをどのように表示するかは、表示モードとページスケーリングで決定します。表示モードでは、ページと他のページを互いにどのような位置関係で表示しページをめくるかを決定し、ページスケーリングは楽譜をどのようにスクリーン上に広げるかを決定します。これらの設定やソング表示の機能はソングオーバーレイと呼ぶ画面からコントロールします。ソングオーバーレイを活用するには、まずソングディスプレイ上でのタップ操作がどう扱われるかを知ることが重要です。下の図では、タップ可能な場所を示しています。

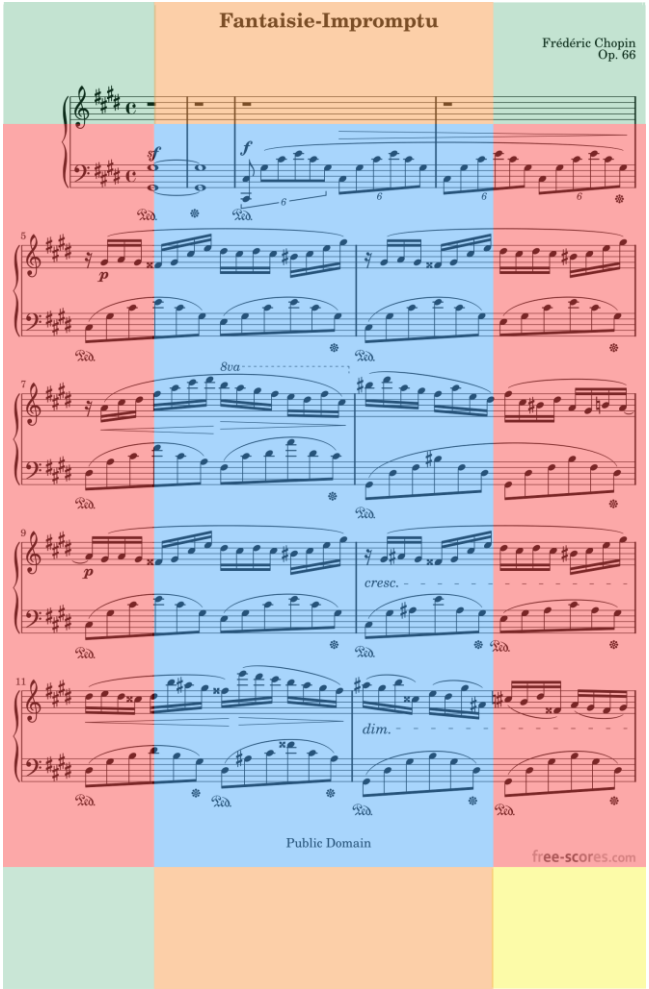


Figure 37 - ソングディスプレイ上のタッチ可能なゾーン

四隅(緑と黄色)と上下(オレンジ色)のエリアには、オーディオの開始や停止、ナイトモードの切り替え、ブックマークを使ったジャンプのようにさまざまなアクションを割り当てることができます。タッチアクションの設定で詳しく説明します。両脇(赤色)をタップすると、ページがめくられます。左側をタップすれば前のページへ、右側をタップすれば次のページです。右下のコーナー(黄色)をタップするとクイックアクションボックスと呼ぶ画面が呼び出され、オーディオプレイヤー、メトロノーム、スクロールをそれぞれ開始・停止することができます。パフォーマンスモードの状態でもクイックアクションボックスだけは利用可能で、いろいろなシチュエーションで役立ちます。クイックアクションボックスの項目を参照してください。クイックアクションボックスは四隅のどこへでも動かすことができ、不要なら隠すこともできます・最後の、画面中央の青い部分をタップすると、ソングオーバーレイ画面が呼び出され、ソングディスプレイをコントロールするすべてのさまざまな機能へアクセスすることができます。

ソングオーバーレイ

画面中央部分をタップしてソングオーバーレイが呼び出されると、タイトルバーが画面上からすべりだし、ページスライダーなどのボタンが画面下からせりあがり、(設定次第ですが、表示中のソングにオーディオトラックが設定されていれば)オーディオプレイヤーが表示されます。こんな画面です。

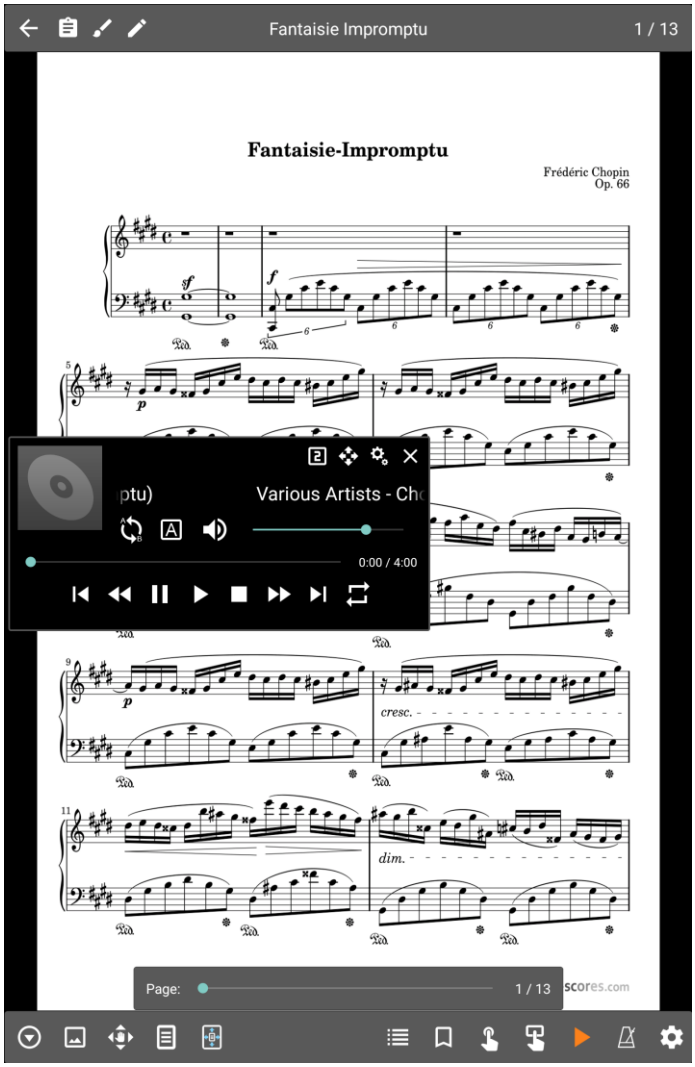


Figure 38 - ソングオーバーレイ

タイトルバーの左側から順番に見ていきましょう。タイトルバーには次のようなボタンがあります。

←	ライブラリー画面へ戻る。タブレットの「戻る」ボタンを押したときと同じ動作です。

	表示中のソングもしくはセットリストのノート表示を設定します。ノートの内容を自動的に表示するかどうかを決定できます。詳細はノートの表示を参照してください。
	表示中のページに対してアノテーションエディターを起動します。
	表示中のソングの情報を編集するソングエディターです。
	テキストもしくは chord pro ファイルを移調します(これらが表示されているときのみ)。詳しくは移調ダイアログを参照してください。
A	２つの選択肢からなるドロップダウンメニューを表示します。表示中のテキストファイルのテキスト表示設定を呼び出すテキスト表示と、テキストファイルを編集するテキストエディターです。テキストもしくは chord pro ファイルでしか表示されません。

なお、右上に表示されているページ番号をタップすると、表示したいページ番号を直接入力できるダイアログが表示されます。

タイトルバーは、通常は画面中央をタップしてオーバーレイを呼び出している間しか表示されません。タイトルバーを常に表示しておきたい場合は、ディスプレイ設定画面で「常にタイトルバーを表示」を選択します。選択されていると、ページのスクロール時にタイトルバーの分も考慮して描画されます。オーバーレイが表示されて楽譜の一部が隠れてしまうと、表示サイズを小さくして対応しようとします。この処理はソングの演奏中にオーバーレイが隠れることを考慮しておらず、通常よりも高速で低品質なページのスケーリングになっています。タイトルバーを常に表示しておくようにすれば、ページの縮小には高精度なスケーリングを行い、表示イメージのクオリティが落ちることがありません。

画面下にはボタンが並んでいます。左側のボタンは設定の変更やさまざまな用途に、右側のボタンはオーディオプレイヤーやメトロノームなどのツールや画面を呼び出します。左側から順に説明します。

- 以下の選択肢からなるポップアップメニューが表示されます。

- **印刷** – 表示しているソングを印刷します。

- **スニペットの作成** – 表示中のソングからページを抜き出して新しくソングを作成する、スニペットツールを起動します。このツールの詳細についてはこちらで説明します。
- **ソングの検索とロード** - 検索画面を表示して他のソングをロードします。現在表示中のソングやセットリストを終了し、ライブラリー画面へ戻ることなく次のソングを表示できます。
- **スクロールの開始** – 表示中のソングに対して、自動スクロールを開始します。
- **スクロール設定** – 表示中のソングに対するスクロール設定画面を呼び出します。詳細は自動スクロールの項目で説明します。

- 以下のアクションを含んだポップアップメニューを表示します。

- **クロップ** – 表示中のページへ適用するクロップ画面 が現れ、表示領域を調整できます。
- **時計設定** – 楽譜の上の特定の場所へ時計を表示することができます。フォントサイズ、スタイル、カラーを好きなように変更できます。
- **回転** – 現在表示しているソングのページ表示を回転します。表示されているページを回転するには、画面左下にある左回転 と右回転 の各ボタンをタップします。表示しているファイル中の全ページを同様に回転するには、それぞれ内側のボタンをタップします。このボタンを長押しすると、ソング中の全ファイルの全ページが回転します。左回転ボタンをタップすると左に９０度回転し、右回転ボタンで右に９０度回転します。外側の矢印ボタンで前後のページへ移動します。
- **イメージをシャープに** – 「クッキリさせる」オプションと「度合」スライダーからなる画面が表示されます。「クッキリさせる」は、画像上の「ノイズ」をきれいにする機能のひとつです。例えば、印刷物をスキャンした結果、たくさんのシミやグレー色の部分やゴミがあるときに、シャープにすることでこれらを取り除き背景を白くして楽譜をクッキリできます。「度合い」を強くするほど効果は強力になりますが、場合によってはヘンな見た目になったり画像がガタガタになることもあり、楽譜へネガティブな影響を与えることなく不要なゴミを消すことのできる適切なレベルを選ぶことが重要になります。
- **回転ロック** – 現在表示中の向きで回転を固定したり解除したりします。回転を固定(ロック)していると、タブレットの縦横を変更しても画面が回転しなくなります。
- **アノテーションの表示** – アノテーションを表示したり隠したりします。

- **ナイトモード** – 楽譜の白黒を反転するナイトモードへ切り替えます。
- **ズームとパンの設定** – 下の図のような「ズームとパン設定」の画面を表示します。

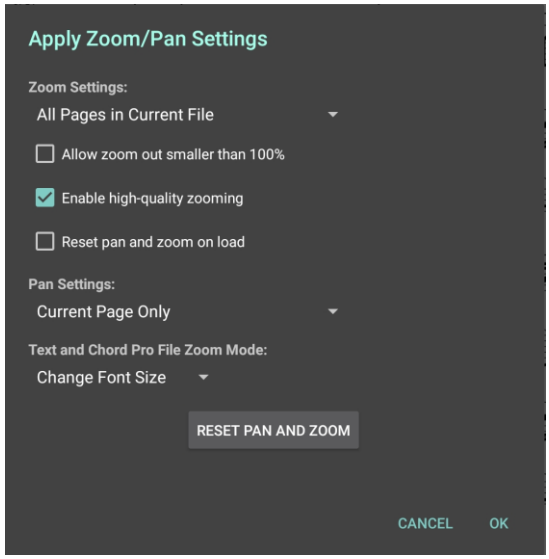


Figure 39 – ズームとパン設定

この設定で、ピンチ操作でズームしたり画面をパンした時の動作を決定します。デフォルトでは、全ページは同じ割合でズームされます。余計な空白を表示しないためにズームをするなら、クロップ機能を利用するのが最善です。最初のズーム設定のドロップダウンでズーム対象のページを指定し、現在表示中のページのみ、表示中のファイルの全ページ、表示中のソングに含まれる全ページ、セットリスト中の全ページ、から選びます。パン設定のドロップダウンも同様です。「テキストとコード pro ファイルのズームモード」ではこれらのファイルのズーム操作を管理します。デフォルトのズーム操作は「文字の大きさを変える」で、テキストや chord pro ファイルを表示するときのフォントサイズを大きくしたり小さくしたりします。「ページサイズを変更する」ではページの一部分を単純にズームし、画像イメージを拡大縮小するときと同じように動作します。「無効」を選ぶと、chord pro とテキストをズームできなくなります。「高解像度のズームを有効」にすると、ピンチ操作をする都度、裏で高画質な描画処理を実行します。楽譜によっては非常に遅くなります。ズームインやズームアウトをたびたびするなら、この設定を無効にして画像品質を少し犠牲にするだけで快適に操作できます。

「読み込み時にパンとズームをリセット」を有効にすると、ズームとパンの設定は保存されず、ソングをロードするたびにズームのない状態から始まります。また、ズームをした状態ではペ

ージをめくることができず、ページをめくる前にズームを解除しなければなりません。ズームしている状態では一本指でのドラッグでページ内をパン(移動)することができます。たびたびズーム操作をするのであれば、「高解像度のズームを有効」を切っておき、「読み込み時にパンとズームをリセット」を有効にすれば、拡大縮小やパン操作をすばやくできます。

現在表示中のパンやズーム設定が気に入らなければ、「パンとズームのリセット」をタップしてズームとパンの設定をクリアできます。最後の「100%以下のズームアウトを許可」は、ページを画面の縦横双方よりも小さくできるかを決定します。通常は画面のサイズより楽譜を小さく表示したいことはないので、デフォルトではこれは無効になっています。

- パン操作が可能になり、画面上でページ上の表示領域を移動できるようになります。この機能は画面全体よりページが広いときにだけ働き、ページ全体が表示されているなら楽譜上を移動する必要はないからです。このツールは、ディスプレイモードが、各ページのズームやパン設定が保持されるシングルページの時にだけ利用できます。デフォルトの設定でこのディスプレイモードを使用すると、前回そのページを表示していたときと同じようにページが表示されます。ページをあらかじめ一部スクロールした状態で表示させたいなら、そうしておけばソングをロードした際に常にその場所が表示されることを意味します。以前のセクションで説明したように、このふるまいは変更できます。ほとんどのユーザーではズームやパンをあらかじめ設定する必要はなく、ページ上の不必要な部分の除外はクロップ処理に頼れば十分です。

- このアイコンをタップすると、ソングのディスプレイモードや他のさまざまな表示設定を変更するダイアログが表示されます。ディスプレイモードはページをどのように配置してどのようにめくっていくのか決定します。現在、どのディスプレイモードが選択されているかによってアイコンの外観が変化します。ディスプレイモードは回転状態ごとに保持されるので、縦置きと横置きとで別々のディスプレイモードをそれぞれ設定できます。デフォルトでは、全ソングに同一のディスプレイモードが設定されています。ソングごとに個別の設定を指定できます。ディスプレイモードの選択画面はこんな感じです。

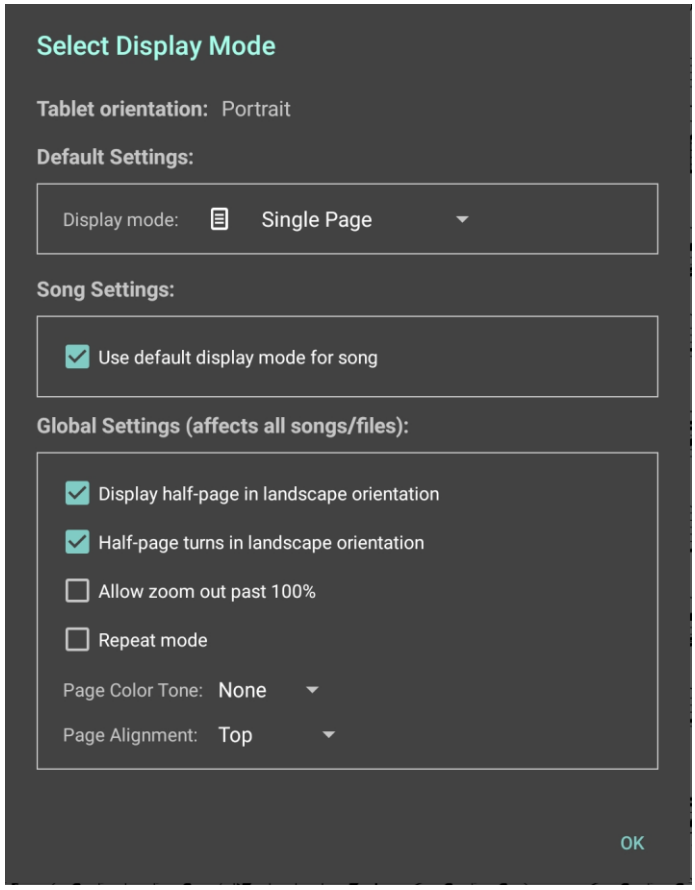


Figure 40 – ディスプレイモードの設定

デバイスの向きは自動的に検出され、画面一番上に表示される向きはデバイスの置かれている向きを反映します。デバイスの向きごとに、別々のディスプレイモードが設定できます。現在の向きにあわせたデフォルトのディスプレイモードは、「ディスプレイモード」ドロップダウンをタップして指定します。表示中のソングへは別のディスプレイモードを指定したいなら「ソングでデフォルトのディスプレイ設定を使用」のチェックボックスをはずし、所望のディスプレイモードを選択します。ダイアログ画面の下半分は、どのディスプレイモードを選択したかによって変化します。このため、メインの設定画面に戻ることなく、いろいろな設定変更が可能になります。以下のディスプレイモードが指定可能です。

シングルページ	このモードは、縦置きした時にページ全体を表示してページめくりをすると上下方向にスクロールします。横置きでは、各ページを半分ずつに分ける(「横置き時に半ページを表示」で設定)ことで画面幅をいっぱいまで利用します。「横置き時に半ページずつめくる」も指定できます。このモードではズームとパンの操作が可能です。

<table>
<tr><td>2ページ</td><td>２ページモードは横置きの時だけ選択できます。一度に２ページを表示し、大画面のタブレットで有用です。このモードを選択すると、ページめくり動作を規定する追加のボタンがオーバーレイの左下へ表示されます。以下を選択可能です。
<table>
<tr><td>1</td><td>一度に１ページずつめくる。つまり、1&2 ページを表示、次に 2&3、続いて 3&4、となります。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>一度に２ページずつめくる。1&2 ページが表示され、次は 3&4、そして 5&6、となります。</td></tr>
<tr><td>1→2
3→4</td><td>各ページを交互にめくる。1&2 ページが表示され、次は 3&2、そして 3&4、5&4、となります。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>ハーフページ</td><td>ハーフページではまず１ページ全体を表示しますが、あらかじめ半ページ先を一緒に表示します。ページ全体が表示されているときにページめくりをすると、上半分に次のページを表示します。再度タップすると次のページ全体が表示されます。楽譜を先読みするのに便利です。</td></tr>
<tr><td>垂直スクロール</td><td>垂直スクロールでは全ページを縦方向に並べます。PDF リーダーでよくある表示方式です。ドラッグしてページを上下にスクロールしたり、右端をスライドしてページ移動ができます。自動スクロール機能と親和性がよく、他のモードでは不可能な、一定の速度でのゆっくりとしたスクロールが可能です。</td></tr>
</table>

- ディスプレイモードアイコンとあわせて、ページスケーリングアイコンでは現在表示中のページを画面にあわせてどう引き延ばすかを決定するスケーリングモードを設定します。現在設定されているスケーリングモードにあわせてアイコンの外観は変化します。ディスプレイモードと同様、ページのスケーリングモードは横置き・縦置きで別々に保持されます。全体に適用されるデフォルトと、必要に応じた各ソングごとのスケーリングモードを設定できます。以下のような画面です。

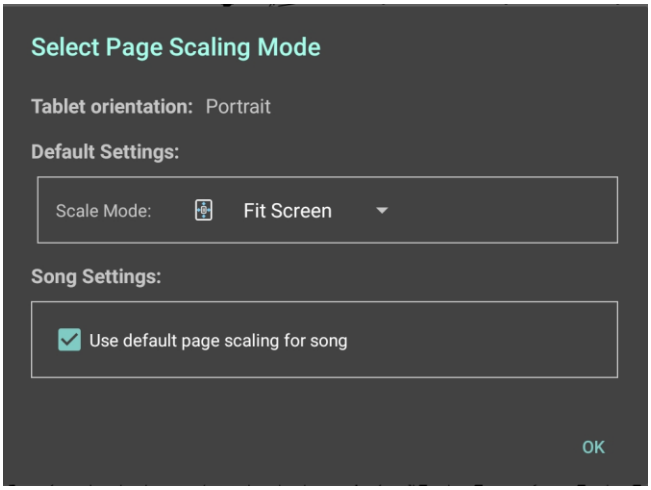


Figure 41 - ページのスケーリングモード設定

デバイスの向きごとに別々のスケーリングモードを指定でき、画面一番上に向きが表示されます。スケールモードには以下のオプションから選択できます。

スクリーンにあわせる	このモードは、画面サイズにあわせて、縦横比を歪ませない範囲でいちばん大きくなるよう表示を引き延ばします。楽譜の幅を画面幅いっぱいにあわせるか、高さを画面高いっぱいにあわせます。楽譜が拡大縮小で歪んだり潰れたりすることがなくなります。デフォルトのモードであり、ほとんどの使われ方で推奨されるオプションです。
幅をあわせる	このモードは楽譜の横幅を画面の横幅いっぱいにあわせます。楽譜の上下部分が画面の外側にはみだしてしまうことがあります。
高さをあわせる	このモードは画面の高さにあわせて楽譜の高さを伸び縮みさせます。楽譜の両脇が画面の外側にはみだしてしまうことがあります。
スクリーン全体へ	このモードは楽譜を画面いっぱいに表示します。縦横比を考慮しないので、元の楽譜からは歪んで見えるかもしれません。タブレットの縦横比と元々の楽譜の縦横比が近ければ問題なく、歪みも少ないため他のモードより良いかもしれませんが、そうでなければほとんどの場合、楽譜が読みにくくなります。

これまでに説明していないアイコンが左下に表示されることがあります。ハーフページのめくり位置を示すこんな アイコンです。横置きのシングルページモードで、半ページずつのめくりを指定しているときだけ表示されます。このアイコンをタップすると、このページを半分ずつに分ける場所を指定できるため、半ページめくる際に五線譜の途中で切れることはなくなります。操作は簡単で、まずこのアイコンをタップし、最初の上半分にあたる部分をスクロールしてから指を離し、さらに下半分にあたる部分をスクロールしてから指を離します。ソング中の各ページごとに指定しなければなりません。

オーバーレイの右下側にあるこのボタンは、次のセクションで説明します。

セットリスト画面

セットリスト画面では、現在表示中のセットリスト中のソング一覧を表示して、一度のタップでそれらのソングへジャンプできます。ソングの並べ替えができ、セットリストを操作するボタンもあります。ソングがいくつロードされているか、あるいは実際にセットリストが読み込まれているかどうかに応じて表示されるボタンは変化し、次のような画面で構成されます。

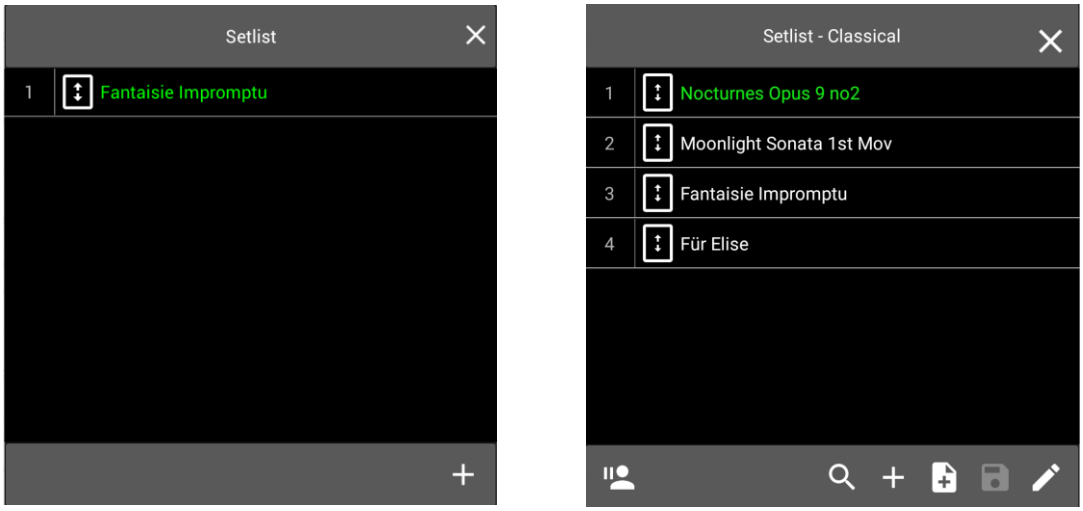


Figure 42 – ソングに対するセットリスト画面(左側)とセットリストに対するもの(右側)

ソングを長押しすると、ソングを編集するかセットリストから削除するメニューが表示されます。ウィンドウの下に並ぶボタンには、それぞれ以下のような機能が割り当てられています。

	セットリストを中断し別のソングを読み込みます。セットリストが読み込まれているときのみ有効です。タップするとライブラリー中からソングを選ぶ画面に移ります。基本的なフィルター(検索、コレクション、頭文字など)でソングを見つけます。ソングを選択するとソングディスプレイへ表示されます。タブレットの戻るボタンか、オーバーレイ左上の戻るボタンをタップすると、セットリストの最後に表示したページへ戻ります。セットリストにない曲を聴衆からリクエストされたときに便利です。
	表示中のセットリストからソングを探します。検索バーにタイトルを入力するか、頭文字から探せます。ソングを選択すると、ソングディスプレイへ表示されます。
	セットリストが読み込まれているときには、そのセットリストへ追加したいソングを探し出す検索画面が表示されます。明示的に保存ボタンをタップするまでは、セットリストへ行った変更は保存されない点に注意してください。 ソングが読み込まれている時は、どのセットリストへそのソングを追加するかライブラリー中の全セットリストが表示されます。タップしたセットリストへ追加されます。
	プレースホルダーとなるソングを作成しセットリストへ追加します。一番上にあるスライダーで、セットリスト中のどの場所へ追加するか決定します。セットリストがロードされているときにだけ有効なオプションです。
	表示中のセットリストへ行った変更を保存します。セットリストがロードされているときにだけ有効なオプションです。
	表示中のセットリストをグループエディターで編集します。セットリストがロードされているときにだけ有効なオプションです。

ブックマーク画面

ソング中の特定のページへ後から簡単にアクセスできる MobileSheets の機能がブックマークです。ライブラリー画面中のブックマークタブに表示されるよう設定することもできるため、ブックマーク名を頼りに多くのソングの中から特定の箇所へジャンプでき、とても便利です。大規模なスコアや複数の

曲からなる PDF で、それぞれの曲の練習番号へブックマークをつけたり、ブックマークタブから呼び出せます。

ブックマーク画面は、ブックマークを作成したり、現在表示中のソングやセットリストに関連する全ブックマークを表示するための画面です。次のように構成されています。

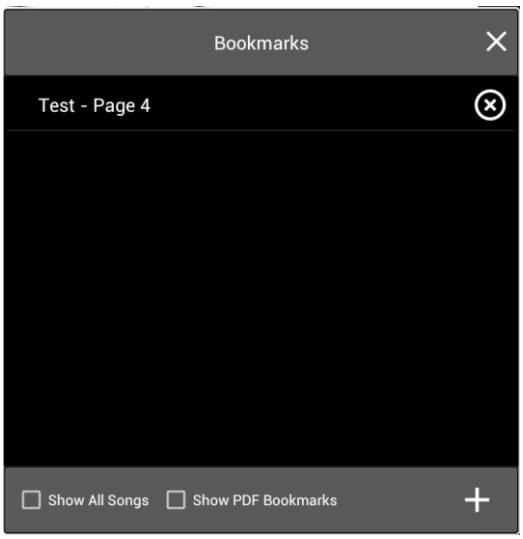


Figure 43 – ブックマーク画面

画面自体はとてもシンプルです。ブックマークがリスト表示され、各エントリーはその右側にある「X」をタップして削除できます。右下にある + ボタンをタップして新しいブックマークを作成します。リスト上のブックマークエントリーをタップすると、そのブックマークの場所までソングディスプレイは移動します。「全ソングを表示」をチェックすると、現在ロード済みのセットリスト中の全ブックマークが表示され、チェックしなければソング中のブックマークだけが表示されます。「PDF ブックマークを表示」をチェックすると、PDF に埋め込まれている PDF ブックマークもリストへ表示されます。PDF ブックマーク以外のブックマークを長押しすると、ブックマークを編集するか、削除するための画面が表示されます。

新規ブックマークを作成するために + ボタンをタップすると、つぎのような画面が表示されます。

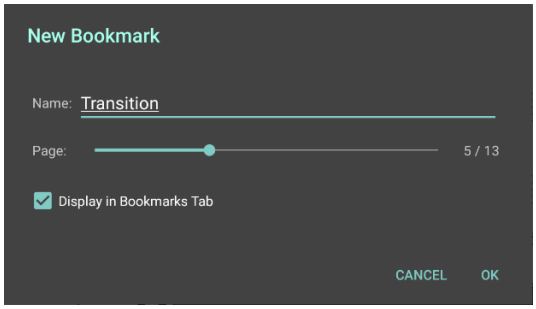


Figure 44 - 新規ブックマークの作成

一番上のテキスト領域でブックマークに名前を付け、中央のスライダーでページ位置を指定します。現在表示中のページがデフォルトで選ばれるので、普通は名前を付けるだけで終わります。このブックマークをライブラリー画面中のブックマークタブへ表示したい場合は、「ブックマークタブで表示」にもチェックを入れます。

リンクポイント

リンクポイントは、２つのページ間をつなぐ MobileSheets の機能です。楽譜上には、リンクポイントは半透明の円として表示されます。ここをタップすると、あるページから別のページへ飛んで、しばらくはリンクポイントが強調表示され視点をどこに注目すればよいか教えてくれます。こうしてリピート記号(D.S/D.C など)を扱えます。これ以外の方法でリピートを扱うには、ページを繰り返し表示するカスタムのページ順序指定を使って、あらかじめ前のページへ戻るよう設定するしかありません。リンクポイントの一覧は、次のようなリンク画面へ表示されます。

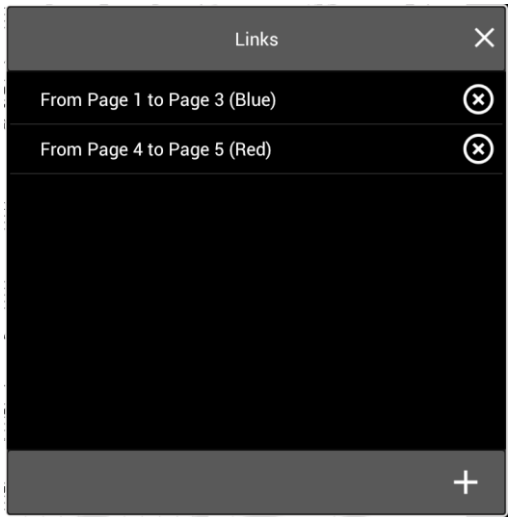


Figure 45 - リンク画面

リンクの開始・終了は同じ色のペアで表現され、各ペア間は区別できるよう別々の色が割り当てられます。リンクポイントは１０ペアまで設定できます。リンクポイントのペアを削除するにはリストの右側にある「x」をタップします。この操作で既存のペアへ別の色が再割り当てされることがあります。リスト上のエントリーをタップすると、リンクの開始・終了位置が表示されます(同じエントリーのタップを繰り返して、開始と終了位置を交互に表示)。ページ上ではリンクポイントはこんなふうに表示されます。

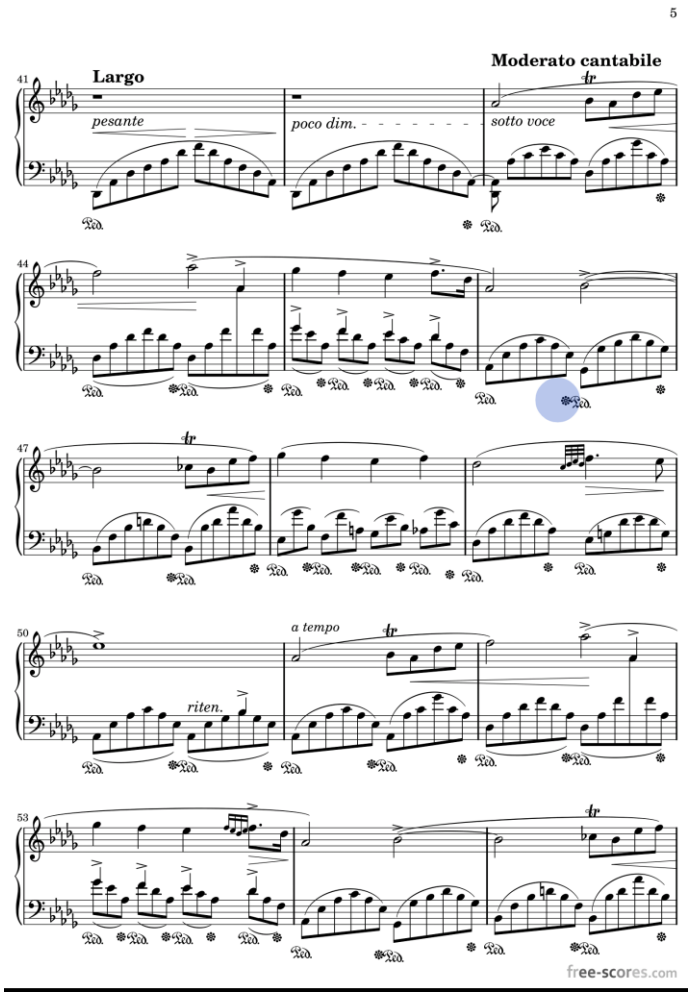


Figure 46 – 青色のリンクポイントが表示されたページ

リンクポイントの作成は、＋ボタンをタップします。ページスライダーと上に表示される操作ボタンを除く、オーバーレイのほとんどが隠れます。左上にある「キャンセル」をタップして、いつでも作成をキャンセルできます。リンクを開始したい場所をタップし、スワイプして(あるいはページスライダーで)リンク先が見えるページまでめくります。リンクの終了先をタップすると、半透明の円が楽譜上に追加され、リンク画面上に新しいエントリーが追加されます。

既存のリンクポイントを編集するには、リンク画面上のリストにあるエントリーを長押しします。次のような編集画面が表示されます。

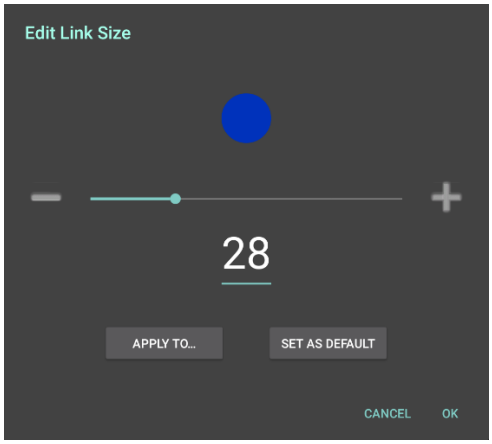


Figure 47 – リンクポイントの編集

この画面では、リンクポイントの大きさを調整できます。デフォルトは２８ポイントです。スライダーをドラッグするか、両端のマイナスとプラスのボタンをタップしてサイズを調整します。変更後のサイズを随時確認できます。サイズを決めたら「OK」をタップしてこのリンクポイントを変更するか、「適用先」をタップして他のリンクポイントへも反映します。適用先をタップすると、以下から選択できます。

- **このリンクのみ** – 選択したリンクのみを変更します。「OK」をタップしたときと同じ動作です。
- **現在のソング中の全リンク** – 表示中のソング中にある全リンクを、指定したサイズにします。
- **セットリスト中の全リンク** – ロードしているセットリストに含まれる全ソング中の全リンクポイントについて、指定したサイズへ変更します。
- **全ソング中の全リンク** – ライブラリー中の全ソングに設定されている全リンクポイントについて、指定したサイズへ変更します。デフォルト値として新しくサイズを指定し、既存のリンクポイントをすべてそれにあわせたい時に実現できます。

今後作成するリンクポイントでは別のサイズをデフォルトにしたいときは、「デフォルトに設定」をタップすることで、指定したサイズが今後はデフォルト値として利用されます。

現時点では、リンクポイントをリンク画面上で並べ替えることはできません。リンクポイントを削除したい時は、削除したいアイテムを長押しし、メニューから「削除」を選びます。この操作で、既存のリンクポイントへ別の色が割り当てられたり、リスト内の順序が変更されることがあります。

スマートボタン

スマートボタンは MobileSheets の強力な機能のひとつで、タップされたときにさまざまなアクションを引き起こすボタンを楽譜上に配置できます。スマートボタンの主要な用途のひとつに、接続されている MIDI デバイスへの一連の MIDI コマンドの送信があります。ソングがロードされた時だけでなく、適切なタイミングで MIDI デバイスへ指示することができます。ソングの進行にあわせてデバイス設定を変化させていくこともできます。スマートボタンを配置するには、まず + ボタンをタップして新規スマートボタン作成の作業を開始します。つぎのような画面が表示されます。

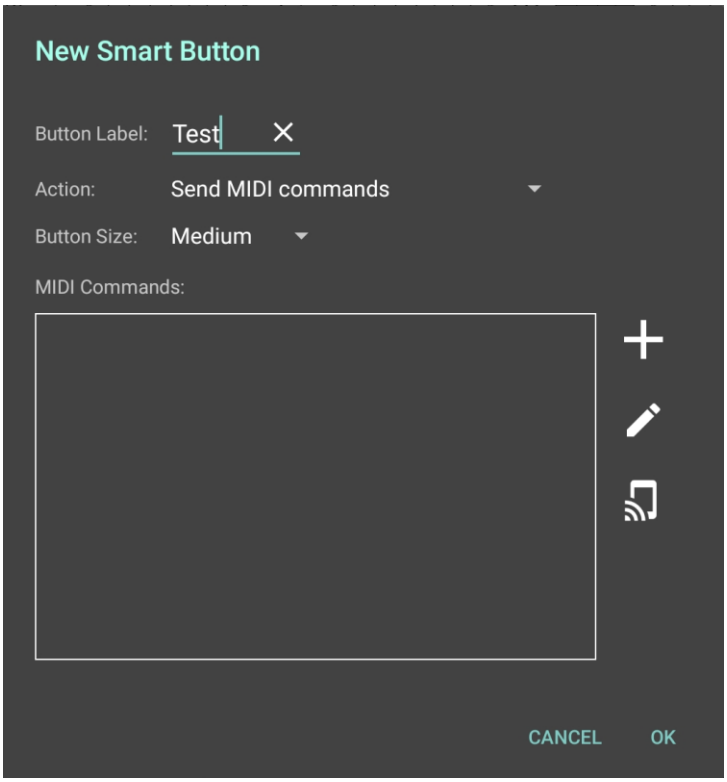


Figure 48 - 新規スマートボタンの作成

最初の設定箇所であるテキスト入力は、ボタン上に表示されるラベル名の指定です。設定は必須ではありませんが、そのボタンが何を目的にプログラムされたものか適切に表すことができます。次の設定箇所は「操作」で、ボタンが押されると何が起きるかを指定します。以下のアクションを指定できます。

- **MIDI コマンドを送信** – ボタンがタップされると 1 つ以上の MIDI コマンドを送信します。このオプションを選択すると、MIDI コマンドのリストが上の画面のように表示されます。 + ボタンをタップして MIDI コマンド作成を作成したり、コマンドをタップした後で✎をタップしてそのコマンドを編集したり、📡をタップして MIDI ポートを監視してコマンド列を受け取れます。
- **オーディオトラックの開始または停止** – オーディオ再生を開始・停止します。
- **メトロノームを開始・停止** – メトロノームを開始・停止します。
- **ソングの最初へ戻る** – 表示中のソングの最初のページへ戻ります。
- **ソングの最後へ進む** – 表示中のソングの最後のページへ飛びます。
- **前のソングへ移動** – 前のソングへ移動します。
- **次のソングへ移動** – 次のソングへ移動します。
- **ソングを読み込み・移動** – ライブラリー中もしくは表示中のセットリストにある別のソングをロードし、指定のページへ移動します。同じソング内でしかジャンプできないリンクポイントとは異なり、ライブラリー内の別のソング中のページ間でジャンプできます。このオプションを選択すると、ソングを選択するドロップダウンと、ページ番号を入力するフィールドが表示されます。
- **次のリンクポイントをリセット** – リンクポイント間の移動をペダル操作で行うときに、次のペダル操作でどのリンクポイントを実行するか選択を求めます。
- **ファイルを外部アプリで開く** – スマートボタンにリンクされているファイルを別アプリで開きます。そのファイルの種別に対してデフォルトのアプリが割り当てられていないと、ファイルをロード可能なアプリの一覧の中から選択を求められます。
- **メモ・ノートの表示** – 表示中のソングにアサインされている全ノートを表示します。
- **オーディオトラックの一時停止または再開** – オーディオプレイヤーが再生中なら一時停止し、停止中なら中断した箇所から再生を再開します。
- **オーディオプレイヤーの表示または隠す** – オーディオプレイヤーが隠れていれば表示し、表示されていれば隠します。
- **オーディオトラックをロードして再生** – 表示中のソングにあるオーディオトラックのひとつへリンクするボタンです。ソング中の特定のトラックの、指定位置(必要なら)から再生するのに便利です。

- **URL を開く** – URL を開きます。http://または https://で始まる URL はブラウザーで開かれ、file://で始まる URL はそのファイルをロードします。

「ボタンサイズ」ドロップダウンから選ぶことで、作成されるボタンの大きさを指定できます。すべての指定が終わって OK ボタンをタップすると、作成画面が消えてボタンを楽譜上に配置できます。ボタンの配置には、楽譜上を押して置きたい場所までドラッグします。その後、リスト上に新しいボタンが追加されたスマートボタン画面が再び表示されます。既存のボタンを編集したければ、スマートボタン画面上でそのアイテムを長押しします。下図は「中」サイズのボタンを楽譜に配置した例です。

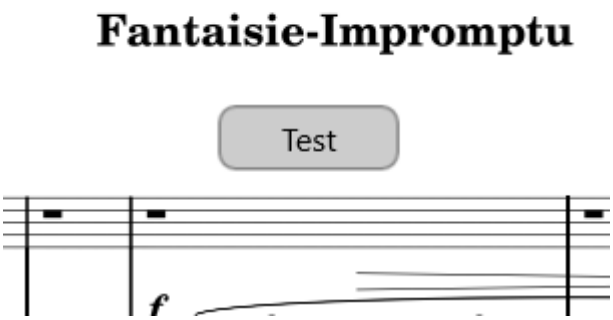


Figure 49 - A smart button placed on the score

スマートボタンの場所を変更するには、楽譜上でボタンを長押しして希望の場所までドラッグします。同時に表示されている２ページの間(ディスプレイモードに２ページを選んでいる場合など)でボタンをドラッグすることができますが、２ページ以上移動させたい時は、いったん削除してから改めて作り直したほうが早く済むことが多いでしょう。

オーディオプレイヤー

演奏する楽譜の伴奏トラックに使われるオーディオプレイヤーを MobileSheets は備えています。マイナスワン演奏と一緒に練習したり、ライブでオーディオトラック中にないパートを演奏したり、新しい楽譜に取り組む際にどんな演奏例があるか聞いたり、と非常に便利です。オーディオプレイヤーの画面はこんな感じです。

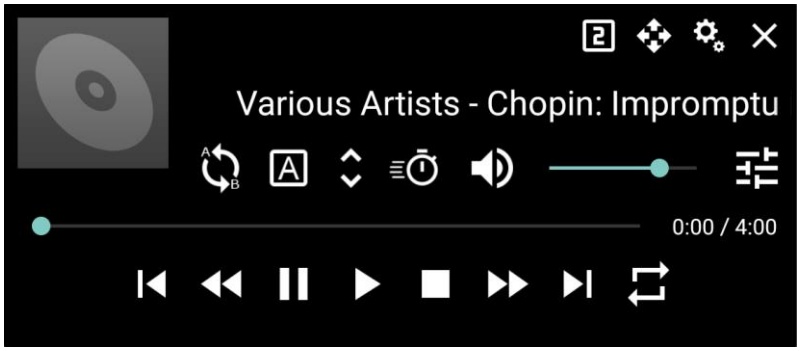


Figure 50 – オーディオプレイヤー

オーバーレイ上でオーディオプレイヤーがどのように表示されるかは、このセクションの最初のほうを参照してください。オーディオプレイヤーにはいろいろな機能がありますが、操作はシンプルです。いろいろなボタンについての説明をする前に、オーディオプレイヤーにはスモール・ノーマル・ラージの 3 つのサイズがある点に注意してください。これらは 2 アイコンをタップして切り替えます。アイコンをタップするごとにアイコン上の数字が変わり、オーディオプレイヤーのサイズも変わります。スモールサイズではこんな感じです。

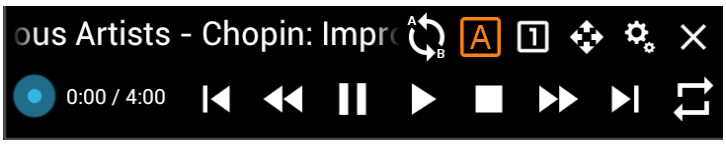


Figure 51 – オーディオプレイヤー(スモール)

ボリュームコントロールが無いことを除けば、上の画面と同じだけの機能があります。もうひとつのレイアウトであるラージサイズは、こんな画面です。

Figure 52 – オーディオプレイヤー(ラージ)

ノーマルサイズにはない追加機能が表示されます。プレイヤーの下半分に表示されるトラックプレイリスト上でトラックをタップして切り替えたり、並び順を変えたり(トラック左側にある箱をタップしドラッグ)できます。プレイリストを編集するには、✎アイコンをタップしてソングエディターのオーディオタブを呼び出します。表示中のソングに含まれるトラックだけのプレイリストにするには、♩をタップします。これがデフォルトです。プレイリストに切り替えて各ソングに含まれる全トラックにするなら♩♩♩をタップします。

次に説明すべきはオーディオプレイヤーの設定画面です。設定を表示するには、⚙をタップします。このような画面が表示されます。

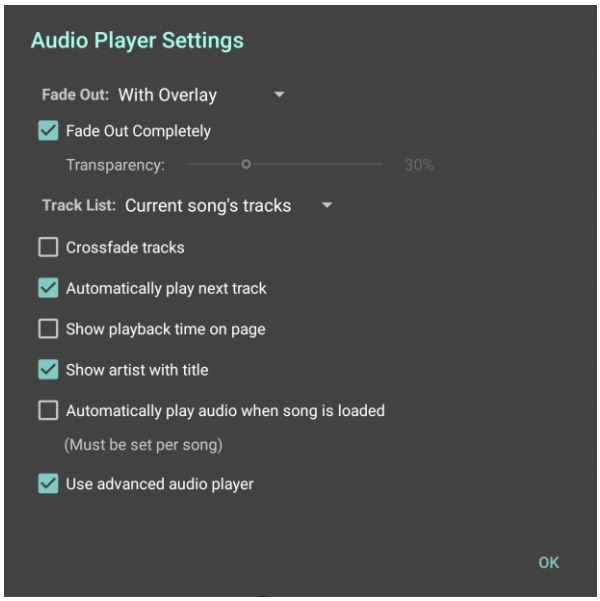


Figure 53 – オーディオプレイヤーの設定

オーディオプレイヤーの設定は、「ソングがロードされたらオーディオ再生を開始」を除いて全ソングへ共通の設定です。ソングがロードされたら即オーディオトラックを再生したい時は、ロードされるソング上でこの設定画面を開き、チェックボックスにチェックを入れます。他の設定を順番に説明します。

- **フェードアウト**: オーバーレイが閉じられたときにオーディオプレイヤーをフェードアウトするか指定します。以下の値を選択できます。
  - **無効** – オーバーレイが閉じられてもオーディオプレイヤーは表示したままにします。オーディオプレイヤー右上の「x」をタップして隠すことはできます。隠した後で再びオーディオプレイヤーを表示するには、オーバーレイ上の ▶ をタップします。
  - **オーバーレイと同時** – オーバーレイが表示されていればオーディオプレイヤーを表示し、隠れていれば表示しません。これがデフォルトの動作です。
  - **５秒後** – 5 秒間なにもなければ、つまり 5 秒の間にオーディオプレイヤー上のどこも触らなければ、オーディオプレイヤーの表示が隠されます。
- **完全にフェードアウト** – オーディオプレイヤーがフェードアウトした時に、完全に消してしまうか一部だけ表示するかを指定します。このオプションをチェックしない時は、プレイヤーの透明度を決定するスライダーが利用可能です。

- **トラックリスト** – オーディオプレイヤーがロードするトラックが、表示中のソングだけか、使用中のセットリストの全ソングかを指定します。「セットリスト中の全トラック」を選んだ際には「ソング変更でトラックを切り替え」オプションも利用可能になります。
- **クロスフェードを行う** – 有効にすると、トラック間でクロスフェードを行い、演奏中のトラックのボリュームをフェードアウトしつつ次のトラックのボリュームをフェードインします。有効時には、クロスフェードの時間を 1 秒から 11 秒の間で調整可能なスライダーも表示されます。
- **次のトラックを自動再生** – プレイリストに表示されている全トラックを連続して再生します。チェックをはずすと、再生中のトラックが終わったらオーディオプレイヤーは再生を停止します。
- **ソング変更でトラックを切り替え** – ソングが変更されたら再生中のトラックも変更するかどうか指定します。有効にした状態でセットリスト中のあるソングから別のソングへ切り替えると、オーディオプレイヤーは再生を停止してそのソングの最初のトラックへ切り替わります。この設定は、「トラックリスト」で「セットリスト中の全トラック」を選んでいるときだけ有効です。
- **ページ上に再生時間を表示** – 有効にすると、画面右上に現在再生中の箇所を示すプレイバック時間が表示されます。
- **タイトルへアーティストも表示** – ソングタイトルと一緒にアーティストも表示するかどうか指定します。この機能を使うには、オーディオトラック中にアーティスト情報が含まれていなければなりません。
- **ソングがロードされたらオーディオ再生を開始** – 有効にすると、ロードされた際にそのソングに関連付けられているオーディオファイルを自動的に再生します。各ソングごとに指定する必要があります。
- **アドバンス・オーディオプレイヤーを使用** – オーディオプレイヤーのエンジンを、Microsoft のオーディオライブラリーのものではなく、Superpowered オーディオライブラリーのものに切り替えます。ピッチ変更やテンポ調整が可能で、性能も良いです。Superpowered ライブラリー(wave と mp3 ファイルのみサポート)にロードできないファイルの場合は、Microsoft のライブラリーを使用します。オーディオプレイヤー使用中に音がつぶれたり、クラッキングやポッピングノイズが入るようなら、この機能を無効にすることで解決できることが多いです。

オーディオプレイヤー上にある各ボタンについて、続いて説明します。

	このボタンを押してドラッグすることで、オーディオプレイヤーを画面上で移動できます。移動後の位置は記憶され、次回 MobileSheets を起動したときに自動的にその場所へ配置されます。
	A-B ループを有効にします。すでに A-B ループが設定されていれば、ループの開始・終了位置を示すオレンジの縦棒が表示されます。
A	A-B ループの開始・終了位置をセットします。まず、スライダーをドラッグしてループの開始位置まで移動します。続いて Aをタップして開始位置としてセットします。ループの開始位置を示すオレンジの縦棒が表示されます。次に、ループの終了位置までスライダーを動かし、 B をタップします。A-B ループを有効にするまでは開始・終了位置は表示されないので、ループを確認したい場合はまずこれを行います。
	再生速度に影響を与えず、トラックのピッチを変更します。-12 から 12 までの各段階で調整できます。
	ピッチに影響を与えず、トラックの再生速度を変更します。0.01 から 3 までの値(通常の 1/100 から 3 倍までのスピード)から選ぶことができます。
	ミュートもしくはミュート解除します。このアイコンの右側にあるスライダーでボリュームを調整できます。ミュート状態のときはアイコンが に変化します。
	前のトラックへ戻ります。プレイリスト上にトラックがひとつしかない時は、何も効果がありません。
	トラック中で巻き戻します。タップすると 5 秒分もどります。押し続けると巻き戻し続けます。
	トラックの再生を一時停止します。トラックが再生停止中であれば、再度タップすることで再生を再開します。
	トラックを再生します。すでにトラックを再生中にタップすると、トラックの最初から再生しなおします。
	トラックの再生を終了します。
	トラック中で早送りします。タップすると 5 秒分進みます。押し続けると早送りを続けます。

▶I	次のトラックへスキップします。プレイリスト中にトラックがひとつしかなければ、なんの効果もありません。
⇄	リピートモードを設定します。一回タップすると、プレイリストを繰り返します。もう一度タップすると再生中のトラックを繰り返します。さらにタップするとリピート解除です。

最後に説明する アイコンはスピーカーのパンニングを操作します。タップした後の画面です。

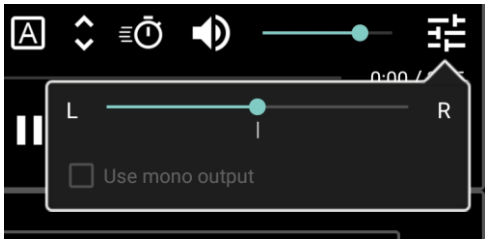


Figure 54 – スピーカーのパン操作

どちらか片方へ完全にパンすると、「モノラル出力」のチェックが有効になります。これで、シングルチャンネルのオーディオを同時に両方のスピーカーから出力することができます。

メトロノーム画面

MobileSheets にはオーバーレイからアクセス可能なフル機能のメトロノームがあります。複数の表示モード、サウンド効果、テンポとビートをコントロールするオプションを持ちます。メトロノーム画面は以下のような感じです。

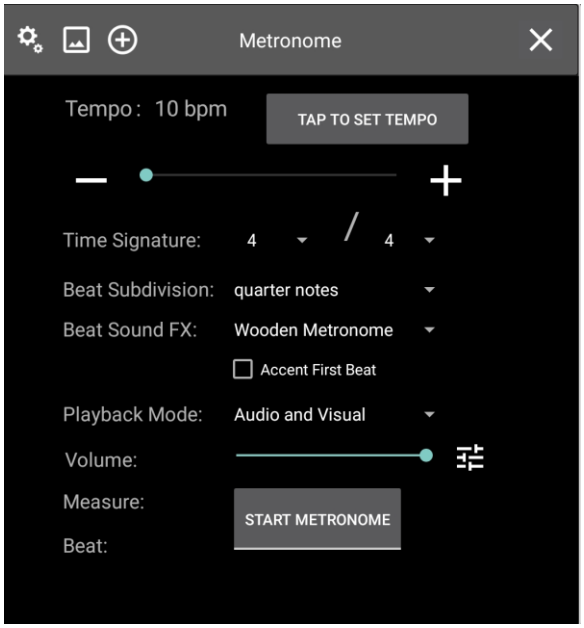


Figure 55 - メトロノーム画面

テンポの調整、拍子記号、拍の分割、サウンド効果、頭でアクセント、ボリューム、左右のスピーカー間のパン設定があります。画面表示のみかオーディオ付きか、再生モードも変更できます。一番上にテンポを「タップしてセット」するボタンがあり、テンポ設定を助けてくれます。スライダーでテンポを調整でき、左右のプラスとマイナスのボタンで 1BPM ずつ上下します。ビートの音色名で、各ビートを表現するサウンドを選択できます。以下の音色が用意されています。

- 木のメトロノーム
- “ピン！”
- デジタルメトロノーム
- ハイハット
- キックとハイハット
- ボンゴ
- カウベル
- 金属のメトロノーム

- ウッドブロック

「最初のビートにアクセント」をチェックすると、各小節の頭にあたる拍の音が変わりビートを識別しやすくなります。

画面左上にいくつかアイコンが並んでいます。最初の アイコンをタップすると、次のようなメトロノームの再生設定画面を呼び出します。

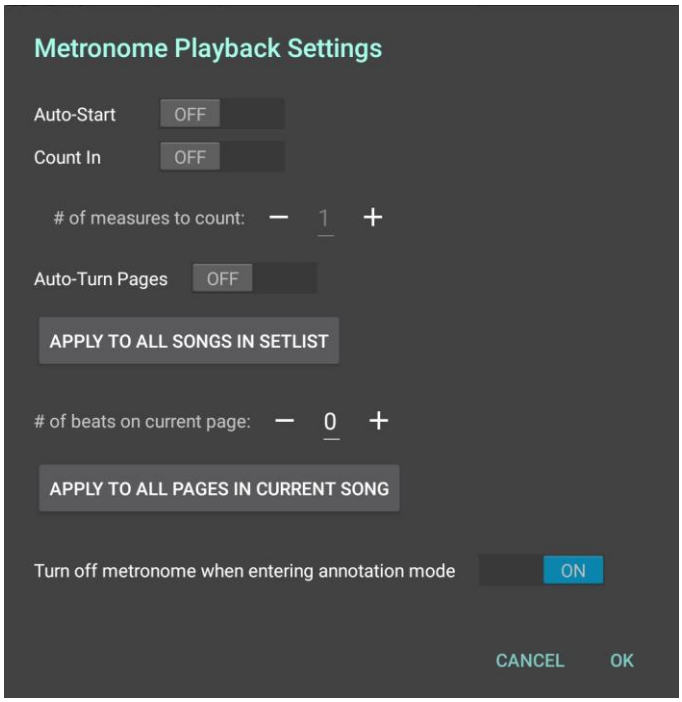


Figure 56 - メトロノームの再生設定

メトロノームの再生設定はソングごとに設定しなければなりません。ロードしているソングやセットリストにあわせた、メトロノームのふるまいを指定できます。各設定をそれぞれ説明します。

- **オートスタート** – ソングが読み込まれたら即メトロノームをスタートするかどうか指定します。ソングがセットリストの一部だった場合、そのソングが表示されると同時にメトロノームがスタートします。
- **カウントイン** – 指定された拍数だけカウントインした後で、メトロノームは停止します。カウントインの途中でメトロノームを止めると、カウントインをスキップします。必要であればカウントインをやめて、メトロノームは止まらずに再生を続けます。

- **カウントする拍数:** カウントインが有効なとき、メトロノームが停止するまで何小節分だけカウントするかを指定します。

- **自動ページめくり** – ページに指定された拍数分だけ経過したらメトロノームがページを自動的にめくるかどうか指定します。
- **セットリスト中の全ソングへ適用** – ここで指定したオートスタート、カウントイン、カウントする拍数、自動ページめくりの各設定を、セットリストに含まれる全ソングへも適用します。
- **現在のページ中の総拍数** – 現在表示中のページが何拍で構成されているか指定し、自動ページめくりに利用します。ここで指定された拍数だけメトロノームはカウントした後でページをめくります。ソング中の各ページごとに指定する必要があります。
- **現在のソングの全ページへ適用** – 「現在のページ中の総拍数」で指定した拍数を、全ページに対して適用します。
- **アノテーションモードではメトロノームをオフにする** – アノテーションモードに入ったらメトロノームを停止します。

ウィンドウ左上に並ぶ次のアイコンは です。メトロノームの表示設定を変更します。

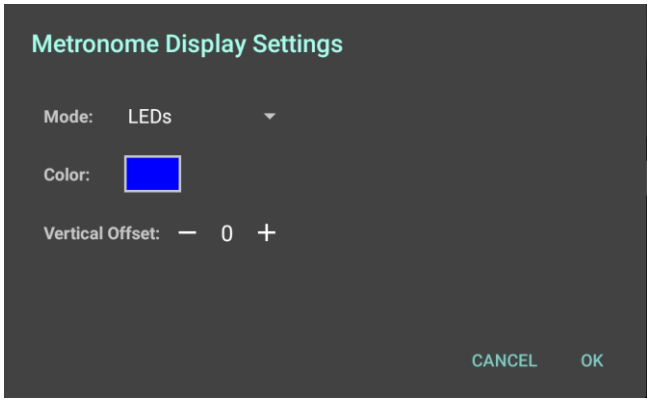
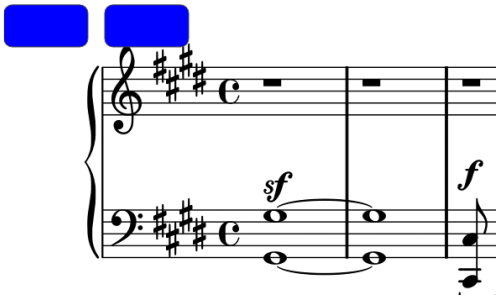


Figure 57 - メトロノームの表示設定

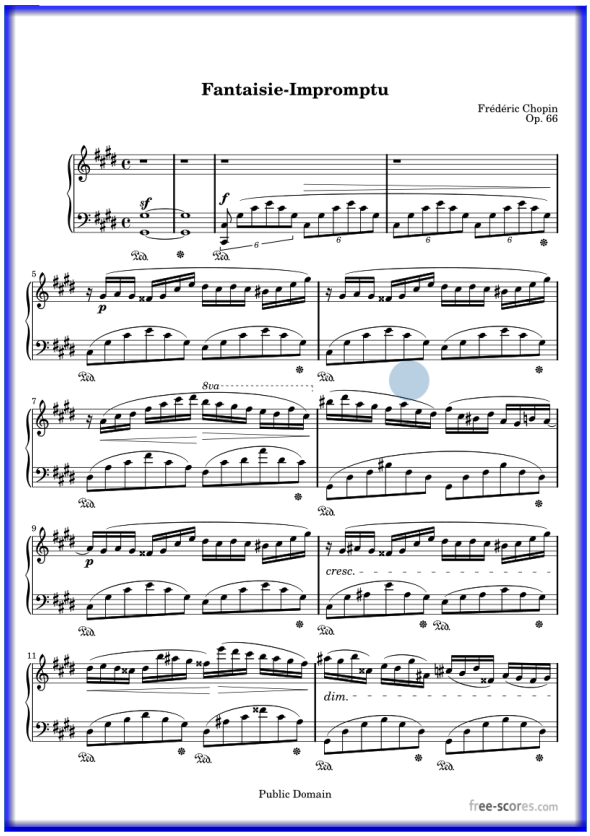
最初のドロップダウンから４つの表示モードを選択できます。LED、フラッシュ、メトロノーム、円、です。「メトロノーム」以外の設定では、２つめのドロップダウンを使って色を変更できます。四角い色見本をタップしてカスタムで色を作ることもできます。４つの表示モードを理解するために、各モードのそれぞれの画像を使って説明しましょう。

LED:



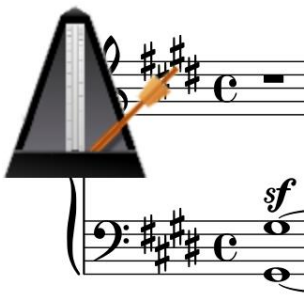
LED で塗りつぶされた箱が画面左上にいくつか並びます。箱の数が小節中の何拍めかを示します。

フラッシュ:



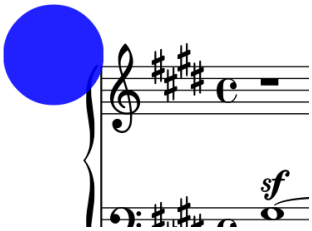
画面全体を囲むように、ビートにあわせて色のついた枠が点滅します。「最初のビートにアクセント」を指定していると、最初のビートでは枠はオレンジ色になります。

メトロノーム:



画面左上に、小さなメトロノームを表示します。ビートにあわせアームが左右交互に振られます。

円:



画面左上のすみに、点滅する円を表示します。拍の頭で現れ、すぐに消えていきます。フラッシュモードと同様、最初のビートにアクセントを指定すると、最初のビートはオレンジ色の円になります。

「縦方向の位置」はメトロノームの表示を、画面上で上下に動かします。

メトロノーム画面には、⊕のアイコンもあります。このアイコンをタップすると、表示中のソングにさらにテンポが追加されます。ソング中でテンポを切り替えることができ、ソングに複数のテンポチェンジが含まれているときに便利です。テンポ表示の隣にドロップダウンが表示され、現在どのテンポなのかを選択できます。画面上の 🗑 アイコンをタップしてテンポを削除することができます(２つ以上のテンポがある時に限り)。テンポの切り替えをタッチやペダル操作で行うよう設定できます。指定された拍数だけカウントしたあとにテンポを切り替える機能が、将来搭載される予定です。

スニペットツール

スニペットは、一部分を切り出して新しくソングを作る非常に便利な機能です。ソングオーバーレイの左下にある⊙ポップアップメニューからアクセスします。スニペットツールを使って、複数のソングを含む PDF を同じファイルを共有する一連のソングへ切り分けることができます。

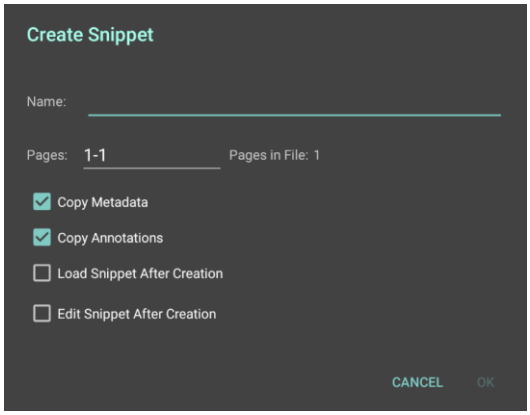


Figure 58 スニペットツール

この画面で、新しく作成されるソングの名前と、表示中のソングのどのページを新しいソングへ割り当てるか指定します。指定できるページ範囲は 1 から「ページ番号」に表示される数字までの間です。ページが連続する必要はなく、「1, 3, 5-7, 9」のように必要なページだけを記載できます。「メタデータをコピー」にチェックすると、作成されるソングへ、表示中のソングと同じメタデータ(アーティスト、アルバム、ジャンルなど)を設定します。同様に、「アノテーションをコピー」でアノテーションをコピーするかどうか指定します。「作成後にスニペットをロード」をチェックすると、作成後すぐに新しいソングがソングディスプレイへ読み込まれます。「作成後にスニペットを編集」をチェックすると、新しいソング用にソングエディターが起動します。

クイックアクションボックス

ソングディスプレイの右下隅(この画像で説明したタップゾーンを見てください)をタップすると、クイックアクションボックスが表示されます。オーディオプレイヤーの開始・停止、メトロノーム、自動スクロール、

パフォーマンスモードなどのボタンで構成されます。好きな機能を割り当てられるボタンも１つあります。クイックアクションボックスの画面はこんな感じです。

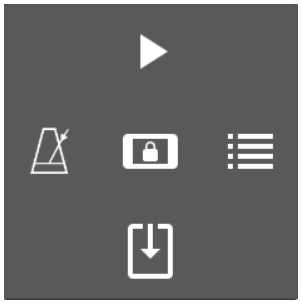


Figure 59 – クイックアクションボックス

５秒間、何も操作しないとクイックアクションボックスは自動的にフェードアウトします。それぞれのボタンには次のアクションが割り当てられています。

	メトロノームをオンにする。このアイコンを長押しすると、メトロノーム画面を表示します。
▶	オーディオプレイヤーにロード済みのトラックを再生する。長押しするとオーディオプレイヤーを表示します。

	セットリスト画面を表示します。長押しすると以下の各アクションにこのボタンの割り当てを切り替えます。 • **セットリスト画面の表示** – セットリスト画面を表示します。 • **ブックマークを表示** – ブックマーク画面を表示します。 • **セットリストへ新規ソングを追加** – セットリストが読み込まれていれば、セットリストへ追加するソングを選ぶダイアログ画面を表示します。ソングが読み込まれていれば、そのソングの追加先を選ぶセットリスト一覧を表示します。 • **リクエストに応じてセットリストを中断** – 詳細はこちら。 • **ソングを検索してロード** – ソングの検索画面を表示し、ロードします。 • **ソングの編集** – 表示しているソングに対してソングエディターを起動します。 • **設定画面** – 設定画面を呼び出します。 • **ペダルアクションの設定** – ペダルアクションの定義画面を呼び出します。 • **ナイトモード切替** – 白地に黒ではなく、黒字に白で表示するナイトモードへ切り替えます。 • **アノテーション追加** – 表示中のソングをアノテーションエディターで編集します。 • **テキストファイル設定の変更** – テキスト表示設定を呼び出します。テキストが読み込まれた状態ならそのテキストファイルの設定を変更し、そうでなければテキストのデフォルト設定を変更します。 「セットリスト画面の表示」以外のアクションに切り替えると、アイコンは に切り替わってカスタムのユーザー設定が選ばれていることを示します。
	自動スクロールを開始する。長押しすると自動スクロール設定を呼び出します。
	パフォーマンスモードのオンオフを切り替えます。パフォーマンスモードではオーバーレイは無効になり、画面のタップ操作はページめくりだけになります。

ライブ演奏中は、オーバーレイとズーム操作が無効になるパフォーマンスモードにしたくなるでしょう。パフォーマンスモードが有効な間、他の機能へアクセスするための窓口となるクイックアクションボックスは非常に重要になります。

自動スクロール

MobileSheets のもっとも便利な機能として、ペダルや自動スクロール機能を使ったハンズフリーでの操作があります。自動スクロールはとても自由度が高く、適切な間合いをもたせたスクロールやページめくりを設定できます。自動スクロールは垂直スクロールのディスプレイモードと組み合わせると強力で、ゆっくりと連続したスクロールが可能になります。自動スクロールはソングごとに設定できるため、そのふるまいを細かく調整できます。セットリスト中の各ソングの最後のページに到達すればスクロールは自動的に止まるため、ソングを終えた後に先へ勝手にスクロールする危険はありません。自動スクロールは、いくつかの手順で開始することができます。

- オーバーレイにある アイコンをタップして、「スクロールの開始」をタップする。
- 右下隅をタップしてクイックアクションボックスを呼び出し、 アイコンをタップする。
- タッチやペダルアクションのいずれかに「スクロールの開始・停止」を割り当てる。

自動スクロールの設定を変更するには、オーバーレイの アイコンをタップして「スクロール設定」を選ぶか、クイックアクションボックスの アイコンを長押しします。次の画面が表示されます。

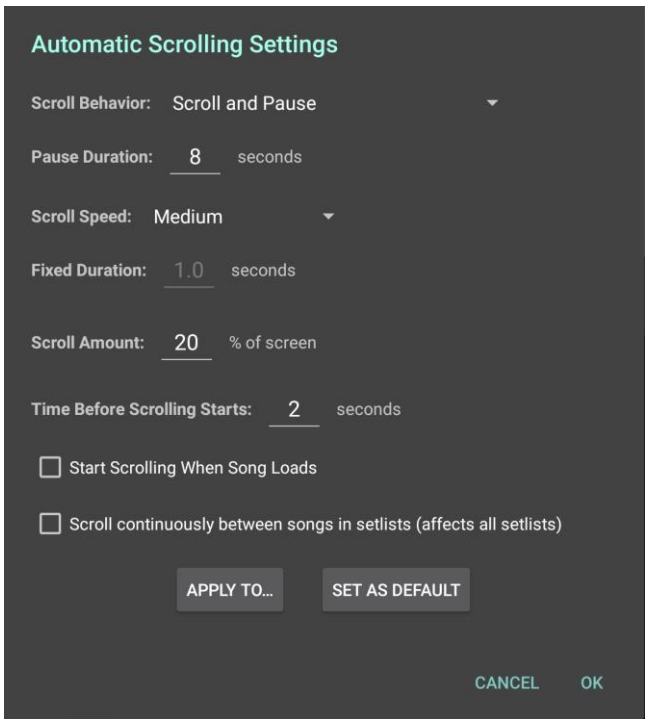


Figure 60 - 自動スクロールの設定

以下の設定が可能です。

- **スクロール動作** – 各ページをどうスクロールするか指定します。４つのモードがあります。
  - **スクロールしてポーズ** – 各ページは「スクロール量」で指定した割合までスクロールし、「ポーズ時間」で指定した時間だけ止まった後、スクロールを再開します。
  - **スクロールしてページめくり後ポーズ** – 各ページは最後までスクロールされた後で次のページへめくり、「ポーズ時間」で指定した時間だけ止まり、再開します。
  - **最後までスクロール** – ソングの最後に到達するまで、スクロールしてページをめくり続けます。
  - **ソング全体を一定の時間でスクロール** – 指定した時間をかけてソングの最後までスクロールします。選択すると「合計演奏時間」の入力が可能となります。
- **ポーズ時間** – スクロール動作の合間に停止する時間です。
- **スクロールスピード** – 画面のスクロールスピードです。「スクロール量」と組み合わせて、画面のどれだけをどのくらいの速さでスクロールするかを決定します。選択可能な値は以下のとおりです。それぞれの数字は、「スクロールしてポーズ」では一回あたりのスクロールに要する時間を、その他のモードでは１ページあたりの表示時間をあらわします。
  - **もっとも遅い** – 90 秒
  - **より遅く** – 75 秒
  - **遅く** – 60 秒
  - **中くらい** – 45 秒
  - **速く** – 30 秒
  - **より速く** – 15 秒
  - **もっとも速く** – 7.5 秒
  - **すぐに** – すぐにスクロール(アニメーションしません)
  - **一定時間** – 「固定時間」で指定した秒数
  - **メトロノームを使用** – その時点でのメトロノームテンポをもとにスクロールします。小節の拍数÷BPS×一段あたり四小節＝スクロールごとの秒数、になります。
- **固定時間** – スクロールスピードを「一定時間」にしたときに、スクロール動作に応じてスクロール一回あたりまたはページごとの時間になります。

- **スクロール量** – 「スクロールしてポーズ」を指定した時に、一回のスクロールでページをどれくらいの割合ずつ進めるか指定します。
- **スクロール開始までの時間** – スクロールが始まるまでに待つ秒数です。
- **ソングがロードされたらスクロールを開始** – このソングがロードされると同時に自動スクロールを開始します。
- **セットリスト中のソング間でスクロールを継続** – 通常は、ソングの最後のページに到達すると自動スクロールは停止します。こうして MobileSheets がセットリスト間のソングを切り替えないようにしています。そうではなく、もし連続して全ソングを通じてスクロールしたい時は、この設定を有効にします。
- **適用先** – 指定したスクロール設定の適用先を、表示中のソング、セットリスト中の全ソング、ライブラリー中の全ソング、から選びます。
- **デフォルトに設定** – 指定したスクロール設定を、新規ソング作成時に使われるデフォルト値として設定します。

ページスライダー

ソングオーバーレイの一番下には、表示するページを変更するページスライダーと呼ぶスライダーがあります。ソングが 1 つだけ読み込まれている時は、スライダーには現在表示中のページ番号とソングの総ページ数が表示されます。セットリストを読み込んでいるときは、セットリストに含まれる全ソングの総ページ数に対する現在のページ番号が表示され、スライダーの上へ、表示中のソング内での現在の位置に関する情報が表示されます。ページを変更するためにスライダーを長押しすると、スライダーの上にプレビューが表示され、指を離すまではどのページをめくっているかが見えます。プレビューは次のような画面で表示されます。

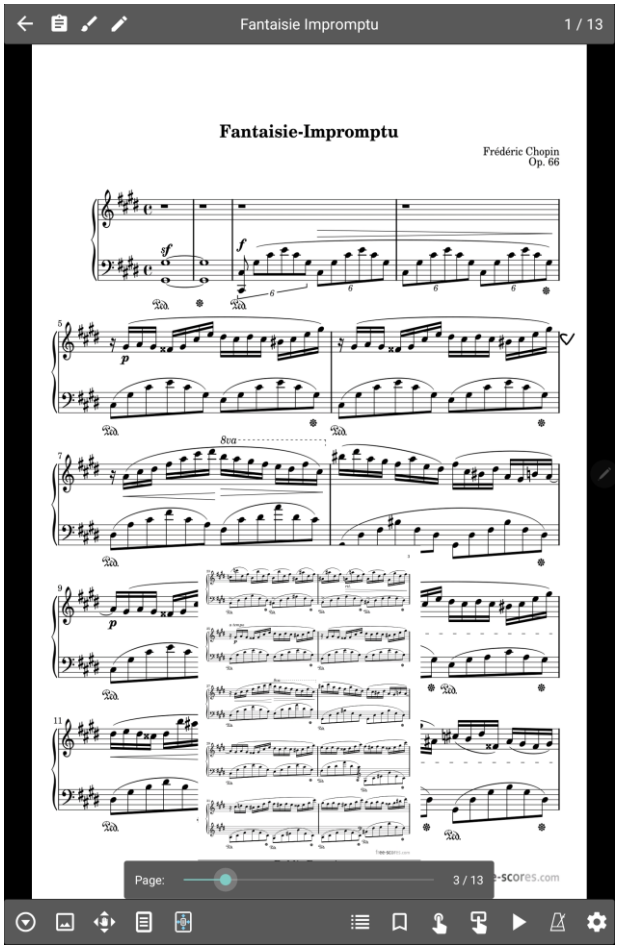


Figure 61 - ページスライダーでのプレビュー

通常、ページスライダーはオーバーレイが表示されている間だけ表示されます。常にページスライダーを表示しておきたい場合は、表示設定で変更します。逆に、ページスライダーを嫌うのであれば、常に隠しておくこともできます。

移調

テキストファイルを表示している間は、ソングオーバーレイの右上に♩アイコンが表示されます。このアイコンをタップすると、テキストファイルの移調ための次のような画面が表示されます。

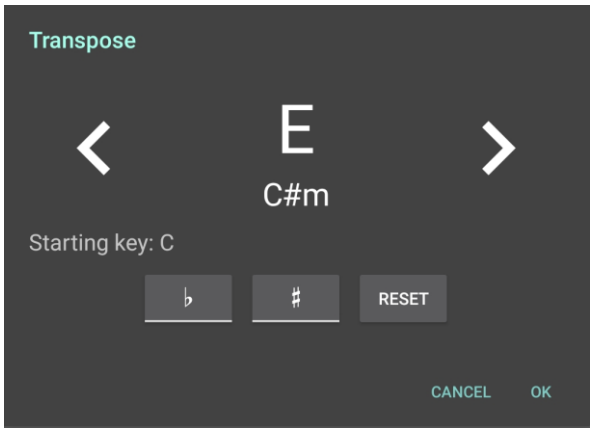


Figure 62 – 移調画面

移調ダイアログは直感的でシンプルです。別のキーに移調するには、所望のキーまで左右の矢印アイコンをタップします。シャープのキーにしたい時は ♯ をタップして切り替えます。フラットのキーにしたいときは ♭ のタップで切り替えます。ソングの最初のキーと、ここで移調先として指定したキーとの音程差がコード表示の変更に使われます。このダイアログを表示したときの最初のキーへ戻りたいときは、リセットボタンをタップします。

テキストファイル設定

テキストファイルを表示していると、ソングオーバーレイの右上に A アイコンが表示されます。このアイコンをタップすると、「テキスト表示の設定」または「ファイルの編集」メニューが表示されます。最初のメニューでは現在表示中のソングのテキスト表示の設定を変更します。

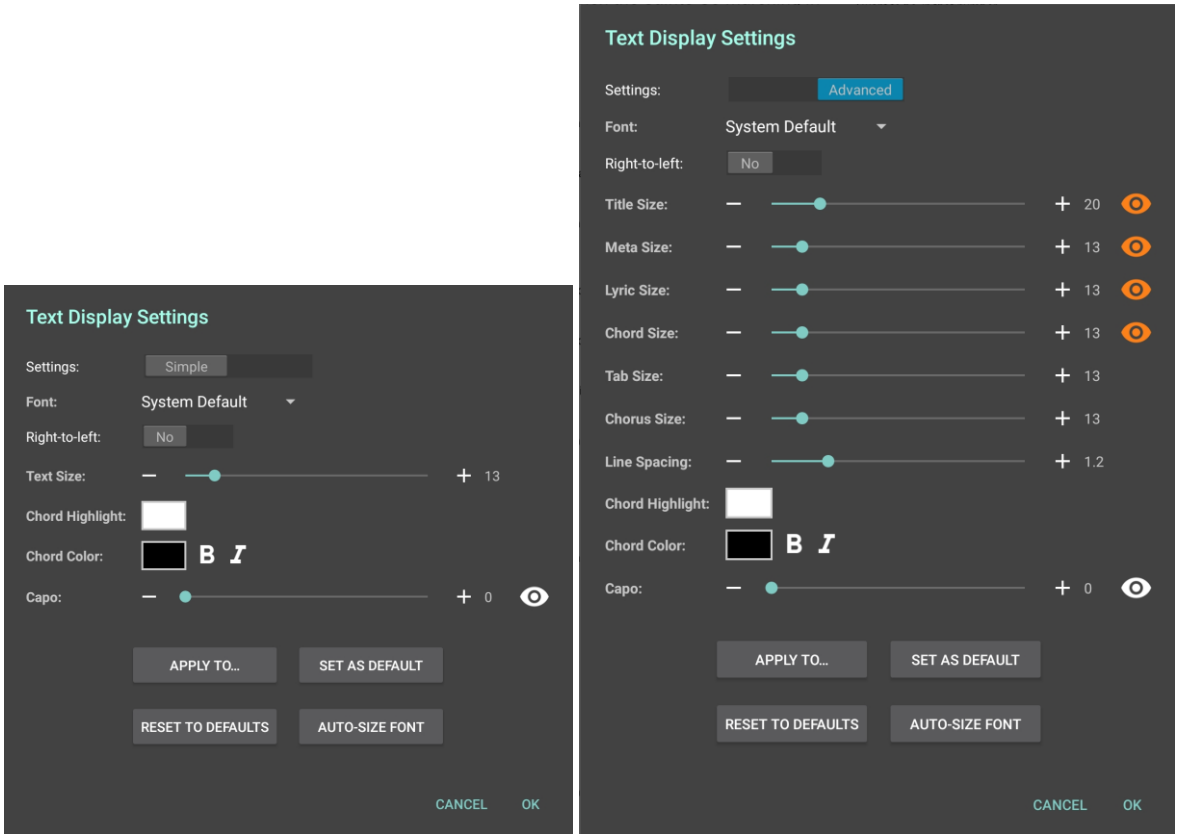


Figure 63 - テキスト表示の設定(左側がシンプル、右側はアドバンスド)

上の図のように、シンプルとアドバンスドの 2 つのモードがあります。画面一番上に切り替えスイッチがあり、デフォルトはシンプルです。両者の違いは、シンプルではほとんどのユーザーにとっては不要な項目を隠している点です。ダイアログ画面上で設定を変更すると即座に背景に表示されるテキストの見栄えへ反映されます。OK ボタンをタップするまでは実際には適用されません。以下の設定項目があります。

- **エンコード**: UTF8 や ASCII といった、ファイル読み込み時の文字コードを指定します。読み込んだファイルが正しく表示されず？マークの書かれたダイヤモンドが並ぶときはエンコードを変更してみてください。「設定 > テキストファイル > ファイルのエンコードを表示」が有効な時のみこの設定を利用できます。
- **フォント**: テキスト表示用のフォントを変更します。サポートするフォントの種類は以下のとおりですが、必ずしもどのデバイスでも全てのフォントが使えるわけではありません。デバイスで利用可能なフォントだけが表示されます。

- **System Default –** ダイアログ表示やラベルで使われているシステムのデフォルトフォントを利用します。
- **Monospace –** 固定幅のフォントです。綺麗ではないですが、タブ譜のようにすべての文字を同じ幅にして正しく表示したい際に利用します。
- **Sans Serif –** ほとんどのタブレットでは、システムデフォルトと一緒のフォントです。
- **Serif –** サンセリフより少し幅広で使いやすいフォントです。
- **Light –** サンセリフよりも少し細いフォントです。
- **Condensed –** 文字間の隙間がサンセリフより狭いフォントです。
- **Condensed Light –** サンセリフよりも文字間隔が狭く細いフォントです。
- **Thin –** 非常に細いフォントです。
- **Medium –** サンセリフより太いフォントで、暗い感じになります。
- **Black –** ミディアムよりさらに太いフォントで、黒くなります。

- **右から左へ:** ファイルをインポートすると、MobileSheets はそのファイル中にヘブライ語など右から左へ書く言語が含まれているかチェックします。検出すると、「右から左へ」設定を有効にし、それに応じてファイルの表示レイアウトも切り替わります。ここの設定を使って、検出した「右から左へ」設定を上書きすることができます。
- **タイトルのサイズ:** タイトルの表示サイズです。chord pro の書式規約にしたがって指定されていない限り、ファイルの最初の行がタイトルとして扱われます。
- **メタデータのサイズ:** サブタイトルやアーティストなどの情報を表示するフォントのサイズです。
- **歌詞のサイズ:** 歌詞の表示に使われるフォントのサイズです。
- **コードのサイズ:** コードの表示に使われるフォントのサイズです。
- **タブ譜のサイズ:** タブを表示する際に使われるフォントです。
- **サビのサイズ:** コーラス部分を表示する際に使われるフォントです。
- **行間:** 歌詞とコードの各行の間隔です。幅を何倍にするかで指定します。
- **コードの強調:** コードの背景色です。白以外の色を選択すると、コードの背景を四角いブロックで塗りつぶし、コードが目立つようにします。
- **コードの色:** コード表示に用いる色です。歌詞と区別して見やすくします。
- **カポ:** ソングで使われるカポを変更します。カポは移調と似ており、コード表示を変更します。テキスト設定で「カポでキーを下げる」をチェックしていると、カポで指定した音程だけ下のキ

ーへコードが変更されます。例えば、通常はＣで表示されるコードは、カポ値を３にするとＡとして表示されます。ギターの第三フレットにカポをつけてＣを弾きたい時は、Ａのポジションを押さえなければ同じコードにならないからです。「カポでキーを下げる」のチェックをはずすと、Ｅｂが表示され、第三フレットにカポをつけてＣのポジションで弾いた時に実際に鳴るコードはカポ無しのときのＥｂと同じだからです。

- **適用先:** 設定の適用先を、表示中のファイル、表示中のソングに含まれる全ファイル、セットリストに含まれる全ファイル、ライブラリー中の全ファイル、から選択します。
- **デフォルトに設定:** テキストファイルのデフォルト設定を、現在の設定内容で置き換えます。
- **デフォルトに戻す:** このダイアログを表示したときの最初の設定へリセットします。
- **自動のフォントサイズ:** 各行が重ならないもっとも大きなフォントサイズで表示します。やたらと大きいフォントが選ばれないよう、「自動フォントサイズの最大値」はデフォルトでは 30 にセットされています。30 以上のサイズで表示可能でも、30 が使われることを意味します。

場合によっては、テキストファイル表示設定のダイアログは、現在表示中のテキストファイルにではなく、デフォルトのテキスト設定を変更します。このような場合、カポ関連の設定は表示されません。

CHORD PRO ファイル

Chord pro ファイルはテキストベースのファイルで、読み込まれた時のプログラムへの指示を含んでいます。これを利用して、プログラムはタイトルを大きめに表示したり、コードを歌詞と並べるのではなく歌詞の上に表示したり、といったテキスト表示の工夫ができます。単なるテキストファイルより強力です。MobileSheets は、テキストファイルでもいくつかの機能(例えばコードを歌詞の上に表示する)が使えるようにしていますが、多くの機能は chord pro でしか使えません。歌詞とコードとを組み合わせる際には Chord pro ファイルを使うことを MobileSheets が推奨する理由です。chord pro ファイルの書式や規約は http://www.chordpro.org で確認できます。

MobileSheets はほとんどの標準規約と、いくつかのカスタム規約をサポートします。以下の表は、どのコマンドをサポートし、どのような効果があるかを説明します。左側の列に複数の書式が並んでいることがありますが、すべて同じ動作をします。ご自分にあった書式を選んでください。

{title:text}, {t: text}	タイトルです。通常、画面の一番上に大きめのフォントで表示

	されます(タイトルのフォントサイズを個別に指定できます)。
{subtitle:text}, {st:text}, {su:text}	サブタイトルです。メタデータのサイズで指定された大きさで、タイトルのすぐ下に表示されます。
{album:text}, {a:text}	アルバム情報です。最初にインポートされた時に、ソングのアルバム属性へ自動的に取り込まれます。
{artist:text}	アーティスト情報です。タイトルとサブタイトルの下に表示されます。メタデータのサイズが使われます。ファイルが最初にインポートされたときに、アーティスト属性を設定する目的でも使われます(「ソング作成時にテキストフィールドを利用」設定を参照)。
{key:text}	ソングのキーです。コードの移調に重要な情報です。ファイルが最初にインポートされたときに、キー属性を設定する目的でも使われます(「ソング作成時にテキストフィールドを利用」設定を参照)。
{capo:number}	ソングのカポ情報です。
{tempo:number}	ソングのテンポです。ファイルが最初にインポートされたときに、テンポ属性を設定する目的でも使われます(「ソング作成時にテキストフィールドを利用」設定を参照)。
{time:text}	ソングの拍子記号です。ファイルが最初にインポートされたときに、拍子情報を設定する目的でも使われます(「ソング作成時にテキストフィールドを利用」設定を参照)。
{duration:number}	ソングの演奏時間です。ファイルが最初にインポートされたときに、演奏時間を設定する目的でも使われます(「ソング作成時にテキストフィールドを利用」設定を参照)。
{comment:text}, {c:text}, {guitar_comment:text}, {gc:text}	ファイル中のコメントで、斜体(イタリック)で表示されます。
{comment_box:text”}, {cb:text}	四角く囲った箱の中にコメントが表示されます。
{start_of_chorus}, {start_of_chorus:text}, {soc}	コーラス(サビ)の開始箇所です。コーラス部分の上には指定した文字(指定しない場合は「**Chorus**」)が表示されます。コーラスは{chorus}コマンドで何度でも繰り返すことができます。
{end_of_chorus}, {eoc}	コーラスの終了箇所です。
{start_of_tab}, {sot}	タブ譜の開始箇所です。このタグからタブ終了箇所までにある

	テキストはすべてモノスペース(固定幅)フォントで表示されます。ギターのタブ譜のようにすべての文字を完全に同じ幅で表示することで列を揃えたい場合に便利なコマンドです。
{end_of_tab}, {eot}	タブ譜の終了箇所です。
{tabsize:number}	タブ譜のフォントサイズを指定します。ファイルを最初にインポートした時にだけ認識されます。
{copyright:text}	各ページの一番下へ、著作権表示としてすべて大文字の太字で表示します。
{footer:text}	各ページの一番下へ、テキストを毎回表示します。
{book:text}	{album}と同じ役目です。
{textsize:number}	フォントサイズを指定します。ファイルを最初にインポートした時にだけ認識されます。
{textfont:text}	使用するフォントを指定します。ファイルを最初にインポートした時にだけ認識されます。以下のいずれかでなければなりません。 • Monospace • Sans Serif • Serif • Light • Condensed • Condensed Light • Thin • Medium • Black すべてのタブレットで全フォントがサポートされるわけではありません。最近、新しい OS で導入されたフォントもあります。
{chordsize:number}	コード表示用のフォントサイズです。
{chordfont:text}	コード表示用のフォントです。利用可能な値については{textfont}を参照してください。
{highlight:text}	テキストを黄色い背景で目立たせて表示します。
{chorus}	{soc}と{eoc}で指定したコーラス部分を繰り返します。サビの部分を何度もファイル中で繰り返さなくてもよくなります。
{chorussize:number}	コーラス部分のフォントサイズです。ファイルを最初にインポート

	した時にだけ認識されます。
{new_page}, {np}	ページ送りです。このコマンドから後ろは新しく次のページに表示されます。
{tabsize}	ここから先はタブ譜用のフォントサイズを利用します。
{chorussize}	ここから先はコーラス部分用のフォントサイズを利用します。
{meta field: value}, {meta: field value}	ソングのメタデータを、与えられた値で指定された属性フィールドへ設定します。サポートするフィールド名は以下です。 • sorttitle • collection • setlist • source • genre • difficulty • custom • custom2 • customgroup • keywords • rating
{column_break}, {cb}	複数行の表示が有効な時に、改行します。次の行を表示する十分な場所が無ければ、改ページとして働きます。
{transpose: steps}	このキーワードの後ろにある全コードを、指定した音程だけ移調します。移調は{transpose: 0}または値なしの{transpose}でクリアできます。実際の移調の幅は、ここでの設定値とMobileSheetsPro のソングの移調とカポ設定の合計になる点に注意してください。
{start_of_part:text}, {spp}	パートの開始位置です。太字で表示されます。
{end_of_part}, {eop}	パートの終了位置です。
{start_of_verse:text}, {sov}	バースの開始位置です。太字で表示されます。
{end_of_verse}, {eov}	バースの終了位置です。

テキストファイルエディター

新しくテキストや chord pro ファイルを作成したり、既存のファイルを編集できるテキストエディターを MobileSheets は備えています。新規ファイルを作成するには、アクションバーで「新規」をタップして

ソングエディターを起動し、ファイルタブの アイコンをタップします。新しいファイル名を入力するよう求められ、MobileSheets のストレージの適切な場所へ保管されます。他になにもファイルが含まれていないソングでもファイルを作成できます。すでにテキストや chord pro ファイルが含まれるソングでは、編集用に同じアイコンが表示されます。同様に、テキストや chord pro ファイルを使ったソングを表示している間は、ソングオーバーレイ上にある A アイコンで編集ができます。

テキストエディターでは、画面中央にファイルのコンテンツが表示され、以下のように画面上部にいくつかのコマンドからなるアクションバーが表示されます。

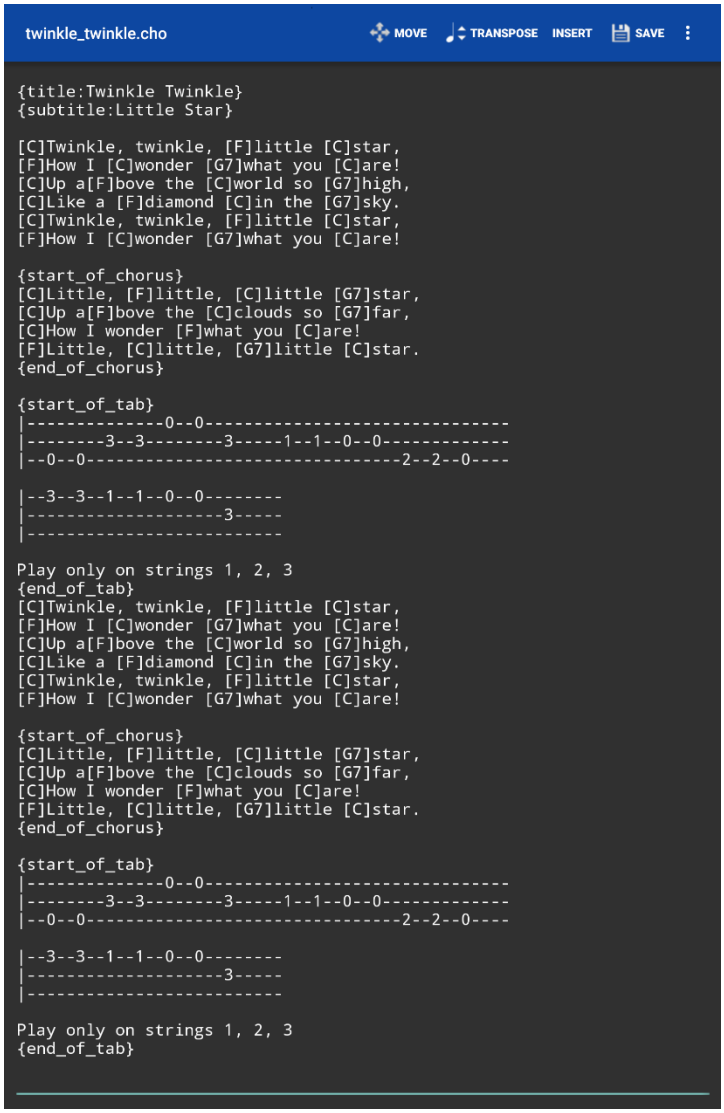


Figure 64 - テキストファイルエディター

上に表示されるコマンドを説明します。

- **移動** – コード移動モードに入ります。Chord pro ファイルを編集している時だけ有効です。コードをタップするとコード全体(カギかっこを含め)が選択され、コードを一文字ずつ左右へ動かすスライドバーが表示されます。ファイル中でコードを簡単に移動できます。ツールバー上の「X」をタップすると、次のコードをタップするまで表示が隠れます。
- **移調** – ファイル中のコードを移調します。ソングオーバーレイで表示される移調設定と同じ画面が表示され、矢印をタップしてキーを変更したりフラットやシャープを指定できます。
- **挿入** – コードや特定のコマンドをファイル中に挿入して編集を助けます。Chord pro ファイルを編集している時だけ有効です。
    - **タイトル** – {title:}コマンドを挿入し、カーソルをコロンの後ろへ移動します。
    - **コード** – コード入力用にカギかっこを挿入し、かっこの間へカーソルを移動します。
    - **コメント** – {comment:}コマンドを挿入し、カーソルをコロンの後ろへ移動します。
    - **コーラスセクション** – {start_of_chorus}と{end_of_chorus}のペアを挿入し、カーソルをその間へ移動します。
    - **タブセクション** – {start_of_tab}と{end_of_tab}のペアを挿入し、カーソルをその間へ移動します。
    - **コーラス繰返し** – サビの繰り返しを意味する{chorus}を挿入します。
- **保存** – ファイルへ行った変更をすべて保存し、エディターを終了します。
- **キャンセル** – これまでの変更をすべてキャンセルし、エディターを終了します。
- **プレビュー** – テキストや chord pro ファイルをソングディスプレイへ普通に表示したときにどのように見えるかプレビューします。
- **コード挿入モード** – このモードに入ると、ファイル上でタップした場所へコード用のカギかっこが挿入され、かっこの間へカーソルが移動します。順番にたくさんのコードを入力するときに便利です。

ネクストソング・バー

セットリストを使っているときに、ソングの最後のページに到達して、次の曲が何であるかがわかると、便利です。目障りにならないよう便利にこれを実現するために、ネクストソング・バーが導入されました。ソングの最後のページに到達すると画面の上にネクストソング・バーが表示され、次のソングのタイトルが表示されます。設定次第で、ネクストソング・バーは指定秒数だけ表示したあとでフェードアウトさせられます。次の曲がなにか常に知っておきたいなら、ネクストソング・バーを表示しっぱなしにする設定も可能です。ネクストソング・バーの画面例です。

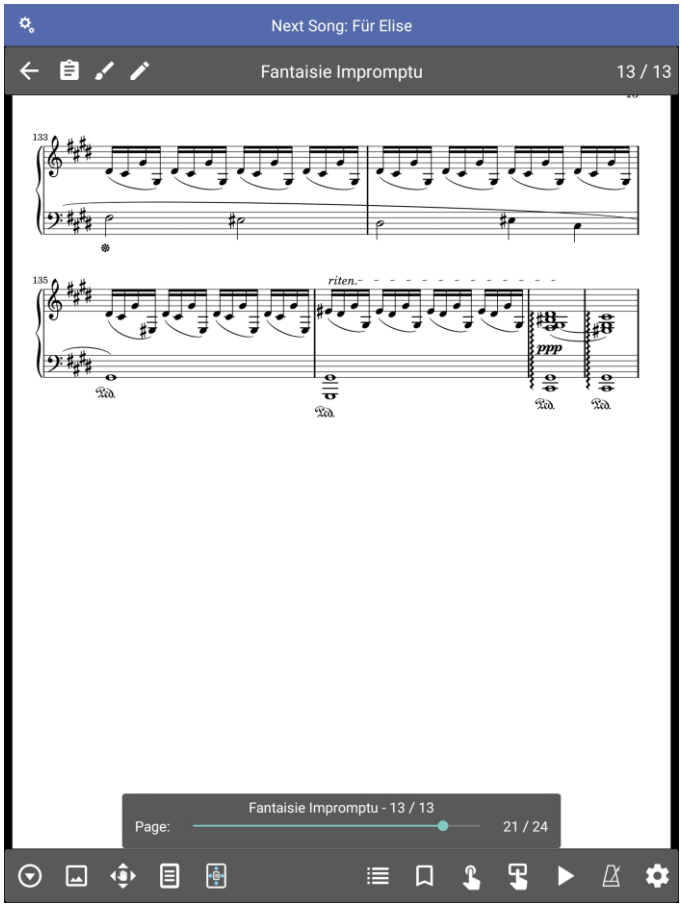


Figure 65 – ネクストソング・バー

ネクストソング・バーの設定は、バーの左端にある アイコンから行います。

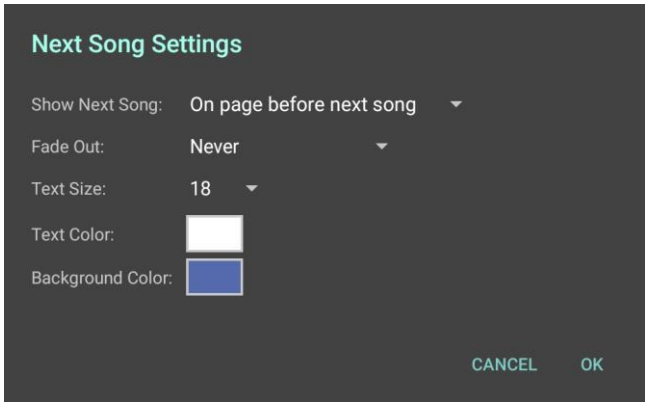


Figure 66 - ネクストソング設定

「次のソングを表示」ではネクストソング・バーをいつ表示するかを決定します。

- **無効** – ネクストソング・バーを表示しません。
- **次のソングの前のページ** – 表示中のソングが最後のページに到達したときにはじめてネクストソング・バーを表示します。
- **常に** –ネクストソング・バーを常に表示します。

「フェードアウト」ではネクストソング・バーがフェードアウトするまでどれだけかかるかを指定します。

- **無効** – ページをめくるまではネクストソング・バーを表示したままにします。
- **２秒後** – ２秒後にフェードアウトします。
- **３秒後** – ３秒後にフェードアウトします。
- **４秒後** – ４秒後にフェードアウトします。
- **５秒後** – ５秒後にフェードアウトします。
- **１０秒後** – １０秒後にフェードアウトします。

「テキストサイズ」でネクストソング・バーのフォントサイズを、「テキストカラー」で表示色を指定します。最後の「背景のカラー」は、ネクストソング・バーの背景色を指定します。

ネクストソング・バーを見たことがない、というのであれば、おそらく無効になっています。「表示」設定で「ネクストソングを表示」を選択すると有効になります。「ネクストソングを表示」にも、上で説明した項目と同じような設定箇所があります。

セットリストやソングのメモ(ノート)を表示

ソングオーバーレイの左上にある アイコンをタップすると、次のような設定画面が表示されます。

Figure 67 – ノート設定

メモは、ソングやセットリストへ、それぞれ記録できます。どちらにせよ、「ロード時にノートを表示」にチェックを入れておくと、ソングやセットリストを読み込んだときにノートが自動的に表示されます。このチェックを入れると、ノートをどれくらい表示しつづけるかを指定するドロップダウンが利用可能になります。ノートが書かれたウィンドウをタップするか、指定された時間が経過するまで表示されます。セットリストのロード時にノートが表示されると、セットリスト自体のノートを編集するのか、表示中のソングのノートを編集するのか、「種類」ドロップダウンで選ぶことができます。ソングをロードした時はこのドロップダウンは表示されず、表示中のソングのノートが編集対象になります。テキストサイズと行揃えもソングやセットリストごとに指定できます。テキストサイズの数字をタップすると次のようなテキストサイズの設定画面が表示され、設定した値を複数のソングやデフォルト値として適用できます。

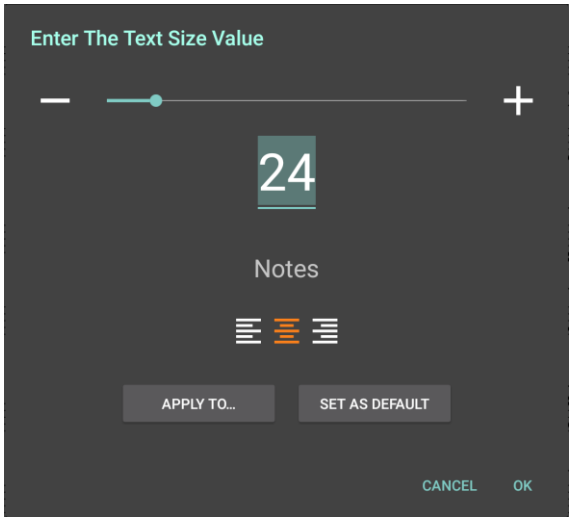


Figure 68- ノートのテキストサイズ設定

パフォーマンスモード

ライブ演奏では、MobileSheets のうちアクシデントの種になりかねない多くの不必要な機能は無効にしておければと感じます。これを実現するのがパフォーマンスモードです。パフォーマンスモードに入ると、オーバーレイとズーム操作はできなくなり、画面中央をタップしてもオーバーレイが表示されるのではなくページめくりとして扱われます。画面の四隅や上下端のタップ操作はそのままで、オーディオプレイヤーやメトロノームを操作するクイックアクションボックスも利用できます。パフォーマンスモードへ切り替えるには、画面右下をタップしてクイックアクションボックスを呼び出して アイコンをタップするか、ライブラリー画面へ戻ってフローティングツールバーにある アイコンをタップします。パフォーマンスモードに切り替わると、パフォーマンス中にライブラリーへの変更操作はされないものとしてライブラリー画面のアクションバーは表示されなくなります。

アノテーション

MobileSheets の重要な機能に、楽譜上へのいろいろな方法での書き込みがあります。ソングがロードされると、画面上へタイラスペンを近づける(「スタイラスペンを使ったアノテーション入力」を設定で有効にしている場合)か、三本指でタップする(「タッチアクション」で設定可能)か、ソングオーバーレイの アイコンをタップすればアノテーションモードに入ります。E インクなどの「スタイラスを画面に近づける」機能をサポートしていないデバイスでは、スタイラスで画面にタッチしなければなりません。アノテーションモードに入ると次のような画面に切り替わります。

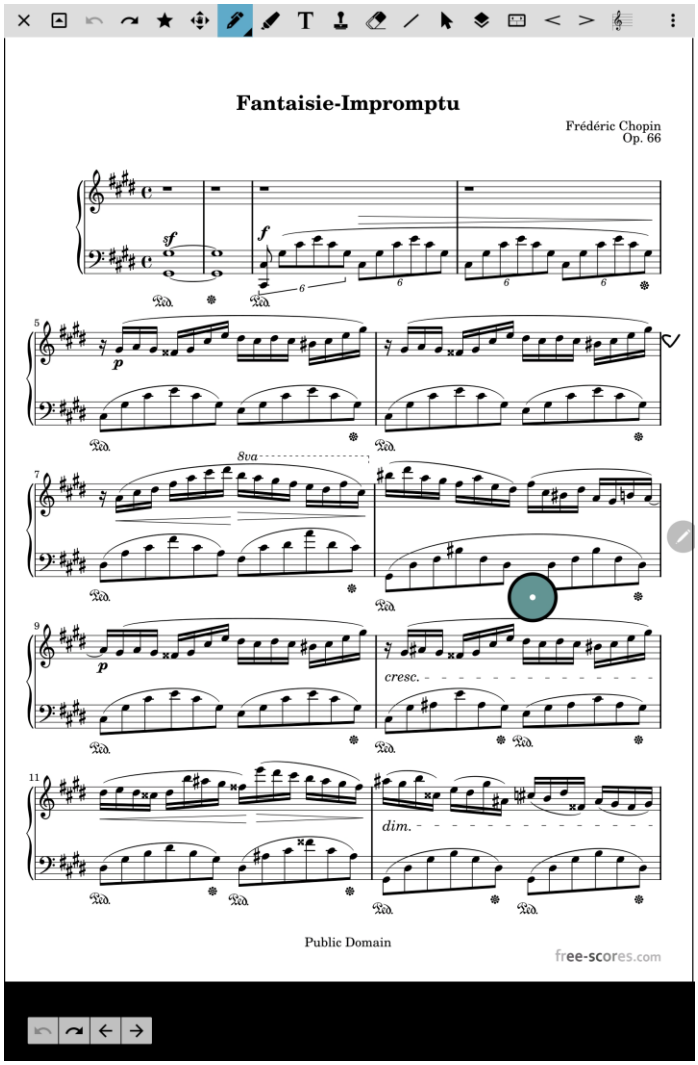


Figure 69 – アノテーション編集モード

アノテーション編集モードに入ると、上部のツールバーにツール類が、左下のツールバーにアンドゥやリドゥ、ページめくりのためのボタン類が、また画面上にドラッグ可能な緑色の円が表示されます。この円はラジアルメニューと呼ばれ、全ツールや設定にアクセス可能な小さなインターフェースです。円をタップするとラジアルメニューが展開され、中心をタップすると折りたたまれます。ラジアルメニューの画面例を示します。

Figure 70 - ラジアルメニュー

ラジアルメニューの操作は簡単です。押し続けてドラッグすると移動できます。セクションをタップするとそのセクションのツールの選択やツール設定の切り替え、あるいはツールに固有のウィンドウを表示します。各セクションの外枠にある矢印をタップすると、例えば次の画面のようなセクションごとに固有の追加設定画面が表示されます。

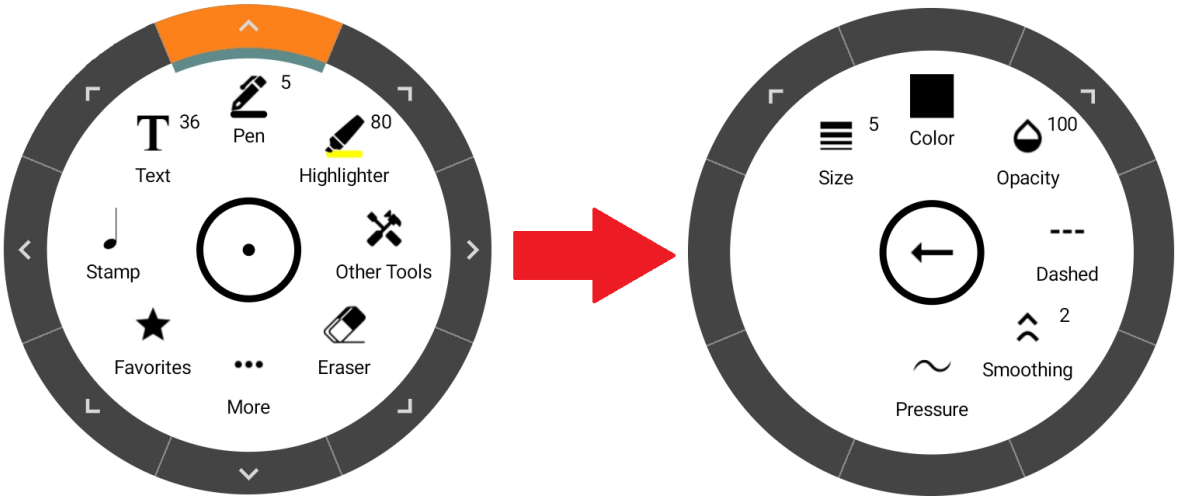


Figure 71 – ペン設定の呼び出し

「スタンプ」セクションを長押しするとスタンプを切り替えるウィンドウが表示され、「お気に入り」セクションを長押しすればお気に入りを切り替えるウィンドウが表示されます。各ツールごとの設定については後程それぞれ詳しく説明します。

ラジアルメニューに加えて、各ツールの設定は画面上部に表示されるツールバーからも指定できます。あるツールへ切り替えるには、そのツールのアイコンをタップします。もう一度同じアイコンをタップすると、そのツールに関連した設定の画面が表示されます。

ツールバー

画面上部のツールバーを使うと、ツール間の切り替えや、アンドゥ・リドゥ操作、レイヤーやお気に入りの操作が簡単に行えます。ツールバー上の各アイコンを長押しすると、ツール名が表示されます。ツールバーに並ぶアイコンをそれぞれ説明します。

形状	名前	説明
✕	閉じる	アノテーションモードを終了し、通常のソング表示に戻ります。
	たたむ	ツールバーを折りたたみ、閉じる・ツールバー展開のアイコンのみ残します。
	アンドゥ	最後に行った操作をとりやめます。

	リドゥ	アンドゥした最後の操作をもう一度やりなおします。
	お気に入り	お気に入り登録したツール設定からなるドロップダウンを表示します。「+」アイコンをタップすることで、使用中のツール設定をお気に入りに追加できます。
	パン	指一本のドラッグ操作で楽譜の表示箇所を移動する、パンモードに入ります。スタイラスモードでは、指でのタッチは常にパン操作として扱われるので、パンモードへ入る必要はありません。
	ペン	フリーハンド記入のためのペンツールです。
	強調度	円や直線を使って自由に描けるハイライトツールです。「ハイライトをコンテンツの後ろへ表示」設定が有効な時は、ハイライトは背景へブレンドして表示されます。
T	テキスト	ページ上にテキストを挿入するテキストアノテーションです。テキストには背景色と囲み枠も設定できます。
	スタンプ	ページ上にスタンプを押すスタンプ画面が表示されます。
	消しゴム	３つの消去モードを持つ消しゴムツールです。
	形状	直線、四角形、円、矢印を描画できるシェイプツール です。
	選択	アノテーションを、四角く囲むかタップして選択します。
	レイヤー	アノテーションをどのレイヤー上に作成するか指定したり、各レイヤーの表示を切り替えるためのレイヤー画面を表示します。
	コマンドバー	さまざまな機能へのショートカットとお気に入りリストからなるコマンドバーを表示します。
<	クレッシェンド	クレッシェンドツールを起動します。
>	デクレッシェンド	デクレッシェンドツールを起動します。
	ピアノ譜	ピアノ譜ツールを起動します。
	スニップツール	PDF ページ上からコピーや切り抜きを行うためのスニッピングツールです。
	グリッド設定	各要素を綺麗に並べるためのグリッド設定を行います。
▶	オーディオプレイヤー	オーディオプレイヤーを表示します。オーディオを聞いて確認しながらアノテーションができます。
	メトロノーム	アノテーション中にメトロノームを開始したり止めたりできるようメトロノームウィンドウを表示します。
	埋め込みアノテーショ	表示中のファイルへ、アノテーションを埋め込みます。いったん埋

	ン	め込まれたアノテーションは、特別な追加操作をしないかぎり MobileSheets 上で編集できません。
	すべてクリア	表示中のソングに存在する全アノテーションを削除します。
	設定	アノテーション設定の画面を表示します。

ペン

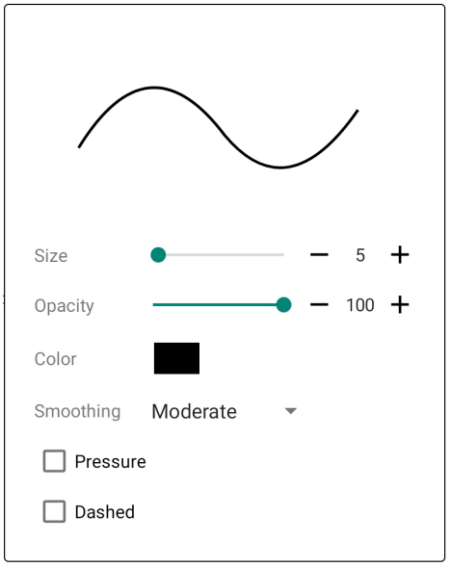


Figure 72 – ペンの設定ドロップダウン

各ツールにはいろいろな設定を持っていますが、例えばサイズなど、ほとんどの設定はその名前がそのまま意味を表します。追加の説明が必要そうな項目についてだけ、説明します。

透明度: フリーハンドで書かれる線の透明度を、１から１００の間で指定します。

滑らかにつなぐ: 見た目がきれいになるよう、フリーハンドの筆跡から頂点をどれだけ取り除くことでカーブを滑らかにするかを決定します。滑らかさの指定として「穏やか」「多め」を指定すると筆跡をたどる曲線の数は劇的に減り、表示パフォーマンスが向上してデータベース上に占めるデータ量も少なくなります。「少なめ」では無駄に思われる頂点だけ取り除き、「なし」は頂点を一切取り除きません。

ペン圧感知: スマートな／アクティブなスタイラスでは、この設定を使ってスタイラスの筆圧に応じて線の太さを変えることができます。実際のペン書きと同様の見た目が得られますが、ひとふでごとの

データ量は多くなるため、各ページ上にたくさんの線がある場合には、この設定をオフにしたほうが楽譜の表示パフォーマンスは向上します。

強調度(ハイライター)

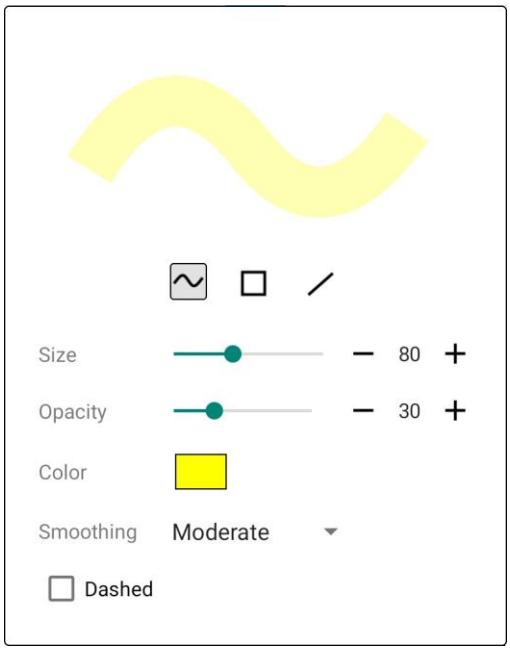


Figure 73 – ハイライトの設定ドロップダウン

一番上に並ぶアイコンで、ペン操作がどのように解釈されるかを指定します。

アイコン	タイプ	説明
	フリーフォーム	ペンツールと同様、フリーハンドでの筆跡がハイライトとなります。
	四角形	左上隅から右下隅へのドラッグ操作で、四角形が描画されます。
	直線	タッチした始点・終点の間に直線が描画されます。

その他の設定はペン設定と一緒です。

T テキスト

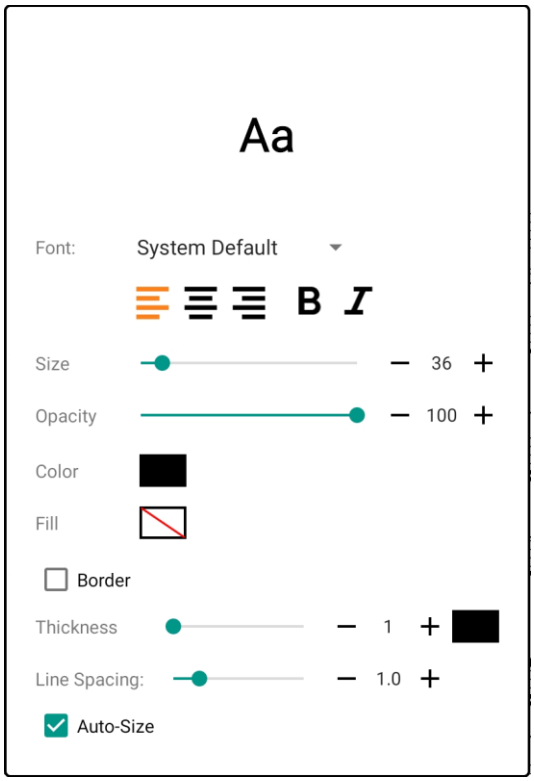


Figure 74 – テキストの設定ドロップダウン

フォント: テキストアノテーションに使用するフォントを指定します。その Android OS で利用できるフォントに限定されます。

自動サイズ調整: 有効にすると、各テキスト枠の高さは自動的に計算されます。

他のツールのドロップダウンと異なるテキストドロップダウンの重要な相違点は、この設定の変更は現在作成中の、あるいは編集中のテキストへ反映される点です。これに対して、他のツールでは、設定の変更はそのツールを使って次に作成するアノテーションから反映されます。テキストではタイプ入力中にテキストの見た目を変更したくなることが多く、アノテーションをいちいち選択してあらかじめテキスト編集を済ませてからでなければテキスト属性を変更できないのは面倒だからです。

スタンプ

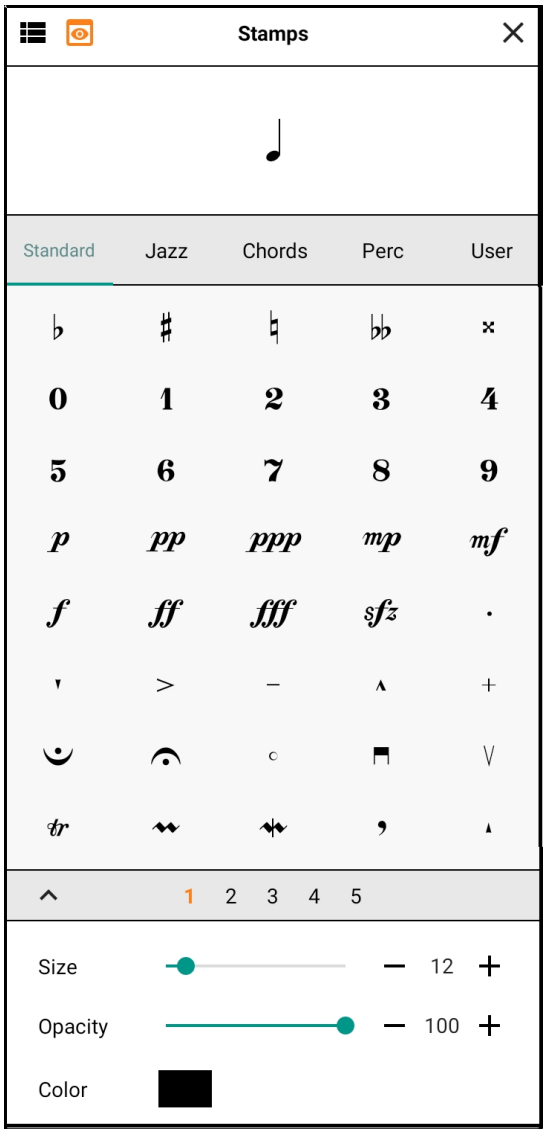


Figure 75 - スタンプの設定ドロップダウン

スタンプ設定は、スタンダード、ジャズ、コード、打楽器(Perc)、ユーザー(User)の各カテゴリーに分けられたスタンプの一覧で構成されます。ヘッダーのカテゴリーをタップすると、そのカテゴリーに含まれるスタンプに表示が切り替わります。一覧を右にスワイプするとそのカテゴリーの次の４０個のスタンプが表示され、左へスワイプすると前の４０個が表示されます。下にあるページ数字をタップすると、スタンプの各ページへジャンプします。

「サイズ」で、これから記入するスタンプのサイズを大きくしたり小さくします。スタンダード、ジャズ、打楽器のスタンプは、画質を保ったまま拡大縮小できます。ユーザーのスタンプのうちビットマップで作成したものはサイズを大きくすると画質が汚くなり、ベクターで作成すればサイズに関係なく画質を保つことができます。ユーザーのスタンプについては後で詳しく説明します。

スタンプの並び替え

カテゴリー中でスタンプを並べ替えることができ、よく使うスタンプを最初のほうに並べておくことができます。並べ替えしたいスタンプを長押しし、置きなおしたい場所までドラッグします。リストの端までドラッグすると、スタンプの次のページへ切り替わります。

ユーザー・スタンプ

ユーザーのカテゴリーは、ユーザー定義のスタンプと他のカテゴリーから持ってきたスタンプとで構成されます。ユーザーが自分で作成したスタンプのファイルを MobileSheets へ追加したり、お気に入り機能に頼ることなくよく使うスタンプのリストを構築するのに利用できます。MobileSheets へスタンプのファイルを追加するには、User カテゴリーに切り替えてから + アイコンをタップします。次のような画面が表示され、ローカルのストレージやクラウドからインポート対象を選ぶことができます。

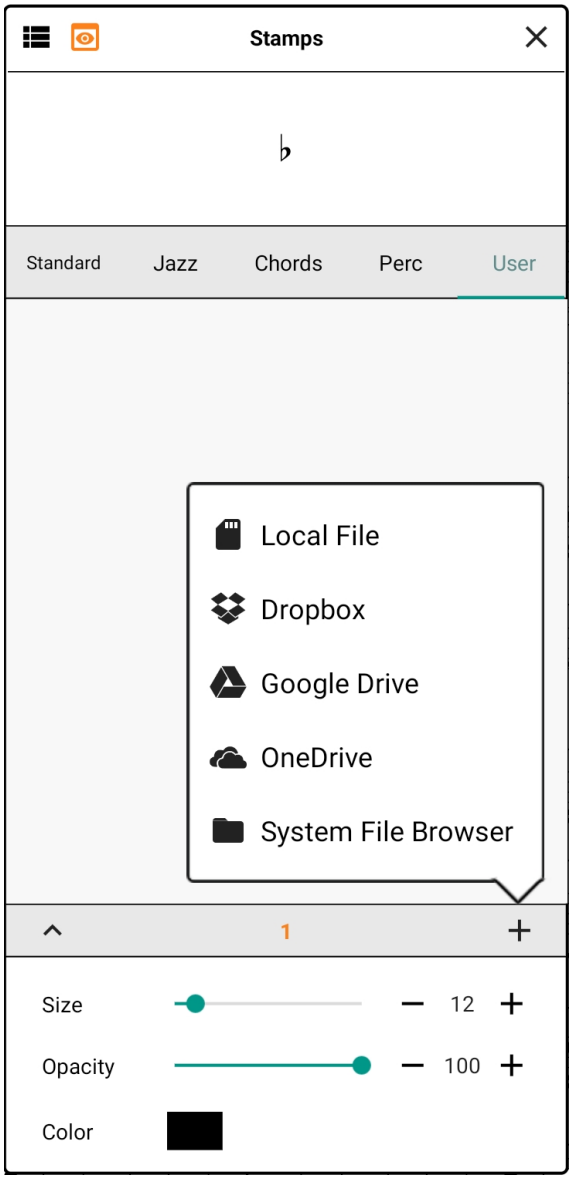


Figure 76 - カスタムスタンプの追加

スタンプを User カテゴリーへ追加した後は、そのスタンプをタップして選択し、もう一度タップを繰り返すことで、次のような設定画面を呼び出すことができます。

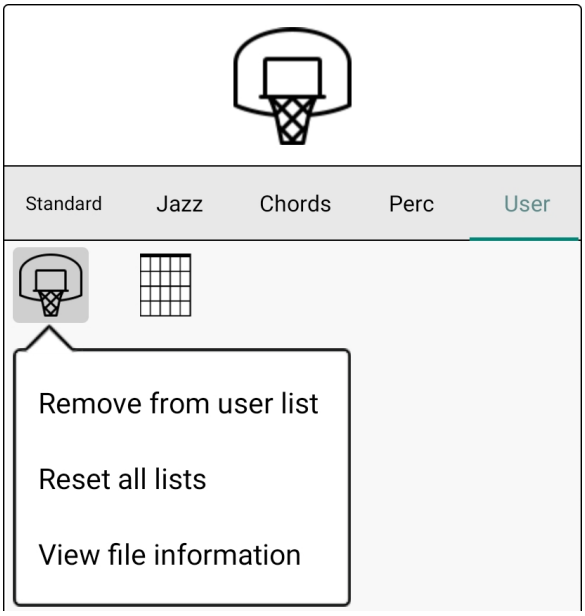


Figure 77 – 追加のスタンプオプション設定

「ユーザーリストから削除」をタップすると、そのスタンプを User カテゴリーから削除します。もしスタンプがファイルからインポートされたものであれば、そのスタンプをどのソングも使っていない場合に限り MobileSheets はそのファイルも削除します。「全リストをリセット」をタップすると、リストの並び順を本当にデフォルトへリセットしてよいかどうか確認する画面が表示されます。この際、ユーザー定義のスタンプをすべて消去するかどうか指定するオプションも表示されます。最後の「ファイル情報の表示」をタップすると、スタンプファイルのパス(場所)、サイズ、最後に編集したタイムスタンプを表示します。

他のカテゴリー上にあるスタンプは、User カテゴリーへ追加できます。まずスタンプをタップして選択し、もう一度タップしてドロップダウンメニューを表示します。以下のように、「ユーザーリストへ追加」をタップすると User リストへ追加されます。

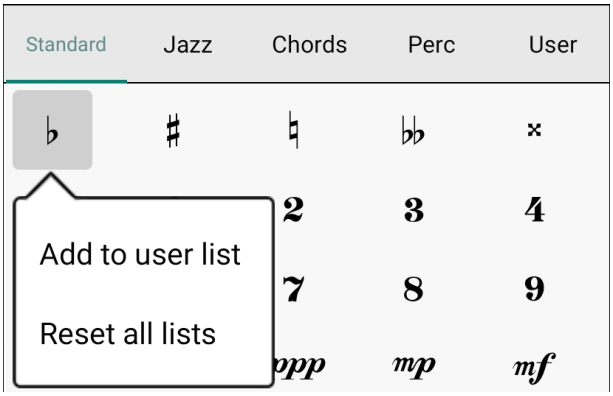


Figure 78 – スタンプをユーザーリストへ追加

フローティング・スタンプ・ウィンドウ

スタンプ操作がすぐに必要なときは、ドロップダウンから選ぶよりも独立した(フローティング・)スタンプ・ウィンドウを表示したほうが便利です。ラジアルメニューの「スタンプ」セクション外枠にある追加メニューを呼び出し、「タイプ」をタップするとフローティングウィンドウが表示されます。

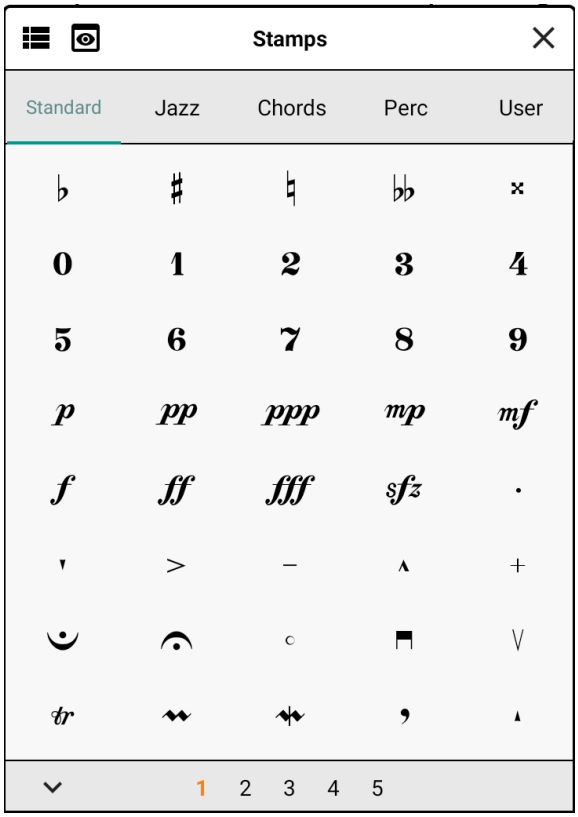


Figure 79 - スタンプツールのフローティングウィンドウ

フローティングウィンドウではドロップダウンと同様の操作が可能ですが、サイズ・透明度・カラーはラジアルメニュー上で変更します。左上にある をタップすると、ウィンドウ上半分にあるプレビュー表示が隠れます。左下にある矢印をタップすると、ウィンドウ下半分にあるサイズ・透明度・カラーの表示が折りたたまれます。

フローティングウィンドウでは、 をタップしてスタンプリストを縦一列に折りたたんだり、 をタップして横一列にしたりできます。表示領域が減るので、画面が小さいときに便利です。 をタップするとフルサイズに戻ります。縦横それぞれ一列に折りたたんだときの画面の例を示します。

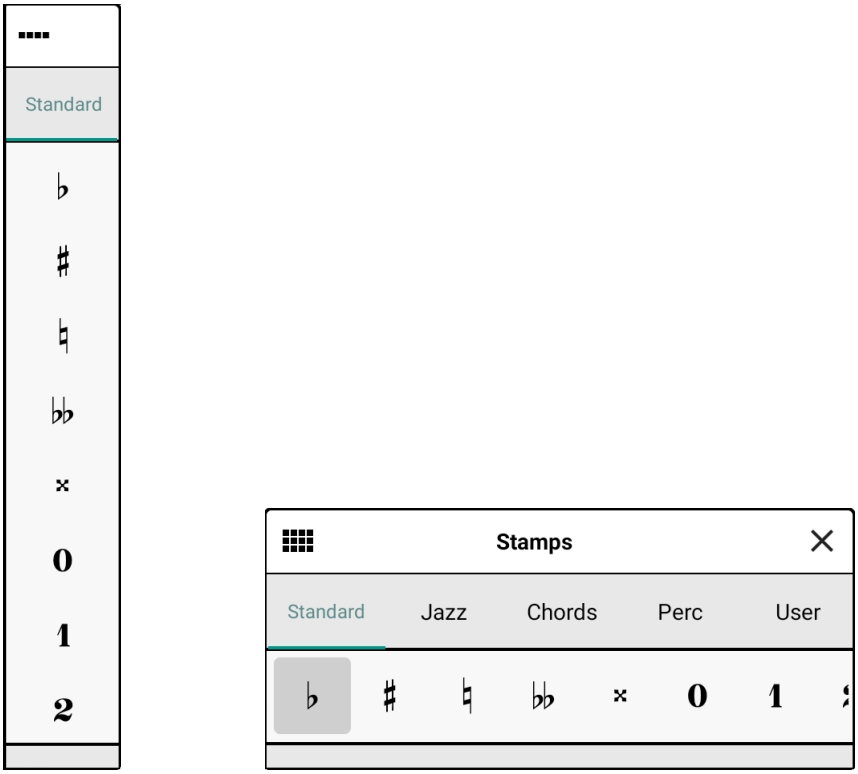


Figure 80 – 折りたたんだスタンプ・ウィンドウ

スタンプのプレビュー

指を使った操作でスタンプを配置すると、指先で隠れた部分が見えるように次のようなプレビュー画面が表示され、スタンプの置き場所をわかりやすくしてくれます。

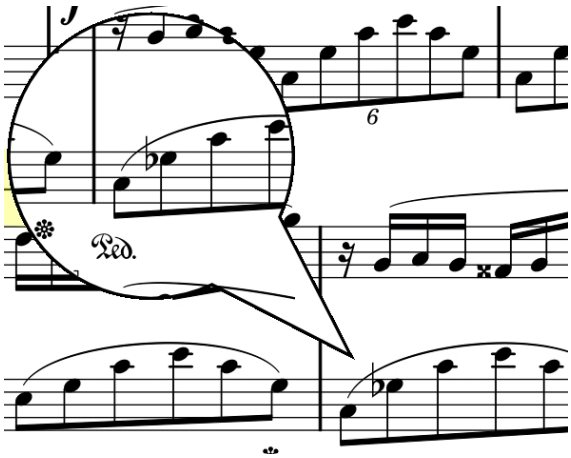


Figure 81 - スタンプのプレビュー

スタイラスペンでスタンプを配置するときにはプレビューの必要性が少ないので表示されません。

消しゴム

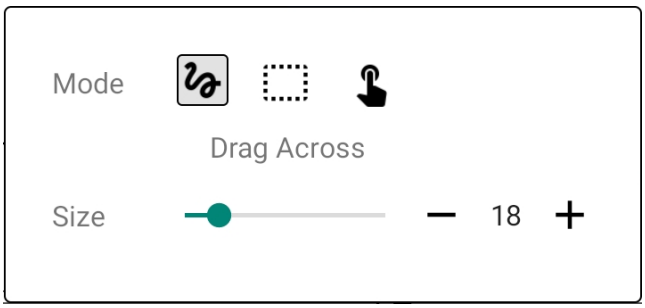


Figure 82 - 消しゴムの設定ドロップダウン

消しゴムツールでは３つの異なるモードでアノテーションを消すことができます。

直接ドラッグ – 鉛筆の反対側についている消しゴムのように働きます。消しゴムを離すまでの移動にあわせて、どの部分が消えるかを示す赤い円が表示されます。アノテーションの一部だけを消すことが可能で、例えばフリーハンドのアノテーションを短くすることもできます。

ボックスで囲む – 消したい場所を囲む四角形を描きます。消される場所を示すボックスが表示されます。ボックスの内側に含まれる各アノテーションが、消しゴムを離すと消去されます。

タップして指定 – タッチしたアノテーションが消されます。このモードでは、消去したい各アノテーション上をドラッグすることもできます。消しゴムを離した時に消去されることになるアノテーションが、グレー色の背景でハイライトされます。

「サイズ」では、「直接ドラッグ」および「タップして指定」モードではタッチした箇所の半径を指定します。大きいサイズほど一度にたくさん消すことができ、小さいサイズほど消す場所を細かく選べます。「ボックスで囲む」モードのときにはサイズ指定はありません。

形状

直線、四角形、楕円、矢印などいろいろな形状がサポートされます。各形状を切り替えるには、形状の設定ドロップダウンか、ラジアルメニューで対応するアイコンをタップします。形状の設定ドロップダウンは次のような画面になっています。

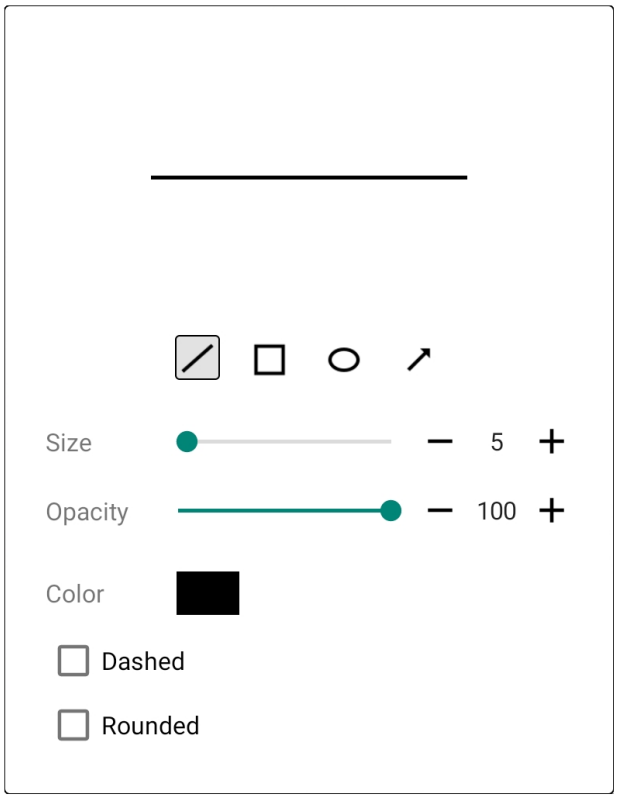


Figure 83 - 直線を選択した状態の形状ドロップダウン

各形状ごとに応じて、いろいろな設定が可能になっています。

選択

編集や、移動・削除の対象となる１つ以上のアノテーションをグループとして選択するツールです。選択ツールでのアノテーションの選択は、アノテーションをそれぞれタップしたり、選択したいアノテーションを囲むボックスを描くことで行います。レイヤー上でアノテーションを選択することもでき、詳しくは後で説明します。アノテーションを選択すると、次のようなポップアップ画面が下に表示されます。

Figure 84 – アノテーションを選択したときに表示されるポップアップ

それぞれのアイコンは次のようなアクション操作を実行します。

- 選択したアノテーションを編集する。全アノテーションに対して適用可能な設定項目からなるダイアログ画面が表示されます。詳しくは後のセクションで説明します。

- ナッジツールを起動し、アノテーションの置かれた場所を微調整できるようにします。

- 選択したアノテーションをコピーすることで、後からペーストして複製できるようにします。

- 選択したアノテーションをカットし、いったん消して後で別の場所へペーストできるようにします。

- 選択したアノテーションを削除します。

アノテーションの編集

アノテーションを選択した状態で編集アイコンをタップすると、選択されているアノテーションの全種別へ適用可能な設定からなるウィンドウが表示されます。例えば、フリーフォームのアノテーションを編集するときに表示される画面は、こんな感じです。

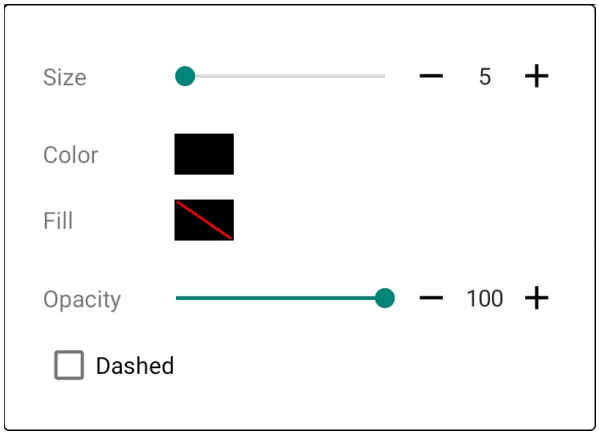


Figure 85 - フリーフォームのアノテーション用の編集画面

これに対し、テキストアノテーションの編集時にはこんな画面が表示されます。

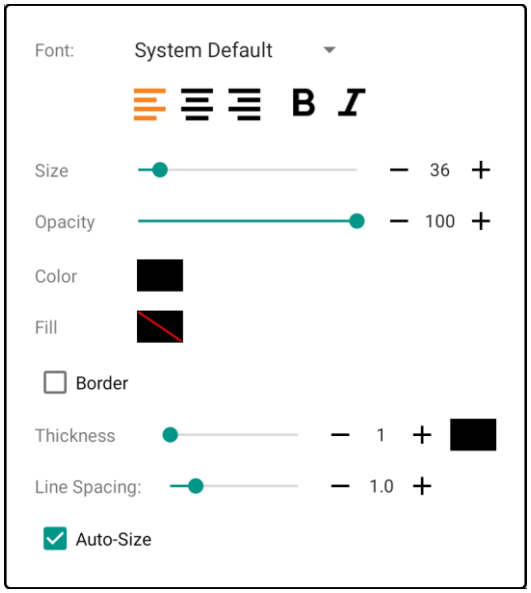


Figure 86 - テキストアノテーションの編集画面

設定の変更は、選択中の全アノテーションへ即座に反映されます。

アノテーションのコピー、カット、ペースト

アノテーションを選択した状態でコピーやカットのアイコンをタップすると、それらのアノテーションがメモリーへコピーされ、別の場所へペーストできるようになります。アノテーションをペーストするには、選択ツールで、アノテーションをペーストしたい楽譜上の場所を長押しします。「ペースト」オプションが表示されるので、タップするとその場所へアノテーションがペーストされます。

ナッジツール

ナッジツールでは、アノテーションをどの方向へも 1 ピクセルずつ動かして位置を微調整することができます。アノテーションを動かしたい方向の矢印をタップするだけで、矢印を長押しすると離すまでの間アノテーションは移動し続けます。1X アイコンをタップすると、矢印が押されたときにアノテーションが移動する量を指定できます(1X なら 1 タップで 1 ピクセル、5X なら 1 タップで 5 ピクセル)。アイコンをタップすると、ナッジウィンドウはドラッグして動かせるフローティングウィンドウになります。選択ツールがアクティブの間はナッジウィンドウが表示され、テキストツールでテキストを編集したりナッジウィンドウの「X」アイコンをタップするとナッジウィンドウは消えますが、閉じている場合も編集バーから再びアクセスすることができます。

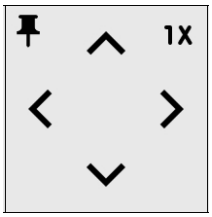


Figure 87 – ナッジツール

クレッシェンド／デクレッシェンド

クレッシェンド記号を入力するためのツールです。タッチして右へドラッグしてクレッシェンドを伸ばし、左へドラッグして縮めます。クレッシェンドを逆方向へ伸ばしていくとデクレッシェンドになります(逆も同じ)。クレッシェンドやデクレッシェンドの選択時には下の図のように操作用の円が表示されます。

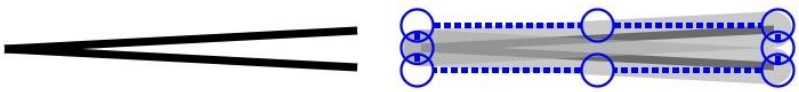


Figure 88 – クレッシェンドの非選択状態と選択状態

上下の円をドラッグすると、クレッシェンドやデクレッシェンドの高さを変更できます。左右の円は幅です。クレッシェンドの設定ドロップダウンには以下のような設定があります。

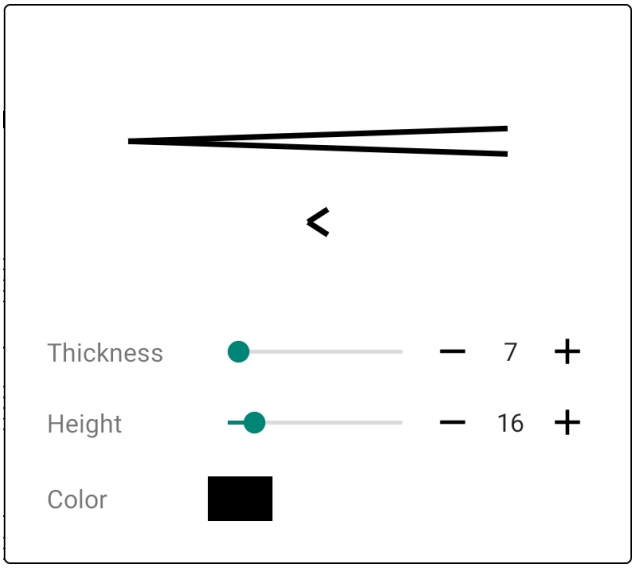


Figure 89 – クレッシェンドの設定

「高さ」はクレッシェンドを構成する二本の線の開口部の高さを、「太さ」はそれらの線の太さをコントロールします。

ピアノ譜

ソングのページ上へ五線譜を置くことができるツールです。ピアノ譜を置くには、まずタッチして五線譜を表示したあと置きたい場所までドラッグします。タッチしたまましばらく待つとサイズ変更に切り替わりますので、必要な長さまで右側へドラッグします。サイズ変更中に同じ場所をタッチしたまま待つと小節線が引かれます。さらに待ち続けて二重線にしたり、右へドラッグしてさらに小節を追加できます。サイズ変更中に同じ場所で待つことなく指を離すと、小節線のない五線譜になります。

Figure 90 – ３つのパターンの、小節の終わり

ピアノ譜はサイズを拡大・縮小することもできます。タッチしてピアノ譜を表示してサイズ変更に切り替わるまで待ち、上下にドラッグするとサイズを拡大することができます。

スニップツール

PDF ページ上の任意の領域をコピーして、同じページと別のページのどちらへでもペーストします。PDF だけにしか使えず、ペーストされた画像はファイル自体へ埋め込まれます。設定にある「PDF 中に埋め込まれたアノテーションの編集を許可」が有効な時にだけ、埋め込み画像を編集できます。

PDF ページの一部をカットして、切り取った場所へ白い四角を置くこともできます。この白い四角は MobileSheets の通常の機能を使ったもので、他の形状アノテーションと同様に操作できます。

スニップツールを使うには、カットしたい領域の左上をタッチして、そのまま右下までドラッグします。指を離して、「コピー」または「カット」を指定します。続いてスコア上のペーストしたい場所を長押しするか、長押しで表示されるメニューから元の場所へペーストしなおします。下の図を見てください。

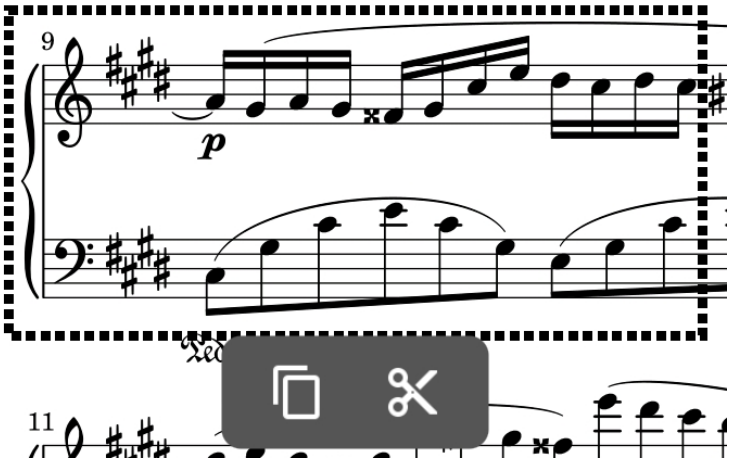
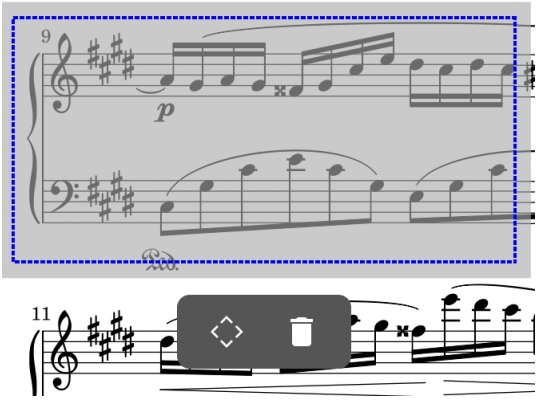


Figure 91 - スニップツールで領域を選択した直後

Figure 92 - 長押しでペースト先の領域を選択

ペーストされた領域(スニペット)は、ナッジツールで移動したり、ゴミ箱アイコンをタップして消去できます。他のアノテーション同様、ドラッグして動かすこともできます。一度 PDF へ埋め込まれたスニペットは、「PDF 中に埋め込まれたアノテーションの編集を許可」が有効な時のみ編集可能です。



グリッド

ツールバー上のグリッドアイテムをタップすると、次のような設定画面が表示されます。

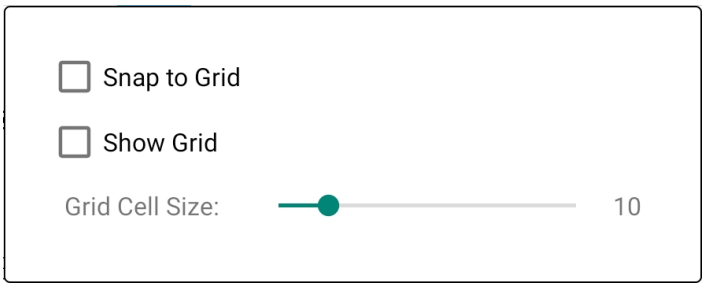


Figure 93 – グリッドのオプション設定

「グリッドに添う」を有効にすると、すべてのタッチ操作がグリッドの最寄りの交点へ引き寄せられます。アノテーションの四角形や直線を綺麗に揃えるのに使えます。「グリッドを表示」を有効にすればページ上にグリッドを表示します。スナップされる交点間の距離であるグリッドのサイズを変更できます。

オーディオプレイヤー

アノテーション中は通常非表示になっているオーディオプレイヤーを表示します。オーディオを聞きながらアノテーションを編集できる仕組みです。

メトロノーム

アノテーション中は通常非表示になっているメトロノームを表示します。メトロノームを聞きながらアノテーションを編集できる仕組みです。

埋め込みアノテーション

埋め込みアノテーションを選択すると、アノテーションは MobileSheets 上でのみ管理・表示されるのではなく、ファイルそのものへ書き込まれます。画像ファイルであればアノテーションは画像中に永久に埋め込まれ、後でそのアノテーションを編集することはできません。テキストや chord pro ファイルの場合、ファイルが PDF へ変換された後で埋め込まれます。PDF へのアノテーション埋め込みは、外部アプリでアノテーションを表示し編集し、ページと一緒に回転できる利点があります。アノテーション埋め込みの欠点は「PDF に埋め込まれたアノテーションの編集を許可」した時にしか編集できず、アノテーションエディターの起動・終了のたびに PDF ファイルを再読み込みし、時間がかかる点です。

すべてクリア

表示中のページ上にある全アノテーションを削除します。

お気に入り

アノテーションの強力な機能のひとつが、さまざまなツールの設定をまとめたお気に入りの作成です。各ツールごとにいちいち設定を調整することなく異なる機能間をすばやく切り替えられます。ツールバー上のお気に入りアイコンをタップすると、下の図のようなドロップダウンが表示されます。

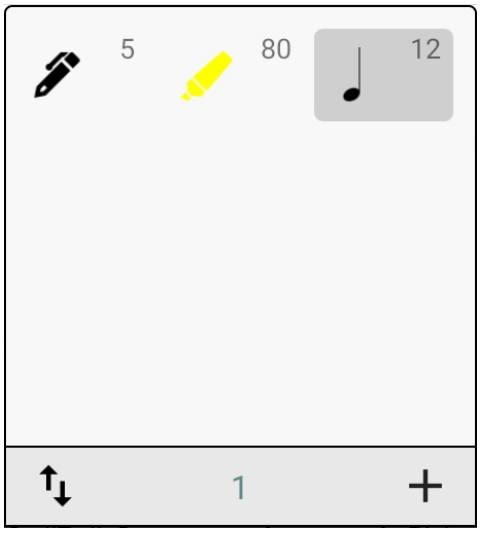


Figure 94 - お気に入りのドロップダウン

ラジアルメニューからお気に入り機能を呼び出した際は移動可能なウィンドウで表示されるので、ツール間の切り替えがさらに容易になります。将来のアップデートで、お気に入りウィンドウを縦横の小さなリストへ畳む機能が追加される予定です。

お気に入りリストへ追加するには、まず追加したいツールへ切り替えて設定を調整します。続いて + アイコンをタップするとエントリーがお気に入りウィンドウへ追加されます。エントリーをタップすると、その設定を持ったツールへ切り替わります。

↑↓ アイコンをタップすると、以下のようにお気に入りの並べ替えや削除ができます。

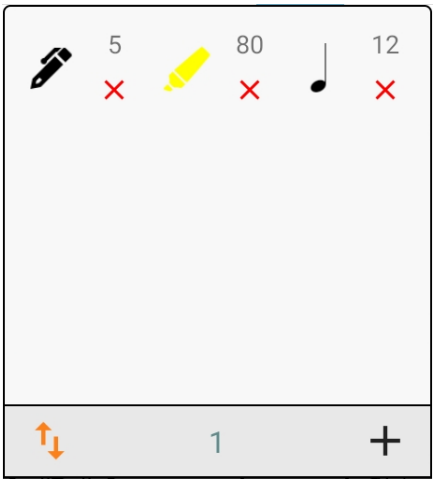


Figure 95 - 並べ替えモードになったお気に入りウィンドウ

リスト上でツールをドラッグして移動します。削除は赤い「x」を二度タップします。

リスト上のエントリーに割り当てられたツール設定を変更するには、まず並べ替えモードを解除してからエントリーを長押しし、「現在の設定を更新」を選びます。選択したお気に入りが、そのツールの現在の設定状態で更新されます。同様の長押しでエントリーの削除も選択できます。

コマンドバー

コマンドバーには、以下のような機能が実装されています。

- 前のページ、次のページのボタン
- ウィンドウのサイズ変更
- レイヤーウィンドウを呼び出すアイコン
- お気に入りリストと、新規お気に入り追加のアイコン
- 選択ツール
- 消しゴムツール
- アンドゥ、リドゥ

コマンドバーは左上にある「x」をタップしていつでも閉じることができます。以下は画面例です。

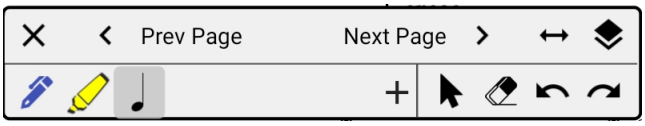


Figure 96 – コマンドバー

パン

パンニングツールは、指でのドラッグ操作でページを任意の方向へ動かします。スタイラスモードでは不要なツールで、一本でのタッチ操作は自動的にパン操作として扱われるからです。

レイヤー

必要に応じてアノテーションをグループ分けして、隠したり表示したり管理するパワフルな機能です。各レイヤーにいくつでもアノテーションを含めることができ、レイヤーの表示・非表示はレイヤーウィンドウで簡単に切り替えられます。レイヤーウィンドウは以下のような構成です。

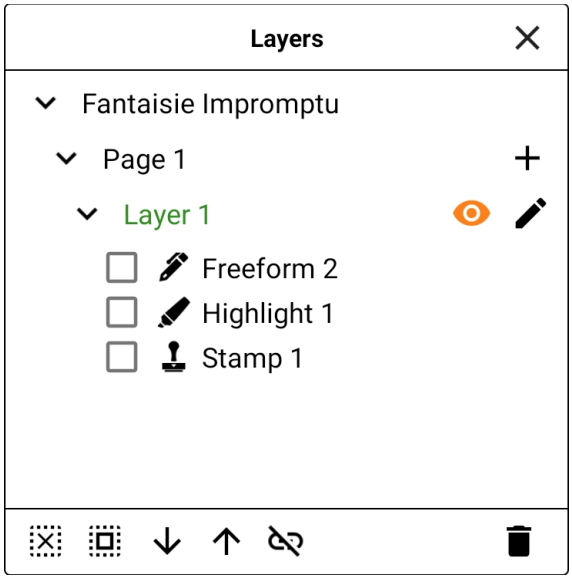


Figure 97 – レイヤー画面

一度に 1 ページしか表示しないモードの時は、表示されているページだけがレイヤーウィンドウに表示されます。複数のページが表示できるモードのときは、ロードされている全ページがレイヤーウィンドウに表示されます。

各ページは少なくとも 1 つはレイヤーを持たねばならず、デフォルトのレイヤーである「レイヤー1」がどのページにもあります。レイヤーを追加するには、ページ情報の右にある + アイコンをタップすると作成されます。下の図のような、レイヤーの名前を入力する画面が表示されます。

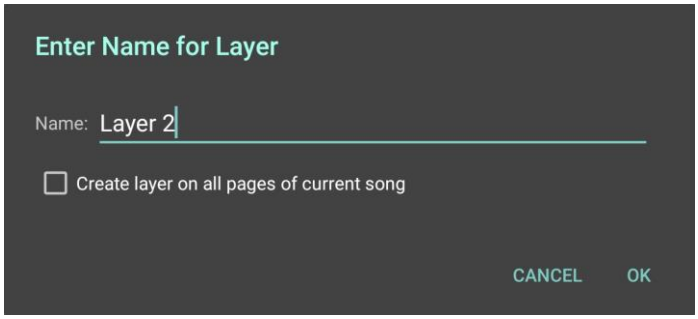


Figure 98 - 新規レイヤーのダイアログ

「このソングの全ページへレイヤーを作成」で、同じ名前でレイヤーを各ページにも作ります。ペダル操作でアノテーション・レイヤーを切り替えたり、アイコンをタップしてレイヤーの表示状態をリンクして、全ページのレイヤーを一度に切り替えたいときに便利です。リンクが有効な状態で、あるレイヤーの表示アイコンをタップすると、同じソング中にある同じ名前のすべてのレイヤーの表示状態も切り替わります。ページ中に複数のレイヤーがあるときは、各レイヤー名のとなりに削除アイコンが表示されます。タップするとそのレイヤーが削除されます。

アノテーションの選択は、リスト中のアノテーション名の隣にあるチェックボックスをタップします。ページ上でのアノテーションの選択状態が、レイヤーウィンドウ上のチェックボックスへ常に反映されます。

ページ上で新しくアノテーションが作成されるレイヤーを切り替えるには、ウィンドウ上でレイヤー名をタップします。レイヤー名が緑色で表示されているのが、そのページのアクティブレイヤーです。レイヤーのリンクが有効な間は、アクティブレイヤーの切り替えは同じソング中にある全ページのアクティブレイヤー(各ページに同じ名前のレイヤーがあると仮定して)も切り替えます。

レイヤーウィンドウにある、その他のアイコンについて説明します。

- レイヤー名を変更します。レイヤーのリンク機能を活用するため、同一ページ中に同じ名前のレイヤーがあってはいけません。

- 全アノテーションの選択を解除します。

- 表示中のページのアクティブレイヤーにある全アノテーションを選択します。長押しすると、ページの全レイヤーにある全アノテーションの選択になります。

- 選択されているアノテーションを、そのレイヤー上で下へ移動します。他のアノテーションよりも上にアノテーションが表示されるようコントロールできます。リストの一番下にあるアノテーションが、全アノテーションの一番上に表示されます。

- 選択されているアノテーションを、そのレイヤー上で上へ移動します。

- 選択されているアノテーションを削除します。

設定

アノテーションモード時の動作を設定するいくつかのオプションがあります。各設定の説明はこのセクションで行いますが、英語ではウィンドウ中にある各設定の⓪アイコンでも説明が表示されます。

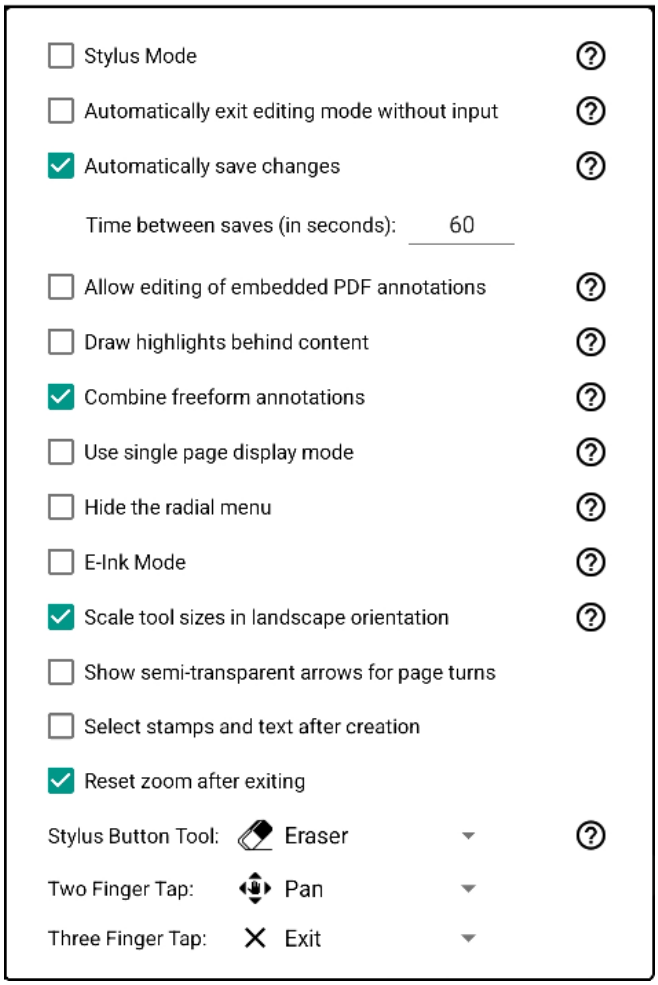


Figure 99 – 設定ウィンドウ

- **スタイラスモード** – タッチ入力がアノテーションの作成とならないようにします。一本指の操作はドラッグではなくパンになり、ピンチ操作でのズームは可能なままです。スタイラスモード

は、必ずしも全デバイスがサポートするわけではないスマートペンやアクティブスタイラスにだけ働きます。ホバーリング(ペン先が離れた状態でのポインター移動)をサポートするペンは、スタイラスモードでのみ使用可能です。

- **操作がない場合は自動的に編集モードを抜ける –** 有効にしておくと、指定された時間だけ何も操作がない場合に自動的にアノテーションモードを終了します。スタイラスが操作されたら自動的にアノテーション編集に入る設定と、ペアで使うと便利です。こうすると、画面上でペンをホバーリングしたらアノテーション編集に入り、編集終了後しばらく待てば楽譜の表示に戻る、といったことができます。
- **編集を自動的に保存 –** 設定した時間ごとに MobileSheets は自動的にアノテーションの変更を保存します。デバイスの充電切れなどで意図せずアプリが落ちても大丈夫です。
- **PDF 中に埋め込まれたアノテーションの編集を許可 –** PDF に保存されたアノテーションを MobileSheets 上で編集可能にします。MobileSheets のいくつかのアノテーションプロパティーは PDF のアノテーション機能ではサポートされず、サポートしない PDF のアノテーション機能は MobileSheets では編集できません。PDF のアノテーション機能のうちいくつかは、MobileSheets 上で編集可能なものに変換したり変更されたりします。
- **ハイライトを背景側に描画 –** ハイライトのアノテーションを、ページ中のコンテンツの後ろ側に描画するよう切り替えます。スタンダード PDF はこの機能をサポートしないので、アノテーションが MobileSheets 上ではなく PDF 上に保存されている場合はこのオプションは無効になります。
- **フリーフォームのアノテーションを結合 –** ペンとハイライトツールで作成するアノテーションを単一のアノテーションとしてグループにまとめ、表示性能を向上し、アノテーションのプロパティー変更を容易にします。ツールを変更したり、使用中のツールの設定を変更すると、新しいグループになります。この設定を無効にすると、個別のスタイラス操作がそれぞれ独立したアノテーションとして作成されます。
- **シングルページ表示モードにする –** アノテーション中はシングルページ表示モードにします。
- **ラジアルメニューを隠す –** 設定やツールへアクセスするためのラジアルメニューを表示しません。ラジアルメニューが表示されていない間は、全ツールと設定へは画面一番上のツールバーからアクセスします。

- **E-インクモード –** 画面の更新頻度を下げて、E-インクデバイスでのアノテーション操作性能を向上します。一般的には、この設定に頼るのではなく、E-インク専用の MobileSheets (Zubersoft FastSpring ストアから入手可能)を使用すべきです。
- **ツールの表示を横置き状態に合わせる** – デバイスの向きにあわせてツールのサイズを変え、横置きで作成したアノテーションの大きさが縦置きで作成したときと同じになるようにします。
- **ページめくり用に半透明の矢印を表示 –** アノテーション中にページをめくるための、画面両横の矢印を無効にします。このアイコンは左下やコマンドバーにあるアイコンより大きいので、間違って触れてしまいがちです。
- **作成後にスタンプとテキストを選択** – 作成直後にアノテーションが自動的に選択されることで、編集可能な状態にします。
- **終了時にズーム状態をリセットする** – アノテーションモードの終了時に、ズーム設定をデフォルトへ戻します。
- **スタイラスボタンのツール –** スタイラスの第一ボタンが押されたときにどのツールを選択するか指定します。ボタンを離すと、その前に選択されていたツールへ戻ります。スタイラスペンによっては、最初にボタンを押してから画面へタッチしないと動作しないことがあります。
- **二本指のタップ –** 二本指でタップしたときにどんなアクションをするか指定します。
- **三本指のタップ –** 三本指でタップしたときにどんなアクションをするか指定します。

タッチとペダル操作

MobileSheets では楽譜を表示するエリアは 9 つのタップゾーンに分けられ、うち 6 つについてアクションを設定できます。これらのタップゾーンの分割はここで説明しています。あるゾーンにどんなアクションを割り当てるかは、設定の中の、「タッチとペダル」の下の「タッチアクション」で指定します。

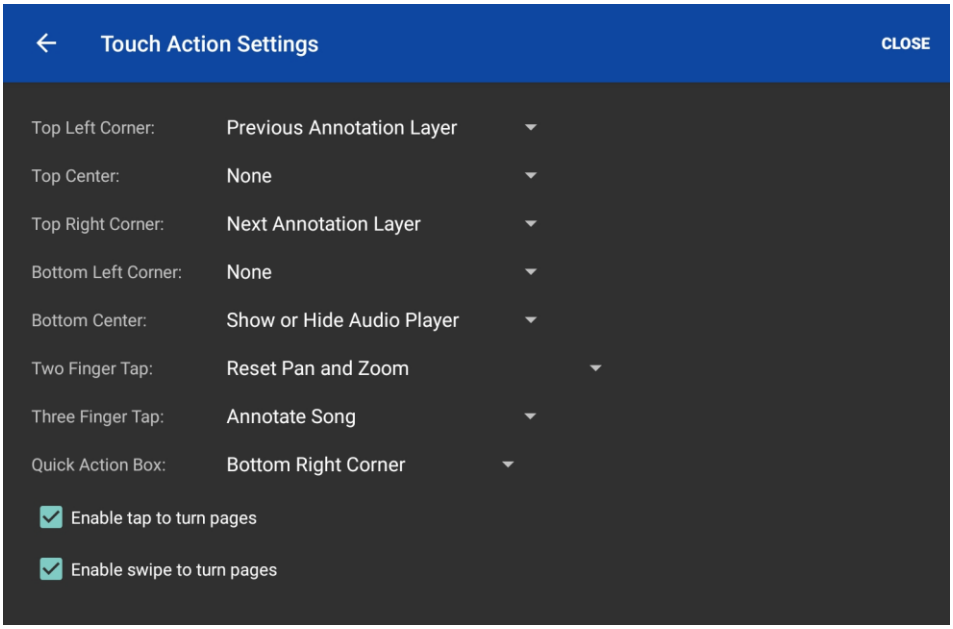


Figure 100 - タッチアクションの設定

5 つのプログラム可能なゾーンと、二本指・三本指でのタップごとに、以下から選択可能です。

- **なし** – なにもアクションしません。
- **前のアノテーション・レイヤー** – 前のアノテーション・レイヤーが選択されます。
- **次のアノテーション・レイヤー** – 次のアノテーション・レイヤーが選択されます。
- **オーディオトラックの開始または停止** – 停止状態であればオーディオプレイヤーが開始し、再生中であれば停止して、再生位置をスタートまでリセットします。
- **オーディオプレイヤーの表示または隠す** – オーディオプレイヤーが表示されていれば隠し、隠されていれば表示します。
- **前のオーディオトラックへスキップ** – オーディオプレイヤーで前のトラックを再生します。プレイリストにトラックが 1 つしかなければ、なにも起きません。

- **次のオーディオトラックへスキップ** – オーディオプレイヤーで次のトラックを再生します。プレイリストにトラックが 1 つしかなければ、なにも起きません。
- **メトロノームの開始・停止** – メトロノームが停止していれば開始し、動いていれば停止します。
- **前のソングへ移動** – セットリストの前のソングへ戻ります。ソングを一曲しかロードしていないときは、なにも起きません。
- **次のソングへ移動** – セットリストの次のソングへ飛びます。ソングを一曲しかロードしていないときは、なにも起きません。
- **ナイトモード切替** – 暗い会場向けにカラーを反転する、ナイトモードを切り替えます。
- **ソングの頭へ戻る** – 表示中のソングの最初へ戻ります。
- **ソングの終わりへ飛ぶ** – 表示中のソングの最後のページへスキップします。
- **次のメトロノームテンポへ飛ぶ** – メトロノームのテンポを、リスト中の次のテンポへ変えます。
- **アノテーション** – アノテーションモードに入ります。
- **前のブックマークへ移動** – 表示中のページより前にある一番近いブックマークのあるページへ切り替えます。
- **次のブックマークへ移動** – 表示中のページより後ろにある一番近いブックマークのページへ切り替えます。
- **スクロールの開始・停止** – 停止していれば自動スクロールを開始し、スクロール中であれば停まります。
- **パンとズームのリセット** – 表示中のソングまたはセットリストのパンとズームの設定をリセットします。
- **スニペットの作成** – 表示中のソングからスニペットを作成するスニペット画面を呼び出します。
- **ライブラリーへ戻る** – ライブラリー画面へ戻ります。
- **メモ・ノートの表示** – ソングに設定されているノートを表示します。
- **次のリンクポイントをリセット** – ペダル操作でリンクポイント間を移動する際に、次のペダル操作で実行されるリンクポイントを選択する画面が表示されます。
- **１ページ後ろへめくる** – １ページ分、後ろに進みます。
- **１ページ先へめくる** – １ページ分、前に進みます。

- **２ページ後ろへめくる –** ２ページ分まで、後ろに進みます。
- **２ページ先へめくる –** ２ページ分まで、前に進みます。
- **オーディオトラックの一時停止または再開 –** オーディオプレイヤーが再生中であればトラックは一時停止し、そうでなければ停止した箇所から再生を再開します。
- **ブックマークを表示 –** ブックマーク画面を表示します。
- **下へスクロールか次のページ –** ソングの下のほうへスクロールし、一番下に達したらページをめくります。
- **上へスクロールか前のページ –** ソングの上のほうへスクロールし、一番上に達したらページをめくります。

設定を行ったら、閉じるボタンを押すかタブレットの戻るボタンを押してタッチ設定ページを閉じます。

ペダルアクションは、設定の中の「タッチとペダル」の下の「ペダルアクション」で設定します。

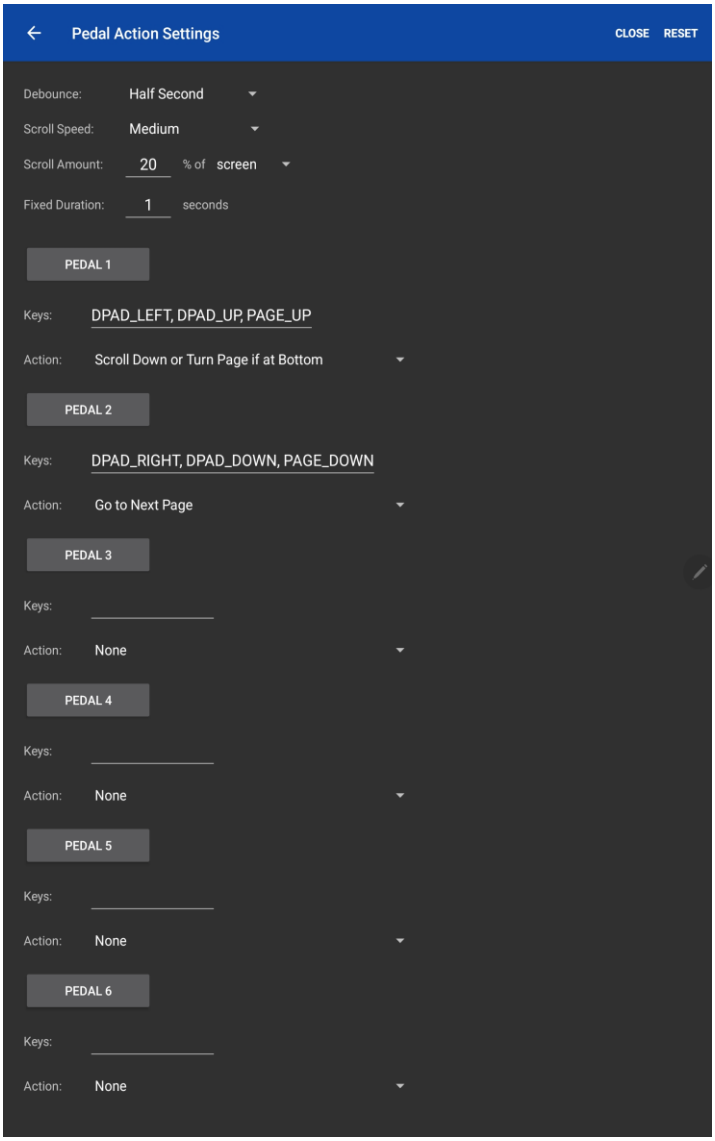


Figure 101 - ペダルアクションの設定

最初の設定、「跳ね防止」は、ペダル操作が連続したときに別々のものとして認識されるのに最低限必要な時間間隔を指定します。「無効」「１／４秒」「０．５秒」「１秒」「２秒」から選びます。通常は、一度に何ページも飛んでしまわないように「無効」以外の設定を推奨します。

次の設定、「スクロールスピード」はペダル操作でスクロールを開始したときの、スクロールの速さです。この設定は、ペダルを踏むたびにスクロールされるページの割合を決める「スクロール量」と一緒に使用します。例えば、「中くらい」のスピードは１秒なので、スクロール量を 20%にしておくと、ペダルを押してから一秒の間にページの 20%の場所までスクロールします。以下から選択します。

- **もっとも遅い** – 5 秒
- **より遅く** – 3 秒
- **遅く** – 2 秒
- **中くらい** – 1 秒
- **速く** – 0.75 秒
- **より速く** – 0.5 秒
- **もっとも速く** – 0.2 秒
- **すぐに** – (アニメーションなしに)ページはすぐスクロールします。
- **一定時間** – 「一定時間」で指定した秒数がスクロール用の時間として使われます。
- **メトロノームを使用** – メトロノームのテンポにしたがってスクロールの速さを決定します。

「一定時間」パラメーターは、上で説明したようにスクロールスピードを「一定速度」にした際の実際の時間です。

画面の中央に、ペダルごとの６つのセクションがあります。MobileSheets はペダルを６つまでサポートし、それ以下ならいくつでも構いません。ペダルである必要さえありません。Bluetooth や USB で接続したキーボードとして認識されるデバイスであればなんでも大丈夫です。ペダルの番号は管理上の都合で付いているにすぎず、１つ以上のキーボードコマンドと MobileSheets 上のアクションとをマッピングしたものがペダル設定であり、実際のペダルやデバイスをどの番号に使うかは自由です。あるペダルへアクションを割り当てるには、「ペダル＃」ボタンか「キー」ドロップダウンをタップして監視すべきコマンドを設定し、続いて「動作」ドロップダウンからアクションを選択します(「ペダル＃」は順番に設定していきます)。

「キー」ドロップダウンをタップすると、次のような画面が表示されます。

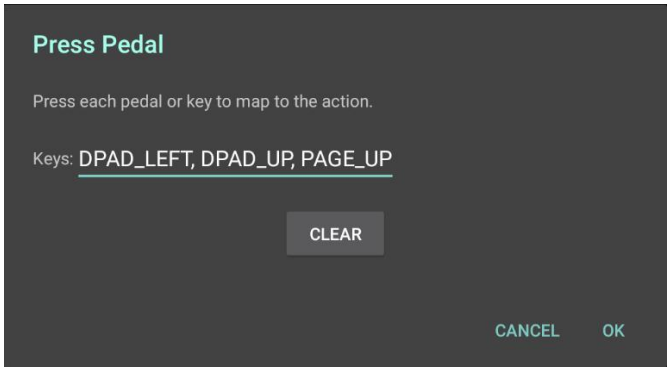


Figure 102 - キー割り当てのダイアログ

このダイアログが表示されている間、MobileSheets はデバイスからの信号を待っています。ペダルが接続されていれば、ペダルを踏むと「キー」のところへ順次値が表示されます。「クリア」をタップしてすでに表示されている値を消し、最初から入力することもできます。「OK」をタップすると、これらのキーボタンがアクション動作に割り当てられます。ペダルやデバイスを操作してもキーへ表示されないときは、Bluetooth や USB でデバイスが接続されていることを確認して、もう一度試してください。

キーが設定されたら、ペダルアクションを割り当てられます。「動作」のドロップダウンから、以下のようなアクションを選ぶことができます。

- **なし** – なんのアクションもしません。
- **前のページ** – １ページ前に戻ります。
- **次のページ** – １ページ先へ進みます。
- **ページのトップへ** – 表示中のページの先頭へ、連続してスクロールします。
- **ページのボトムへ** – 表示中のページの一番下へ、連続してスクロールします。
- **アクティブなリンクへ飛ぶか次のページ** – ページ中にリンクがあればその先へ飛び、なければ次のページへ進みます。
- **下へスクロールか次のページ** – 表示中のページを下方向へスクロールし、すでに一番下まで到達していれば次のページへ進みます。
- **上へスクロールか前のページ** – 表示中のページを上方向へスクロールし、すでに一番上まで来ていれば前のページへ戻ります。
- **下へ予測スクロールし、めくる** – ページ中のコンテンツを判断して次の段へスクロールするか、すでに一番下まで到達していれば次のページへ進みます。

- **上へ予測スクロールし、めくる** – ページ中のコンテンツを判断して前の段へスクロールするか、すでに一番上まで来ていれば前のページへ進みます。
- **前のリンクを実行** – 直前にリンク先ページへ飛んだリンクを実行します。最初のリンクをまだ実行していないときは、なにもしません。
- **次のリンクを実行** – 次のリンクを実行してリンク先ページへ飛びます。すでに全リンクを実行済みであれば、なにもしません。
- **前のリンクを実行するか前のページへ飛ぶ** – 直前のリンクが同じページにあれば実行し、そうでなければ前のページへ戻ります。このセクションの最後でもう少し詳しく説明します。
- **次のリンクを実行するか次のページへ飛ぶ** – 次のリンクが同じページにあれば実行し、そうでなければ次のページへ進みます。このセクションの最後でもう少し詳しく説明します。
- **前のアノテーショングループ** – 前のアノテーション・レイヤーへ切り替えます。
- **次のアノテーショングループ** – 次のアノテーション・レイヤーへ切り替えます。
- **オーディオプレイヤーを表示・隠す** – オーディオプレイヤーを表示したり隠したりします。
- **前のオーディオトラック** – 前のオーディオトラックへスキップします。
- **次のオーディオトラック** – 次のオーディオトラックへスキップします。
- **オーディオトラックの開始または停止** – 停止していればオーディオプレイヤーを開始し、再生中なら停止します。
- **メトロノームの開始・停止** – 停止していればメトロノームを開始し、そうでなければ停止します。
- **前のソングへ移動** – セットリストの前のソングへ移動します。ソングがひとつだけ読み込まれているときはなにもしません。
- **次のソングへ移動** – セットリストの次のソングへ移動します。ソングがひとつだけ読み込まれているときはなにもしません。
- **ソングの頭へ戻る** – 表示中のソングの最初のページへ戻ります。
- **ソングの終わりへ飛ぶ** – 表示中のソングの最後のページへ進みます。
- **前のブックマークへ移動** – 表示中のページからもっとも近い前にあるブックマークへ移動します。
- **次のブックマークへ移動** – 表示中のページからもっとも近い先にあるブックマークへ移動します。

- **スクロールの開始・停止** – 停止中なら自動スクロールを開始し、そうでなければ停止します。
- **前のページかソング終わりへループ** – ソングの最初でなければ１ページ前に戻り、そうであればソングの最後のページへ飛びます。このループはそのソングの中だけで行い、全体のリピートモード設定の影響は受けません。
- **次のページかソング頭へループ** – ソングの最後のページでなければ１ページ先へ進み、そうであればソングの最初のページへ飛びます。
- **アノテーション** – 表示中のソングに対するアノテーションエディターを起動します。
- **ライブラリー画面へ戻る** – ライブラリー画面へ戻ります。
- **セットリスト画面を表示／隠す** – ソングオーバーレイのセットリスト画面を表示したり隠したりします。
- **メモ・ノートの表示** – ソングに設定されているノートを表示します。
- **２ページ後ろへめくる** – 最大で２ページまで、後ろへめくります。
- **２ページ先へめくる** – 最大で２ページまで、前へめくります。
- **次のリンクポイントをリセット** – ペダルを使ってリンクポイントを飛んでいるときに、次にペダル操作した時に実行されるリンクポイントを選択するダイアログが表示されます。
- **次のスマートボタンを実行する** – ソングに含まれるスマートボタンのリストを順番に、そのボタンがどのページにあるかに関係なく実行します。
- **以前のスマートボタンを有効にする** – ソングに含まれるスマートボタンをリストの逆順に、そのボタンがどのページにあるかに関係なく実行します。
- **オーディオプレイヤーのボリュームを５％あげる** - オーディオプレイヤーのボリュームを５％あげます。
- **オーディオプレイヤーのボリュームを５％さげる** - オーディオプレイヤーのボリュームを５％さげます。
- **オーディオトラックの一時停止または再開** – オーディオプレイヤーが再生中ならトラックを一時停止し、そうでなければその位置から再生を再開します。
- **トリガー戻るボタン** – あたかもタブレットの戻るボタンを押したかのように、ソングを表示中であればライブラリー画面へ戻ります。

- いくつかのペダルモードでは、前後のリンクや、前後のスマートボタンを対象にします。ソングがロードされると、どのリンクやスマートボタンが最後に実行されたかを数えるカウンターを用意します。ソングにリンクが４つある時に、最初のリンクを実行すると、次に実行されるのはソング中の二番目のリンクです。「前のリンクを実行するか前のページへ飛ぶ」と「次のリンクを実行するか次のページへ飛ぶ」の動作では、リンクポイントが順番に実行される点に注意してください。もし、前にあるリンクポイントの実行を忘れると、ソングを再ロードしない限り(あるいはそのリンクポイントが存在するページまで戻って実行する)、ペダル操作ではその先のリンクポイントを実行できません。この仕様の導入で、ページめくりの順序が 1,2, 3, 1, 2, 5, 6 のようなときに、ペダル操作のたびに先のページへ進む、といったことができるようになります。実現するのに必要なのは、3 から 1 へのリンクポイントと、続いて 2 から 5 へのリンクポイントです。この状態で「次のリンクを実行するか次のページへ飛ぶ」を指定すれば、ペダルを踏むたびにページが順番に表示されます。他の方法でこういったことを実現するにはカスタムのページ順序を使うしかありません。

MIDI 接続の設定

デフォルトでは、MobileSheets は USB ケーブルで接続されたあらゆる MIDI デバイスと通信を開始します。利用可能な全入出力ポートとの接続を作成します。ほとんどの Android デバイスでうまく動きますが、一部のデバイス(Chromebook など)では MobileSheets のデフォルトの MIDI ライブラリーでは正しく機能できないような制限がかけられています。MIDI デバイスが接続できなかったり、ポート別のフィルター設定が必要なときは、MIDI ライブラリーを切り替えてください。設定画面を開き、「MIDI」>「MIDI 接続設定」へ進みます。

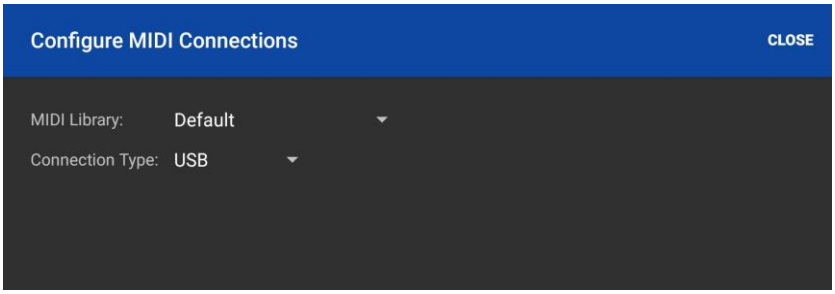


Figure 103 – MIDI 接続設定の画面

接続タイプを「Bluetooth」にすると、MobileSheets は検出した全ての Bluetooth MIDI デバイスへ接続します。Android の「MIDI over BLE」は完全には信頼できず、可能なら USB の使用が好ましいです。

MIDI ライブラリーを「Google」に切り替えると、以下のような入出力ポート項目が表示されます。

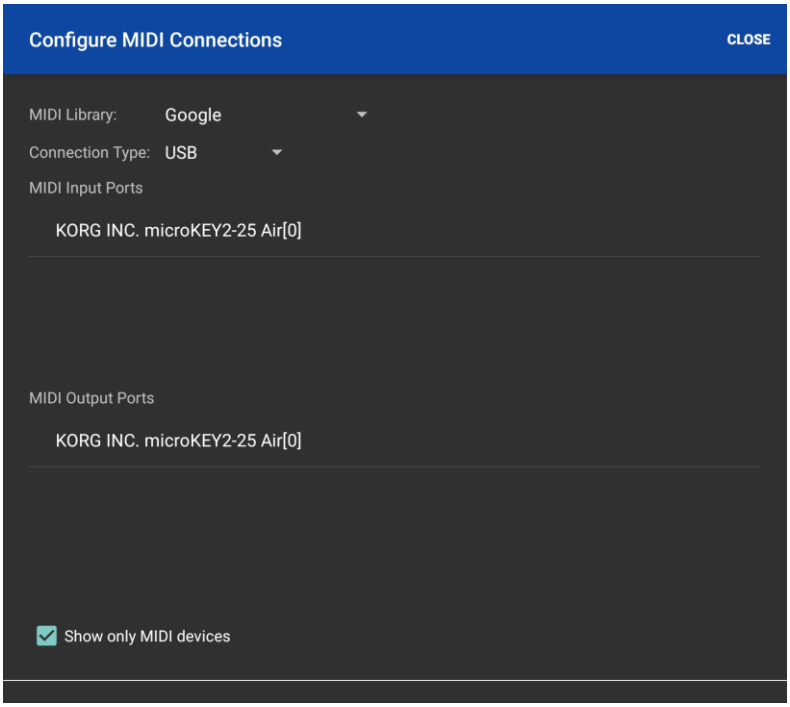


Figure 104 - 「Google」MIDI ライブラリー

入力ポート・出力ポート中のエントリーをタップすると、そのポートへの接続を開始します。MobileSheets はポートの隣に接続中であることを示す「(接続中)」を表示し、接続に成功すると「(接続済)」と表示します。接続に成功すると MobileSheets はそのポートの情報を記憶するので、次回以降は自動的に再接続して、起動の都度毎回 MIDI 設定画面を開かなくてもすみます。「MIDI デバイスのみ表示」チェックで、表示するデバイスを MIDI クラス規格に準拠した USB/Bluetooth デバイスだけにするかどうか指定できます。USB でも Bluetooth でも接続方法は一緒で、接続するポートを選ぶにはリスト上をタップしなければなりません。

Google MIDI ライブラリー利用のもうひとつの利点は、メッセージをポートごとにフィルターできることです。Google MIDI ライブラリーを選択すると、MIDI コマンド設定時に入出力ポートが指定できるようになります。これにより特定のメッセージをどのポートから出力し、ソングをロードするきっかけとなるコマンドをどの特定のポートで待てばよいか、指定できます。さらに複雑な設定が必要な場合に、パワフルな機能です。

もうひとつ選択可能な最後のライブラリーが高性能 USB MIDI ライブラリーです。非常に高性能なのですが、Android 4.4 以降でしか使えず、MIDI クラスに準拠した USB デバイスしか利用できませ

ん。MIDI 接続で絶対的な高性能が必要であり、他のライブラリーが遅くて使い物にならないなら、このライブラリーの使用を検討すべきです。デフォルトのライブラリーと同様、このライブラリーの使用中はデバイスは自動的に接続され、ポートごとのフィルター設定はできません。

MIDI アクション

ペダルアクションと同様に、MobileSheets は受信した MIDI コマンドに応じていろいろなアクションを引き起こすことができます。これらのアクションを設定するには、設定画面から、MIDI へ進み、「MIDI アクション」を開きます。次のような画面が表示されます。

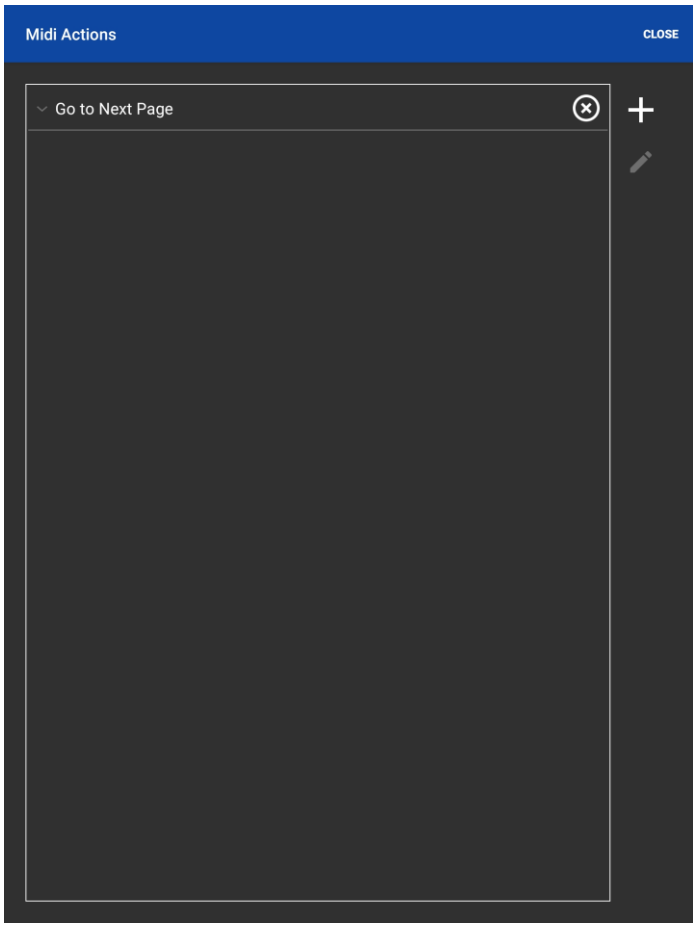


Figure 105 – MIDI アクション設定

新しく MIDI アクションを追加するには、＋ アイコンをタップして新規 MIDI アクションのダイアログを呼び出します。一番上のドロップダウンで、アクションを選択します。MIDI アクションではペダルアクシ

ョンで用意されている動作と同じ動作が利用できますので、各アクションについて詳しくは前のセクションを参照してください。この画面で + アイコンをタップすると MIDI コマンド追加のダイアログが表示されます。このダイアログで、どのような MIDI コマンドを待ち受けるのかを指定します。詳細については MIDI タブを参照してください。指定したアクションの実行に必要な、すべての MIDI コマンドを追加します。 アイコンをタップすると、MIDI デバイスから送られてくるコマンドを監視し、それらのコマンドを MIDI アクション用としてセットアップします。

デバイスの接続

MobileSheets の非常に強力な機能のひとつが、一台のリーダーデバイスで他の接続されたフォロワーデバイスをコントロールする機能です。リーダーデバイスから、他のタブレットでソングやセットリストをロードしたり、ページをめくったりペダルアクションを送り込んだりするよう設定できます。デバイスを接続するには、ライブラリー画面のオーバーフローメニューにある「タブレットの接続」をタップします。

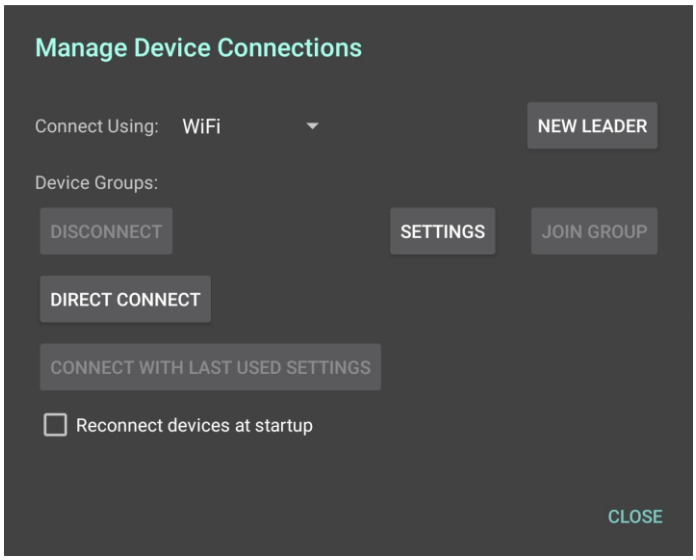


Figure 106 - デバイス接続の管理

デバイスは、WiFi か Bluetooth で接続します。「接続方法」ドロップダウンで切り替えます。WiFi を選択してリーダータブレットの IP アドレスが判っているのであれば、IP アドレスを入力する「直接接続」ボタンをタップすることで指定できます。OK をタップすると、通常の探索処理は行わず直接リーダー

デバイスへ接続します。ネットワークやデバイスの制限でリーダーデバイスを見せないけれども接続はできるといったときに使います。同様に、「前回の設定で接続」をタップすると前回リーダーへ接続した時と同じ設定が使われます。他のデバイスと接続したことがないと、このボタンは使えません。「アプリ開始時にデバイスへ再接続」を有効にすると、MobileSheets の起動と同時に、最後に接続に成功したときと同じ接続をセットアップします。つまり、リーダーのタブレット上で新しいグループを作成し、フォロワーのタブレットはこのグループへ接続することを意味します。

Wifi と Bluetooth の接続は、似たような設定ダイアログがあり、以下のセクションで説明します。

WIFI を使ったデバイスの接続

WiFi でデバイスを接続するには、全デバイスが接続可能な共通のアクセスポイントがなければなりません。このアクセスポイントは、各デバイス同士がメッセージを送りあうことを許さなければなりません(公共の、パブリックなアクセスポイントでは禁じていることが多い)。利用できるアクセスポイントがないときは、多くのスマホでは他のデバイスから接続可能なホットスポットの作成がサポートされており、MobileSheets もそれを利用できます。

デバイスを接続するには、まずリーダーとなるデバイスで「新規の親デバイス」をタップしなければなりません。次のような画面が表示されます。

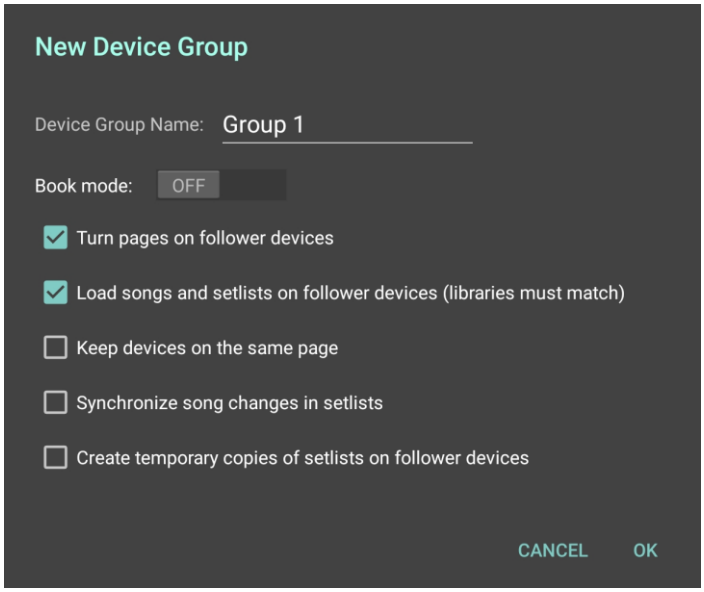


Figure 107 - 新規グループのセットアップ

加わるグループをフォロワーデバイスが探せるよう、グループに名前をつけます。同じアクセスポイント上で複数のグループがある際に、別々の名前をつけることができます。「ブックモード」は、リーダーとフォロワーの２つのデバイスを使って楽譜を一人で見るような使い方です。２つのデバイスを使って、２ページ表示モードにするような設定です。ブックモードについては、このセクションの最後でもう少し説明します。

次の設定は、リーダーがフォロワーデバイス上でページめくりや、ソングやセットリストのロードをするかどうかを決定します。ソングをロードするには、タイトルが一致するソングやセットリストがフォロワーデバイス上になければなりません。「デバイスを同じページに保つ」は、リーダーデバイスと全フォロワーデバイス上で常に同じページが表示されるようにします。これとは違い、「セットリスト中のソングの変更を同期」では、あるタブレット上のソングが他のタブレットよりページが多い場合も考慮します。この設定が正しく機能するよう、各デバイス上のセットリスト中の曲順は同じにしてください。「セットリスト中のソングの変更を同期」を有効にすると、リーダータブレットがソングを変更(ページの変更、ブックマークの使用、ソングを呼び出し、その他により)すると、フォロワーデバイスも同じソングへ変更します。最後の「デバイス上でセットリストの一時的なコピーを作成」を有効にすると、セットリストをロードした際にリーダータブレットはフォロワーデバイスへセットリスト(とソングの一覧)の情報を送信します。フォロワーデバイスは一時的なコピーとしてこのセットリストと含まれるソングのリストを作成し、自分

の持っているライブラリー中で一致するソングを割り当てるか、一致するソングが見つからなければブランク(ページのない)のプレースホルダーを配置します。

「OK」をタップすると、リーダーデバイスはフォロワーデバイスへ向けてグループ情報の発信を開始します。この間、次の例のようにダイアログ画面にはグループ名が表示されます。

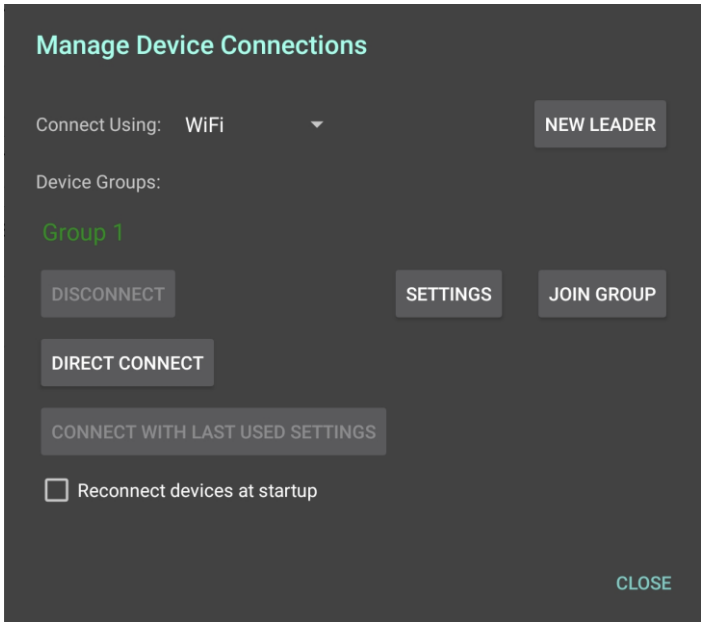


Figure 108 - リーダーグループを検出し参加可能な状態

この例では、グループ名「Group 1」がタップ可能で選択されていることを示す緑色で表示され、上の図のように「グループに加わる」ボタンが押せるようになっています。「グループに加わる」をタップすると、フォロワーはそのグループへ加わろうとします。参加すると、リスト上の表示は「Group 1 (接続済)」に変わり、リーダーデバイス上のリストには接続したフォロワーデバイスが表示されます。この時点から、リーダーはソングやセットリストをロードすることができ、フォロワーデバイスは同じソングやセットリストをロードします(一致するものが見つかることを前提に)。設定を有効にしていれば、リーダーデバイスでページをめくるとフォロワーデバイスでも同期してページがめくられます。スクロールといったペダルコマンドもリーダーからフォロワーへ送られますが、「デバイスのページをめくる」設定が有効なときだけです。

BLUETOOTH を使ったデバイスの接続

Bluetooth でデバイスを接続するには、デバイスの Bluetooth が有効になっており、お互い到達できる範囲になければなりません。Bluetooth が無効な状態でドロップダウンから Bluetooth を選択すると、MobileSheets は Bluetooth を有効にするよう求めます。Bluetooth を選択し有効であれば、以下のような「サーチ」というスイッチを持つ画面が表示されます。

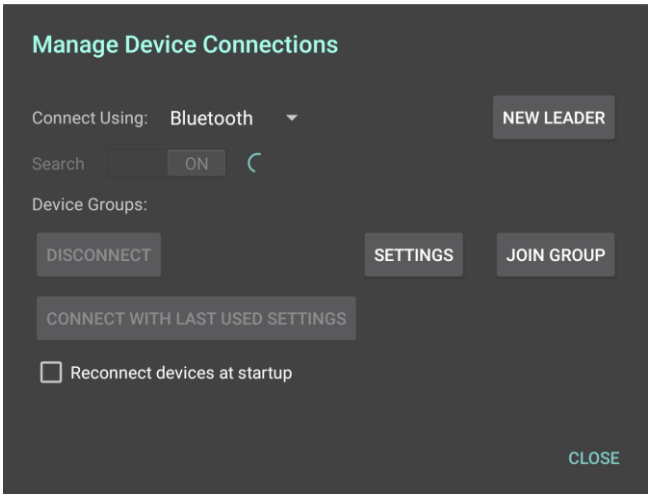


Figure 109 – Bluetooth が有効でデバイスを探索中の状態

スイッチをオンにすると、タブレットは近くにある接続可能な Bluetooth デバイスを探します。この探索は多くの電池とデバイスの処理リソースを浪費するため、最長 12 秒間しか行いません。作成されたグループは、この 12 秒間に見つかったものだけが表示されます。一度探索が終わった後でも、リーダーがグループを作成した時点でスイッチをオンに戻して、また探索することができます。

新しくグループを作成するには、「新規の親デバイス」をタップして、前のセクションで説明したように名前を設定します。唯一の違いは、「OK」ボタンをタップした後にデバイスに見つかるようにするかどうか確認する画面が表示される点です。この後デバイスは二分間、他のデバイスから見つかる状態になり、画面上の「サーチ」の表示は「探される」に変わります。二分間が経過した後に他のフォロワーデバイスに見つけてもらう必要が生じたら、「探される」スイッチをオンに戻します。

フォロワーデバイスが Bluetooth を使って接続しようとすると、2 つのデバイス間のペアリングを開始します。これまでペアリングしたことがなければ、お互いのデバイス上でペアリングの確認が求められます。ペアリングが完了すると 2 つのデバイスは接続され、デバイス一覧もあわせて変化します。リーダーはフォロワーデバイスをコントロールできるようになります。

フォロワーの接続設定

メインのデバイス接続設定画面で「設定」をタップすると、フォロワーデバイスとしての別の設定ダイアログが表示されます。

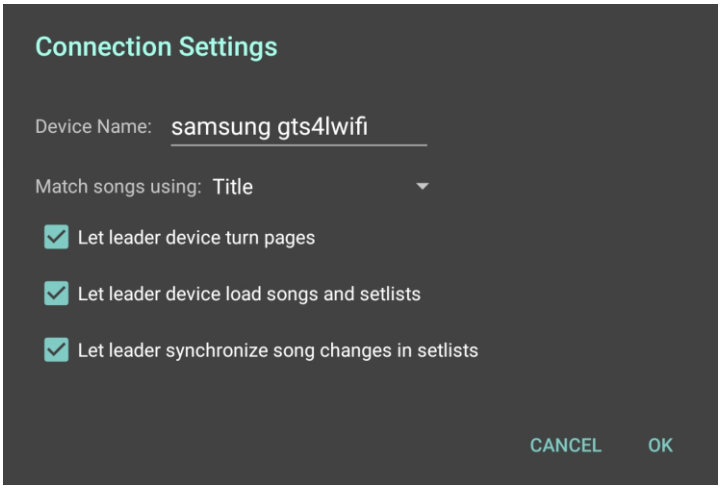


Figure 110 – フォロワーデバイスの接続設定

デバイス名の指定で、リーダーデバイス上に表示されるリスト中で区別できるようフォロワーデバイスにわかりやすい名前を付けられます。その下にある「これに一致するソング」は非常に重要です。リーダータブレットから送られてくる情報が、フォロワータブレットのソングのどの情報と一致するかを指定します。デフォルトでは、一致するソングはタイトル情報の一致で判断します。各デバイスがそれぞれ別のソングを持っている(例えば各ミュージシャンが別々のパート譜を持っている)ときには、曲番号(ソング ID)やカスタムフィールドを一致キーにしたほうが便利です。この設定には、「タイトル」「カスタムのタイトルでソート(ソート用のカスタムタイトル)」「曲番号」「カスタム」「カスタム２」から選ぶことができます。

残りの設定は、リーダーデバイスによるソングやセットリストのロード、ページめくりを、フォロワーデバイスが受け入れるかどうかを決定します。全フォロワーデバイスに適用するデフォルト設定をリーダーデバイス側でしておき、一部ユーザーだけは必要に応じてその設定を変更することができます。

二台のタブレットを一人で使うように同期(ブックモード)

２ページ表示に充分な広さの画面を持つデバイスは少ないですから、２つのデバイスをつないであたかもひとつのデバイスであるかのようにできれば便利です。ブックモードで実現できます。リーダーデバイス(左側のページを担当)がフォロワー(右側のページを担当)に接続した状態でソングがロードされると、フォロワーデバイスは常にリーダーデバイスの次のページを表示します。どちらのデバイスの画面をタップしてもページめくりができます。「新規デバイスグループ」のダイアログでブックモードを有効にすると、以下のような追加のオプションを含んだ設定に画面が切り替わります。

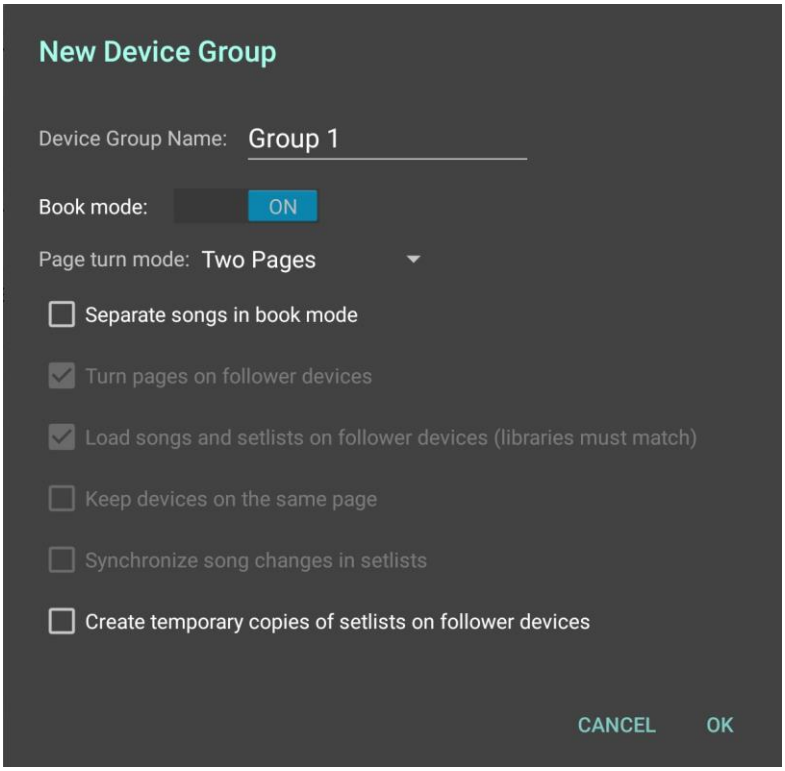


Figure 111 – ブックモードを選択した状態の新規デバイスグループ設定

「ページめくりモード」ではソング中をどのようにページをめくっていくかを指定します。サポートするページめくりモードについては２ページ表示モードを参照してください。「ブックモードでソング間を個別に扱う」を有効にすると、別々のソングが同時に２つのデバイス上に表示されることがないようにします。ソングのページ数が奇数でリーダー上には最後のページが表示されているとき、フォロワーデバイスにはブランク(空白)ページが表示されます。

ブックモードが正しく働くには、お互いのデバイスが同じライブラリーを持つことが必須です。バックアップとリストアか、ライブラリーの同期のいずれでも実現できます。重要なのは、デバイスがリーダータブ

レットへ正しく接続していなければブックモードは有効にならない点です。これにより、何らかのアクシデントでフォロワーデバイスの接続がはずれたとしても、フォロワーが再接続するまでリーダーデバイスは普通通りに使い続けることができます。

デバイスのライブラリーを同期

グループの一員として演奏活動をする場合、特にリーダーとフォロワーの機能を活用するにはグループの間で各メンバーがライブラリーの内容を共有する必要があります。ライブラリーのバックアップファイルをリストアすることで実現できますが、バックアップファイルをリストアするとデバイスのライブラリーが一切合切置き換わってしまうため、「オール・オア・ナッシング」な解決になってしまいます。より好ましい解決方法として、MobileSheets のライブラリー同期機能があります。ライブラリー画面で「ライブラリーの同期」をタップします。以下の同期オプションが選択できます。

- デバイスへ同期
- クラウドフォルダへ同期
- バックアップファイルへ同期

同期のそれぞれの動作について、以下のセクションで説明します。

デバイスへ同期

WiFi または Bluetooth を通じて二つのデバイス間でライブラリーをマージ(結合)します。このオプションを選択すると、次のような画面が表示されます。

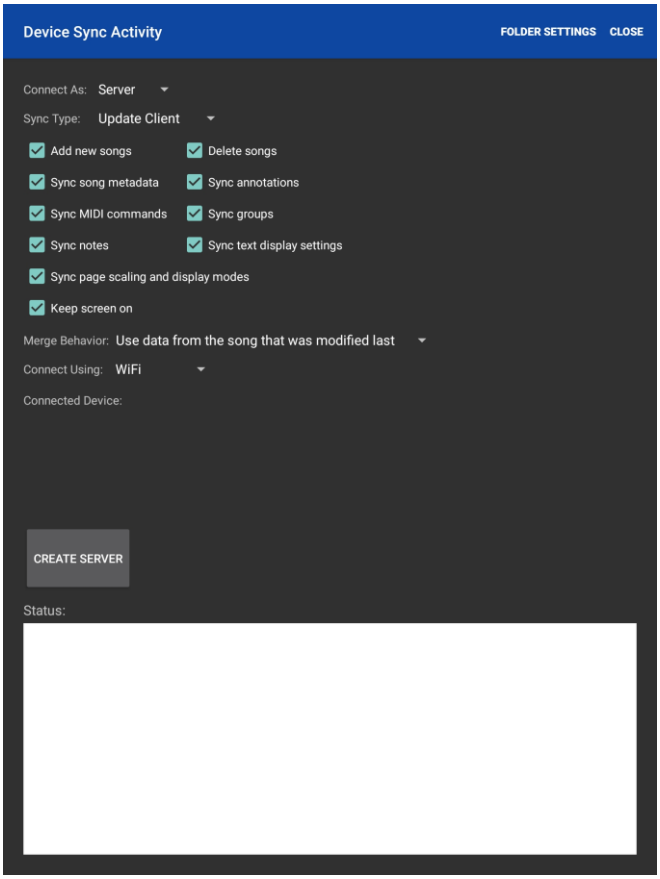


Figure 112 – デバイスの同期

各設定項目を説明します。

- **接続の役割** – サーバーとなるデバイスと、そのほかのクライアントとなるデバイスを決定します。サーバーとなったデバイスが、マージ時のすべての設定を決定します。
- **同期のタイプ** – マージ動作で更新の対象となるデバイスを決定します。どちらか片方を更新する「サーバー側を更新」「クライアント側を更新」か、お互いに更新しあう「双方で同期」から選びます。
- **新しいソングを追加** – 新しくソングを作成するかどうかを指定します。無効にすると、ライブラリーへ新しくソングが追加されることはありません。
- **存在しないソングを削除** – マージの過程で不要であればソングを削除します。この設定は、片方だけ更新する際に効果があります。他のデバイスには無いソングが同期のターゲット側に存在していると、そのソングは削除されます。

- **ソングのメタ情報を同期** – グループ間でソングに関連付けられていないものも含め、ソングのメタデータを同期します。リンクポイント、ブックマーク、カスタム・カスタム２・難易度・レーティングや、スクロール設定、メトロノーム設定などが該当します。
- **アノテーションを同期** – すべてのアノテーション情報を同期します。
- **MIDI コマンドを同期** – ソングに関連する MIDI コマンドを同期します。ソングに追加された MIDI コマンドのみが対象で、全体の設定である MIDI アクションは同期されません。
- **グループを同期** – セットリスト、コレクション、ジャンル、アーティストなどのグループ情報を同期します。
- **ソングのノートを同期** – ソングのメモ・ノート情報を同期します。
- **テキスト表示設定に同期** – テキストや chord pro ファイルの表示設定を同期します。
- **ページのスケーリングと表示モードとを同期** - 縦置き・横置き時の表示設定やページの拡大縮小を無視するような、ソングごとの設定があれば同期します。
- **表示をオンのままに** – ライブラリーをマージしている間は画面上の操作ができないようにします。
- **マージ時の動作** – ソング間で相違があった場合の動作です。以下から選択します。
    - **後から更新されたほうのソングのデータを利用** – ソング同士を比較して、更新時間が後のデータを優先します。ソング上のどのデータを変更しても更新時間がアップデートされます。ソング中のファイルが比較対象となった場合は、ファイルの最終更新時で比較されます。
    - **毎回ユーザーに確認** – ソングに相違が見つかるたびに確認のダイアログが表示されます。マージ処理を完全にコントロールできるオプションです。
    - **新しいソングとグループのみマージ** – 双方のタブレットに存在するソングは無視します。
    - **新しいもののみマージするが毎回ユーザーに確認** – 双方のタブレットにすでに存在するソングは無視し、片方だけにあるものは追加するかどうか確認を求めます。
    - **常にサーバー側のデータを利用** – 片方向への同期と同様、違いや同期の必要性にかかわりなく、サーバー側のソングを優先します。片方向の同期と異なり、この設定を有効にすると双方向同期中でも新規のソングが作成されます。

- **常にクライアント側のデータを利用** – 先ほどのオプションと同等ですが、クライアント側のソングが使われます。
- **接続方法** – デバイス同士の接続を WiFi にするか Bluetooth にするか決定します。通常は WiFi のほうが信頼性があり高速で、ルーターが利用できるならこちらを選択します。

アクションバーの右上に「フォルダー設定」があります。タップすると、デバイス上のフォルダーへ名前を関連付けるダイアログが表示されます。各デバイスで別々のフォルダーパスへ同じ名前を関連付ければ、マージ処理中に各デバイスごと独自にファイルの置き場所を決められます。この設定は、ファイルの管理を MobileSheets のストレージに任せることなくご自身で行う場合にだけ必要なものです。

各設定を選んだら、サーバーデバイス上で「サーバーの作成」をクリックして同期を開始します。WiFi を使っていればクライアントは自動的にサーバーを見つけますが、クライアント上で「直接接続」をタップしてサーバーの IP アドレスを入力することもできます。サーバーが検出されるとリスト上に表示されます。サーバー名をタップして選択し、「接続」をタップして接続を開始します。接続したクライアントデバイスがサーバーデバイス上に表示されます。Bluetooth で接続する際は前のセクションを参照してください。相互にデバイスが接続すると、マージ処理が自動的に開始されます。画面の下にステータスが表示され、マージ処理中にユーザーによる確認が必要なときはプロンプトが表示されます。マージが終了したら、「終了」をタップします。同期すべきデバイスが複数あるときは、「続ける」をタップしてマージ設定をリセットし、次の接続を行うことができます。

クラウドフォルダーへ同期

この同期手法では 1 つのデバイスからクラウドフォルダーへライブラリーをアップロードし、他のデバイスはそのフォルダーと同期することで更新を受け取ります。前のセクションで説明した多くのオプションが利用できます(「クライアント」が「フォルダー」に、「サーバー」が「デバイス」に用語が変わるだけ)。以下の設定が異なります。

- **クラウドフォルダー中の更新されたファイルをチェック** – 有効にすると、クラウドフォルダー中の各ファイルごとに更新を確認します。遅いですが、クラウドフォルダー中へファイル

が新しくコピーされたら、それを確実に処理します。フォルダーへファイルをコピーしていないことが判っているなら、これを無効にして同期をより速く終わらせます。

- **双方のライブラリー中で新しいファイルと作成されたソングを検索しています** – 有効にすると、MobileSheets はクラウドフォルダー内の現在ライブラリー中で使用されていないファイルもスキャンします。見つかればライブラリーへインポートし、クラウドフォルダー中のライブラリーも同様に更新します。

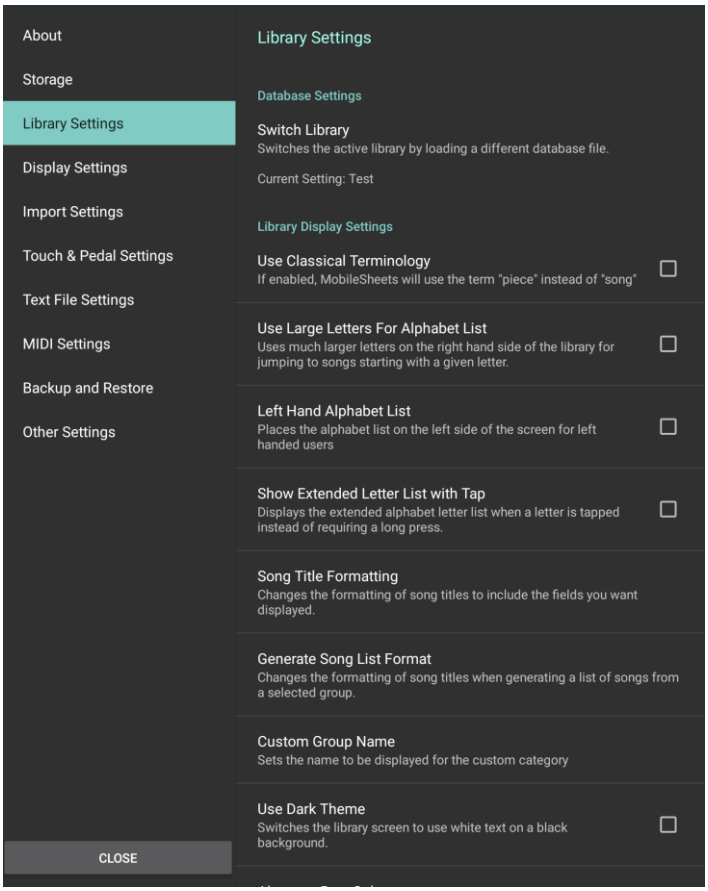
同期を開始するには、フォルダーのアイコンをタップしてクラウドフォルダーを選択し、「開始」ボタンをタップします。デバイスとクラウドフォルダーを初めて同期する際に、デバイスのライブラリーがクラウドフォルダーへアップロードされます(ライブラリー情報を保持するデータベースが無い、既存のクラウドフォルダーを同期用に使うことはできません)。ライブラリーが大きいときにはこの初回のアップロードに時間がかかりますが、それ以降の同期は高速で、特に MobileSheets がアップロードされたファイルをチェックしなくてもよければなおさらです。クラウドフォルダーへファイルを手動で追加した後で新しいファイルを検索させることはできますが、デバイスでファイルをインポートしてクラウドフォルダーと同期したほうがはるかに効率的なことが多いです。

バックアップファイルへ同期

インターネット接続なしに、たくさんのデバイスでライブラリーを同期する必要があるなら、バックアップファイルとの同期が便利です。バックアップファイルへのマージは片方向処理で、デバイス側だけが更新されます。バックアップファイルに含まれているデータベースのバージョンはデバイス上のデータベースのバージョンと一致する必要があり、違う場合は同期は許されません。マージを開始するには、フォルダーのアイコンをタップし、使用する.msb ファイルを選択します。ファイルはタブレット上か接続したストレージ(SD カードなど)になければならず、クラウドストレージは使えません。ファイルを選択したら「開始」をタップしてマージを始めます。これまでのセクションで説明した他の同期方法と同じように動作します。

設定とオプション

多くのユーザーはデフォルトの MobileSheets 設定で問題ありませんが、みな少しずつ違った操作を好むものです。これが、アプリケーションの操作に影響を与えるいろいろな設定項目が MobileSheets にある理由です。設定画面を呼び出すには、ライブラリー画面の右上にあるオーバーフローメニューから「設定」を選ぶか、オーバーレイ右下隅にある⚙アイコンをタップします。



113 – 設定画面

ライブラリー画面から設定画面を呼び出すと「ライブラリー」設定が最初に表示されます。ソングオーバーレイ画面から設定画面を呼び出すと「表示」設定が最初に表示されます。

ほとんどの設定はその名前のとおりの意味ですが、説明を読んだだけではわかりにくいものもあります。念のため、以下で詳細を説明します。

アプリについて

- **バージョン** – MobileSheets のバージョンを表示します。
- **サポートへメール** – Zubersoft サポートのアドレスへメールを送信できます。ご利用のタブレットに関する情報があらかじめ記載されています。
- **リリースノート** – 最新リリースまでのすべてのリリースノートを表示します。
- **クレジット** – アプリの翻訳担当やサポーターの一覧と、使用しているオープンソースソフトウェアを表示します。
- **クラッシュレポートを有効にする** – MobileSheets のプログラムに潜在するエラーを追いかけるのに役立つ、クラッシュレポートを自動的に送信します。MobileSheets のプライバシーポリシーに規定される一切の個人情報はクラッシュレポートには含んでいません。
- **個人情報保護方針** – MobileSheets のプライバシーポリシーを表示します。

ストレージ

- **MobileSheets がファイルを管理**
  - MobileSheets がインポートしたファイルを自身のストレージへコピーするか、インポート元の場所にあるものをそのまま使うか決定します。詳細はストレージを参照してください。
- **MobileSheets ストレージの場所**
  - インポートしたファイルを MobileSheets が保存する場所です。
- **データベースファイルを見せる**
  - データベースファイルをストレージ上の場所に置くか、アプリのプライベートディレクトリーへ置くか、決定します。見せることを選ぶ場合は、アプリ起動時に常にアクセス可能な場所でなければなりません。
- **コピー後にオリジナルを削除**
  - 「MobileSheets がファイルを管理」が有効な時に、インポートして MobileSheets のストレージへコピーした元のファイルを削除するかどうか指定します。MobileSheets へインポートする SD カード上のファイルがもう不要であれば、有効にします。

- **ソングごとにサブディレクトリーを作成**
  - ストレージの場所で、ソングごとに独立したフォルダーを作成します。ファイル名の競合を避けることができます。「MobileSheets がファイルを管理」が有効なときだけ使えます。
- **オーディオファイルをコピー**
  - ソングへ追加されたオーディオファイルを MobileSheets のストレージへコピーするかどうか決定します。「MobileSheets がファイルを管理」が有効なときだけ使えます。
- **Dropbox アカウントの切り替え**
  - 使用する Dropbox のアカウントを切り替えることができます。
- **Google ドライブアカウントの切り替え**
  - 使用する Google ドライブのアカウントを切り替えることができます。
- **OneDrive アカウントの切り替え**
  - 使用する OneDrive のアカウントを切り替えることができます。
- **Dropbox の統合**
  - クラウドソースとして Dropbox をインポート・エクスポート先として表示します。
- **Google ドライブの統合**
  - クラウドソースとして Google ドライブをインポート・エクスポート先として表示します。
- **OneDrive 接続を利用する**
  - クラウドソースとして OneDrive をインポート・エクスポート先として表示します。

ライブラリー

- **ライブラリーの切り替え**
  - 別のデータベースを読み込んでアクティブなライブラリーを切り替えます。
- **古い用語を使用**
  - 有効にすると、MobileSheets は「ソング」ではなく「ピース」という用語を使います。
- **頭文字に大きい文字を使用**

    - ライブラリー画面右側のアルファベットリストを大きいサイズのフォントにします。この設定を有効にするとリスト全部が見えないかもしれず、スクロールする必要があります。
- **アルファベット順を左に**
    - ある文字から始まるエントリーを並べたアルファベットリストを、画面の右側でなく左側に表示します。
- **頭文字をタップしてタイトルを長めに表示** – ライブラリー画面のアルファベットリストの動作を変更して、通常は長押しで表示される二文字目以降をシングルタップで表示するようにします。逆に長押し操作はシングルタップとして扱われ、その文字で始まるエントリーまでリストをスクロールします。詳細はアルファベットリストを参照してください。
- **ソングタイトルの書式**
    - ソングタイトルの書式設定ダイアログを呼び出し、ライブラリーのリスト画面上でのタイトル表示を設定します。詳細はソングタイトルの書式を参照してください。
- **ソングリストの書式を構成**
    - セットリストのソングリストを作成する際にソングをどう表示するか指定します。詳細は生成されるソングリストの書式を参照してください。
- **カスタムカテゴリーの名前**
    - カスタムグループのカテゴリーとして表示される名前を指定します。
- **ダークテーマを使用**
    - リスト表示の色を黒地に白文字へ反転します。
- **行ごとに反転**
    - ライブラリー画面のリストを行ごとに色を変えます。「なし」「明るいグレー」「グレー」「暗いグレー」から選べます。
- **ライブラリーのテキストサイズ**
    - ライブラリー画面でエントリーの表示に使用するフォントサイズです。
- **テキストの揃え**
    - ライブラリーのリスト表示を、左揃え・中央揃え・右揃えの中から指定します。
- **表示するタブと順序**
    - タブの選択と順序設定画面を呼び出し、タブの表示と順序を指定します。

- **ソング数を表示**
  - グループを表示した際に、含まれているソング数をリスト上のそのエントリーの右側に(アルファベットリストを左側に表示しているのであれば左側へ)表示します。
- **セットリストの長さを表示**
  - ライブラリー画面のセットリストのタイトルの横へ、合計時間を表示します。
- **オーディオファイルをもとにセットリストの長さを算出**
  - セットリストに含まれるソングの演奏時間属性ではなく、使用されているオーディオファイルの演奏時間の合計でセットリストの長さを算出します。
- **ロード後にフィルターをクリア**
  - ソングやセットリストがロードされたら、フィルター設定を自動的にクリアします。

- **グループエディター終了後にフィルターをリセット**
  - グループエディターを終了する際に、適用されていたフィルター情報を自動的にリセットします。
- **フローティングツールバーを表示**
  - ライブラリー画面の右下隅へフローティングツールバーを表示するか指定します。
- **ソートで冠詞を無視**
  - 「無視する語」で指定した文字をソート時に無視します。「A」「An」「The」のような語を無視して、「The Best Song」ならば「T」ではなく「B」のところへ分類します。
- **無視する語**
  - 「ソートで冠詞を無視」を有効にしているときに、どんな単語を無視するか指定します。複数の単語を指定するときは、カンマで区切らなければなりません。
- **文字を正規化**
  - 区分符号(ダイアクリティカルマーク)のついた文字を、ソート時には普通の文字として扱い、例えば「Č」は C に、「Å」は A に、「Ö」は O として、それぞれ扱います。
- **言語別ソートの設定**
  - 言語ごとのソート規則にしたがって比較します。無効にすると、シンプルな文字コード順になります。

- **自動的に次のソングをロード**
  - ライブラリーのリスト上にあるソング間を通じて連続したページめくりを行います。例えば、ソングタブでソングをロードすると、最初にロードしたソングから始まってソングタブにある全ソングのページを順番にめくります。これらのソングはセットリストとしては扱われず、ソングが最後のページに達すると MobileSheets はリスト上の次のソングを単に先読みします。
- **常に最後に表示したページをロード**
  - 有効にすると、MobileSheets はそのソングやセットリストで前回表示したページを自動的に表示します。いろいろな曲で最後に演奏した箇所へ戻れます。
- **最初のライブラリータブ**
  - MobileSheets 起動時にどのタブを表示するか決定します。
- **常にセットリスト全体をロード**
  - ライブラリー画面でセットリストの一部としてソングがタップされたら、リスト全体をロードするのか(そのソングのページから開始)、そのソングだけをロードするか決定します。

- **ソングが 1 つだけのグループ表示をスキップ**
  - ソングが 1 つしか含まれないグループをタップしたら、グループを表示するのではなくそのソングをロードします。空っぽのグループのタイトルはグレー色で表示されます。ソング数の表示が有効なとき、1 つしかソングのないグループに数は表示しません。
- **起動時に最後に使用したフィルターを自動的に読み込む** – 有効にすると、MobileSheets はアプリのクローズ時にフィルター情報を保存します。次回アプリを起動した時に、同じフィルターが適用されます。

表示

- **言語**
  - MobileSheets で使用する言語を簡単に切り替えることができます。
- **100%を越えたズームを許す**

- MobileSheets でピンチ操作を行うと、通常は画面サイズ以下には縮小ズームすることができません。画面スペースをできるだけ使い切るためです。画面サイズ以下まで楽譜の表示を小さくしたいときは、この設定を有効にします。

- **ページめくりアニメを無効**
  - シングルページ・２ページ・垂直スクロールのディスプレイモードでは、タップすると新しいページへ移る前にページがスクロールします。この設定ではスクロールのアニメーションを省略して、タップと同時にすぐページを切り替えます。
- **リピートモード**
  - この設定が有効な時にソングやセットリストの最後のページに到達すると、MobileSheets はそのソングやセットリストの最初のページへ戻ります。
- **縦置き時に半ページを表示**
  - シングルページ表示モードで、縦置き時には半ページを表示します。ページは上下にスクロールすることができます。
- **横置き時に半ページずつめくる**
  - 横置きのシングルページ表示モードで、半ページずつめくっていきます。このモードがアクティブな間は、垂直スクロールはできません。
- **２ページモードでソングを分離**
  - 有効にすると、２ページ表示モードで２つの異なるソングが同時に表示されることはなくなります。３ページあるソングが表示されていて、次のソングが２ページあるとき、最初のソングの３ページ目が次のソングの１ページ目と同時に表示されることはないことを意味します。状況によっては画面に１ページしか表示されない、ということです。

- **リンクポイントのデフォルトサイズ**
  - リンクポイントのデフォルトのサイズを決定します。画面上に表示されるサイズと、タッチ検出の範囲の両方が大きくなります。
- **ページのカラートーン**

- 表示の色合いを指定して、グレアや目の負担を軽減します。「セピア」「グレー」「クール(青っぽい色合い)」が選択できます。

- **背景色**
  - MobileSheets で楽譜の周辺を囲む色を指定します。黒と白が選べます(黒がデフォルト)。透明な画像の背景色としても使われます。透明な画像では、背景色を白にしておくと一般的な楽譜の表示になります。
- **ナイトモード**
  - 暗い環境に備えて画面の白黒を反転します(顔を照らし浮かび上がらせてしまう画面のライトの量を減らすことにつながります)。
- **ページを中央に**
  - 通常は、MobileSheets はタブレットの上端に揃えてページを表示します。この設定で、次のページが画面のどのあたりに表示され視線を向ければよいか判断できます。画面の中央だったり、下端に表示するのが好きであれば、ここで設定します。
- **書式設定したソングタイトルを表示**
  - ソングのタイトルがオーバーレイやセットリスト、ネクストソングなどに表示される際に、ライブラリー画面と同じ表記とします。無効にすると、通常のソングタイトルで表示されます。
- **ネクストソングを表示**
  - ネクストソング・バーをいつ表示するか指定します。「無効」「次のソングの前のページ」「常に」から選択します。詳細はネクストソング・バーを参照してください。
- **常にタイトルバーを表示**
  - オーバーレイの一番上であるタイトルバーを、ソング表示中は常に出しておくかどうか指定します。この設定を有効にすると、楽譜は常にタイトルバーの下に表示され、隠されることはありません。
- **スライド中にプレビューを表示**
  - ページスライダーを使ったページ変更中にプレビューを表示するかどうか指定します。
- **ページのプレビュー用にのみページスライダーを利用**
  - ページスライダーを各ページのサムネール画像プレビューのためだけに使い、スライダーが離されても表示中のページを切り替えません。

- **ページスライダーを表示**
  - いつページスライダーを表示するか決定します。「隠す」「オーバーレイと一緒」「常に表示」から選択できます。
- **表示品質**
  - ページを最高品質で表示し正確性を求めるのか、できるだけ速く表示するのかを指定します。２つの異なる PDF 描画ライブラリー間を切り替えます。PDF の読み込みが遅かったり、PDF の表示に問題がある時は、この設定を変更すると解決するかもしれません。
- **デバイスの向きを固定**
  - デバイスの向きを固定します。ソングごとの向きの指定を無視し、アプリ内のすべての画面の向きへ適用されます。
- **濃いナビゲーションバー**
  - Honeycomb 以降の OS で、画面下のナビゲーションバーを薄く表示します(それ以外の OS では効果ありません)。
- **ナビゲーションバーを隠す**
  - KitKat 以降の OS で、画面下にあるナビゲーションバーを完全に隠します。この設定を有効にしたときは、画面上からスワイプすることでタブレットの戻るボタンを表示できます。
- **フルスクリーンモード**
  - MobileSheets が画面上にある通知バーを隠すかどうか指定します。タブレットからの通知が不要なら、ライブラリーや楽譜の表示用の場所をさらに拡げられます。

インポート

- **PDF ブックマークを変換**
  - PDF のインポート時に、PDF ブックマークを MobileSheets のブックマークへ自動的に変換します。PDF 自体は変更されません。
- **オーディオを自動的にマッチング**

- ファイルのインポート時に、ソングに一致するオーディオファイルを自動的に追加するかどうか指定します。ファイル名(拡張子を除く)が一致するオーディオファイルが、インポートしようとするファイルと同じフォルダーになければなりません。「newfile.pdf」というファイルをインポートすると、「newfile.*」に一致するファイルが探され、有効なオーディオファイル用の拡張子(newfile.mp3 や newfile.wav など)を持つファイルが追加されます。

- **アグレッシブなクロップ**
  - ページの余白に残ったノイズを除去する、アグレッシブなアルゴリズムで楽譜の余白を削除します。

- **オーディオのインポート時にメタデータを展開**
  - インポートしたオーディオファイル中のメタデータを使ってソングの属性情報へ展開するかどうか指定します。
- **インポートした似ている名前のイメージを結合** – ファイル末尾にある数字以外の部分が一致する一連のファイル名の画像ファイルを、同一のソングへ追加します。スキャンした複数の連番画像ファイルがある場合に、一度にインポートしてひとつのソングへまとめられます。
- **各単語ごとに頭文字を大文字に** – 通常、MobileSheets はソングの属性フィールドへ入力される単語の頭文字を大文字にします。言語によっては余計なお世話であり、無効にすることができます。

タッチとペダル

- **ペダルアクション**
  - ペダルが踏まれたときのアクションを割り当てるダイアログを表示します。ペダルアクションの設定を参照してください。
- **AirTurn ダイレクトモード** – AirTurn PED や Digit III、BT200S のようにダイレクトモードをサポートする AirTurn ペダルを接続したときに設定します。ダイレクトモードにするとバッテリーの消費が少なく、OS 上でペダルのペアリングをすることなしに仮想キーボードをそのまま使えます。

- **ペダル操作でのソング変更を防ぐ**
  - ペダル操作でページめくりをしたいがソングを切り替えたくないときに、このオプションを有効にします。ソングの変更は画面上のタッチ操作でのみ行えます。
- **タッチアクション**
  - 画面上の領域をタッチしたときのアクションを割り当てるダイアログを表示します。詳細はタッチアクションを参照してください。
- **オーバレイのモード切替**
  - どんなアクションでイメージオーバーレイを呼び出すのか指定します。「シングルタップ」「長押し」「対角線をスワイプ」から選択します(いずれもシングルタップで閉じます)。
- **スタイラスペンを使ったアノテーション入力に切り替え**
  - スタイラスペンの操作を検出したら MobileSheets はアノテーションモードに切り替えます。スタイラスを画面上でホバー(浮かせてなぞる)したときを含みます。
- **USB マウスを有効にする**
  - USB マウスのクリックでページめくりをするかどうか指定します。
- **マウスクリックを入れ替える**
  - マウスボタンを入れ替え、左クリックでページを前へめくり、右クリックで先へめくります。

- **マウスクリックをペダル操作とみなす**
  - 有効にすると、マウスクリックを左右のペダル操作とみなします。ペダルアクション設定のペダル 1 とペダル 2 へアクションをアサインしなければなりません。

テキストファイル

- **デフォルトのディスプレイ設定**
  - テキストファイル設定を呼び出し、デフォルトの表示設定を指定します。
- **テキストの折り返し**
  - テキストファイル表示時に折り返すかどうか指定します。チェックをはずすと、行が表示の外側へはみだすことがあります。
- **ページの余白**

- Text や chord pro ファイル表示時のページの余白や行間を調整します。

- **複数段を使用**
  - 幅が十分にあれば、テキストファイルを複数の段で表示します。
- **コードをテキストの上に配置**
  - 可能であればコード情報を抜き出してテキストの上に配置し、あるいは同じ行に置いたままにします。
- **コードの囲み文字を隠す**
  - コードを歌詞と同じ行にどのように表示するか指定します。「コードをテキストの上に配置」が有効な時にはこの設定は無効になります。
- **ソング作成時にテキストフィールドを利用**
  - Chord pro ファイルに含まれるメタデータを抽出して、ソング作成時に属性情報として展開します。chord pro ファイルの項目を参照してください。
- **カポでキーを下げる**
  - ソングのカポ属性に指定された度数だけコードを下げるか決定します。例えば、通常は C のコードがカポの値が 3 のとき、コードは A と表示されます。ギターの第三フレットへカポをセットした状態で C のコードを弾くには A のポジションを押さえるためです。「カポでキーを下げる」のチェックを外すとコードを Eb と表示し、第三フレットへカポをセットした状態で C のポジションで弾くと実際には Eb となるためです。
- **カポの表示設定**
  - 楽譜やネクストソング・バー上でのカポの表示を設定します。角の丸まった四角に囲まれてカポの値が表示されます。
- **出力方針を処理**
  - 歌詞やコード表示、タブ表示のフォント名やサイズを指定します。
- **キーの検出**
  - テキストや chord pro ファイルの曲のキーを指定します。以下から選択します。
    - **最初のコード** – ソングの最初に出てくるキーを曲のキーとします。
    - **最後のコード** – ソングの最後のキーを曲のキーとします。
    - **コード進行から判断** – ソング中のコード進行を調べ、どのようなキーがいくつ使われているか数えて、その情報から適切と思われるキーを決定します。

- **ファイルのエンコードを表示**
  - テキスト表示の設定画面中にファイルのエンコード設定を含めるかどうか決定します。テキストのエンコーディングは自動的に判断されるので、通常はエンコーディングを変更する必要はありません。テキストや chord pro ファイルが<?>で表示されたら、この設定を有効にして、そのファイルのテキスト表示の設定でエンコーディングを変更してみてください。
- **コードを各国語で表記**
  - コードを指定した地域のルールにしたがって表示します。設定箇所は 2 つあり、一つはソースの現地化(ファイルから読み取ったコードをどう解釈するか)、もうひとつは表示の現地化(必要なら転調後のコードをどう表示するか)です。以下のローカライズをサポートします。
    - **デフォルト** - コードは大文字の A から G と、それにフラットとシャープを付けて表現します。マイナーコードはコード名のすぐ右に小文字の m を付けます。
    - **チェコ** – チェコ語にあわせたコード表記です。「B」を「H」と表示し、「Bb」を「B」と表示します。マイナーコードは小文字の「mi」で表します。
    - **ドイツ** – ドイツ語にあわせたコード表記です。「B」は「H」と表示し、「Bb」が「B」です。
    - **スカンジナビア** – スカンジナビア語にあわせたコード表記です。「B」を「H」と表示し、「Bb」は「Bb」です。

- **フォントサイズを自動調整**
  - 有効にすると、インポートしたテキストや chord pro ファイル中のもっとも長い行にあわせてフォントサイズを自動調整します。折り返さずに済む一番大きいサイズで、「自動フォントサイズの最大値」を越えないサイズが選ばれます。
- **自動フォントサイズの最大値**
  - フォントサイズが自動的に調整される際の最大値です。歌詞の行が短い時に、あまりに大きすぎるフォントにならないようにします。

MIDI

- **MIDI チャンネル**
  - MobileSheets が MIDI メッセージを送受信する MIDI チャンネルです。
- **MIDI エコー**
  - 受信した MIDI メッセージを、接続されている全デバイスへ再送信します。
- **複数の MIDI チャンネルを使用**
  - 複数のチャンネルへ出力する MIDI コマンドを MobileSheets で構成できます。
- **MIDI デバイス**
  - どんな MIDI デバイスを接続しているか指定します。「KORG」を選ぶと、「Number」MIDI コマンドが利用できるようになります。詳細は KORG が提供するドキュメントを参照してください。「Genos」を選ぶと、ソングエディター上で Genos registration 設定をソングへリンクすることができます。
- **MIDI 接続設定**
  - MIDI 接続の設定画面を表示します。ポートのフィルターリングなど必要な機能を備えた MIDI ライブラリーを使うよう MobileSheets を切り替えます。MIDI over USB と MIDI over Bluetooth の切り替えも行えます。
- **MIDI アクション**
  - MIDI メッセージを受信した時に実行する MobileSheets のアクションを設定します。詳細は MIDI アクションを参照してください。
- **曲間のループを防ぐ**
  - 複数のソングへ同じ MIDI メッセージが設定されている時に、MobileSheets が永遠にソングをロードし続けることを防ぎます。

バックアップとリストア

- **ライブラリーのバックアップ**
  - ライブラリー全体のバックアップを開始するための画面を表示します。詳細はライブラリーのバックアップを参照してください。

- **ライブラリーのリストア**
  - ライブラリー全体のリストアを実施するための画面を表示します。詳細はライブラリーのリストアを参照してください。
- **自動バックアップされたデータをリストア**
  - データが失われた時に、最後に自動バックアップされたデータベースをリストアします。一度リストアするとリストア前の状態には戻せないので、注意して実施してください。

その他

- **表示をオンのままに**
  - 画面を表示したままにするかどうか指定します。「無効」「楽譜表示中」「常に」から選びます。設定にかかわらず、一時間以上なにも操作がないとバッテリーの消耗を防ぐために画面の電源はオフになります。
- **CPU をオンのままに**
  - CPU のスリープを許すかどうか指定します。「無効」「楽譜表示中」「常に」から選びます。通常は CPU をオンのままにする必然性はありませんが、しばらく置くと Bluetooth ペダルが急に反応しなくなる時はこの設定で解決することがあります。
- **ファイルがなくなったものを探す**
  - ライブラリー中のファイルがなくなってしまったソングを探します。見つかったソング一覧上でタップして正しいファイルと置き換えたり、ソングを編集して問題を解消したり、不要なソングであれば削除することもできます。
- **壊れたファイルパスの修正**
  - MobileSheets が元々ファイルを保存していた場所とは違う場所へファイルを移動した際に、パス情報を修復するためのツールです。デバイスの Android OS をアップデートしたことで SD カードのパスが変更されてしまった場合に、このツールで MobileSheets のファイルパスを更新します。このツールの一番簡単な利用手順として、「自動選択」をチェックすることで MobileSheets にファイルを探させデータベース中のパスを修正させます。
- **バックグラウンドではオーディオを停止**

    - 戻るボタンを使ってライブラリー画面に戻ったらオーディオの再生を停止します。
- **オーディオプレイヤーを無効にする**
    - どんな状況の時にオーディオプレイヤーを無効にするか指定します。以下から選択します。
        - **無効** – オーディオプレイヤーは常に有効で、いつでも操作できます。
        - **パフォーマンスモード時に** – 予期せぬ操作を防ぐため、パフォーマンスモードではオーディオプレイヤーを無効にします。
        - **常に** – オーディオプレイヤーは常に無効で、操作できません。
- **オーディオをバックグラウンドで再生**
    - アプリ切り替え時にオーディオ再生を止めるかどうか指定します。
- **メトロノームをバックグラウンドで再生**
    - アプリ切り替え時にメトロノームを止めるかどうか指定します。
- **パフォーマンスモード時にマウスカーソルを隠す**
    - MobileSheets の使用時にタブレットへマウスが接続されている間は、タブレット上にマウスカーソルが表示されます。このオプションを指定することで、パフォーマンスモードで楽譜を表示中はマウスカーソルを隠すことができます。
- **ファイルが変更された場合にページの順序をリセット**
    - 外部アプリによりファイルが更新されたことを MobileSheets が検知した時に、この設定でページ順序をリセットされ新しい全ページを利用できるようにします。
- **終了の前に確認**
    - タブレットの戻るボタンで MobileSheets を終了するときに、アプリを終了するまえに確認画面を表示します。
- **テンキーパッドを表示**
    - キーボードの数字部分を最初に表示します。タブレットによっては数字と文字とをデフォルトで一緒に表示するものがあり、この設定の効果はありません。
- **PDF をイメージに変換**
    - PDF を画像ファイルへ変換するダイアログ画面を表示します。変換したいファイルを指定し、出力先のディレクトリーの場所、画像ファイルの種類、変換する PDF のページと、必要なら変換後の画像サイズ(必要ないなら空白のまま)を指定します。

- **ライブラリーのクリア**
    - ライブラリーを完全にクリアし、必要ならソングに関連する全ファイルも削除します。
- **設定をデフォルトに戻す**
    - アプリの全設定をデフォルトへ戻します。

MOBILESHEETS コンパニオン

MobileSheets コンパニオンは、PC 上の便利な環境でライブラリーを管理する独立したアプリです。Zubersoft ウェブサイト(www.zubersoft.com/mobilesheets/companion.php)で配布しています。コンパニオンアプリで、ソングを追加・編集・削除したり、セットリストやコレクションを作成・編集したり、タブレットの音楽ライブラリーからサウンドトラックを選択したり、PC からタブレットへサウンドトラックを転送できます。コンパニオンアプリを使うには、まずタブレットを MobileSheets コンパニオンへ接続します。

タブレットの接続

タブレットを PC コンパニオンに接続するには、タブレットと PC が同じネットワーク(同じルーターなど)に接続されていなければなりません。まず、タブレットを同期モードにします。ライブラリー画面で、アクションバー右上のオーバーフローメニューをタップして、「コンパニオンアプリへ接続」を選びます。次のような画面が表示されます。

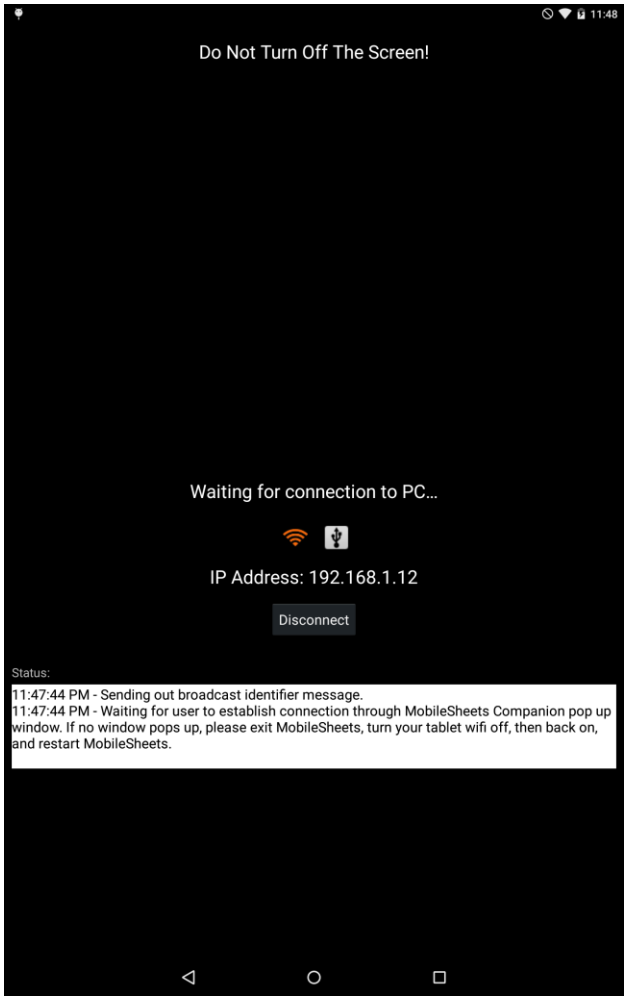
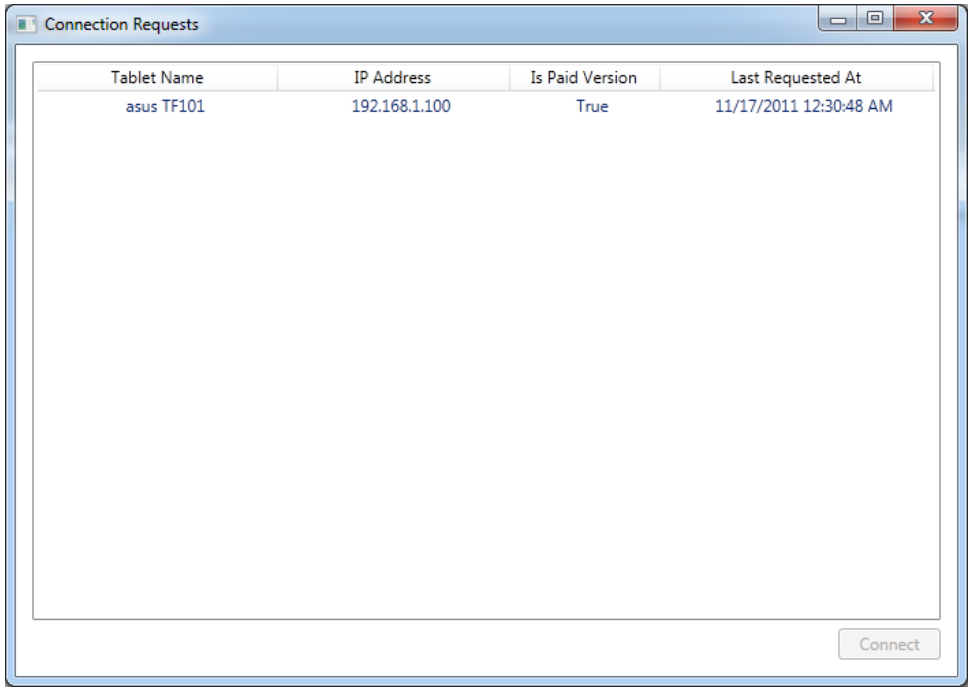


Figure 114 - 同期画面

デフォルトでは、WiFi 経由での接続になります。USB での接続は設定が非常に難しいため、WiFi 接続を使用することを強く推奨します。画面中央の WiFi 接続アイコンがオレンジ色になっていなければなりません。そうでなければ、アイコンをタップして選択します。

次に、MobileSheets コンパニオンを起動します。タブレットは自分に関する情報を PC へ送信します。コンパニオンアプリ上に次のような画面が表示されるはずです。



115 - コンパニオンアプリの接続画面

タブレット名をダブルクリックして接続を開始します。無効になっておらず接続したことを意味する「Ready」がコンパニオンアプリ上に表示されます。ここまでの操作を行っても接続画面が表示されないときは、タブレットの WiFi をいったんオフにしてから再度オンにしてみてください。この操作でロック状態が解消されます。接続画面は表示されるのに接続に成功しない場合は、通信に必要なポートがファイアウォールで禁止されているかもしれません。ポート番号 16568、16569、8888 を許可してください。マニュアル操作で WiFi 接続をすることもできます。タブレットの設定等で確認しておいたタブレットの IP アドレスをタイプ入力し、「Connect」をクリックします。

メインウィンドウ

接続が確立されると、以下のようなメインウィンドウが表示されます。

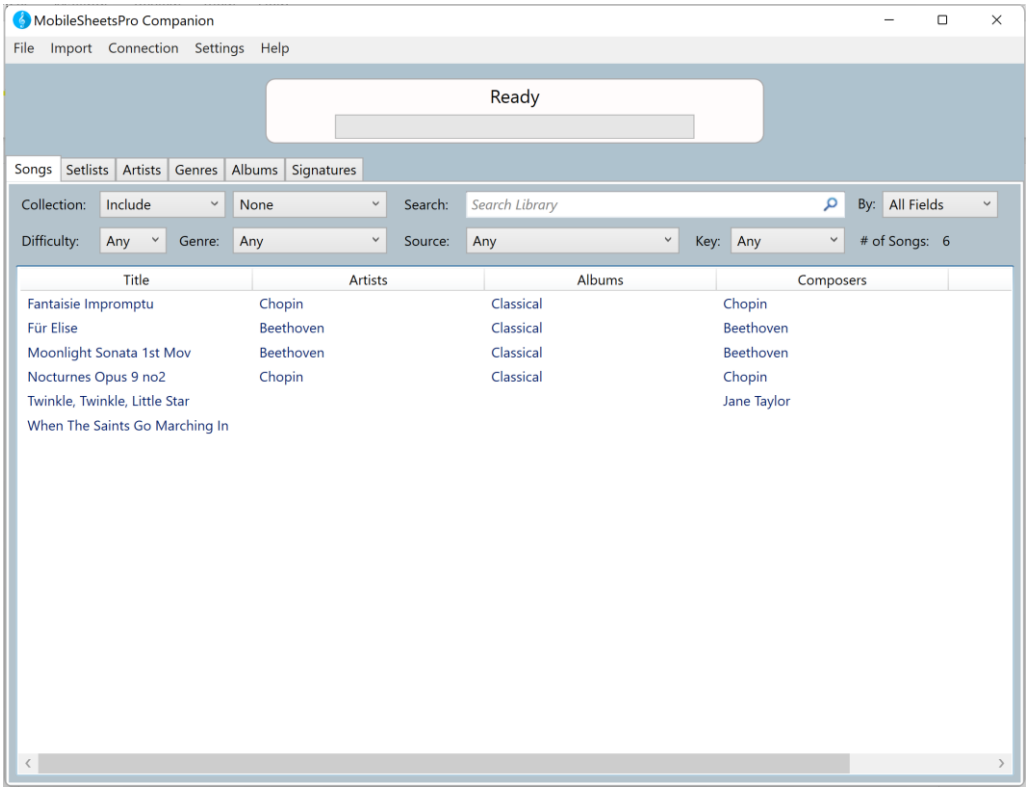


Figure 116 - MobileSheets コンパニオンのメインウィンドウ

中央に、ライブラリー中の全ソングが表示されます。タブレット上で行うようなフィルター操作が可能です。フィルターリングを参照してください。続いて、ソングの作成と編集を説明します。

ソングの作成と編集

この時点で、ハードディスクからファイルをアプリへドラッグしてソングを作成したり、既存のソングをダブルクリックして編集することができます。リスト上で右クリックし「Add Song (ソング追加)」を選んで新規ソング作成用のソングエディターを呼び出すこともできます。ソングエディターの画面例です。

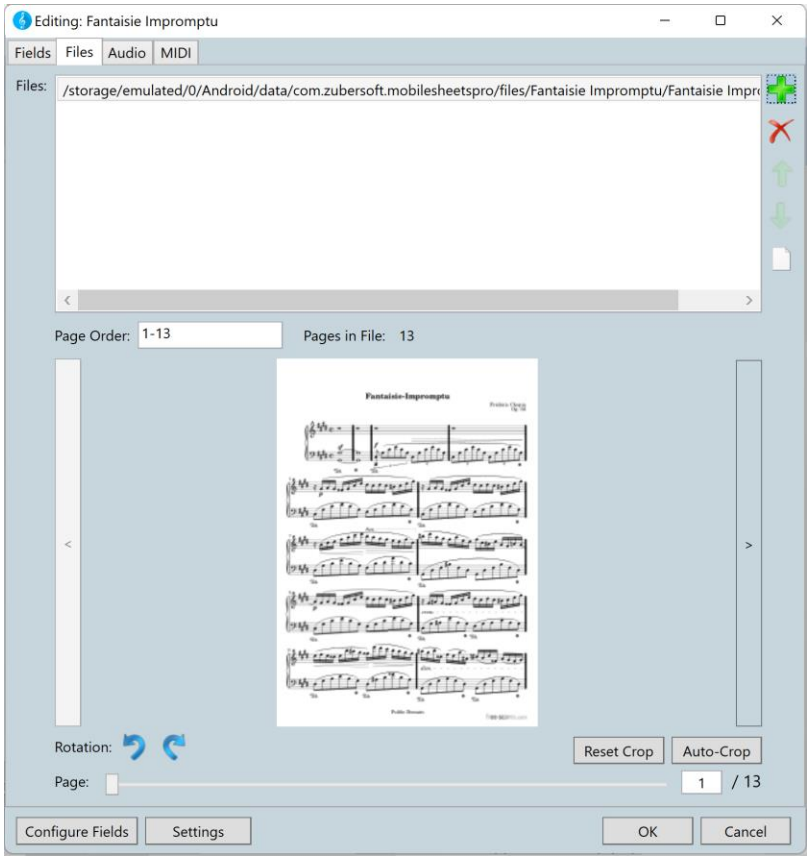


Figure 117 - ソングエディター

MobileSheets コンパニオンのソングエディターはタブレットのソングエディターをもとにしているため、ほぼ一緒です。タブレット用のソングエディターの説明を参照してください。主に違うのは、オーディオトラックの追加と MIDI コマンドの部分です。

複数のファイルをメインウィンドウへドラッグすると、ソングエディターは立ち上がらずに全ファイルのインポート処理が実行されます。次のような画面です。

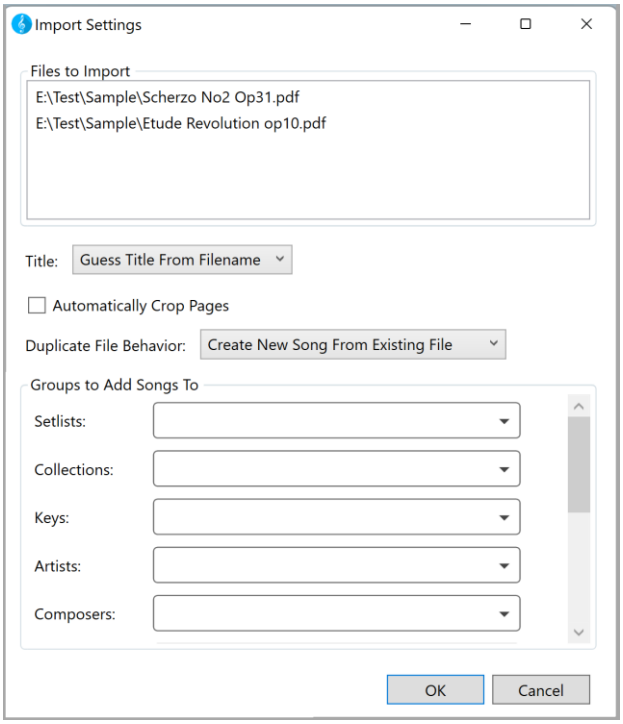
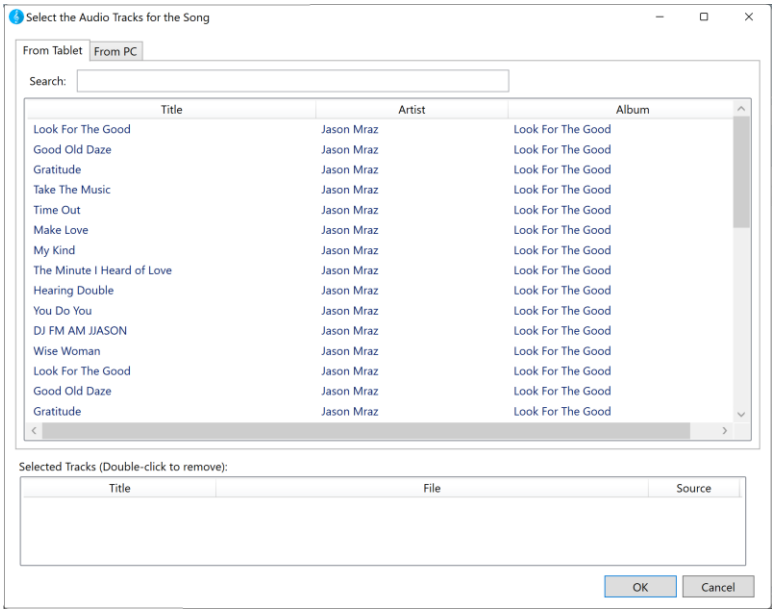


Figure 118 - インポート設定の画面

タブレットで「インポート>ローカルファイル」を実行した時と同じ内容です。この設定の詳細はこのセクションを参照してください。

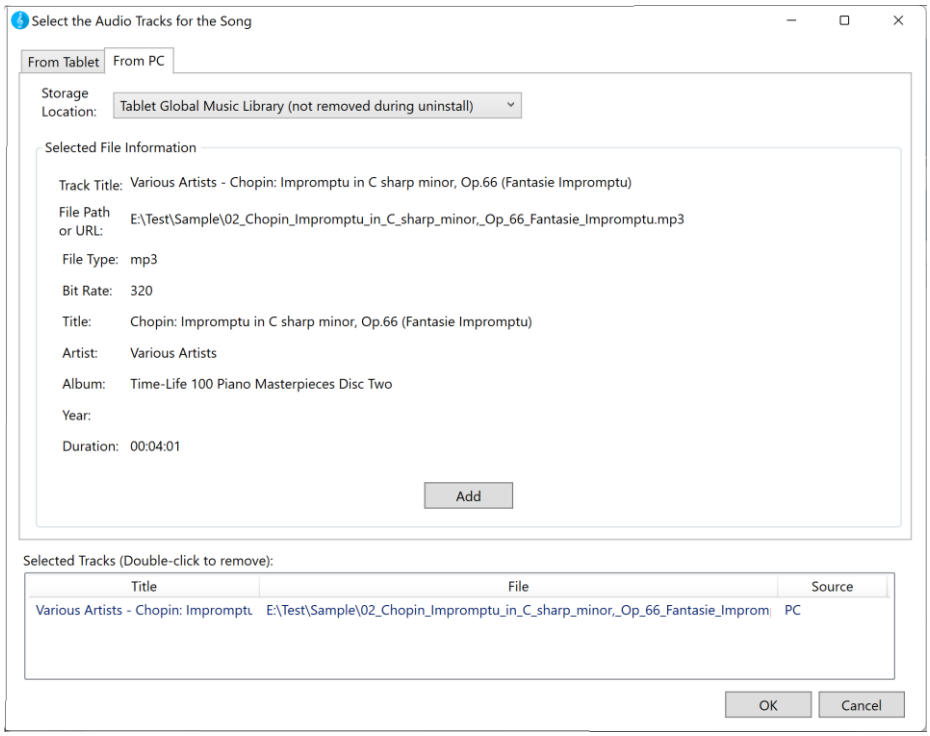
オーディオトラックの選択と移動

ソングエディター上でオーディオタブを選択し、「Add(追加)」ボタンをクリックするか、リスト上のエントリーをダブルクリックすると、次のような画面が表示されます。



119- トラック選択の画面

上図のように、最初のタブにタブレットの音楽ライブラリー中で見つかった各トラックが表示されます。上のリストにあるトラックをダブルクリックすると、下のソングのオーディオトラック一覧へ追加されます。下のリストでダブルクリックするとトラックが削除されます。追加したいトラックがタブレット上にはなく PC 上にあるときは、二番目のタブをクリックして、次のような画面を呼び出します。



120 - PC 上からトラックを選択

最初の状態ではファイル情報の表示は空っぽです。ウィンドウ上へファイルをドラッグアンドドロップするか、ファイル情報欄の一番下にある「Add (追加)」をクリックしてファイルを選択することで、ファイルを追加します。ファイルを追加するとファイル情報が展開され、そのファイルがソングのオーディオトラック一覧へ追加されます。デフォルトでは、タブレットの音楽ディレクトリーへトラックが転送・追加されます。このディレクトリーへ追加することで、タブレットは新しくトラックが追加されたことを検知でき、他のアプリ(例えば music player など)でトラックを確認することができます。また、MobileSheets をアンインストールしても、このオーディオトラックは削除されずにすみます。音楽ディレクトリーではなく他のソングファイルと同じ場所へオーディオファイルを保管したい時は、ウィンドウ一番上の「storage location (保存場所)」を、「Default Application Storage (アプリのデフォルトストレージ)」へ変更します。

MIDI コマンド

コンパニオンアプリ上での MIDI コマンドの追加と編集はタブレット上での操作と似ていますが、コンパニオンアプリではコマンドの作成・編集は別画面になっています。

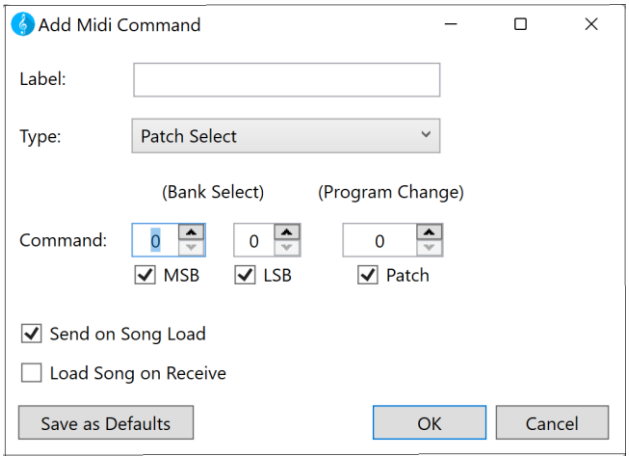


Figure 121 – MIDI コマンドの画面

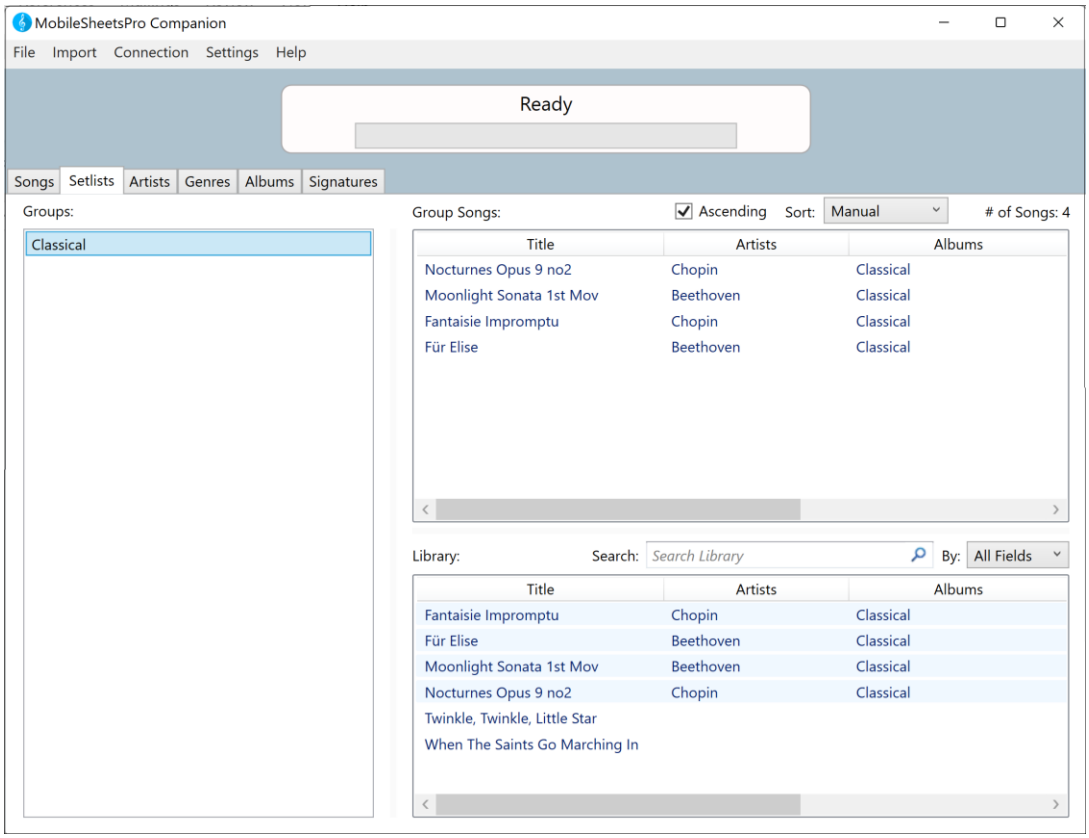
このダイアログ画面の中身は、選択した MIDI コマンドの Type (種類)によって変化します。設定するデータの内容はタブレットのものと同じです。

コンパニオンアプリでのバッチ(一括)インポート

コンパニオンアプリでのバッチインポートはタブレットでの操作とほぼ一緒です。違うのは、まず PC 上で各ファイルを処理し、処理が終わったら全ファイルをタブレットへ転送する点です。そのほかのオプションについては、タブレットのバッチインポートを参照してください。

セットリストの作成と編集

MobileSheets コンパニオンではセットリストの作成・編集・削除ができます。セットリストのページを表示するには、メインウィンドウの一番上にあるセットリストタブをクリックします。



122 – コンパニオンアプリでのセットリスト編集

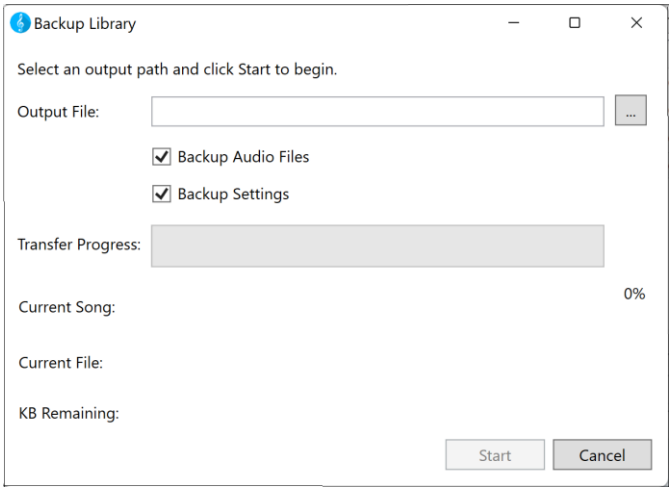
左側に、ライブラリー中の全セットリストが表示されます。右上に、現在選択中のセットリストのソング一覧が表示されます。右下には、ライブラリー中の全ソングが表示されます。新規セットリストの作成や既存のセットリストの編集は、画面左側のリストで右クリックしてコンテキストメニューを開き、「New (新規)」または「Rename (名前の変更)」を選びます。名前を指定すると、セットリストへのソング追加ができるようになります。いくつか方法があります。一番簡単なのは、右下のウィンドウでソングをいくつか選び、右上のウィンドウまでドラッグしてドロップです。選択したウィンドウがすべてリストへ追加されます。メインウィンドウのソング選択(最初のタブ)でソングを選択し、右クリックして「Add Song to Setlist (ソングをセットリストへ追加)」することもできます。こうするとセットリストの一覧が表示されるので、そのソングを追加したいセットリストを選択します。ライブラリー中にたくさんソングがある場合は、検索ボックスへテキストを入力してフィルターすると便利です。検索対象の属性を指定することもでき、指定しなければソング中の全属性が検索対象となります。表示されているセットリスト中からソングを削除したりセットリストそのものを削除するには、右クリックしてメニューを開き delete (削除)を選ぶか、キーボードの delete キーを押します。表示されているセットリスト中でソングの順番を変えるには、ソングをドラッグアンドドロップするだけです。

コレクションの作成と編集

MobileSheets コンパニオンは、コレクションの作成・編集・削除もできます。コレクション(および他の全グループ)の操作はセットリストの操作と同じですので、前のセクションを参照してください。

ライブラリーのバックアップ

時には、アンインストールに先だって、あるいは万一失われることがないよう安心するために、ライブラリーの完全なバックアップを取ることがあるかもしれません。コンパニオンアプリではタブレットのバックアップ機能を実行して、バックアップファイルを自動的に PC のストレージへ転送できます。実行するには、File (ファイル) ->Backup Library (ライブラリーのバックアップ) を実行します。



123 – ライブラリーのバックアップ

まず、バックアップファイルの場所を選択し、ハードディスクに充分な空き容量があることを確認します。準備ができたら、「Start (開始)」ボタンを押します。ソングがタブレットから WiFi を通じて転送されるにつれて、進捗バーへ状況が表示されます。ライブラリーが大きいと結構な時間がかかります。転送が終われば、成功を示すメッセージが表示されます。タブレットからのバックアップも可能です。

ライブラリーのリストア

PC へ保存したバックアップからタブレットのライブラリーをリストアしたい時は、コンパニオンアプリのリストア機能が利用できます。File (ファイル) ->Restore Library (ライブラリーのリストア) です。

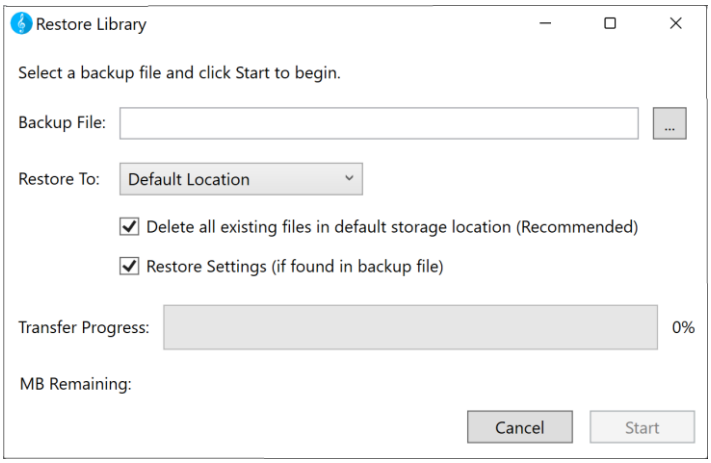
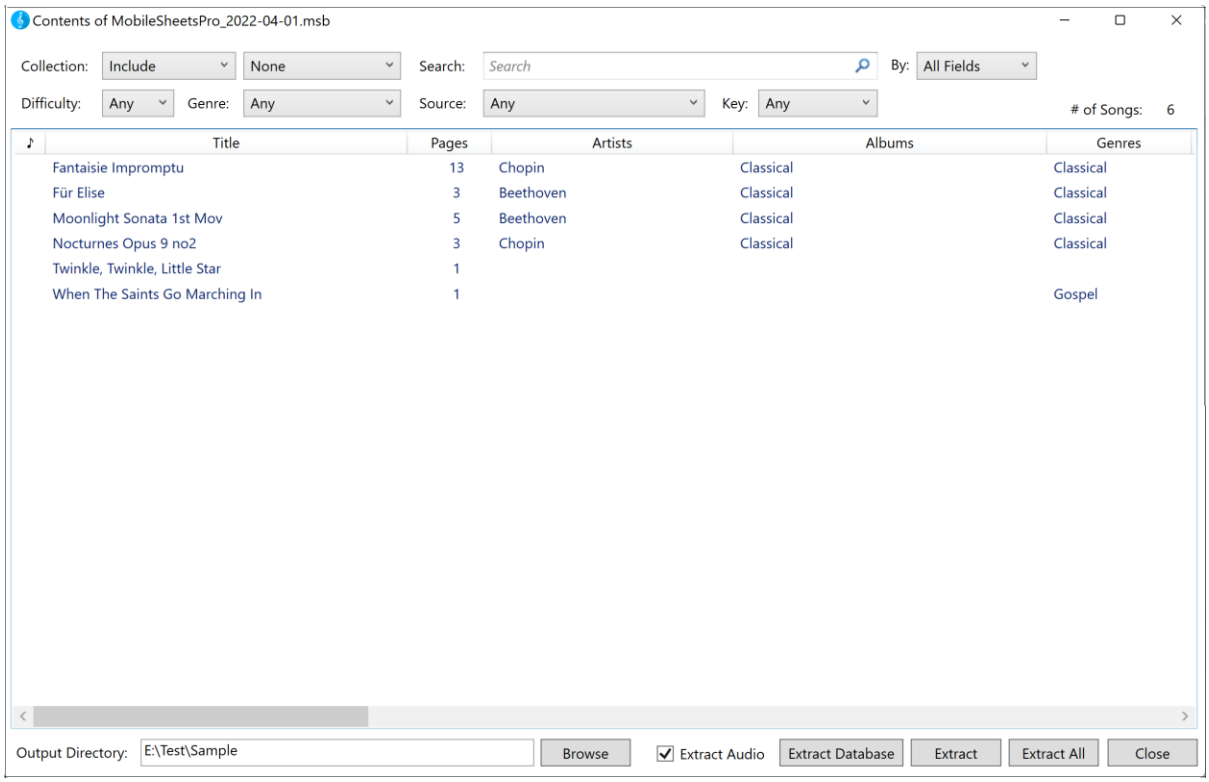


Figure 124 - コンパニオンアプリのライブラリーのリストア

ブラウズ(...)ボタンをクリックしてバックアップファイルを選択し、「Start (開始)」をクリックして WiFi を通じてバックアップを転送します。バックアップが大きければ、それなりに時間がかかります。詳細については、タブレットのライブラリーのリストアについての説明を参照してください。

バックアップの検証もしくは中身の確認

PC へ転送したバックアップファイルでは、バックアップファイルの中身を検証したり、バックアップからいくつかファイルを取り出すことができます。File (ファイル) ->View/Extract Backup (バックアップを参照) で実行します。次のような画面が表示されます。



125 - ソングの抽出ダイアログ画面

タブレットが接続されていなくても、この画面を表示することができます。読み込むバックアップファイルを選択し、読み込みが完了したらライブラリー中の全ソングデータと、設定されているメタデータが表示されます。左下に表示される出力先ディレクトリー(output directory)をメモしておきます。デフォルトではバックアップファイルの場所と同じフォルダーですが、変更することもできます。各ソングをダブルクリックすると、そのソングが自動的に出力先ディレクトリーへ書き出されます。ライブラリー全体

の各ファイルをすべて抽出する「Extract All (すべて展開)」も利用できます。複数のエントリーを選択してから「Extract (展開)」ボタンで抽出することもできます。

FAQ

Question	Answer
MobileSheets は Windows 10/11 で利用可能ですか?	Windows 10/11 バージョンは Microsoft ストアで配布しています。Microsoft ストアアプリ(ブラウザではなく)で「MobileSheets」を検索してください。直接リンクは: https://www.microsoft.com/store/apps/9nblggh6ct6d
以前に作成した MobileSheets ライブラリーを MobileSheets でリストアできますか?	はい、どのバージョンの MobileSheets バックアップファイルでもリストア可能です。通常のリストア手順を実施してください。新しいバージョンの MobileSheets バックアップを古い MobileSheets へリストアすることはできません。
どのメーカーのペダルがお勧めですか?	もっとも信頼でき出来のよい Bluetooth ペダルが Airturn Duo です。ペダルが 2 つと 4 つの二種類あります。上のリンクから購入すると MobileSheets の開発へ貢献いただけます。
スマホでも MobileSheets は使えますか?	はい、ほとんどのスマホで MobileSheets は動作します。ディスプレイにあわせて画面は小さくなります。アプリの設計や動作には違いはありません。

TROUBLESHOOTING

問題	解決方法
タブレットと PC との接続ができません	まず、ファイアウォールを備えたアンチウィルスソフトが実行されていないか確認します。アンチウィルスのファイアウォール機能そのものを無効にするか、ポート 8888、16568、16569 を許可します。 次に、MobileSheets コンパニオンが Windows のファイアウォールでブロックされていないか確認します。スタートメニュー > コントロールパネル > Windows ファイアウォールを開き、左上の「Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可」をクリックします。MobileSheets コンパニオンまでスクロールし、「プライベート」と「パブリック」の両方にチェックが入っていることを確認します。 最後に、ルーターを再起動してみます。多くのユーザーが、これで接続の問題を解決されたことがあります。

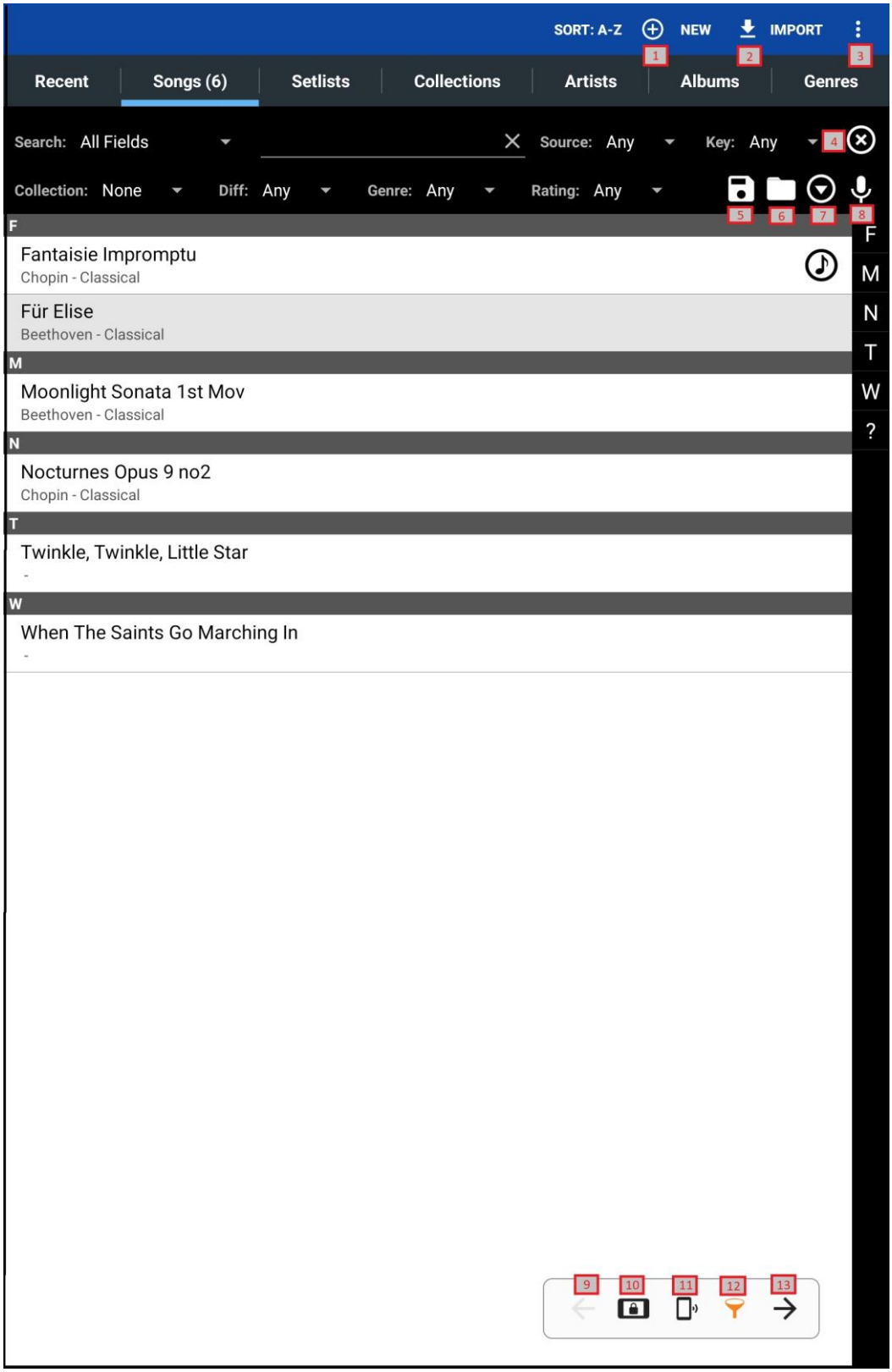
音声検索の機能が使えない	この機能はインターネット接続と、タブレットのマイク機能が必要です。マイク機能が正常に働いているのであれば、ワイヤレスネットワークをつなぎなおしてから試してみてください。
ソングオーバーレイが表示されなくなりました。画面中央をタップしても、オーバーレイが表示されずページめくりされます。	パフォーマンスモードになっています。パフォーマンスモードを脱するには、ソングディスプレイの右下隅にあるクイックアクションボックスをタップし、中央にある鍵のアイコンをタップします。
Box のような他のクラウドソースへ接続できませんか？	現時点では、Dropbox・Google Drive・OneDrive のみをアプリ内でサポートしますが、他のストレージも近々サポートします。当面は、外部アプリからのインポート機能を利用し、適切な外部アプリでファイルを選択してください。

Google Play ストアで、このアプリは私のデバイスではサポートされないと表示したり、このアプリが出てこない	この問題は以下の手順で解決できます。 1. タブレットを再起動します。 2. タブレットの、設定 > アプリ > Google Play ストアを開き、データをクリアします。Google Play Service についても同じ操作をします。 3. Google Play ストアを開き、MobileSheets をインストールします。 4. インストールがうまくいかなかったら、タブレットを再起動してもう一度試してみます。何回か再起動しないとだめかもしれません。

もし答えの見つからない疑問点があったり、追加してほしい機能があるときは、フォーラム(http://www.zubersoft.com/mobilesheets/forum/)へアクセスするか、直接、ここ(http://www.zubersoft.com/mobilesheets/support.html)から私へメッセージをお送りください。support@zubersoft.com へ電子メールをお送りいただくこともできます。

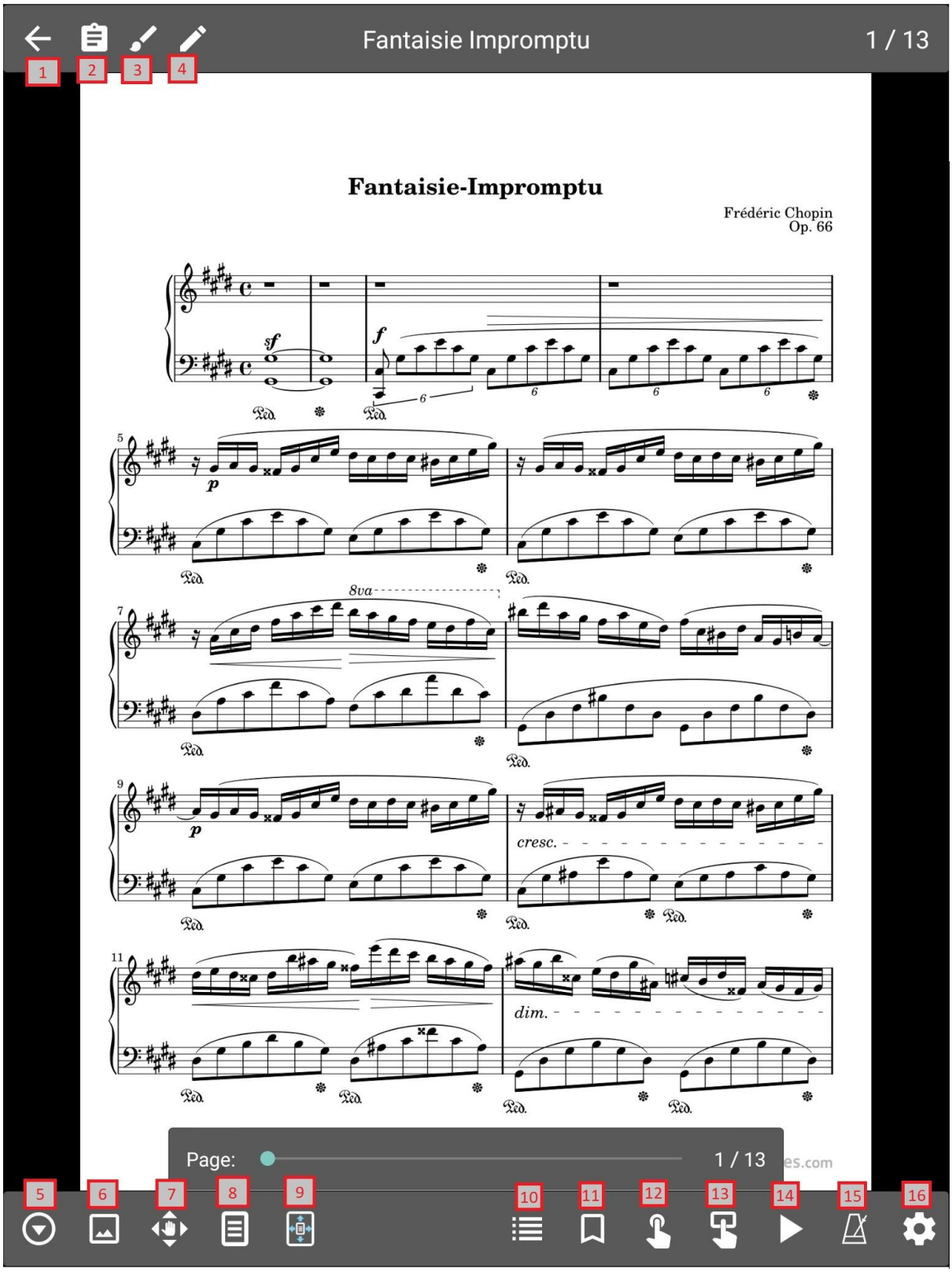
アイコン一覧

ライブラリー画面


SORT: A-Z
NEW
IMPORT
1
2
3
Recent
Songs (6)
Setlists
Collections
Artists
Albums
Genres
Search: All Fields
Source: Any
Key: Any
4
Collection: None
Diff: Any
Genre: Any
Rating: Any
5
6
7
8
F
Fantaisie Impromptu
Chopin - Classical
Für Elise
Beethoven - Classical
M
Moonlight Sonata 1st Mov
Beethoven - Classical
N
Nocturnes Opus 9 no2
Chopin - Classical
T
Twinkle, Twinkle, Little Star
-
W
When The Saints Go Marching In
-
F
M
N
T
W
?
9
10
11
12
13

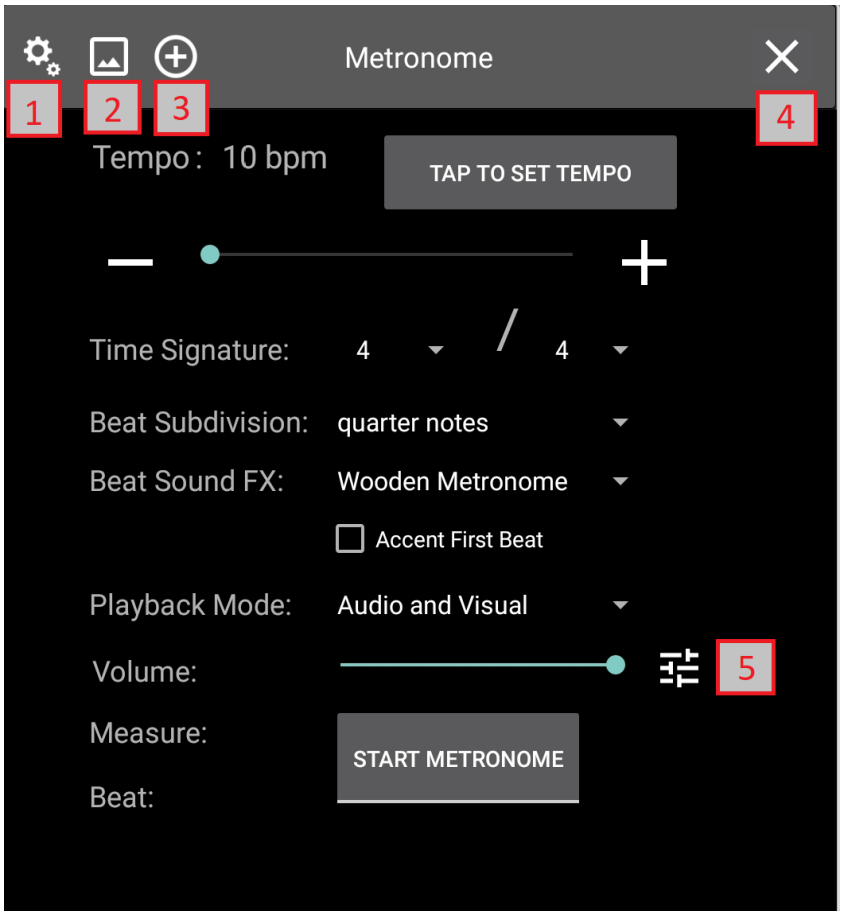
1. : 選択中のタブに応じた新規のインスタンス(オブジェクト)を作成します。
2. : デバイスやクラウドに保存されているファイルをインポートします。
3. : オーバーフローメニューを開きます。
4. : 設定されているフィルターをクリアします。
5. : フィルター設定を保存したり管理するメニューを表示します。
6. : 保存されているフィルター設定の一覧を表示します。
7. : 追加フィルターの一覧を表示します。
8. : 音声検索を開始します。
9. : リスト中でグループが選択されており、その中のソング一覧を表示中であれば、このボタンをタップするとグループの一覧へ表示を戻します。
10. : パフォーマンスモードを有効にしたり無効にしたり切り替えます。
11. : 複数のデバイス間を接続し、一台のリーダーが残りのフォロワーを操作します。
12. : ライブラリー画面の一番上に表示されるフィルター情報を隠したり表示します。
13. : ソングがロードされているときにこのボタンをタップすると、ライブラリー画面からソングディスプレイ画面へ戻ってソングの表示を再開します。

ソングオーバーレイ


Fantaisie Impromptu
1 / 13
1
2
3
4
Fantaisie-Impromptu
Frédéric Chopin
Op. 66
8va
cresc.
dim.
Page:
1 / 13
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

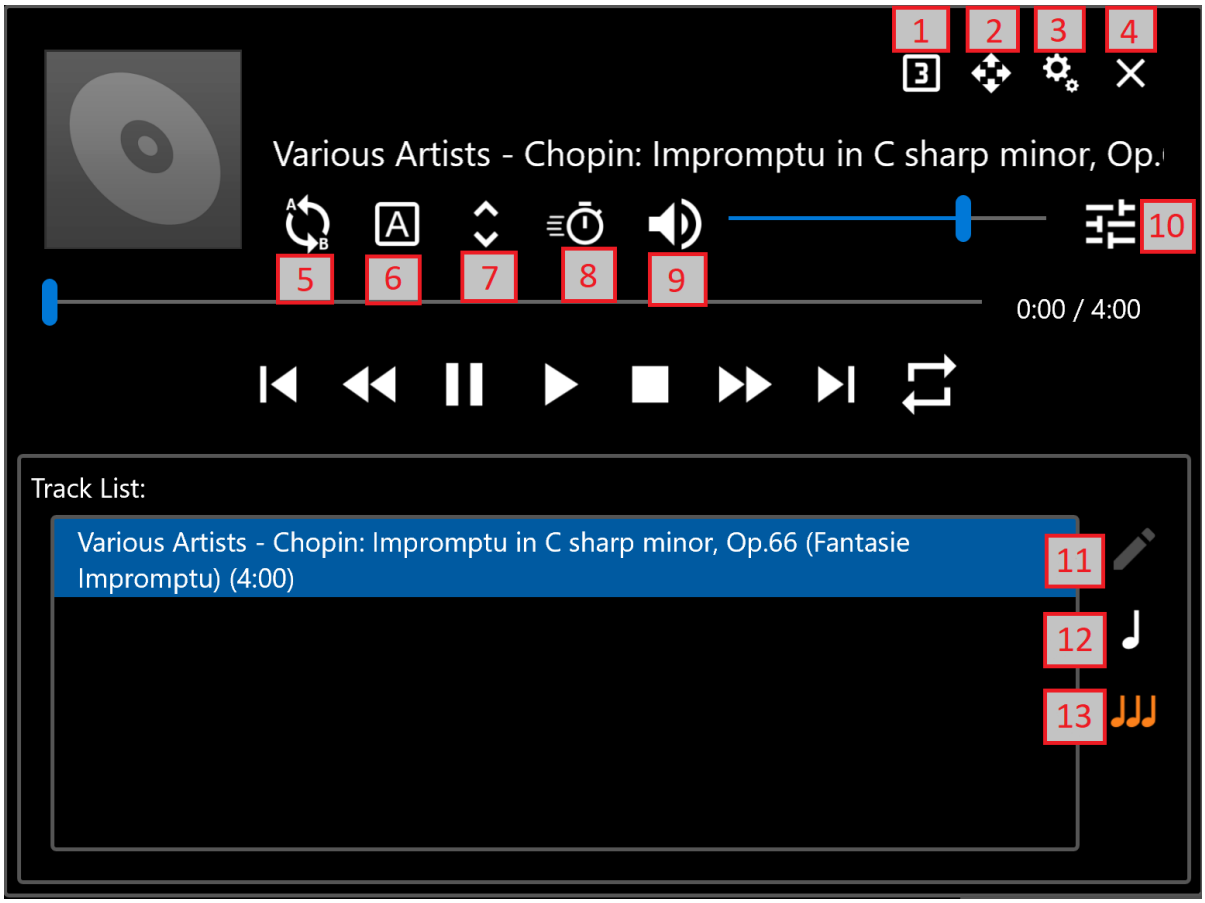
1. : ライブラリー画面へ戻ります。
2. : 表示中のソングまたはセットリストのノート・メモ画面を呼び出します。
3. : 表示中のソングに対するアノテーションエディターを呼び出します。
4. : 表示中のソングをソングエディターで編集します。
5. : 印刷、スニペット作成、ソングの検索と読み込み、スクロール開始、スクロール設定などのためのポップアップメニューを表示します。
6. : クロップ、時計設定、回転、イメージをシャープに、回転ロック、アノテーションの表示、ナイトモード、ズームとパンの設定など、表示設定のためのポップアップメニューを表示します。
7. : 画面上でページの表示範囲を移動する、パン操作を行います。
8. : ソングの表示モードや、表示モードに関連するさまざまな表示設定を変更します。
9. : 画面にあわせてページをどう表示するか決定するスケーリングモードを変更します。
10. : 表示されているセットリスト中の全ソングを表示し、曲順の変更を行います。
11. : 表示中のソングやセットリストに設定されるブックマークを表示したり作成します。
12. : ２つのページ間を接続するリンクポイントです。
13. : タップされると様々な処理を実行する、スマートボタンを楽譜上へ置きます。
14. : オーディオプレイヤーを起動します。
15. : メトロノーム画面を開きます。
16. : MobileSheets の設定メニューを開きます。

メトロノーム



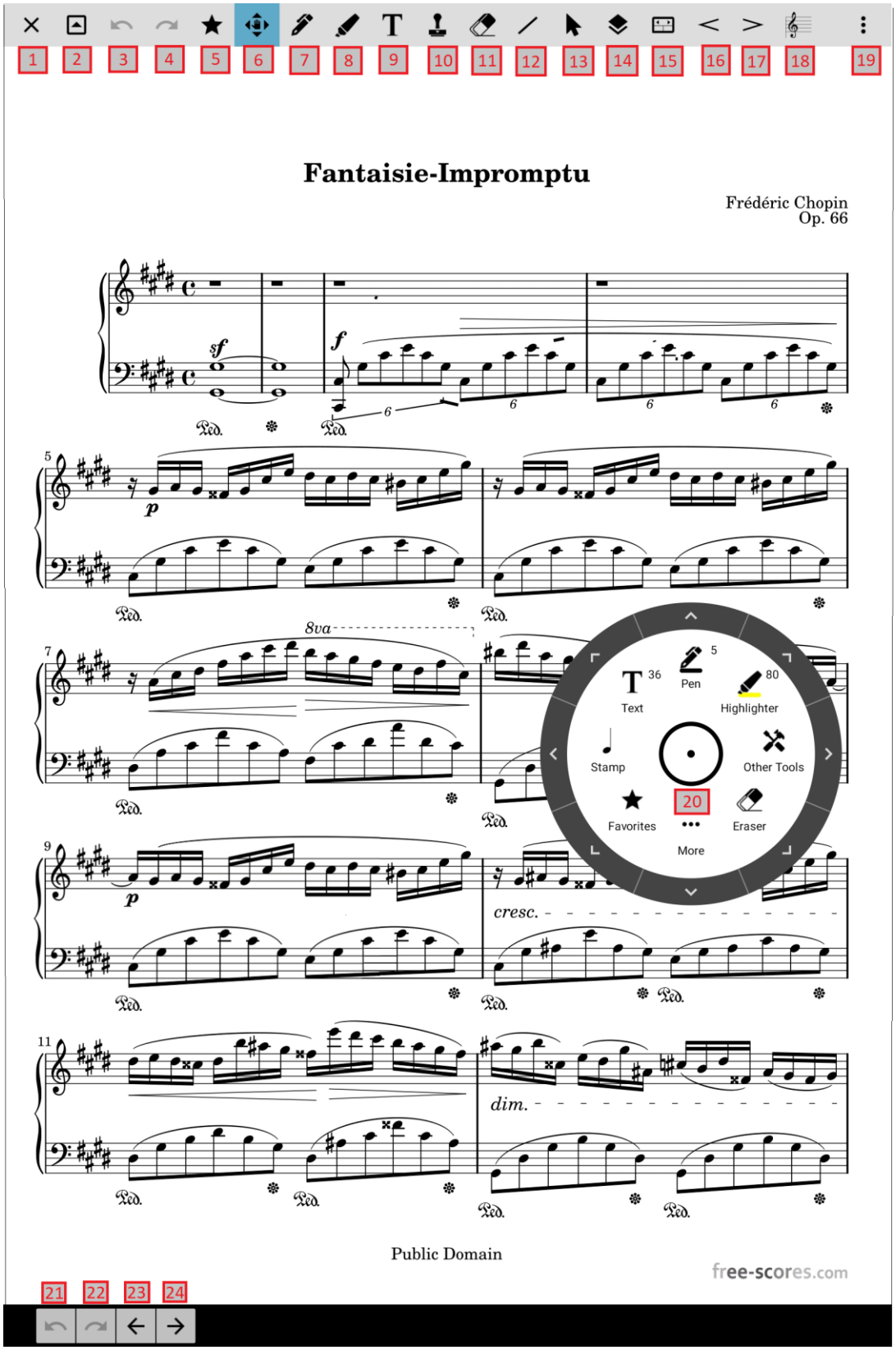
1. : メトロノームの再生設定を開きます。
2. : メトロノームの表示設定を変更します。
3. : 現在表示中のソングへ、テンポ情報を追加します。
4. : メトロノーム画面を閉じます。
5. : スピーカー間の定位をコントロールします。

オーディオプレイヤー



1. : オーディオプレイヤーのサイズを、スモール・ノーマル・ラージで切り替えます。
2. : (離すまでの間)画面上でオーディオプレイヤーウィンドウを移動します。
3. : オーディオプレイヤー設定を開きます。
4. : オーディオプレイヤーを閉じます。
5. : A-B ループを有効にします。
6. : A-B ループの開始位置・終了位置をセットします。
7. : オーディオトラックのピッチを調整します。
8. : オーディオトラックの再生スピードを調整します。
9. : ボリュームをミュートもしくはミュート解除します。

10. : スピーカー間の定位をコントロールします。
11. : ソングエディターのオーディオタブを開きます。
12. : 現在表示されているソングに含まれるトラックのみプレイリストに表示します。
13. : 現在選択されているセットリストに含まれる各ソングに含まれる全トラックをプレイリストへ表示します。



1. ✕ : アノテーションエディターを閉じます。

2. : ツールバーを折りたたみます。
3. : 最後に実行したアクションをアンドゥします。
4. : アンドゥした操作を再実行します。
5. : ツールのお気に入り設定です。
6. : 一本指で楽譜上を移動します。
7. : フリーフォーム描画のためのペンツールです。
8. : フリーフォームや、四角形・直線を使ったハイライトツールです。
9. : 楽譜上へテキストを書き込むためのアノテーションツールです。
10. : 楽譜上へスタンプを押すためのスタンプ・ウィンドウを開きます。
11. : アノテーションを消すための消しゴムツールです。
12. : 直線、四角形、円、矢印などを描画する形状ツールです。
13. : アノテーションを選択する選択ツールです。
14. : レイヤー管理画面を開きます。
15. : 各機能へのショートカットと、お気に入りのリストからなるコマンドバーです。
16. : クレッシェンドツールです。
17. : デクレッシェンドツールです。
18. : ピアノ譜ツールです。
19. : オーバーフローメニューを表示します。
20. : 丸印をタップすると、ラジアルメニューが開きます。
21. : 最後に実行したアクションをアンドゥします。
22. : アンドゥした操作を再実行します。
23. : 前のページへ戻ります。
24. : 次のページへ進みます。